見えないだけ

牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんでいる優しい世界
次の垣根で
蕾をさし出している美しい季節
少し遠くで
待ちかねている新しい友だち

あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

作者　牟礼慶子　一九二九（昭和四）――二〇一二（平成二四）　東京都出身。詩人。
著書　詩集「来歴」「魂の領分」「夢の庭へ」など。
出典　「ことばの冠」

国語 2



光村図書

言葉を味わう

各単元の扉には、さまざまな色の名前を表す言葉を示している。言葉の豊かさや美しさを味わおう。



1 広がる学びへ
桜色【さくらいろ】



2 多様な視点から
萌黄色【もえぎいろ】



3 言葉と向き合う
群青【ぐんじょう】



4 人間のきずな
青竹色【あおたけいろ】



5 論理を捉えて
空色【そらいろ】



6 いにしえの心を訪ねる
赤朽葉【あかくちば】



7 価値を語る
樺檪色【れもんいろ】



8 表現を見つめる
純白【じゅんぱく】

国語 2 目次

見えないだけ 詩 牟礼慶子 6
学習の見通しをもとう
思考の地図 9
この教科書で学習する皆さんへ／主体的な学びのために 11
続けてみよう 14

1 広がる学びへ

アイスプラネット 小説 椎名誠 16
［聞く］意見を聞き、整理して検討する 29
魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする 32
枕草子 古文 清少納言 36
季節のしおり 春 40

2 多様な視点から

クマゼミ増加の原因を探る 報告 沼田英治 42
情報整理のレッスン 思考の視覚化 52
情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る 54

3 言葉と向き合う

短歌に親しむ 短歌・解説 栗木京子 62
短歌の創作教室 66
短歌を味わう 短歌 栗木京子 68
言葉の力 随筆 大岡信 69

語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 72

4 人間のきずな

いつも本はそばに
読書を楽しむ 読書活動 74
翻訳作品を読み比べよう 読書 星の王子さま サン＝テグジュペリ／内藤濯・池澤夏樹 訳 82
コラム 「わからない」は人生の宝物 84
読書案内 本の世界を広げよう 鴻巣友季子 86
季節のしおり 夏 90

情報×SDGs
メディアの特徴を生かして情報を集めよう 76
デジタル市民として生きる 解説 坂本旬 80

5 論理を捉えて

ヒューマノイド 小説 伊坂幸太郎 92
字のない葉書 随筆 向田邦子 104
表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 110
［推敲］表現の効果を考える 112
聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 116
モアイは語る——地球の未来 論説 安田喜憲 122
思考のレッスン1 根拠の吟味 130
適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く 132
聴きひたる 月夜の浜辺 詩 中原中也 136
季節のしおり 秋 138

漢字に親しもう1 28
文法への扉1 単語をどう分ける？ 31
漢字に親しもう2 60
漢字1 熟語の構成 58
言葉1 類義語・対義語・多義語 72
漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 118
言葉2 敬語 113
漢字に親しもう3 120

話すこと・聞くこと　書くこと　読むこと　読書　情報

6 いにしえの心を訪ねる

音読を楽しむ　平家物語　古文・音読 …… 140
「平家物語」の世界／「平家物語」の主な登場人物たち　古文・資料 …… 141
扇の的――「平家物語」から　古文 …… 146
仁和寺にある法師――「徒然草」から　古文 …… 154
漢詩の風景　漢詩・解説 …… 158
兼好法師 …… 154
石川忠久 …… 158

7 価値を語る

君は「最後の晩餐」を知っているか　評論 …… 166
「最後の晩餐」の新しさ　解説 …… 166
布施英利 …… 166
思考のレッスン2　具体と抽象 …… 176
藤原えりみ …… 176
季節のしおり　冬 …… 180
話し合いの流れを整理しよう …… 182
［話し合い（進行）］話し合いの流れを整理しよう …… 183
立場を尊重して話し合おう　討論で視野を広げる …… 186
文法への扉2　走る。走らない。走ろうよ。 …… 185
漢字に親しもう4 …… 190
係り結び …… 156
律詩について …… 164

いつも本はそばに

「自分らしさ」を認め合う社会へ　読書 …… 192
父と話せば …… 192
温又柔 …… 192
六千回のトライの先に …… 195
吉藤オリィ …… 195
読書案内　本の世界を広げよう …… 200

8 表現を見つめる

走れメロス　小説 …… 204
太宰治 …… 204
描写を工夫して書こう　心の動きが伝わるように物語を書く …… 224
国語の学びを振り返ろう　「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る …… 232
漢字に親しもう5 …… 222
文法への扉3　一字違いで大違い …… 223
言葉3　話し言葉と書き言葉 …… 228
漢字3　送り仮名 …… 230
鍵　詩 …… 236
茨木のり子 …… 236

学びを深める

文法　一年生の復習 …… 240
文法1　自立語 …… 242
文法2　用言の活用 …… 246
文法3　付属語 …… 251
［練習］小学校六年生で学習した漢字 …… 257
小学校六年生で学習した漢字一覧 …… 260

国語の力試し

語彙ブック …… 262

資料編

「学びのカギ」一覧　文学的な文章を読むために …… 276
「学びのカギ」一覧　説明的な文章を読むために …… 278
「学びのカギ」一覧　豊かに表現するために …… 280
発想を広げる――表現テーマ例集 …… 282
インタビューをする …… 284
インターネットの活用 …… 285
グラフの見方／引用・出典 …… 287
いろいろな通信文 …… 288
盆土産 …… 290
三浦哲郎 …… 290
形 …… 267
菊池寛 …… 299
古典芸能の世界――能・狂言 …… 302
敦盛の最期――「平家物語」から …… 304
二年生で学習した漢字 …… 308
二年生で学習した音訓 …… 321
常用漢字表 …… 322
常用漢字表　付表 …… 336
［索引］学習のための用語一覧 …… 338
ICT活用のヒント …… 341



学習の見通しをもとう

一年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるかを見通そう。他教科やSDGsとの関連も意識しよう。

■知識・技能／思考力・判断力・表現力

※重点的に学習する内容を濃い色で示した。

| | | |

■ 知識・技能

言葉	文法	文法 一年生の復習 240
		文法への扉1 単語をどう分ける？ 31 → 文法1 自立語 242
		文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 185 → 文法2 用言の活用 246
		文法への扉3 一字違いで大違い 223 → 文法3 付属語 251
	言葉	言葉1 類義語・対義語・多義語 72
		言葉を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 74
		言葉ブック 関 書写 267
		言葉2 敬語 113
		言葉3 話し言葉と書き言葉 228
	漢字	漢字1 熟語の構成 58
		漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 118
		漢字3 送り仮名 230
		漢字に親しもう1〜5 28・60・120・190・222
情報	情報整理のレッスン	思考の視覚化 52
	情報×SDGs 9 11 13	メディアの特徴を生かして情報を集めよう 76
		デジタル市民として生きる 80
	思考のレッスン1	根拠の吟味 130
	思考のレッスン2	具体と抽象 180

言語文化	古典	古文 枕草子 36
		古文・音読 音読を楽しむ 平家物語 140
		古文 扇の的——「平家物語」から 関 書写 146
		古文 仁和寺にある法師——「徒然草」から 154
		古文 係り結び 156
		漢詩・解説 漢詩の風景 158
		漢詩 律詩について 164
	読書	読書活動 読書を楽しむ 82
		読書 翻訳作品を読み比べよう 84
		コラム 「わからない」は人生の宝物 86
		読書案内 5 10 11 12 14 15 16 17 87・200
		読書 「自分らしさ」を認め合う社会へ 192

読む	教材	詩 見えないだけ 16
		小説 アイスプラネット 16
		短歌・解説 短歌に親しむ 62
		短歌 短歌を味わう 68
		随筆 言葉の力 69
		小説 ヒューマノイド 92
		随筆 字のない葉書 104
		詩 月夜の浜辺 136
		小説 走れメロス 204
		詩 鍵 236
	知識・技能 捉える	報告 クマゼミ増加の原因を探る 42
		解説 デジタル市民として生きる 80
		論説 モアイは語る——地球の未来 122
		評論 君は「最後の晩餐」を知っているか 166
		解説 「最後の晩餐」の新しさ 176
		読書 星の王子さま 84
		漢詩・解説 漢詩の風景 158
		古文 仁和寺にある法師——「徒然草」から 154
		古文 扇の的——「平家物語」から 146
		古文 枕草子 36
	思考・判断・表現 読み深める	解説 父と話せば／六千回のトライの先に 192
		解説 「最後の晩餐」の新しさ 176
		評論 君は「最後の晩餐」を知っているか 166
		論説 モアイは語る——地球の未来 122
		報告 デジタル市民として生きる 80
		報告 クマゼミ増加の原因を探る 42
		詩 鍵 236
		小説 走れメロス 204
		詩 月夜の浜辺 136
		随筆 字のない葉書 104
		小説 ヒューマノイド 92
		随筆 言葉の力 69
		短歌 短歌を味わう 68
		短歌・解説 短歌に親しむ 62
		小説 アイスプラネット 16
	思考・判断・表現 考えをもつ	読書 星の王子さま 84
		読書 父と話せば／六千回のトライの先に 192
	関連 書写・他教科	語感・語彙 見えないだけ 16
		表し方 アイスプラネット 16
		語感・語彙 短歌に親しむ 62
		語感・語彙 短歌を味わう 68
		語感・語彙 言葉の力 69
		読書 ヒューマノイド 92
		構成・展開 字のない葉書 104
		語感・語彙 月夜の浜辺 136
		語感・語彙 走れメロス 204
		語感・語彙 鍵 236
		表し方 クマゼミ増加の原因を探る 42
		意見・根拠 デジタル市民として生きる 80
		意見・根拠 モアイは語る——地球の未来 122
		表し方 君は「最後の晩餐」を知っているか 166
		表し方 「最後の晩餐」の新しさ 176
		言語文化 枕草子 36
		言語文化 扇の的——「平家物語」から 146
		言語文化 仁和寺にある法師——「徒然草」から 154
		言語文化 平家物語 140
		読書 翻訳作品を読み比べよう 84
		読書 父と話せば／六千回のトライの先に 192
	SDGs	8 11 17
		9
		13 15
		2 12 15
		16
		9

思考・判断・表現	捉える	人物の設定 16
	読み深める	表現の効果 62
		表現の効果 68
		言葉の力 69
		表現の効果 104
		人物像 136
		言動の意味 146
		情報の整理 80
		文章と図表 42
		論理展開 122
		文章を比較 166
		文章を比較 176
		構成 表現の効果 84
		漢詩の風景 158
		言動の意味 154
		全体と部分 42
	考えをもつ	考えを広げる 62
		考えを広げる 68
		考えを深める 69
		考えを広げる 92
		考えを深める 104
		考えを広げる 136
		考えを深める 204
		考えを深める 236
		考えを広げる 16
		考えを広げる 80
		考えを深める 122
		考えを広げる 166
		考えを深める 176
		考えを広げる 84
		考えを深める 158
		考えを広げる 154
		考えを広げる 146
		考えを広げる 36
	関連 書写・他教科	社会 16
		部活動
		総合
		社会 11 16
		構成の工夫
		根拠の適切さ
		表現の効果
		よい点・改善点
	SDGs	9

言語文化	意見・根拠	意見 適切な根拠を選んで書こう 132
		意見 人物の特徴を捉えて論じよう 157
		意見 作品の魅力をまとめ、語り合おう 220
		創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
		報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232
	言語文化	意見 人物の特徴を捉えて論じよう 157
		意見 作品の魅力をまとめ、語り合おう 220
		創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
		報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232
	具体・抽象	報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232
	語感・語彙	意見 作品の魅力をまとめ、語り合おう 220
		創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
		報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232
	構成の工夫	意見 人物の特徴を捉えて論じよう 157
	根拠の適切さ	意見 作品の魅力をまとめ、語り合おう 220
	表現の効果	創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
	社会	意見 適切な根拠を選んで書こう 132
	部活動	創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
	総合	報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232
	よい点・改善点	創作（物語） 心の動きが伝わるように物語を書く 224
		報告 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る 232

思考の地図 ―― 思考の旅に出かけよう

場面や目的に応じてさまざまな思考法（考え方）を使い、課題を解決したり自分の考えを深めたりしていこう。

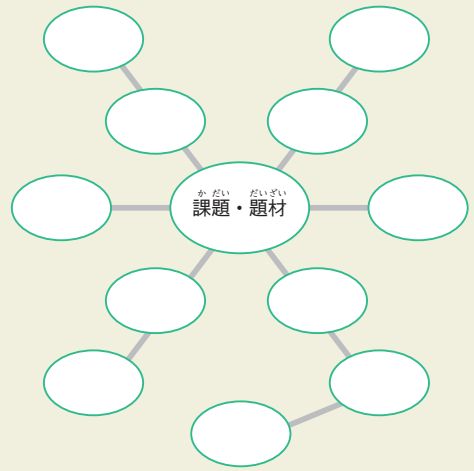
思考を広げる



- どのように情報を集めようか。
- テーマはこれでよいだろうか。
- 他の見方はないかな。

広げる　**思い出す・振り返る**

◆マッピング
思いついた考えや物事をつないで広げていく。



◆対話
向かい合って、互いに話をすること。
相手の発言を聞いて考えを広げたり、自分の考えを確かなものにしたりすることができる。
116ページ



◆ブレーンストーミング
アイデアを広げるための話し合い。
思いついたことを自由に述べ、互いの案を否定しない。

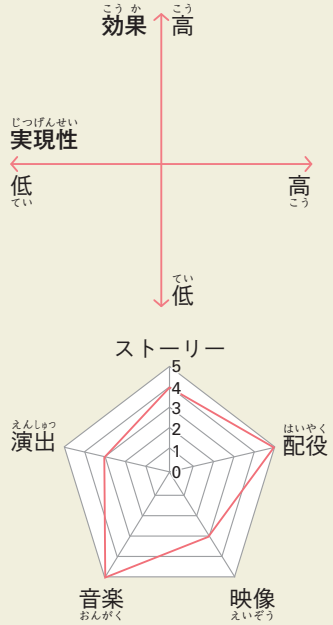
思考を整理する



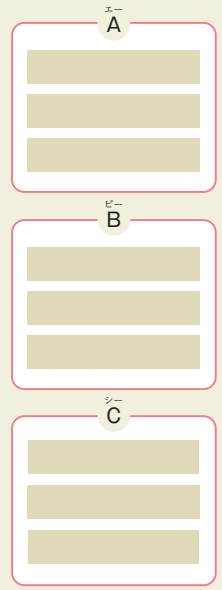
- どんな方法で情報を整理しよう。
- 図式化すると、自分の考えが整理されるな。
  みんなで考えを共有することもできる。

比較する・分類する

◆軸
軸を設けて、物事の程度や度合いなどを示す。
27ページ　53ページ



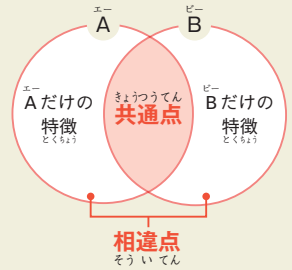
◆分類
共通点などに注目してグループに分ける。



◆観点
目的に合った「観点」を決め、表に整理する。
29ページ　75ページ　179ページ

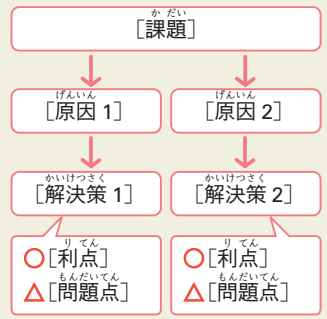
		観点❶	観点❷	観点❸
比較するもの	A			
	B			
	C			

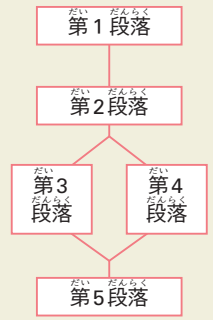
◆共通点・相違点
複数の物事の特徴を、共通点と相違点に分類する。

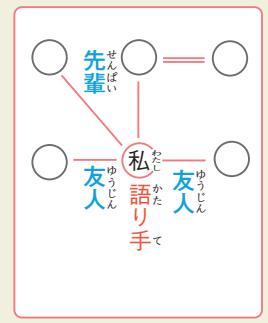


順序立てる・関係づける

◆順序・流れ・関係
物事の順序や流れ、関係などを矢印や囲みなどを用いて表す。
27ページ　52・53ページ　55・56ページ







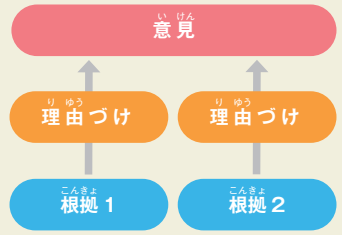
深める



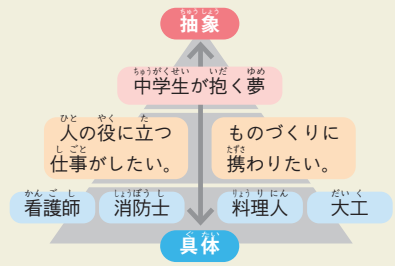
- 具体と抽象を使って考えると、どんないいことがあるのかな。
- より適切な根拠はないだろうか。

分析する・吟味する

◆根拠の吟味
意見を裏づけるための、より適切な根拠について吟味する。
129ページ　130ページ　133ページ　187ページ



◆具体と抽象
話や文章の中に含まれる具体と抽象の関係を理解して使う。
180ページ



仮説を立てて検証する

◆仮説・検証
課題に対してあらかじめ仮説を立て、それを調査で明らかにしていく。
50ページ



この教科書で学習する皆さんへ

この教科書を使う皆さんが、学習や振り返りをする際に役立つ教科書の構成を説明している。効果的に学習を進めるために活用しよう。

教科書の構成

本編

1 広がる学びへ
2 多様な視点から
3 言葉と向き合う
情報×SDGs
いつも本はそばに
4 人間のきずな
5 論理を捉えて
6 いにしえの心を訪ねる
7 価値を語る
いつも本はそばに
8 表現を見つめる
学びを深める
文法・漢字
国語の力試し
語彙ブック

資料編

本編

思考力・判断力・表現力

- 「話すこと・聞くこと」の学習。
- 「書くこと」の学習。
- 「読むこと」の学習。

知識・技能

- 情報　情報と情報との関係、情報の整理などについて学ぶ教材。
- 読書　読書に親しみ、考えを広げたり深めたりする教材。
- 言葉・漢字・文法　「文法への扉」は、巻末の「文法」と共に学習しよう。

資料編

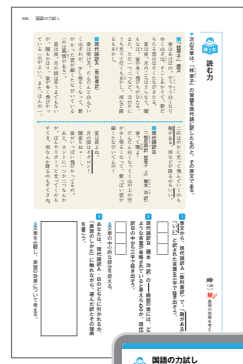
本編の学習を支える資料。必要に応じて活用しよう。

資料編デジタル

学びを深める

国語の力試し

一年間で身につけた国語の力を活用して、力試しをしてみよう。





語彙ブック

ぴったりの表現を見つけるための語彙一覧。学習や日常生活の中で、いつでも活用しよう。





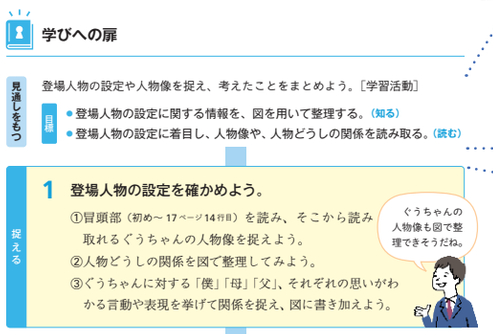
主体的な学びのために

ここでは、見通しをもって、主体的に学習に取り組むときに役立つ教科書の機能を説明している。教科書を有効に活用し、自分の学びを深めていこう。



学習の流れ

見通しをもつ



実行する・試行錯誤する

振り返る

学習のポイント



読む 話す・聞く 書く 共通

見通しをもつ

「学習活動」と「目標」を確認し、学習の見通しをもとう。

学びのカギ

「学びのカギ」で、学習のポイントや、前後の学習とのつながりを確かめよう。

資料編「学びのカギ」一覧（276～281ページ）やデジタル資料「学びの地図」では、学習の全体像が見通せる。

言の葉ポケット

言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やしていこう。

振り返る

学んだことを観点ごとに振り返り、自分の言葉でまとめよう。

振り返る
- 知る □「知識・技能」
- 読む □「思考・判断・表現」
- つなぐ □「主体的に学習に取り組む態度」

主な記号など

- **新出漢字・新出音訓**
  - 漢 中学校で初めて学習する漢字。
  - 音 訓 中学校で初めて学習する漢字の音訓。
- **注意する語句** 次の活動をしてみよう。
  - 意 意味を調べる。
  - 文 短文を作る。
  - 類 類義語を調べる。
  - 対 対義語を調べる。
  - 関 関連語句を確認する。
- **関連する学習**
  - 000ページ 関連する教材や資料のページ。
- **ICT機器（パソコン・タブレット）の活用**
  - 音声や映像を使用した学習。



教材冒頭の「学習の流れ」の中に、ICTを活用すると効果的な学習場面を示した。詳しい内容は、パソコンマークなどに表示。

二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。

※インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。

デジタル資料目次

※ICTの活用場面や二次元コードの一覧は、「ICT活用のヒント」（341ページ）を参照。

書体について

書籍などで広く使われる書体。この教科書では、手書きの文字に近づけた特別な明朝体を使用。

明朝体 永

手書きの文字に近い書体。この教科書では、新出漢字欄、付録の漢字表などで使われている。

教科書体 永

強調したい部分に使われる書体。この教科書では、教材名や見出しなどに使われている。

ゴシック体 永

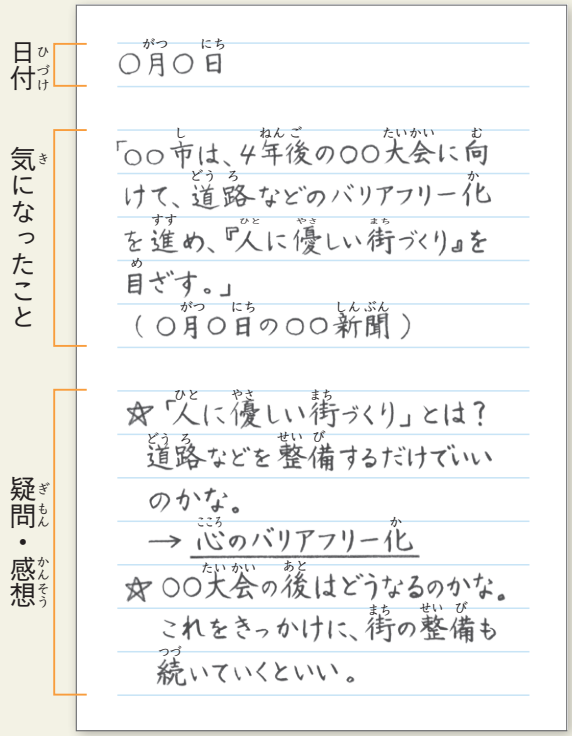
続けてみよう



気になるニュースや心に残る出来事に出会ったら、書き留めておこう。次の例を参考に、一年間、記録を続け、折に触れて紹介し合おう。

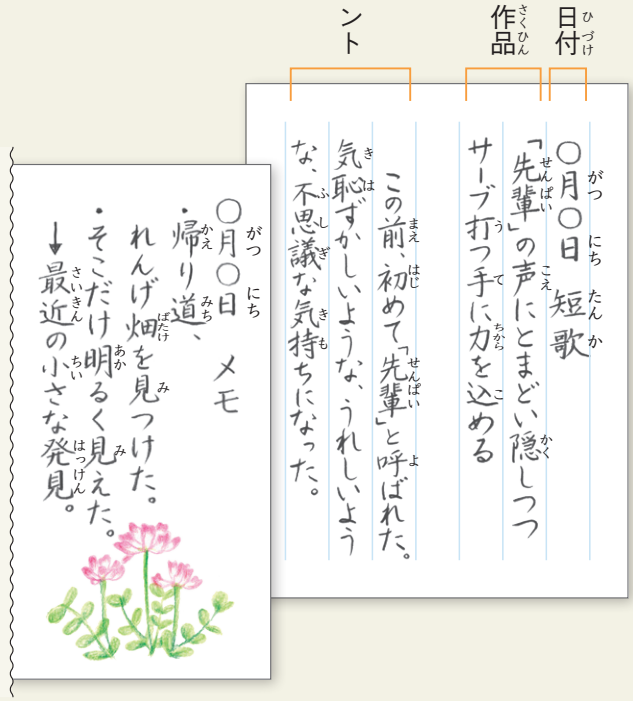
情報メモ▼

意見文を書いたり討論したりするときの題材に。身の回りや地域社会の中で見聞きしたことから、疑問に思ったことや関心をもったことを書き留めよう。新聞記事などの切り抜きをはってもよい。



創作メモ▼

短歌や俳句、物語などを創作するときの題材に。心を動かされた体験やそのときの気持ちを書き留め、創作につなげよう。



1 広がる学びへ

さまざまな文章に触れ、言葉の豊かさに気づく

アイスプラネット　小説　……　椎名誠

漢字に親しもう1

［聞く］意見を聞き、整理して検討する

文法への扉1　単語をどう分ける？

魅力的な提案をしよう

資料を示してプレゼンテーションをする

枕草子　古文　……　清少納言

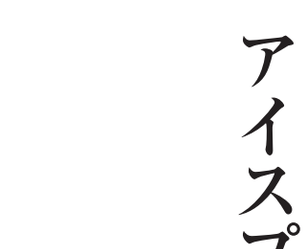
季節のしおり　春



色の名前❶　桜色　｜桜の花のような淡い紅色。平安時代には衣類などの色に好んで使われた。

アイスプラネット

椎名 誠



読む

登場人物の設定や人物像を捉え、考えたことをまとめよう。［学習活動］

目標

- 登場人物の設定に関する情報を、図を用いて整理する。
- 登場人物の設定に着目し、人物像や、人物どうしの関係を読み取る。

僕のおじさんは「ぐうちゃん」という。津田由起夫三十八歳。いそうろう。

僕の母親の弟だ。いつも母に怒られている。学生の頃に外国のいろんな所を旅していたらしく、気づいたときには僕の家に住み着いていた。そして、長いこと「ぐうたら」しているから、いつのまにか「ぐうちゃん」というあだ名になってしまった。でも、ぐうちゃんは変わった人で、そう言われるとなんだかうれしそうだ。それを見て僕の母はまた怒る。怒るけど「これ、ぐうちゃんの好物。」なんて言いながら、ご飯の支度をしているから母もちょっと変わっている。

僕の家は東京の西の郊外にあって、父の祖父が建てた。古い家だけれど、ぐうちゃんが「いそうろう」できる六畳間があって、そこでぐうちゃんは「ぐうたら」している。父は単身赴任で仙台にいて、週末に帰ってくる。ぐうちゃんがいると何か力仕事が必要になったときに安心だから、と言って、父はぐうちゃんのいそうろうを歓迎しているみたいだ。

ぐうちゃんは、家にいるときはたいてい本を読んでいるか、唯一のタカラモノであるカメラの掃除、点検などをしている。全く「ぐうたら」ばかりでもなくて、たまに一週間ぐらい

6 音 支度（シタク）
8 漢 郊 コウ …… 郊外
9 漢 畳 ジョウ たたむ たたみ …… 六畳間
10 漢 赴 フ おもむく …… 単身赴任
11 漢 歓 カン …… 歓迎
12 漢 唯 ユイ（イ） …… 唯一

留守にするときもある。ぐうちゃんにきくと、そんなときは、全国を回って測量の仕事をしているという。一度、家に持って帰った測量の道具を見せてもらったけれど、すごく精密な望遠鏡という感じだった。レンズの中をのぞくと中にいっぱい目盛りが付いていて、ダイヤルでピントを合わせる。いかにもプロの人の道具みたいで格好いい。かといって、ぐうちゃんは、測量の専門家でもないらしい。僕の母は、ぐうちゃんのそういう落ち着かない仕事のしかたが気に入らないようだ。「ちゃんと就職して早く独立しなさい。そうして『いそうろう』から卒業しなさい。」といつも怒る。

当のぐうちゃんは、母に怒られても、「でもまあもう少し。」などと訳のわからないことを言う。すると、母は今度は僕に向かって、「ぐうちゃんみたいな大人になってはだめだからね。」と言う。本当に文句ばかりだ。

そんな「ぐうちゃん」だけど、僕はぐうちゃんが大好きだ。ぐうちゃんの話は文句なしにおもしろいのだ。母は、「みんなほら話なんだからそんなのを聞いている暇があったら勉強していなさい。」と言うけれど、宿題をするよりよっぽどおもしろい。だから、僕がぐうちゃんの話を聞くときはたいていぐうちゃんの部屋に行く。

その日も、夕食の後に僕はぐうちゃんの部屋でほら話を聞いていた。

でっかい動物の話だった。

「悠君。世界でいちばん長い蛇は何だか知っているか。」

ぐうちゃんは、細い目をめいっぱい見開くようにして僕にきいた。それは、いつもおもしろい話をするときのぐうちゃんのその表情が好きだ。でも、

1 測量 工事や地図作成などのため、機器を使って土地の形状や面積などを測定すること。
2 精密 意
3 ダイヤル ここでは、レンズのピントを合わせるためのつまみのこと。
4 いかにも 文

今日は話のテーマがちょっと幼稚すぎる。とはいえ、宿題するよりはずっとおもしろそうだから、母に見つかるまでその話を聞いていることにした。

「アナコンダとかいうやつだね。アフリカの密林あたりにいる。」

「悠君は地理に弱いんだなあ。アナコンダがいるのはアマゾンだよ。現地の人はスクリージュとよんでいて、これはポルトガル語で水蛇という意味だ。長く太くなりすぎて蛇行するには地球の重力が負担になって水に入ったんだ。」

「泳いでいて出会ったら嫌だな。飲み込まれちゃいそうだ。」

「そう。本当に人間なんか簡単に飲み込んでしまう。生きている馬だって飲み込んじゃうんだぞ。」

ぐうちゃんの話はいつも怪しい。僕がおもしろがればいいと思っているのだ。

「そんなのうそだろ。だって馬の背は人間よりはるかに高いし、体重だって普通五百キロはあるって何かの本で読んだよ。アナコンダがいくら大きいといってもそんな大きな口は開けられないだろ。ありえねえ。」

「ありえねくないんだよ。」

ぐうちゃんは変な言い方をした。

「立っている馬をそのまま大口を開けて飲み込むわけじゃないんだ。まず馬の首のあたりにかみついて馬の脚の骨をバキバキ折っていく。飲み込みやすいように全体を丸くしていくんだなあ。それから、ゆっくり、飲んでいくんだ。」

本当かなあ。力の籠もった話し方を聞いていると、うっかりぐうちゃんのほら話の世界に

3 **アナコンダ**　南アメリカ大陸に生息する大形の蛇。するどい歯をもち、水辺の動物を捕食する。

4 **アマゾン**　南アメリカ大陸北部を流れるアマゾン川のこと。流域には密林地帯が広がっている。

5 蛇行 意

10 漢 怪 カイ あやしい あやしむ
怪しい

11 はるかに 文

15

17 漢 脚 キャク（キャ） あし
脚

1 漢 稚 チ
幼稚

20

取り込まれてしまいそうになる。でもその怪しさがやっぱりおもしろい。

「悠君。アマゾンの動物はみんな大きいんだ。ナマズもでっかいのがいるぞ。どのくらいだと思う？」

どうせほら話だから僕も大きく出ることにした。

「そうだね。じゃ一メートル！」

「ブップー。」

外れの合図らしいけど、まるっきり子供扱いだ。

「アマゾンでは普通に三メートルのナマズがいるよ。」

「うそだあ。ありえねえ。」

さすがに頭にきた。僕を小学生ぐらいと勘違いしているんだ。

「うそじゃないよ。口の大きさが一メートルぐらいだよ。」

ぐうちゃんはまた細い目になった。僕をからかって喜んでいる目だ。

5 . . . . 10 . . . . 15 20



4 **ナマズ**　日本で一般的に見られるものは、頭部と口が大きく、四本の口ひげをもつ淡水魚。体長は五十センチメートル程度。

16 漢 勘 カン
勘違い

「ふうん。」

なんだかばかばかしくなったので気のない返事をした。

「あ、信じてないだろう。じゃあがらっと変わって、きれいで小さい宇宙の話をしようか。」

ぐうちゃんは話の作戦を変えてきた。宇宙の話は好きだ。例えば宇宙には果てがあるのか、とか二重太陽のある星の話とかだ。ところが、ぐうちゃんの話は、地球の中の宇宙の話だった。

「北極には、一年に一度流氷が解けるときに小さな氷の惑星ができるってイヌイットの間ではいわれている。アイスプラネットだ。めったに現れないので、それを見た者はその年いいことがいっぱいあるといわれている。」

「童話か何かの話？」

「いや、本当にある話だよ。見ることのできた者を幸せにするという、地球の中にある小さな小さな美しい氷の惑星。いい話だろ。」

「やっぱりありえねえ。俺、風呂の時間だし。」

ぐうちゃんは続けて話したそうだったけれど、母親が風呂に入れと大きい声で呼んだので、それを口実に逃げることにした。ぐうちゃんは、やっぱり今どきの中学生をなめているのだ。

翌日、学校に行く途中で、同じクラスの吉井と今村に会った。初めはどうしようかと思ったけど、馬も飲んでしまうでっかいアナコンダや、三メートルもあるナマズの話はおもしろかったし、氷の惑星の話も、本当だったらきれいだろうなと思ったから、つい吉井や今村にその話をしてしまった。二人は僕の話が終わると顔を見合わせて、「ありえねえ。」「証拠見せろよ。」と言った。「そんなほら話、小学生でも信じないぞ。」そう言われればそうだ。だから、部活が終わって大急ぎで家に帰ると、僕は真っ先にぐうちゃんの部屋に行って、「昨日の話、本当なら証拠の写真を見せろよ。」と無愛想に言った。ぐうちゃんは少し考えるしぐさをして、「そうだなあ。」と言って、目をパチパチさせている。

「これまで撮ってきた写真をそろそろちゃんと整理して紙焼きにしないと、と思っているんだ。そうしたらいろいろ見せてあげるよ。」

むっとした。そんな言い逃れをするぐうちゃんは好きではない。なんかぐうちゃんに僕の人生が全面的にからかわれた感じだ。吉井や今村に話をした分だけ損をした。いや失敗した。僕までほら吹きになってしまったのだ。

それから夏休みになってすぐ、ぐうちゃんはいつもより少し長い仕事に出た。関東地方の各地の川の測量をするということだった。僕は人生を全面的にからかわれて以来、あまりぐうちゃんの部屋に行かなくなっていたから、気にも留めなかった。

夏休みも終わり近く、いつものように週末に帰ってきた父と母が話しているのが、風呂場にいる僕の耳にも入ってきた。

「僕たちは、都市のビルの中にいるからなかなか気がつかないけど、由起夫君は若い頃に世界のあちこちへ行っていたから、日本の中にいたら気がつかないことがいっぱい見えているんだろうね。なんだか羨ましいような気がするな。」

母は、珍しくビールでも飲んだらしく、いつもよりもっと強烈に雄弁になっている。

「あなたは何をのんきなことを言っているの。由起夫が、いつまでもああやって気ままな暮

8 **イヌイット** アラスカ北部からカナダ北部、グリーンランドに居住する民族。

写真

9 **めったに……ない** 文

16 **口実** 意

16 漢 **逃** トウ にげる のがす のがれる

逃げる

6 **紙焼き** フィルムやデジタルデータの写真を、専用の紙に焼き付けたもの。

6 漢 **撮** サツ とる

撮る

18 漢 **羨** (セン) うらやむ うらやましい

羨ましい

19 漢 **雄** ユウ おおす

雄弁

らしをしているのを見ていると、悠太に悪い影響が出ないか心配でしかたがないのよ。例えば極端な話、大人になっても毎日働かなくてもいいんだ、なんて思っていったとしたら、どう責任取ってくれるのかしら。」

父が何かを答えているようだったが、はっきりとは聞こえなかった。ただ、僕のことでぐうちゃんが責められるのは少し違う気がする。そう思うと、電気の消えたぐうちゃんの部屋が急に寂しく感じられてきた。

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に帰ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくした頃だった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなって困った。

残暑が厳しい日だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じだ。

ところが、ぐうちゃんの話は、でっかい動物のでも、寒い国の話でもなかった。

「旅費がたまったから、これからまた外国をふらふらしてくるよ。」

ぐうちゃんは突然そう言った。「でもまあもう少し。」にはこんな意味があったのか。ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、ぐうちゃんの声はどんどん遠くなっていく。気がつくと、僕はぶっきらぼうに言っていた。

「勝手に行けばいいじゃないか。」

ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。何かを話しかけようとするぐうちゃ

20 15 10 5

2 漢 極端 意 きょくたん

6 漢 寂 ジャク（セキ） さび・しい さび・れる

16 漢 突 トツ つく

寂しい

突然

んを残して僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。母は、そんな僕たちに、あきれたり慌てたりしていたけれど、父は何も言わなかった。

十月の初めに、ぐうちゃんは小さな旅支度をして「いそうろう」を卒業してしまった。出発の日、僕は、何て言っていいのかわからないままぐうちゃんの前に立っていた。ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で笑った。そして、何も言わずに僕の手を握りしめ、力の籠もった強い握手をして、大股で僕の家を出ていった。

「ほらばっかりだったじゃないか。」

「いそうろう」がいなくなってしまった部屋の前で、僕はそう思った。



5

3 漢 慌 コウ あわ・てる あわ・ただしい

6 漢 握 アク にぎ・る

7 漢 股 コ また

慌てる

握りしめる

大股



ぐうちゃんから外国のちょっとしゃれた封筒で僕に手紙が届いたのは、それから四か月ぐらいたってからだった。珍しい切手がいっぱい貼ってあった。

「あのときの話の続きだ。以前若い頃に、北極まで行ってイヌイットと暮らしていたことがあるんだ。そのとき、アイスプラネットを見に行こう、と友達になったイヌイットに言われてカヌーで北極海に出た。アイスプラネット。わかるだろう。氷の惑星だ。それが北極海に本当に浮かんでいたんだ。きれいだったよ。厳しい自然に生きている人だけが目にできる、もう一つの宇宙なんだな、と思ったよ。地上十階建てのビルぐらいの高さなんだ。そして、海の中の氷は、もっともっとでっかい。悠君にもいつか見てほしい。若いうちに勉強をたくさんして、いっぱい本を読んで、いっぱいの『不思議アタ

マ』になって世界に出かけていくとおもしろいぞ。世界は、楽しいこと、悲しいこと、美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」

手紙には、ぐうちゃんの力強い文字がぎっしり詰まっていた。

そして、封筒からは写真が二枚出てきた。一枚は人間の倍ぐらいあるでっかいナマズの写真。もう一枚は、北極の海に浮かぶ、見た者を幸せにするという氷の惑星の写真だった。

浅妻健司・絵





作者　**椎名誠**　一九四四（昭和一九）――東京都出身。小説家・映画監督。

著書　「わしらは怪しい探険隊」「岳物語」「白い手」「大きな約束」など。

出典　本書のための書きおろし。

20 . . . . . 15 . . . . . 10 . . . . . 5 . . . . .

5 漢 貼 チョウ はる　　3 漢 封 フウ ホウ

貼る　封筒

8 漢 詰 キツ つめる つまる つむ

詰まる

漢字の練習

広がる読書

「アイスプラネット」椎名誠



「岳物語」椎名誠



221ページ 人物像
109ページ 表現の効果
103ページ 言動の意味
27ページ 登場人物の設定

学びのカギ

登場人物の設定を捉える

誰と誰がどうつながっている？

- 時や場所など、作品の舞台に関わる設定は、冒頭部で示されることが多い。
- 登場人物の設定は、次のような点に着目して捉えるとよい。
  - 名前（よび名）、年齢
  - 置かれている状況や立場
  - 外見や性格、言動、考え方などの特徴
  - 他の登場人物との関係

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【学習で用いる言葉】

設定　時、場所、登場人物など、その作品全体に関わることを定めたもの。

人物像　作品全体を通して描かれる人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴。

【登場人物の設定を図で整理する】

レーダーチャート ❯❯ **人物像を表す**

読み取った人物像を表す言葉（好奇心など）を観点とし、その度合いを表したもの。自分なりに観点を考えることで、人物像をより深く理解することができる。

人物相関図 ❯❯ **人物どうしの関係を表す**

登場人物の関係性を配置と線、関係を表す語句で表したもの。作品の設定や構造を整理して捉えることができる。

言の葉ポケット

作品中から、人物の心情や考え方が表れた語句を抜き出し、その中で印象に残った語句を発表しよう。

学びへの扉

見通しをもつ

登場人物の設定や人物像を捉え、考えたことをまとめよう。［学習活動］

目標

- 登場人物の設定に関する情報を、図を用いて整理する。（知る）
- 登場人物の設定に着目し、人物像や、人物どうしの関係を読み取る。（読む）

捉える

1 登場人物の設定を確かめよう。

①冒頭部（初め～17ページ14行目）を読み、そこから読み取れるぐうちゃんの人物像を捉えよう。
②人物どうしの関係を図で整理してみよう。
③ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加えよう。



読み深める

2 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取ろう。

①ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉えよう。
②「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」（23ページ2行目）のはなぜだろうか。
③手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像しよう。

考えをもつ

3 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめよう。

ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめてみよう。



振り返る

- 知る　□登場人物の設定を図で整理することには、どんな効果があったか。
- 読む　□どんなところに着目して登場人物の設定を捉えたか。
- つなぐ　□これまでに読んだ作品を一つ取り上げ、人物の設定を図で整理しよう。

漢字に親しもう 1

1 新しく習う漢字 308ページ

次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み（学校生活）】

① 学級委員に推薦する。［　　］
② クラス全員の名簿を作成する。［　　］
③ アンケートに記入欄を設ける。［　　］
④ 体育祭で選手宣誓をする。［　　］
⑤ 原稿用紙に清書する。［　　］
⑥ 将棋の大会で優勝する。［　　］
⑦ 要点を箇条書きでまとめる。［　　］

2

次の□に合う漢字を〈　〉から選ぼう。【同じ音読みの漢字】

① ケイ〈啓・携〉　(ア)□帯　(イ)拝□
② ソ〈阻・租〉　(ア)□税　(イ)□止
③ カン〈喚・冠〉　(ア)王□　(イ)□起
④ ホウ〈奉・峰〉　(ア)□仕　(イ)最高□
⑤ シン〈紳・浸〉　(ア)□透　(イ)□士服

3 新しく習う音訓

次の――線部の読みの違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。321ページ

・は中学校で学習する音訓【複数の音読み】

① 要素［　　］　素顔・
② 仮面［　　］　仮病・
③ 散歩［　　］　歩合・
④ 早朝［　　］　早速・
⑤ 経済［　　］　写経・
⑥ 東京［　　］　京阪・
⑦ 指示［　　］　図示・
⑧ 仁義［　　］　仁王像・
⑨ 拾得物［　　］　拾万円・
⑩ 精密［　　］　精進・

新出漢字

28 薦 セン すすめる
28 簿 ボ
28 欄 ラン
28 誓 セイ ちかう
28 携 ケイ たずさえる たずさわる
28 啓 ケイ
28 箇 カ
28 棋 キ
28 稿 コウ
28 冠 カン かんむり
28 喚 カン
28 阻 ソ（はばむ）
28 租 ソ
28 浸 シン ひたす ひたる
28 紳 シン
28 峰 ホウ みね
28 奉 ホウ ブ（たてまつる）

漢字一覧表

話す 聞く

［聞く］

意見を聞き、整理して検討する



▼二次元コードの音声を聞こう

台本は30ページ

ある日の図書委員会。「学校図書館の利用者を増やすために、雑誌を置くべきか。」というテーマで議論している。水島さんと今西さんの意見を聞き、下の問題に取り組もう。

議論をするときには、発言者の立場や、意見とその根拠を的確に捉え、整理して検討することが大切だ。二人の意見を聞き、それぞれの根拠の適切さを評価しよう。

やってみよう

1 それぞれの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価しよう。

［表で整理した例］

【テーマ】学校図書館の利用者を増やすために、雑誌を置くべきか。

	水島さん		今西さん	
立場	反対		賛成	
意見	雑誌を置いても、利用者の増加にはつながらない。		雑誌を置けば、利用者が増えると思う。	
根拠・評価	根拠	評価	根拠	評価
	学校読書調査報告（2021）……	……	写真やイラストが多い。……	……

2 自分はどちらの意見に納得できるか、考えよう。

テーマ

「二人の意見」

学校図書館の利用者を増やすために、雑誌を置くべきか。

立場 ＝ 意見 ┈ 根拠 ～ 意見と根拠の結び付き（「理由づけ」）

水島さんの意見

僕は、図書館に雑誌を置くことに反対です。二〇二一年度の「学校読書調査報告」によると、六割以上の中学生が全く雑誌を読まないそうです。僕の周りにも、雑誌を読んでいる友達はほとんどいません。そのため、図書館に雑誌を置いても、利用者の増加にはつながらないと考えます。

本の魅力を伝えるイベントを企画するなど、他の方法を考えるべきだと思います。

今西さんの意見

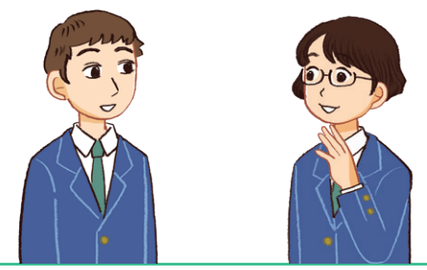
私は、図書館に雑誌を置くことに賛成です。

雑誌には、写真やイラストがたくさん載っています。読む楽しみだけでなく、眺める楽しみもあるため、読書の苦手な人でも手に取りやすいといえます。

また、その分野に特化した、専門的な情報が手に入るのも魅力です。スポーツ観戦が好きな私の姉も、選手を深く知るには雑誌がいちばんと言っていました。スポーツや料理などに興味をもつ人は多いので、図書館に雑誌を置けば、利用者が増えると思います。

意見と根拠を整理して聞き取るために

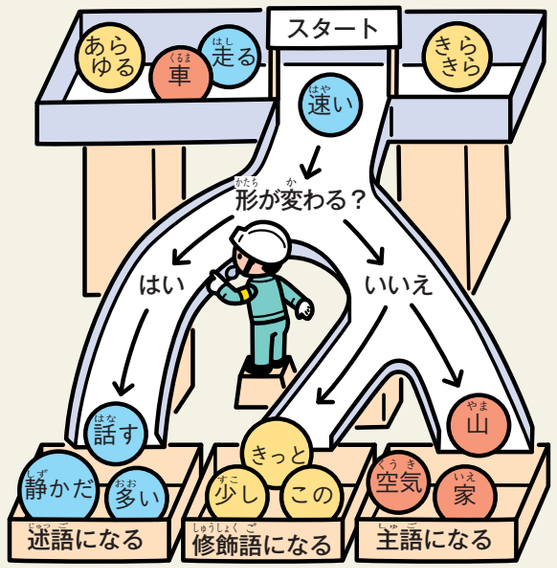
- 発言者の立場を踏まえ、意見とその根拠として挙げていることを的確に聞き取り、整理する。
- 根拠の客観性や信頼性を確かめる。
- 意見と根拠の結び付き（「理由づけ」）に無理や飛躍がないかを検討する。
- 自分はどの意見に納得できるか、考えながら聞く。



文法への扉 1

単語をどう分ける？

単語を、働きや性質によって分類してみよう。左の五つの単語は、どのグループになるだろうか。



文法ワーク

単語は、次の観点によって、自立語と付属語に分けられる。

- 単独で文節を作れるかどうか

上の絵の中に出てくる単語は、全て自立語である。

さらに、自立語は、次の観点によって分類することができる。

- 後に付く語によって、形が変わる（活用する）かどうか
- 主語・述語・修飾語など、どんな文の成分になるか

このように、幾つかの観点で分類すると、自立語は、動詞・形容詞・形容動詞・名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の八種類になる。

「文法1 自立語」を読んで、各品詞の性質を見ていこう。

15　10　5

文法1 自立語（242～245ページ）

1 活用する自立語
1 動詞
2 形容詞
3 形容動詞

2 活用しない自立語
1 名詞
2 副詞
3 連体詞
4 接続詞
5 感動詞

242ページ

話す・聞き

魅力的な提案をしよう

資料を示してプレゼンテーションをする

相手の理解や賛同を得るために、企画や解決策を提示することを、プレゼンテーションという。ここでは、グループでICT活用の標語を作り、クラスのみんなに提案する。資料や機器を効果的に使って、聞き手の心を動かそう。

＊情報通信技術のこと。

表現テーマ例集

目標
- 言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを知る。（知る）
- 話の構成を工夫し、資料や機器を使って、自分の考えをわかりやすく話す。（話・聞）

集める・整理する

1 提案内容を決める

- 誰に（相手）、何を（話題）、何のために（目的）提案するかを確かめる。
- 提案内容を決める。現状の課題を見つけ、その解決策を基に提案するとよい。

組み立てる

2 話の構成や表現を工夫する ICT

- グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。
- 資料を提示しながら話す練習をする。

伝え合う

3 プレゼンテーションをする ICT

- クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする（録画）。

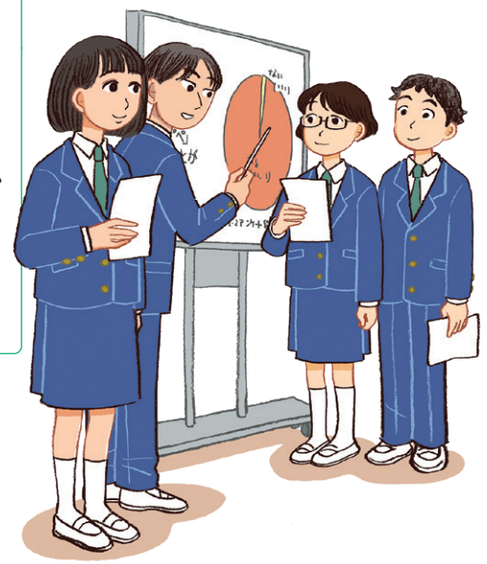
共有する

4 学習を振り返る ICT

- いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。
- 録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。

振り返る ◀ 35ページ

生かす
- 日常　生徒総会で提案する。
- 将来　自分で考えた企画を提案する。



233ページ 学びの価値づけ
187ページ 立場の尊重
116ページ 質問
33ページ 資料や機器

学びのカギ

資料や機器を活用して話す

- 誰に（相手）、何を（話題）、何のために（目的）提案するかを考え、いちばん伝えたいことを明確にする。
- 聞き手が知りたいことや、もっていない情報を予測して提案する。
- 客観的な事実を根拠とすることで、提案に説得力をもたせる。
- 提示資料は、情報を焦点化し、写真やイラスト、図表などを活用して、視覚的にも理解しやすいように工夫をする。
- 聞き手に問いかける、話し手をかえる、声をそろえて印象づけるなど、聞き手をあきさせない工夫をする。

◀ 280ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

人の心を動かす提案をするには、どんな工夫が必要だろうか。



【資料を活用する】

相手	クラスのみんな
話題	ICT活用の心構え（標語）
目的	他の人の文章を「コピペ」して使うときの留意点を共有する

「コピペ」：コピー・アンド・ペーストの略。

△

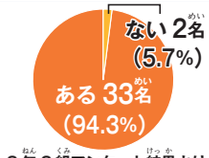
2年2組アンケート結果より
他の人の文章などを「コピペ」したことがある。
- したことがある　33名（94.3%）
- したことがない　2名（5.7%）

「コピペ」した情報を利用するときに注意していること
- 出典を示す。
- 引用した部分をかぎ（「」）でくくる。
- 特に注意していることはない。

○

現状分析 ①

他の人の文章などを「コピペ」したことがある。



2年2組アンケート結果より

資料作成のポイント

- 1枚のスライドに一つの事柄を書く。（情報を焦点化する。）
- 文字の大きさや色、配列に注意する。（情報に軽重をつける。）
- 数値は直感的に見て取れるよう、グラフや表で示す。
- 引用の際は出典を明記する。

資料提示のポイント

- 重要なこと、注目してほしい部分をきわ立たせる。
  →声の大きさや間の取り方、抑揚などを工夫する。
  →手で示す、資料と聞き手を交互に見るなど、動作や表情で聞き手の注意を引きつける。

進行案を考える

【構成(時間)】	【提示資料】	【分担】	【話すこと／伝え方】
導入（1分）	1 あなたは「コピペ」をしたことがありますか。	野口	• 問いかけて注意を引きつける。 • 「コピペ」の定義と略語であることを確認。 • 特に他の人の著作物を利用するときには要注意。大切なのは著作権のルールを守ること。
現状分析（1分30秒）	2 現状分析① 他の人の文章などを「コピペ」したことがある。 ない 2名 (5.7%) ある 33名 (94.3%) 2年2組アンケート結果より	田中	• 2年2組で、「他の人の文章などを『コピペ』したことがある」人の割合を発表。 • 多くの人が、「コピペ」の機能を使っていることを確認。
	3 現状分析② 「コピペ」した情報を利用するときに注意していること 2年2組アンケート結果より • 出典を示す。 • 引用した部分をかぎ（「」）でくくる。 • 特に注意していることはない。	岸	• 「特に注意していることはない。」という回答に注目させる。 • 他人の意見を自分の意見のようにして発信するのは問題。 →引用部分は最小限にして、かぎでくくり、出典を明記。 →しっかり区別するのが大事。
標語発表（1分30秒）	4 「コピペ」するときの心得は？	水島	• 問いかけだけを、スライドに示す。 • 「『コピペ』の機能は手軽で便利。でも、使い方には気をつけて！」という決めぜりふ。
	5 コピペしたその文章はお客様		• 間を取って、「標語」を発表。 • 引用を「お客様」にたとえた意図を説明。 →手軽でも気を抜かない。 →著作者の権利を尊重し、著作権のルールを守る。

プレゼンテーションソフトやフリップなどを使って作成する。
1枚に入れる文字量は、5行×15字程度を目安にする。

提示資料と対応させて話す内容の要点、伝え方をメモする。

286ページ グラフの見方／引用・出典

ICT 録画して振り返る

341ページ

プレゼンテーションをする

野口　それでは、三班のプレゼンテーションを始めます。（スライド1を手で示す）あなたは「コピペ」をしたことがありますか。（間を取る）「コピペ」とは、コピー・アンド・ペーストの略で、コンピュータやスマートフォンなどでデータをコピーし、そのまま貼り付ける機能のことです。

手軽で便利な機能ではありますが、他の人が書いた文章やイラスト、写真などを利用するときには、注意が必要です。（後略）



説得力のある説明のしかた

導入
- あなたは、……ですか。／皆さんは、……ありますか。（問いかけ）
- 今日は、○○と□□についてお話しします。（全体像を伝える）
- ○○の定義は……です。／○○とは、……のことです。（用語の定義などの前提を確認する）

展開
- 初めに、……／次に、……
- このグラフは、……。これが……であるという、私たちの主張の根拠です。

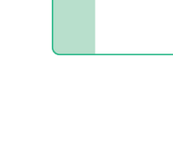
まとめ
- 最後に、私たちの提案のポイントをまとめます。
- 発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。

言の葉ポケット

達人からのひと言

相手を動かそうとするのではなく、自ら動きたいと感じてもらえる言葉を探し出そう。

梅田悟司さん（コピーライター）



振り返る

- **知る** □言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか。
- **話す・聞く** □聞き手の印象に残るプレゼンテーションにするために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか。
- **つなぐ** □クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考えてみよう。

枕草子

清少納言

「枕草子」は、平安時代に清少納言によって書かれた、日本を代表する随筆文学である。作者が宮仕えをしていた頃に見聞きしたことや、季節の感想、人生観などが、独自のするどい感覚と簡潔な文章で表現されている。冒頭部分や幾つかの章段を読み味わってみよう。



読む

「枕草子」を音読し、自分が感じる四季の趣をまとめよう。［学習活動］

目標

- 作者のものの見方や感じ方に触れる。
- 自分が感じる四季の趣と比べて、読み味わう。

「枕草子」朗読音声

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。

春は明け方。だんだんと白んでいく山ぎわが、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている（のは風情がある）。

夏は夜。月の頃は言うまでもないが、闇もやはり、蛍が多く飛びかっている（のがよい）。また、ほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくのも趣がある。

2 **宮仕え** 清少納言は、当時の天皇である一条天皇の中宮（天皇の妃）定子に仕え、信頼関係を築いた。後に藤原道長の娘彰子が中宮になると、定子は中宮から皇后となった。

兄 藤原道隆 ― 定子 …… 清少納言
一条天皇 ＝ 彰子 …… 紫式部
弟 藤原道長

下5 漢 **紫** シ むらさき …… 紫
下9 漢 **蛍** ケイ ほたる …… 蛍
下11 漢 **趣** シュ おもむき …… 趣

雨などが降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

（第一段）

雨などが降るのもいい。

秋は夕暮れ。夕日が差して山の端にとても近づいた頃に、烏がねぐらへ行くというので、三、四羽、二、三羽などと飛び急ぐことまでもしみじみとしたものを感じさせる。まして、雁などが列を作っているのが、たいそう小さく見えるのはたいへんおもしろい。日がすっかりしずんでしまって、風の音、虫の音など（がするのも）、これもまた、言いようもない（ほど趣深い）。

冬は早朝。雪が降っているのは、言うまでもない。霜が真っ白なのも、またそうでなくても、たいそう寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持って（廊下などを）通っていくのも、たいへん似つかわしい。昼になって、だんだん暖かくなって（寒さが）ゆるんでいくと、火桶の火が白い灰ばかりになって、好ましくない。

（36ページ）

上4 **山ぎは** 空の、山に接するように見える辺り。

上5 **紫** 今の紫よりやや赤みを帯びた紫色で、「古代紫」とよばれる。

（37ページ）

上2 **山の端** 山の、空に接する部分。「山ぎは」に対する語。

上12 **火桶** 木製の丸火鉢。



上3 漢 **寝** シン ねる ねかす …… 寝どころ
下13 漢 **霜** （ソウ） しも …… 霜

うつくしきもの。瓜にかきたるちごの顔。

雀の子のねず鳴きするにをどり来る。二つ三つばかりなるちごの、いそぎて這ひ来る道に、いと小さき塵のありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる指にとらへて、大人ごとに見せたる、いとうつくし。頭はあまそぎなるちごの、目に髪のおほへるを、かきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、うつくし。

（第百四十五段）

月のいと明かきに、川をわたれば、牛の歩むままに、水晶などのわれたるやうに、水の散りたるこそをかしけれ。

（第二百十六段）

作者　**清少納言**　本名、生没年未詳。平安時代中期の歌人清原元輔の娘。

出典　「枕草子」　原文は、「枕草子」（新編日本古典文学全集 18）による。

かわいらしいもの。瓜に描いてある幼児の顔。雀の子が、ねずみの鳴きまねをして呼ぶと、踊るようにやって来る様子。二、三歳ほどの幼児が、急いではってくる途中に、とても小さいごみがあったのを目ざとく見つけて、愛らしい指でつまんで、大人たち一人一人に見せている様子はとてもかわいらしい。髪はあまそぎにしている幼女が、目に髪がかかっているのをかき払わずに、顔を傾けて物などを見ているのも、かわいらしい。

月のとても明るい夜に牛車で川を渡ると、牛が歩くにつれ、水晶などが割れたように水が飛び散るのは趣深いものだ。


あまそぎの子供

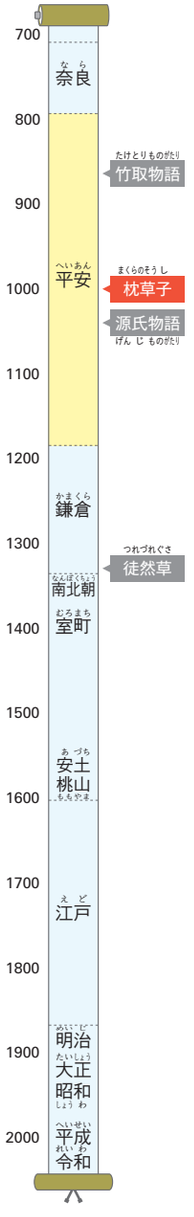
上6 **あまそぎ**　髪を肩の辺りで切りそろえること。

下11 漢 **傾**　ケイ　**かたむく**　**かたむける**

下14 漢 **晶**　ショウ

傾ける　水晶

漢字の練習



自分流「枕草子」を書こう

春には桜を待ち、秋には紅葉をめでるのが一般的だが、清少納言は独自の感受性で四季それぞれの好きな時間帯や素材を挙げ、その趣を書きつづった。

「枕草子」（第一段）をまねて、季節感を表す文章を書いてみよう。

①「春は……。夏は……。」などの書きだしを借りる。

②自分ならではの季節感を表す文章を四百字程度で書く。

例　その季節らしい食べ物・行事・植物・動物・天候・身の回りのもの

枕草子

「枕草子」には約三百の章段がある。宮中での生活で見聞きしたことを回想した章段や、「山は」「鳥は」「うつくしきもの」など、一つの題材を取り上げて関連する事柄を挙げた章段など、文章から清少納言のするどい感性がうかがえる。

紫式部の「源氏物語」が特徴とするのに対し、「枕草子」は知的で明るい「をかし」の文学といわれ、「徒然草」などにも影響を与えた。

154ページ 仁和寺にある法師


清少納言


「枕草子」写本

広がる読書


「枕草子　方丈記　徒然草」
酒井順子 訳（枕草子）



「方丈記（全）」
鴨長明　武田友宏 編



「ももこのいきもの図鑑」
さくらももこ

季節のしおり 春

あなたが春を感じるものは、何だろうか。草木の芽吹き、ひなかざり、夜桜を楽しむ人々……。作品に描かれた情景の中に、春を感じてみよう。

窓あけて窓いっぱいの春

種田山頭火

やはらかに柳あをめる
北上の岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

石川啄木

清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢ふ人みなうつくしき

与謝野晶子

（春の行事と暦）

- 上巳の節句……三月三日。桃の節句ともいう。ひな人形をかざる風習がある。
- 野遊び……春の野山に出かけて草摘みや食事を楽しむこと。
- 八十八夜……五月二日頃。立春から八十八日目、立夏の直前。茶摘みの最盛期に当たる。



2

多様な視点から

構成を捉え、説明の工夫を考える

クマゼミ増加の原因を探る

報告

沼田英治

情報整理のレッスン　思考の視覚化

情報を整理して伝えよう

職業ガイドを作る

漢字1　熟語の構成

漢字に親しもう2



色の名前2　萌黄色 ● | 春の草木のような、みずみずしい黄緑色。

クマゼミ増加の原因を探る

沼田 英治

読む

文章の構成や図表との関係に注意して読み、考えたことを話し合おう。［学習活動］

目標

- 情報と情報との関係を図示するなどして整理する。
- 文章全体と部分との関係や、文章と図表との関係に注意して読む。

研究のきっかけ

一九六〇年代、大阪市に隣接する豊中市で少年時代を過ごした私にとって、クマゼミは「セミの王様」だった。全長六、七センチメートルもある、重厚で黒光りのする体。羽化したての若い成虫には、金色の毛が輝く。何よりも数が少なく、めったに捕ることができなかった。

私はその後、豊中市を離れ、一九八四年に戻ってきた。クマゼミの声が大きくなったと気づいたのは、そのときだ。大阪市内はさらに顕著で、ほぼクマゼミの声しか聞こえなくなっていた。クマゼミが増えているのか。検証の機会は二〇〇三年に訪れた。私は、当時学生だった森山実さんと、六年間に及ぶ調査を開始した。

図1に、大阪府内で行った抜け殻調査の結果を示す。大阪市内の公園や大学では、やはりクマゼミが圧倒的に多く、かつてはよく見られたアブラゼミは二割以下に、ニイニイゼミやツクツクボウシはいなくなっていた。いっぽう、市外の緑地や森林には、依然としてアブラゼミが多く、山の上には、さらに多様な種類のセミが生息していることがわかった。

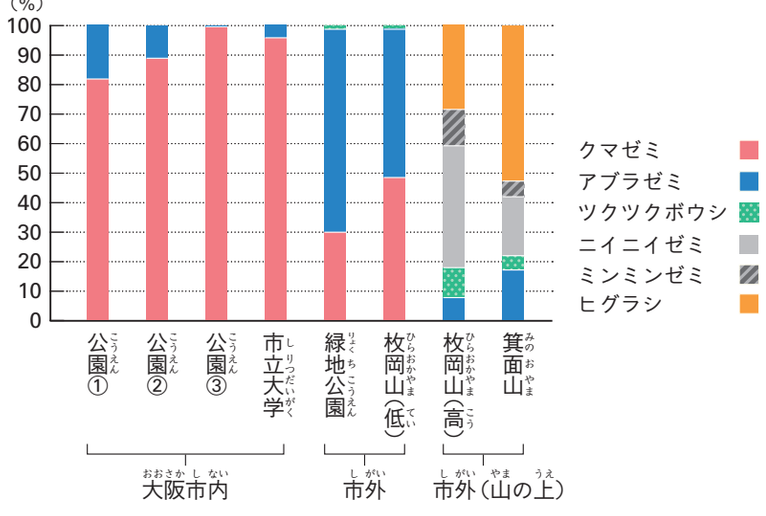
大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのだろうか。一九六〇年代からの主な変化として挙げられるのが、この地域の都市化、気温上昇、湿度の低下である。急速な都市化にともない、植物や土で覆われた地面は舗装されてビルや道路になった。都市化はヒートアイランド現象を引き起こす。一九六〇年からの五十年間で大阪市の年平均気温は約一度上昇し、つまり、現在の大阪市内は、以前より暑く、乾燥している。クマゼミは、もともと西日本の温暖な地域に多く生息し、暑さには強いと考えられる。ヒートアイランド現象による環境変化が有利に働いたのではないだろうか。私たちは、この点について検証していくことにした。



大阪市・豊中市の位置


クマゼミの成虫

図1　抜け殻調査の結果（2008年）



4 **全長**　頭から羽の先までの長さ。

5 **羽化**　昆虫が、幼虫やさなぎから成虫になること。

12 **検証の機会は……開始した**　クマゼミ増加の原因を探る研究は森山実さんの卒業研究として始まった。その後、森山さんは大学院に進学し、現在も昆虫の研究を続けている。

5 音 **羽化**（ウカ）

7 漢 **捕** とらえる・とられる・とる・つかまえる・つかまる

10 漢 **顕** ケン　顕著

2 **抜け殻調査**　抜け殻を採集し、セミの種類や数、割合などを調査すること。目視や声の大きさより正確に数量を把握できる。

5 **アブラゼミ**　日本全国に広く生息するセミ。全長五・五～六・〇センチメートル。

5 **ニイニイゼミ**　小形のセミ。全長三・二～三・八センチメートル。

5 **ツクツクボウシ**　晩夏によく見られるセミ。全長四・一～四・七センチメートル。

16 **ヒートアイランド現象**　都市部の温度が周辺より高くなる現象。舗装による蓄熱や蒸発熱の減少、空調や自動車からの排熱が主な原因といわれる。

2 漢 **殻** カク　から　抜け殻

10 漢 **占** セン　しめる・うらなう　占める

13 漢 **湿** シツ　しめる・しめす　湿度

15 漢 **舗** ホ　舗装

18 漢 **燥** ソウ　乾燥

［前提］クマゼミの一生と、環境の影響を受ける時期

気温や湿度がクマゼミに与える影響を考えるために、まずは、その一生を確認しておこう（図2）。

①**卵の段階**　クマゼミは、夏に枯れ枝に産卵する。卵はやがて休眠に入り、そのまま地上で冬を越す。

②**孵化して土に潜る段階**　休眠を終えた卵は、春、気温が上がると体を作り始め、梅雨から夏にかけて孵化する。雨の日に孵化し、幼虫はすぐ土に潜る。

③**幼虫として地中で過ごす段階**　植物の根から栄養を取り、七年ほどかけて成長する。

④**地上に出て成虫になる段階**　幼虫は夏に地上に出て羽化し、産卵して一生を終える。

この中で、気温や湿度の影響を受けやすいのは、地上で外気にさらされる①②④の段階であると推定できる。特に、小さく未熟な状態である①と②は危険だ。①の卵は野外で冬を越すため、厳しい寒さに耐える必要がある。また、②の孵化したばかりの幼虫は弱く、一時間以内に地中に潜らないと、アリに襲われたり乾燥したりして死んでしまう。そのときの環境に、生存が左右されるおそれがあるのだ。

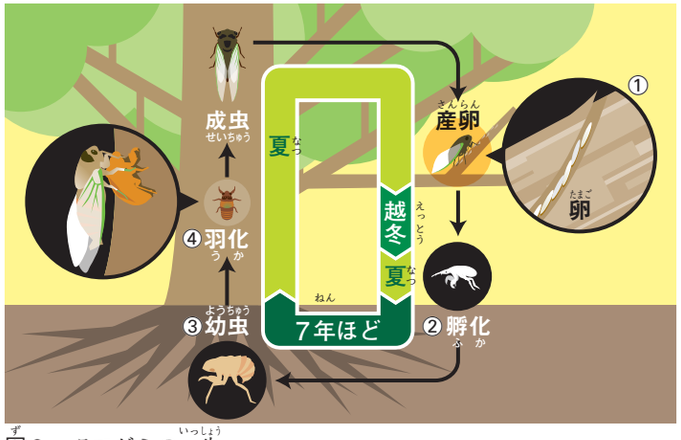


図2　クマゼミの一生


産卵するクマゼミ

5 **休眠**　生物の成長や活動が、一時的に停止する現象。休眠している生物は、暑さ、寒さ、乾燥などに強い。

6 **孵化**　生物の卵がかえること。

14 **さらす**　意

14 **推定**　文

20 **左右する**　意

4 **枯**　漢　**枯れる**　**枯れ枝**

4 **産卵**（サンラン）　音

5 **眠**　漢　**眠る**　**休眠**（ミン）

6 **潜**　漢　**潜む**　**潜る**

17 **耐**　漢　**耐える**　**耐える**

［仮説1］冬の寒さの緩和

私たちはまず、地上で冬を越す「①卵の段階」に注目し、次のような仮説を立てた。

［仮説1］クマゼミの卵は寒さに弱く、昔の大阪では冬を越せるものが少なかった。しかし、気温上昇で寒さが和らぎ、越冬できる卵が増えた。

この仮説を検証するために、私たちはクマゼミの卵がどれぐらいの低温に耐えられるかを実験してみた。その結果、なんと氷点下二十一度に一日置いても、大部分が生き延びることがわかった（図3）。

次に、長く続く寒さへの耐性を調べた。観測史上、大阪市の一か月の平均気温が零度を下回ったことはない。そこで、それより低い氷点下五度に三十日間置いてみたが、特に影響は見られなかった（図4）。

しかし、これらは全て実験室で得た結果だ。気温や湿度が変動する野外の冬に耐えられる保証はない。そこで、二〇〇五年九月、私たちはクマゼミの卵を大阪市および大阪市より気温の低い東大阪市の枚岡山に置き、一年後に孵化した数を調べた。その結果、より寒い枚岡山でも孵化率は下がらなかった（図5）。

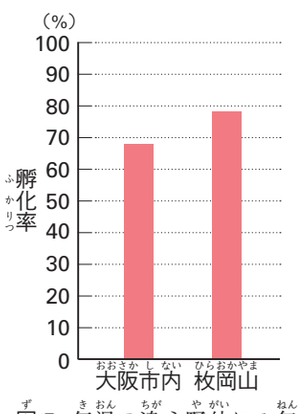


図5　気温の違う野外に1年間置いた場合の孵化率の比較

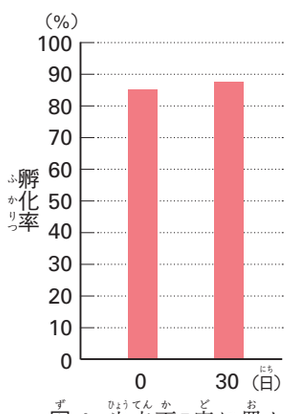


図4　氷点下5度に置かなかった場合と、30日間置いた場合の孵化率の比較

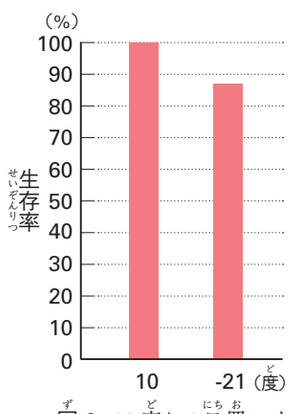


図3　10度に1日置いた場合と、氷点下21度に1日置いた場合の生存率の比較

17 **枚岡山**　東大阪市の山（場所は42ページの地図を参照）。

11 **零**　漢　レイ　**零度**

1 **緩**　漢　カン　ゆるい　ゆるやか　ゆるむ　ゆるめる　**緩和**

十二月から二月までの大阪市の平均気温は五・五度、枚岡山は三・七度。枚岡山は一九六〇年代の大阪市内より少し寒いにもかかわらず、クマゼミの卵は問題なく越冬することができた。

これらの結果は、クマゼミの卵が寒さに強く、かつての大阪でも十分越冬できたことを示している。つまり、冬の寒さの緩和はクマゼミ増加の原因ではない。仮説が明確に否定されたことで可能性が一つ排除され、原因を絞り込むことができた。

【仮説2】気温上昇による孵化の時期の変化

私たちは、気温上昇が及ぼす他の影響を検討するために「②孵化して土に潜る段階」に着目した。クマゼミに限らず卵で越冬するセミは、春、気温が上がると体を作り始め、一、二か月で孵化できる状態になる。つまり、気温の上がった近年のほうが早く孵化できる状態になる。

重要なのは、セミの卵がこの状態で雨を待つことだ。生まれたばかりの幼虫は、小さくて体が軟らかく、前述のとおり一時間以内に地中に潜らないと、アリに襲われたり乾燥したりして死んでしまう。そのため、土がぬかるんで軟らかくなる雨の日を狙って孵化するのだ。

確実に雨を捉えるために、セミの卵は高い湿度を感知して孵化する。孵化には雨が必須であり、そもそも雨が降らないと、孵化できない仕組みになっているのだ。これは、孵化の時期が雨の多い梅雨に当たれば、無事に孵化できる確率が高まることを意味する。気温上昇によりセミの孵化は早まっている。いっぽう気象庁の記録によると、過去五十年間、梅雨明けの時期は、ほとんど変わっていない。以上のことから、私たちは、次のような仮説を立てた。

【仮説2】気温上昇で孵化が早まり、梅雨に重なったことで、孵化できる卵が増えた。

8 **卵で越冬するセミ**　ここでは、卵の状態で休眠し、越冬するセミに共通する生態を取り上げている。ニイニイゼミやヒグラシの卵は休眠をしないで、産卵があった年の秋の長雨の時期に孵化する。

13 必須（意）
5 漢 排 ハイ　排除
11 漢 軟 ナン　やわらかい　やわらかい　軟らかい
12 漢 狙 ソ　ねらう　狙う
13 漢 須 ス　必須

私たちは、クマゼミを含む四種のセミに産卵させ、卵を野外に置いて観察した。図6を見てほしい。他のセミは、孵化がほぼ梅雨の期間に収まっているのに対し、孵化が遅いクマゼミだけは、途中で梅雨が明けてしまった。

この観察をしたのは二〇〇七年のことだが、より気温が低かった一九六〇年代には、梅雨明け後に孵化の準備が整い、雨に恵まれずに死んでいく卵がさらに多かったことになる。

つまり、気温上昇で孵化が早まり、梅雨に重なったことは、クマゼミ増加の原因の一つと考えられる。ただ、梅雨の間に孵化が完了する点では、他のセミのほうが依然として有利だ。クマゼミが増えた一因ではあっても、それだけが原因で、クマゼミの占める割合がこれほど高くなったとは考えにくい。

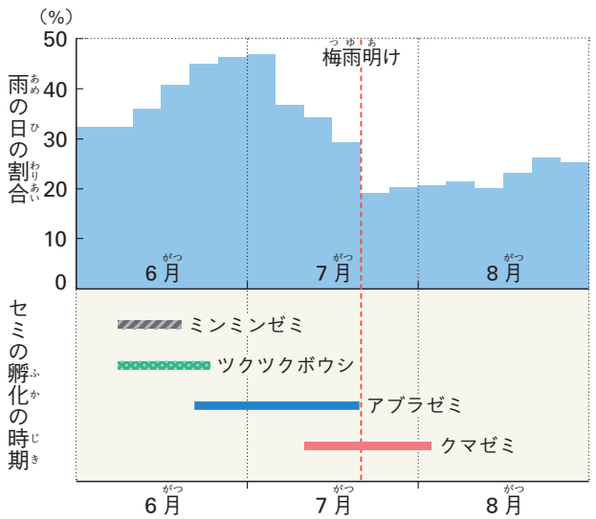


図6　セミの孵化の時期（2007年）と雨の日の割合

【仮説3】ヒートアイランド現象による乾燥と地表の整備による土の硬化

大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのか。私たちは、再び幼虫が「②孵化して土に潜る段階」に注目した。［仮説2］でも述べたとおり、雨が降ると土がぬかるんで軟らかくなり、幼虫が地面に潜りやすくなる。しかし、都市化の進んだ大阪市内では、地表の大半が舗装されており、セミは地面に潜れない。さらに、公園などに残さ

4 ……に対し（文）
15 漢 硬 コウ　かたい　硬化

れた土も、人の足で踏み固められ、ヒートアイランド現象の影響で乾燥し切っている。雨が降っても、野原や森林の土のように、ぬかるむことはない。

私たちは、図1に示した抜け殻調査をする際に、それらの地点のその結果、クマゼミが多い市内の公園は土が硬く、クマゼミが少ない市外の緑地や森林は土が軟らかいことがわかった。私たちは、この違いに注目し、次のような仮説を立てた。

［仮説3］ クマゼミの幼虫は土を掘る力が強く、ヒートアイランド現象による乾燥と地表の整備によって硬化した地面にも潜ることができる。

この仮説を検証するために、私たちは、セミの幼虫が土に潜る能力を実験で比較した。まず、四段階の硬さに押し固めた土を用意して、そこに孵化したばかりの幼虫を入れた。そして、一時間以内に潜れるかどうかを観察した。結果が図7である。クマゼミは他のセミと比べ、硬い土に潜る能力が圧倒的に高かった。乾燥と地表整備で、他のセミが潜れなくなるほど硬くなった地面にも、クマゼミだけは潜ることができる。これが、大阪市内でクマゼミの占める割合が高まった原因と考えられる。

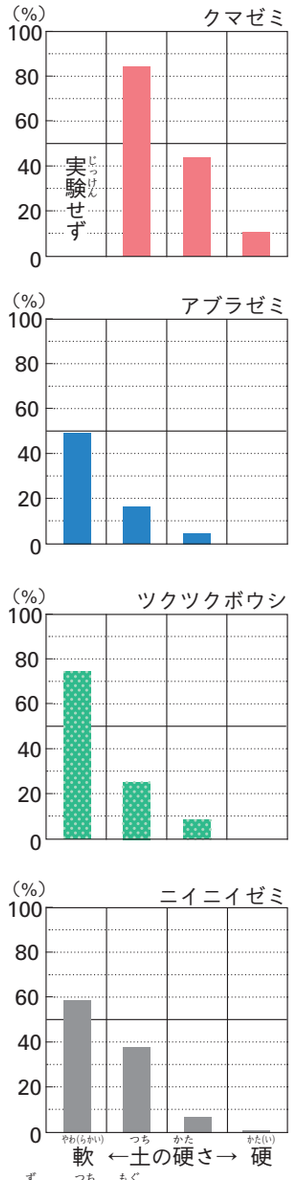
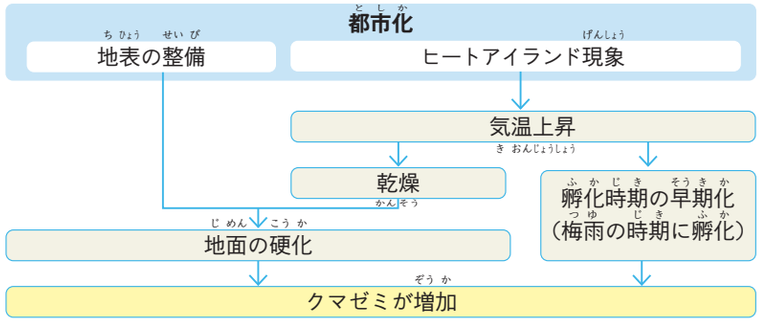


図7 土に潜ることのできた幼虫の割合

図7 土に潜ることのできた幼虫の割合 最も硬い土から順に、潜れる個体数を数えた。クマゼミは、二番目に軟らかい土に八割を超える個体が潜れたため、それ以上軟らかい土での実験を行わなかった。

大阪府の都市部でクマゼミの占める割合が高まった要因



まとめ

以上のことから、大阪市内でクマゼミの占める割合が高まった背景には、都市部におけるヒートアイランド現象の影響があることが明らかになった。ただし、冬の寒さの緩和は、気温上昇で孵化の準備が早まり、梅雨と重なってクマゼミの孵化率が向上したこと、そしてヒートアイランド現象による乾燥や地表整備で硬化した都市部の土に潜る能力が他のセミと比べて圧倒的に高かったことの二点である。

環境の変化と、生物の数や分布の変化は、簡単に関連づけて語られることが多い。しかし、私たちがクマゼミについてこの結論を得るまでには、何年もの間、実験や観察を重ねる必要があった。物事の原因を追究するには、世間一般にいわれていることをうのみにするのではなく、科学的な根拠を一歩一歩積み上げて臨む姿勢が大切である。

14 うのみにする 意

15 訓 臨む（のぞむ）

漢字の練習



筆者 **沼田英治** 一九五五（昭和三〇）――富山県出身。昆虫学者。

著書 「生きものは昼夜をよむ 光周性のふしぎ」「クマゼミから温暖化を考える」、「昆虫の時計 分子から野外まで」（編著）など。

出典 本書のための書きおろし。

広がる読書

「クマゼミから温暖化を考える」
沼田英治



「春の数えかた」 日高敏隆



179ページ 文章の比較
129ページ 論理の展開の吟味
51ページ 文章と図表

学びのカギ

文章と図表を結び付けて読む

図表は、何を語っているか。

- **図表を含む文章**を読むときには、その図表が何のために示され、文章のどの部分と、どう結び付いているかを確かめることが大切だ。

【図表の効果】

- **意見の根拠となる。**→実験や統計の結果、得られた数値を事実として示す。
- **視覚的に情報を伝える。**→筆者の考えや、言葉で説明しにくいものをわかりやすく伝える。

278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【文章と図表の関係】

図表

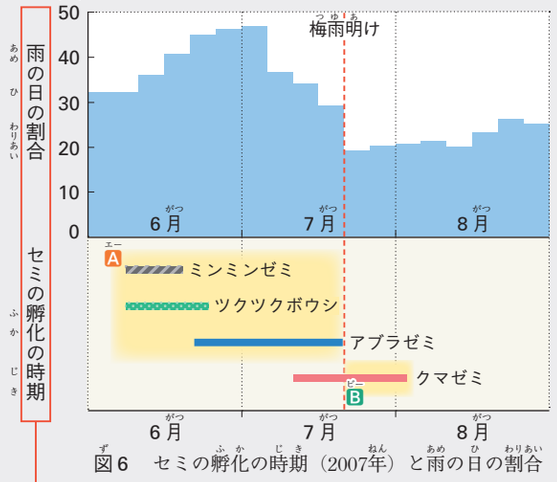


図6　セミの孵化の時期（2007年）と雨の日の割合

上：梅雨明け前後の「雨の日の割合」の変化
下：セミの孵化の時期
→ 重ねて見ることでAB（エービー）が読み取れる。

本文

図6を見てほしい。他のセミは、孵化がほぼ梅雨の期間に収まっているのに対し、孵化が遅いクマゼミだけは、途中で梅雨が明けてしまった。

言の葉ポケット

次に挙げた言葉を、他の表現に言い換えてみよう。
①（環境変化が）有利に働く
②（環境が）生存を左右する

学びへの扉

見通しをもつ

文章の構成や図表との関係に注意して読み、考えたことを話し合おう。［学習活動］

目標

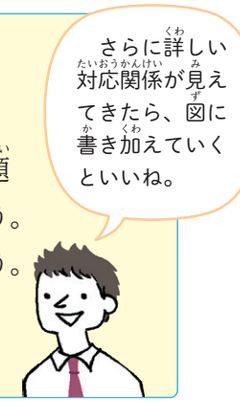
- 情報と情報との関係を図示するなどして整理する。（知る）
- 文章全体と部分との関係や、文章と図表との関係に注意して読む。（読む）

捉える

1 全体と部分の関係に注意して、構成を捉えよう。

この文章は、六つの部分で構成されている。
①「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめよう。
②線や矢印を使って六つの部分の関係を整理してみよう。

研究のきっかけ → ［前提］ → …



読み深める

2 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取ろう。

①三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめよう。
②「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるだろうか。筆者の考えと、自分の考えを書こう。

考えをもつ

3 考えたことを話し合おう。

筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのだろうか。考えたことをグループで話し合おう。

振り返る

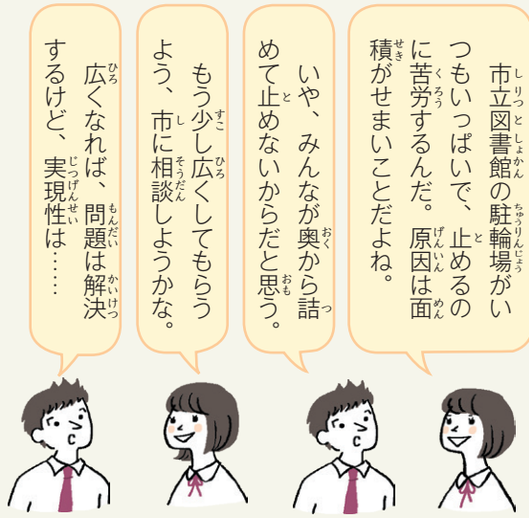
- 知る　□図などを用いて情報を整理することには、どんな効果があったか。
- 読む　□文章の内容を読み取るうえで、あなたが最も効果的だと感じた図表や写真はどれか。その理由は何か。
- つなぐ　□今回学習した図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな場面で活用できるか挙げてみよう。

情報 情報整理のレッスン

思考の視覚化

思考の視覚化

複雑な文章を読んだときや、話し合いでさまざまな意見が出たときに、話の筋道や論点を捉えにくくなることはないだろうか。そんなときには情報を書き出し、関係を図で表してみよう。頭の中が整理でき、情報共有もしやすくなる。



【整理の方法①】一定の観点で整理し、分析する

矢印が表す関係
- 順序・関連
- 原因と結果（因果）
- 意見と根拠　など

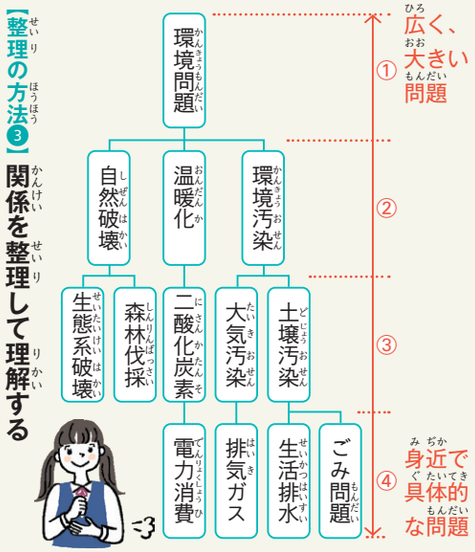
囲みが表すもの
- 共通・類似
- まとまり　など

見出し＝観点
課題解決のための分析の観点
①現状・課題・問題
②原因・要因
③解決策・改善策
④利点・問題点

思考のレッスン1 根拠の吟味 ➡ 130ページ

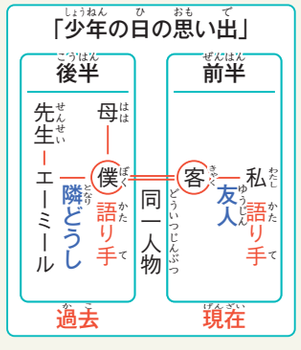
【整理の方法②】階層を整理して課題を選ぶ

意見文やスピーチの題材を探すときには、情報を階層ごとに整理すると、どの問題の、どのような側面について述べるかを決めやすい。



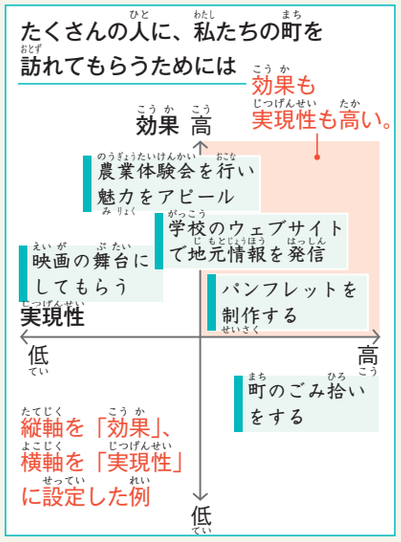
【整理の方法③】関係を整理して理解する

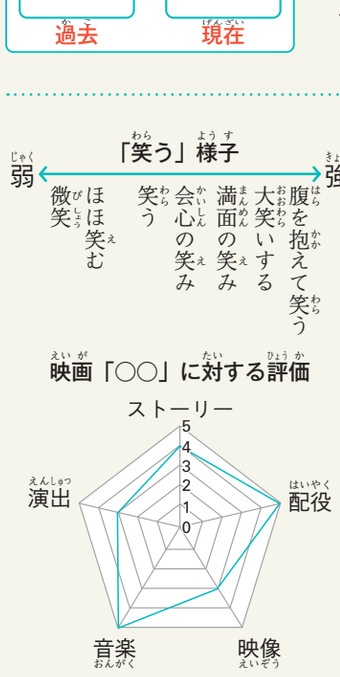
登場人物の関係が複雑な小説を読むときには、人物相関図を書くと理解しやすくなる。



【整理の方法④】軸で整理して評価する

複数の意見や提案を比較して、よりよいものを選んだり、程度や度合いを評価したりするときには、軸を使って整理するとよい。





思考のレッスン2 具体と抽象 ➡ 180ページ

問題1 ▼身近な問題を挙げてグループで話し合い、次の四つの観点で意見を整理してみよう。
① 現状・課題・問題
② 原因・要因
③ 解決策・改善策
④ 利点・問題点

問題2 ▼次に示した「食」に関するキーワードを、階層に整理してみよう。

食
- 食糧危機
- 朝食の大切さ
- 地域の伝統野菜
- 食品ロス（フードロス）
- 和食
- 食生活
- 食文化
- 一日三十品目
- 食の問題

問題3 ▼次の内容を軸で整理する場合、あなたなら、どのような軸を設定するか考えてみよう。
①「少年の日の思い出」を作品として評価するとき。
② 生徒会で募集した、挨拶に関する標語を評価し、一つに絞るとき。

新出漢字
53 壌 ジョウ

新出音訓
53 笑み（えみ）

漢字の練習

書く

情報を整理して伝えよう

職業ガイドを作る

考えをまとめるときには、目的に応じて多様な方法で情報を集め、必要だ。ここでは、興味のある職業の魅力などについて調べ、職業作ったガイドは、クラスで冊子などにまとめ、交流しよう。

書くことのミニレッスン

目標
- 図や記号を使って、情報を整理する。（知る）
- 目的に応じて多様な方法で材料を集め、整理して、伝えたいことを明確にする。（書く）

集める・整理する

1 題材を決め、情報を集める
- 職業を決め、知りたい項目を挙げる。
- 知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。

2 集めた情報を整理する
- 集めた情報を、図や記号などを使って、整理する。
- 目的に合わせて、情報を取捨選択する。

組み立てる

3 紙面構成を考える ICT
- 見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。

表現する

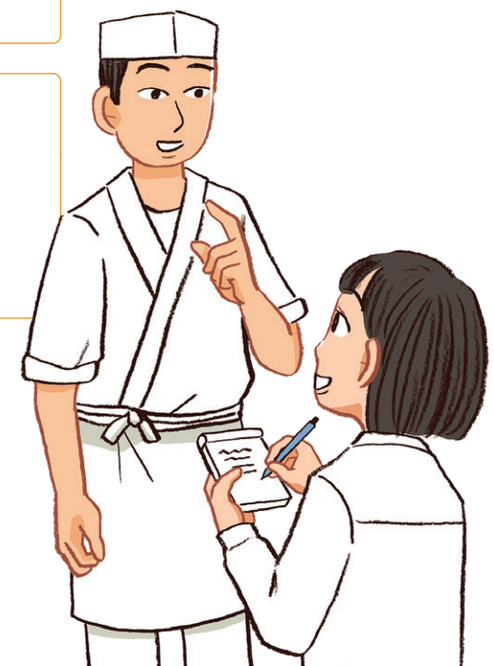
4 紙面を作成する
- 簡潔な文章を心がけて書く。
- 推敲し、清書する。

共有する

5 感想を伝え合う
- 作品を読み合い、感想を伝え合う。

振り返る 57ページ

生かす
- 日常 委員会便りを作る。
- 将来 会社案内のパンフレットを作る。



233ページ 学びの価値づけ
225ページ 表現の効果
133ページ 根拠・構成
110ページ 表現の工夫
55ページ 情報整理

学びのカギ

多様な方法で集めた情報を整理する

情報を集めて整理するときのポイントを確かめよう。

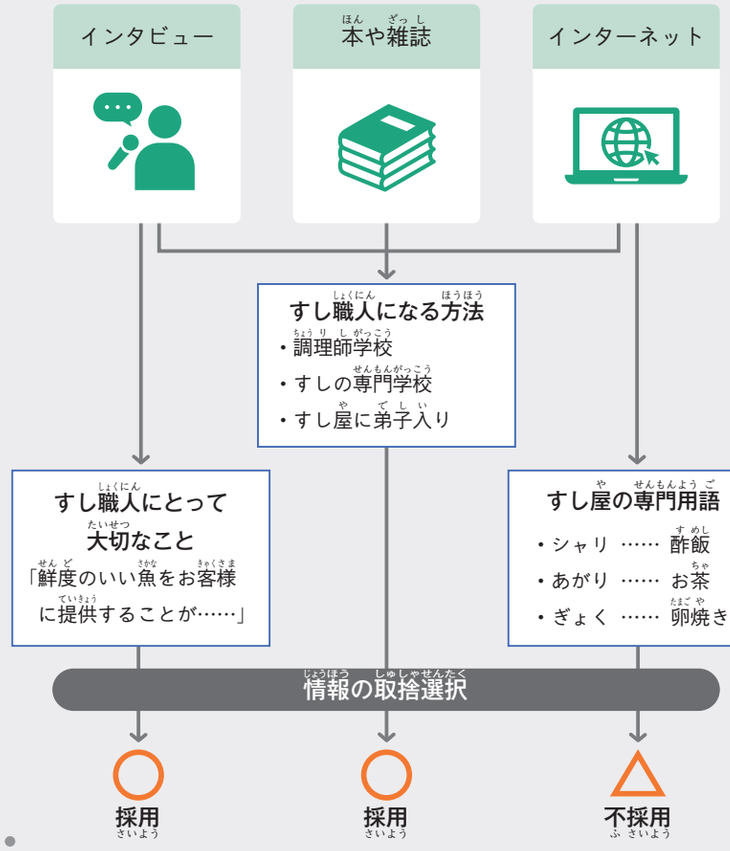
【情報を集めるとき】
- どのような方法で調べれば、知りたい情報が得られるかを考え、多様な方法で情報を集める。（書籍、インターネット、アンケート、インタビュー、職場訪問など）

【情報を整理するとき】
- 複数の情報源で確かめ、信頼できる情報を選ぶ。
- 目的に合わせて、情報を取捨選択する。
- 図や記号などを使って、集めた情報を視覚的にわかりやすくまとめる。

284ページ インタビューをする
285ページ インターネットの活用
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

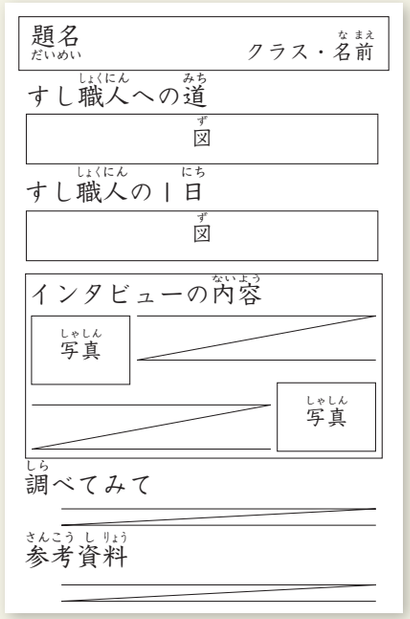
目的 興味のある仕事について調べ、クラスの皆に紹介する。





紙面作成のポイント

[紙面構成の例]



- 読み手にとってわかりやすい、説明の順序や分量を考える。
- 図表や写真などを組み合わせる場合には、配置を工夫する。

1 内容のまとまりごとに見出しを付け、端的にまとめる。

2 図や写真を使って視覚的にわかりやすく説明する。必要に応じて、キャプション（図表や写真の説明）を付ける。

3 読み手の興味の対象や、どの程度の知識・情報をもっているかを考え、まとめ方を工夫する。

4 調べてみて感じたことや考えたことを書く。

5 出典を正確に明記する。

ICT 情報を視覚化する

341 ページ

言の葉ポケット

読み手の興味を引きつける工夫

- ○○の仕事とは？（問いかけの形にする）
- ○○への道／○○にとって大切なこと（内容を端的にまとめる）
- ○○にも注目！（ポイントを強調する）
- 「○○○○。」（インタビューで印象に残った言葉を引用する）

振り返る

- 知る　□情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか。
- 書く　□読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか。
- つなぐ　□集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書いてみよう。

[職業ガイドの例]

すし職人の仕事とは？

―― すし田中を訪問して学んだこと

２年２組　野口小春

1

すし職人への道

2

学校卒業 →
- 調理師学校
- すしの専門学校
- すし屋に弟子入り

→ すし屋に就職

すし職人の職場はいろいろ！
- 個人店
- すし屋（企業が経営）
- 海外のすし屋　など

すし職人の１日（すし田中の場合）

朝
- 市場で魚や食材などを仕入れる。
- 店での仕込み。魚をさばいたり、……

→ **昼**
- ランチ営業。……
- 後片づけ。……
- 夜営業の仕込み。……

→ **夜**
- 夜営業。……
- 清掃。……
- 明日の営業の準備。……

3

青空町 すし田中 店長・田中さんが語る！
すし田中のおもてなし


家族経営のすし田中

すし職人にとって大切なこと

鮮度のいい魚をお客様に提供することが大切です。そのためには、魚について豊富な知識をもち、鮮度を見きわめることが必要になります。朝、市場で仕入れを行うときは、……

また、生物を扱うので、衛生管理を徹底することも大切です。……

酢飯にも注目！

お客様の視線は魚に向きがちですが、すしは、酢飯も大切です。米も魚同様、日々状態が変わります。米の状態を見ながら……


すしを握る田中さんの手

うれしいのはお客様の「おいしい。」

やはり、お客様に「おいしい。」とおっしゃっていただけることが何よりうれしいです。そのために、お客様の好みに合わせたり、……

また、調理をしながら、接客を丁寧にすることを心がけています。お客様とやり取りをする際には、……

4

調べてみて

- 本やインターネットでは知ることのできなかった、生の声を聞けたことで、……

5

参考資料

- ○○○○・○○○○共著「職業ガイド 2025 <飲食業編>」○○出版、2025 年
- NPO 法人□□「すし職人になろう」 https://www.……　○○年○月○日閲覧
- 取材先「すし田中」の店長・田中友さん　○○年○月○日取材

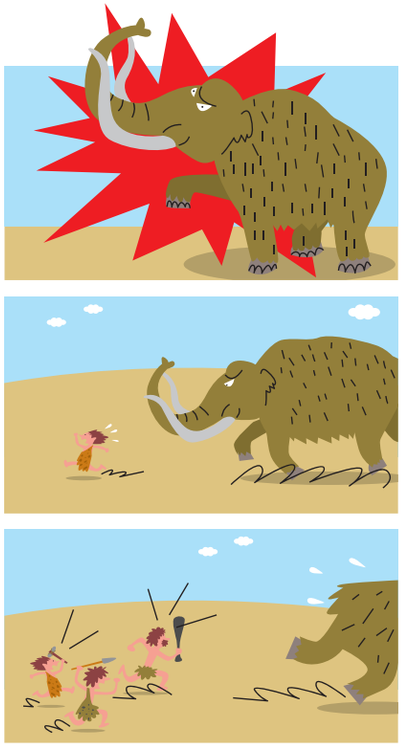
漢字1

熟語の構成

漢字は一字一字が意味をもつ表意文字であり、組み合わせることによって、いろいろな意味の語ができる。このように二字以上の漢字を組み合わせてできた語を、**熟語**という。

熟語の構成には、似た意味の漢字を重ねたものや、対になる意味の漢字を重ねたものなどがある。

強＝大　強↕弱　強↓敵



二字熟語の主な構成

意味が似ている漢字の組み合わせ。

▼拡大……拡（ひろげる）＋大（おおきい）

思考・規則
縮小・山岳
搭乗　など

意味が対になる漢字の組み合わせ。

▼善悪……善（よい）＋悪（わるい）

前後・売買
是非・禍福
慶弔　など

主語と述語の関係。

▼日照……日が照る

国営・雷鳴
地震・人造
など

下の漢字が上の漢字の目的や対象を示す。

▼洗顔……顔を洗う　登山……山に登る

開会・造園
遷都・帰郷
就職　など

上の漢字が下の漢字を修飾する。

▼軽傷……軽い傷　激増……激しく増える

大粒・重責
俊足・猛犬
逆流　など

この他に、「刻刻（刻々）」「喜喜（喜々）」など同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

三字熟語の主な構成

漢字一字の言葉の組み合わせ。

▼衣食住……衣＋食＋住

上中下
松竹梅
など

漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

上に打ち消しの意味の「不・無・非・未」や、下に「的・性・化」などが付いたものも多い。

▼大成功…大＋成功　専門家…専門＋家
不安定…不＋安定　絶対的…絶対＋的

初対面
肖像画
表彰式
無意味
可能性
など

四字以上の熟語の主な構成

漢字一字の言葉の組み合わせ。

▼春夏秋冬……春＋夏＋秋＋冬

花鳥風月
など

二字熟語の組み合わせ。

▼課外授業……課外＋授業

国際交流
など

漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

▼大雨注意報……大雨＋注意＋報

運転免許証
など

四字熟語の中には、「一進一退」「大同小異」「美辞麗句」など、古くから言いならわされてきたものも多い。

練習問題

●は中学校で学習する音訓　321ページ

1 次の熟語と同じ構成の熟語を〈　〉から選ぼう。

①自我●　②着色　③国立　④麦芽●　⑤師弟●

〈雌雄　清浄　日没　兼業　濃霧　姉妹●　極上〉

2 次の○には「不・無・非・未」のいずれかを、□には「的・性・化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

①○経験　②○本意　③○秩序　④○常識
⑤比較□　⑥有料□　⑦妥当□

3 次の四字熟語の構成を確認し、意味を調べよう。

①東奔西走　②喜怒哀楽　③軽挙妄動
④疾風迅雷　⑤鯨飲馬食　⑥温厚篤実●

新出漢字

58	弔	チョウ	とむらう	58	遷	セン	58	粒	リュウ	つぶ
58	岳	ガク	たけ	58	搭	トウ	58	俊	シュン	
58	是	ゼ		58	禍	カ	58	猛	モウ	
59	慶	ケイ		59	肖	ショウ	59	兼	ケン	かねる
59	彰	ショウ		59	免	メン	まぬかれる			
59	秩	チツ		59	雌	シ	めす			
59	疾	シツ		59	妥	ダ				
59	迅	ジン		59	奔	ホン				
59	鯨	ゲイ	くじら	59	篤	トク				
59	霧	ム	きり	59	浄	ジョウ				
59	妄	モウ	ボウ	59	没	ボツ				
59	哀	アイ	あわれ・あわれむ							

漢字一覧表

漢字に親しもう２

新しく習う漢字 308ページ

1 次の――線部の熟語を読もう。【漢字の読み（様子・気持ち）】

① 実力を遺憾なく発揮する。［　　］
② 慈愛に満ちた表情をしている。［　　］
③ 時間に余裕をもって行動する。［　　］
④ 素朴な疑問を投げかける。［　　］
⑤ 寛大な心で許す。［　　］
⑥ 煩雑な手続きを改善する。［　　］
⑦ 環境の悪化を危惧する。［　　］
⑧ 恋慕の情を抱く。［　　］

2 ［　］に合う言葉を□から選び、文を作ろう。【漢字の訓読み】

① 白菜を［　　］
② 間食を［　　］
③ 進行を［　　］
④ 練習に［　　］

妨げる　飽きる　漬ける　控える

3 次の――線部は同じ音読みの漢字である。それぞれの熟語を読もう。【同じ音読みの漢字】

① 娯楽［　　］　誤読［　　］
② 子孫［　　］　遜色［　　］
③ 勧誘［　　］　観賞［　　］
④ 原因［　　］　婚姻［　　］

新しく習う音訓 321ページ

・は中学校で学習する音訓

4 次の――線部の言葉を読もう。【漢字の音訓】

① (ア)強情を張らずに謝罪をする。［　　］
　(イ)他人に無理を強いる。［　　］
② (ア)勝利の女神が味方する。［　　］
　(イ)天女が美しく舞う。［　　］

新出漢字

60 憾（カン）　60 寛（カン）　60 娯（ゴ）　60 妨（ボウ）さまたげる
60 慈（ジ）（いつくしむ）　60 煩（ハン）（ボン）わずらう　わずらわす　60 遜（ソン）　60 飽（ホウ）あきる　あかす
60 裕（ユウ）　60 恋（レン）こう　こい　こいしい　60 勧（カン）すすめる　60 漬（つける　つかる
60 朴（ボク）　60 慕（ボ）したう　60 姻（イン）　60 控（コウ）ひかえる

漢字一覧表

3 言葉と向き合う

表現を味わい、言葉の世界を広げる

短歌に親しむ　短歌・解説 …… 栗木京子

短歌の創作教室 …… 栗木京子

短歌を味わう　短歌

言葉の力　随筆 …… 大岡信

言葉1　類義語・対義語・多義語

語彙を豊かに　抽象的な概念を表す言葉



色の名前3　群青 ● | 紫を帯びた濃い青。日本画の海や水流の表現に欠かせない岩絵の具の色。

短歌に親しむ

栗木 京子

読む　短歌に歌われた情景や心情を想像して、感想を書こう。［学習活動］

目標
- 短歌の情景や心情を描写する語句に着目し、語感を磨く。
- 短歌に用いられた、表現の効果について考える。

短歌は、千三百年以上前から受け継がれてきた日本の詩で、五・七・五・七・七の三十一音から成っています。同様の詩の形として、五・七・五の十七音から成る俳句があります。短歌と俳句に共通する五と七のリズムはとても親しみやすく、口ずさんでみたくなる魅力をもっています。短歌や俳句が現在に至るまで多くの人々に愛されているのは、意味を伝えるだけではなく、調べに気持ちを託すことができるからといえるでしょう。

では、短歌を鑑賞してみましょう。

くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

正岡子規

四季の変化に富む日本では、季節の情感を大切にしながら短歌が作られてきました。この歌は「くれなゐ」（紅色）という色彩や「二尺」（約六十・六センチメートル）という長さによって、薔薇の芽を丁寧に描写しています。さらに、薔薇のとげを「針」と表現し、「針やはらかに」と続けたところが巧みです。新芽のとげのみずみずしく柔らかな様子が伝わってきます。「くれなゐの」「薔薇の芽の」「春雨の」と、助詞「の」が続いていることも、歌に



正岡子規　一八六七―一九〇二　愛媛県出身。歌人・俳人。歌集に「竹乃里歌」などがある。

5 託す 意
11 みずみずしい 意
5 漢 託 タク　託す
6 漢 鑑（かんがみる） カン　鑑賞
10 漢 寧 ネイ　丁寧（音 テイネイ）

優しさを添えています。

夏のかぜ山よりきたり三百の牧の若馬耳ふかれけり

与謝野晶子

こちらも季節感が生き生きと伝わってくる歌です。牧場の若い馬たちが気持ちよさそうに風に吹かれています。「三百」は、たくさんという意味で使われていますが、「たくさんの牧の若馬」よりも「三百の牧の若馬」と表現したほうが鮮やかな印象を残します。数量や順序を示す語を「数詞」といいますが、ここでは数詞を生かすことで情景に臨場感が備わっているといえるでしょう。遠い山に向けられていた視線が、やがて牧場へと下り、最後には目の前の若馬の耳に移っていきます。こうした動きが歌の中に爽やかな流れを作り、言葉の背後から生命への賛歌が聞こえてくるようです。

死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる

斎藤茂吉

生きる喜びを歌った晶子の歌に対し、茂吉のこの歌では死にゆく母を見つめています。一九一三（大正二）年五月、母危篤の知らせを受け、作者は東京から実家のある山形県に帰りました。母の看病をしていると、遠くの田から蛙の声が聞こえてきます。その声は、まるで天まで届くように感じられたのでした。「しんしんと」は夜がふけてゆく状況とともに、蛙の声が空に響く様子を表しています。母の死と向き合う悲しみを、ふるさとの大きな自然が包み込んでいます。

では、ここからは、今日の短歌を読んでみましょう。



与謝野晶子　一八七八―一九四二　大阪府出身。歌人・詩人。歌集に「みだれ髪」などがある。



斎藤茂吉　一八八二―一九五三　山形県出身。歌人。歌集に「赤光」などがある。

6 臨場感 意
9 賛歌 意
1 訓 優しさ（やさしさ）
2 訓 牧（まき）
8 漢 爽（ソウ） 訓 さわやか　爽やか

鯨の世紀恐竜の世紀いづれにも戻れぬ地球の水仙の白

馬場あき子

二十世紀から二十一世紀へ時代が移るときに作られた歌ですからはるか前に、鯨や恐竜が栄えている時代がありました。人間は今、我が物顔で新しい世紀へ歩みだしていますが、それでよいのだろうか。遠い昔の地球は、もっと安らかで悠然としていたのではないか。そんな問いかけが聞こえます。そして、この歌の優れた点は、「水仙の白」と歌い収めたところです。鯨の世紀、恐竜の世紀といった、とてつもなく長い時間が「水仙の白」という一滴の時間の中に、すっと回収されていきます。大きな時間と小さな時間が、一首の中でダイナミックにとけ合っているのがわかって、思わずため息が出ます。短歌は短い詩ですが、このように壮大なことを表現することもできるのです。

蛇行する川には蛇行の理由あり急げばいいってもんじゃないよと

俵万智

川でも道でも、蛇行するよりまっすぐのほうがむだなく早く進めます。けれども作者は、急ぐだけがいいわけではないと気づいたのです。曲がりくねったり寄り道をしたりするのは、必ず理由のあることなのだ、と。それは生きることそのものと重なり合うにちがいありません。「急げばいいってもんじゃないよと」という口語の息遣いには、すぐ近くから呼びかけてくるような温かさがあり、この歌を読むたびに勇気がわいてきます。

このように短歌では、目の前の花の美しさから地球や人類の未来に至るまで、さまざまなことを表すことができます。短歌を鑑賞したり、自分で作ってみたりすることで、あなたの世界はきっと豊かになることでしょう。



馬場あき子　一九二八―
東京都出身。歌人・文芸評論家。歌集に「桜花伝承」などがある。



俵万智　一九六二―
大阪府出身。歌人。歌集に「サラダ記念日」などがある。

3 我が物顔 意

1 漢 竜 リュウ たつ　……恐竜 キョウリュウ

1 漢 仙 セン　……水仙 スイセン

3 訓 我が物顔（わがものがお）

5 訓 優れる（すぐれる）

7 漢 滴 テキ しずく（したたる）　……一滴 イッテキ

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

短歌に歌われた情景や心情を想像して、感想を書こう。［学習活動］

目標

- 短歌の情景や心情を描写する語句に着目し、語感を磨く。（知る）
- 短歌に用いられた、表現の効果について考える。（読む）

捉える

1　短歌を音読し、解説の内容を捉えよう。

①歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読もう。

②短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引こう。

読み深める

2　短歌に用いられた、表現の効果を考えよう。

それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめよう。

考えをもつ

3　好きな短歌を選び、感想を書こう。

本文や「短歌を味わう」（68ページ）から好きな１首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書こう。

振り返る

- 知る　□情景や心情を描写する語句のうち、感想を書くときに特に注目したものはどれか。
- 読む　□筆者の解説を読んで初めて気づいた着眼点や表現の効果には、どのようなものがあったか。
- つなぐ　□短歌の創作に生かせそうなことを挙げてみよう。



筆者　**栗木京子**　一九五四（昭和二九）―　愛知県出身。歌人。
著書　歌集「綺羅」「夏のうしろ」「けむり水晶」「水仙の章」、解説「短歌を楽しむ」「短歌をつくろう」など。
出典　本書のための書きおろし。

広がる読書

「短歌を楽しむ」栗木京子



短歌の創作教室

268ページ 語彙ブック

「短歌を作るのって、なんだか難しそう。」そう思っていませんか。五・七・五・七・七のリズムに乗って、いっしょに短歌を作ってみましょう。



栗木京子さん

短歌は読んで味わうだけではなく、自分で作って楽しめるのも魅力の一つです。まずは、準備体操として、次の練習に取り組んでみましょう。

準備体操1 想像力を働かせて

「大空をもし飛べたなら」に続く形で、「五・七・七」の部分を自由に考えてみましょう。想像力を働かせてみてください。わくわくしてきませんか。

大空をもし飛べたなら

準備体操2 レシピを短歌に

「卵焼きの作り方」を短歌にしてみましょう。五・七・五・七・七のリズムに乗せたら、おいしい卵焼きができそうですね。

レシピを短歌に

卵焼きの作り方

① 大きめのボウルに卵を割り入れ、あわ立てないようにしてほぐす。
② 砂糖、しょうゆ、みりんを加え、さらによく混ぜる。
③ フライパンをコンロに掛けて熱し、サラダ油を多めに入れる。
④ 油が温まったら卵を流し入れ、中火で焼く。



例 大きめのボウルに卵割り入れて
さっとほぐそうあわ立てちゃだめ

準備体操を終えたら、次の手順を参考に、学校での出来事や生活の中の一場面を短歌にしてみましょう。いつもの出来事も、短歌になると見違えるほど輝いて見えます。14ページ 続けてみよう

1 出来事や場面を決めて、短い文章にしよう

例 [場面] 運動会の百メートル走

2 五・七・五・七・七の定型にしよう

1 で作った文章を基に、最も伝えたいことを決め、それに合う言葉を探したり選んだりして五・七・五・七・七にする。

運動靴の靴ひもをしっかりと結び、集中した。練習してきたスタートダッシュが成功しますように。

↓

靴ひもをしっかり結び集中だ
スタートダッシュできますように

↓

しっかりと靴ひも結び深呼吸
スタートダッシュ祈る一瞬

3 表現を工夫しよう

次の観点から、作った短歌を見直してみましょう。

- 言葉の順序を入れかえる。（声に出して読みながら、五・七・五・七・七のリズムを意識する。）
- 比喩、体言止め、倒置、反復、対句などの表現技法を使う。

4 完成した作品を集めて感想を伝え合おう

作った作品を集めて一覧にしたり、お互いに読み上げたりして発表し合い、感想や意見を述べ合おう。

毎日の出来事の中から、「あれっ」、「おやっ」など、心に響いてくるきらめきをキャッチして、短歌を作ってみてもいいですね。



広がる読書



「短歌をつくろう」栗木京子



「短歌の時間」東 直子

短歌を味わう

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

※不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸はれし
十五の心

のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」、そうだ、
ぽぽぽぽと秋の雲浮き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり

観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生

一本の道をゆくとき風は割れ僕の背中で元に戻った

●歌われている情景や作者の思いを想像しながら読み、内容や表現のしかたについて感じたことを話し合ってみよう。

若山牧水
石川啄木
佐佐木幸綱
河野裕子
栗木京子
木下龍也



若山牧水　一八八五―一九二八　宮崎県出身。歌人。歌集に「別離」などがある。



石川啄木　一八八六―一九一二　岩手県出身。歌人。歌集に「一握の砂」などがある。短歌を三行で書き表す。
※不来方＝岩手県盛岡の古称。



佐佐木幸綱　一九三八―　東京都出身。歌人・国文学者。歌集に「群黎」などがある。



河野裕子　一九四六―二〇一〇　熊本県出身。歌人。歌集に「ひるがほ」などがある。



木下龍也　一九八八―　山口県出身。歌人。歌集に「つむじ風、ここにあります」などがある。

言葉の力

大岡信

人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。

京都の①嵯峨に住む染織家志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、華やかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか。」

「桜からです。」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前の頃、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色が取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、

読む

自分の知識や経験と結び付けながら、筆者の考え方について話し合おう。　［学習活動］

目標

●本や文章に書かれた、さまざまな考え方に触れる。
●文章を読み、知識や経験と結び付けて考えを深める。

学びへの扉

見通しをもつ

自分の知識や経験と結び付けながら、筆者の考え方について話し合おう。［学習活動］

目標

- 本や文章に書かれた、さまざまな考え方に触れる。（知る）
- 文章を読み、知識や経験と結び付けて考えを深める。（読む）

捉える

1 文章の内容を捉えよう。

この文章は三つのまとまりに分かれている。それぞれ、何が書かれているか確認しよう。

読み深める

2 筆者の考え方を読み取ろう。

「言葉の世界での出来事と同じこと」（70ページ9行目）とあるが、筆者は何と何が、どのように同じだと述べているのかを考えてみよう。

考えをもつ

3 筆者の考え方について話し合おう。

美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか。自分の知識や経験を踏まえて話し合ってみよう。



言葉にまつわる経験を思い出し、「私にとって言葉とは……」という形式にすると、考えがまとまりやすくなりそう。

振り返る

- 知る　□この文章を読むことで、どのようなものの見方や考え方を得ることができたか。
- 読む　□どのような知識や経験と結び付けて、筆者の考え方を捉えたか。
- つなぐ　□自分の考えが深まるきっかけになった友達の発言を挙げてみよう。



筆者　**大岡信**　一九三一（昭和六）――二〇一七（平成二九）
静岡県出身。詩人。
著書　詩集「水府」、評論「折々のうた」など。
出典　「ことばの力」の一部に、筆者が加筆したもの。

ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。

　考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髄が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

　このように見てくれば、これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だといっていい。一見したところ全然別の色をしているが、しかし本当は全身でその花びらの色を生み出している大きな幹、それを、その一語一語の花びらが背後に背負っているのである。そういうことを念頭におきながら、言葉というものを考える必要があるのではなかろうか。そういう態度をもって言葉の中で生きていこうとするとき、一語一語のささやかな言葉の、ささやかさそのものの大きな意味が実感されてくるのではなかろうか。美しい言葉、正しい言葉というものも、そのとき初めて私たちの身近なものになるだろう。

注　①嵯峨＝京都市右京区、大堰川東岸の地名。名所史跡が多い。

注意する語句
69 いやおうなしに 文
69 秘める 文
69 えもいわれぬ 文

新出漢字
69 淡（タン・あわい）
69 華（カ・ケ・はな）
69 煮（シャ・にる・にえる・にやす）
70 髄（ズイ）

新出音訓
69 秘める（ひめる）
69 脳裏（ノウリ）

漢字の練習



中島千波・絵

言葉1 類義語・対義語・多義語

図の中の言葉のうち、似た意味のものはどれだろう。また、反対の意味のものはどれだろう。

ほぼ同じ意味をもつ言葉や、互いに反対の意味をもつ言葉など、言葉どうしの関係を考えてみよう。

●階段の



類義語

「端」と「隅」が指す部分は微妙に違うが、「中心部から外れた場所」ということは共通している。このように、似た意味をもつ語のグループを**類義語**という。

類義語には、「昨年」と「去年」のように、表す内容は同じだが語感の違うものや、次のように、表す意味に微妙な違いのあるものがある。違いに注意して使い分けよう。

例
- 紙を（　　）。　裂く（二つ以上に切り離す。）　破る（引きちぎってだめにする。）

このように、それぞれの語には使い方の違いがあり、言い換えができる場合とできない場合とがある。

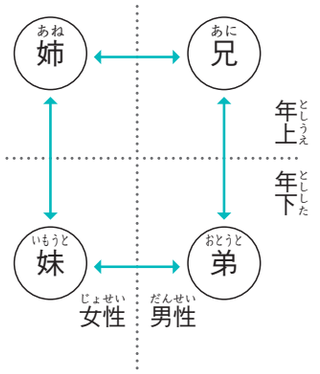
例
- 戸を（　　）。　○あける　○ひらく
- 傘を（　　）。　×あける　○ひらく

対義語

「上」と「下」、「表」と「裏」、「貸す」と「借りる」のように、意味が反対の関係や対の関係にある二語を**対義語**という。

272ページ 語彙ブック

対義語は、どのような観点で対比するかによって変わることがある。例えば、「兄」の対義語は、「年上・年下」という点では「弟」になり、「男性・女性」という点では「姉」になる。



多義語

一つの語で多くの意味をもつ語を**多義語**という。どの意味を表しているかは、文脈から判断できる。

例
- 風鈴を高い所につるす。（位置）
- 高い豚肉を購入する。（値段）
- ソプラノの高い歌声がホールに響いた。（音の高さ）

多義語の中には、それぞれの意味に応じた類義語と対義語をもつものもある。

例
- 高い（位置）　類 高所・上部　対 低い
- （値段）　類 高価　対 安い・安価・廉価

生活に生かす

類義語・対義語から、言葉の幅を広げよう

類義語を身につけると、表現の幅が広がる。例えば、「いちずに取り組む。」の「いちず」という語を、わかりやすく伝えたいときは「真面目」「真剣」に、より改まった印象にしたいときは「真摯」にするなど、相手や場面に応じて言い換えることができる。

また、「……と言う」という表現を、「語る」「話す」「告げる」などと使い分けると、状況や様子をより的確に表すことができ、文章表現にも変化が出る。

対義語は、語の意味を理解するのに有効である。例えば、
- 理論 ↕ 実践
- 慎重 ↕ 軽率

のように、対義語と合わせて考えると意味を捉えやすい。語の意味を調べるときには、類義語や対義語にも注目し、言葉の幅を広げよう。

新出漢字
- 72 裂 レツ さく・ける
- 73 購 コウ
- 73 廉 レン
- 72 傘（サン） かさ
- 73 剣 ケン つるぎ
- 73 鈴 レイ リン すず
- 73 摯 シ
- 73 豚 トン ぶた
- 73 践 セン
- 73 慎 シン つつし・む

新出音訓
- 73 軽率（ケイソツ）

漢字の練習

語彙を豊かに

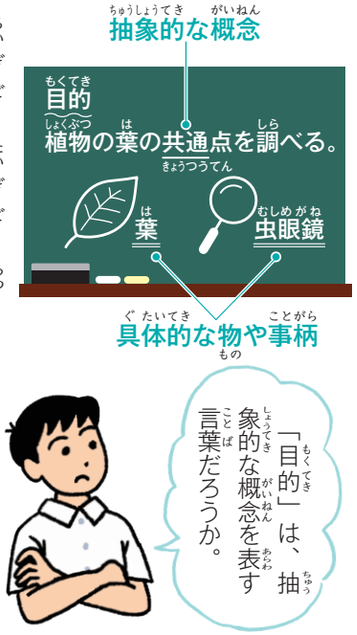
抽象的な概念を表す言葉

272ページ 語彙ブック

言葉には、具体的な物や事柄を表すものと、抽象的な概念を表すものがある。抽象的な概念を表す言葉は、日常的にもよく用いられ、思考や感情、物事の性質などを表す。抽象的な概念を表す言葉を使いこなせるようになろう。

1 抽象的な概念を表す言葉を探そう

身の回りにある抽象的な概念を表す言葉を探そう。教室内の掲示物や、他教科の教科書も見てみよう。



2 類義語や対義語を集めよう

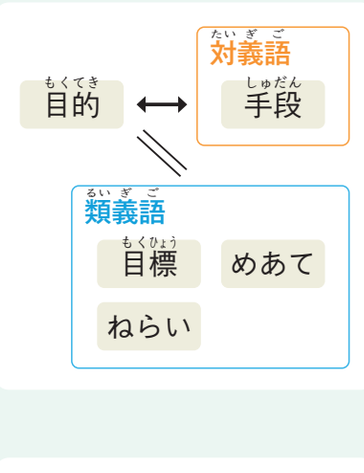
抽象的な概念を表す言葉のように、少し意味を捉えにくい言葉でも、類義語や対義語と比べることで、はっきりと理解できることがある。1で集めた言葉と比べるために、類義語や対義語を集めよう。

語彙を広げる

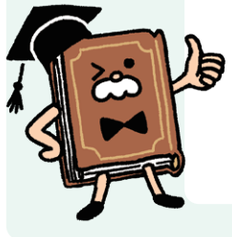
類義語や対義語を集める

国語辞典や類語辞典などを活用するとよい。

72ページ 類義語・対義語・多義語



抽象的な概念を表す言葉を増やすと、自分の思いや考えをより的確に伝えられるよ。



3 言葉を比べ、用例を考えよう

2で集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめよう。二つの言葉の違いを明確に伝えるために、用例を示すとよい。

気づいたこと

「目的」も、「目標」も、その実現や達成に向けて「目ざすもの（ところ）」という点では同じである。しかし、「目的」が、より大きく最終的なゴールを指すのに対し、「目標」は、より具体的な、数値などで示しやすいゴールを指す。そのため、「目的」のために「目標」を立てることはあっても、その逆はない。

「目的」と「目標」の用例

- 留学の目的は、海外の文化に触れることだ。
- 三年後に留学するために、一日十個、英単語を覚えるという目標を立てた。

新出漢字
74 抽 チュウ
74 概 ガイ

漢字の練習

語感を磨く

対義語と合わせて考える

□に入る――線部の対義語を考えてみよう。

例 目的達成のための手段を考える。

1 理想ばかり追わず、□も見るべきだ。
2 教育は国民の権利であり、□でもある。
3 手紙の□と形式を考える。

言葉の結び付きに着目して、類義語を比べる

□に「目的」と「目標」をそれぞれ当てはめてみよう。ぴったり合う場合と、そうでない場合がある。

似た意味の言葉でも、他の言葉との結び付きに着目すると、違いが明らかになることがあるよ。



［目的と目標の使い分け］

	目的	目標
□を達成する。	○	○
□は10キロメートル完走だ。	×	○
ここへ来た□は……だ。	○	×

情報

メディアの特徴を生かして情報を集めよう

――災害時における情報収集

左は、台風に関する各メディアの情報発信の例である。

▼各メディアの速報性、詳細さ、信頼性を、★の数で評価しよう。

▼本、雑誌、新聞、テレビ、ネットニュース、SNS、ラジオの特徴を踏まえて、次の場合にはどのメディアを選ぶとよいか、考えてみよう。

例 ❶普段からの備え ❷台風発生時 ❸台風上陸・直撃時

❶普段からの備えの場合……情報の詳細さ、信頼性を重視。

→防災に関する本や雑誌、自治体発行の広報誌や冊子など。



速報性 ☆☆☆
詳細さ ☆☆☆
信頼性 ☆☆☆

新聞
2022年7月5日朝刊



テレビニュース
2022年7月5日9時00分放送



気象庁ウェブサイト
2022年7月5日8時00分配信

気象庁「キキクル」を基に作成。

速報性 ☆☆☆
詳細さ ☆☆☆
信頼性 ☆☆☆



本
2021年2月28日発行

速報性 ☆☆☆
詳細さ ☆☆☆
信頼性 ☆☆☆

SNS（自治体の公式アカウント）
2022年7月5日10時56分配信

速報性 ☆☆☆
詳細さ ☆☆☆
信頼性 ☆☆☆

おおさか防災ネット（大阪府）
@osaka_bousai

2022年7月5日 10:56

2022年07月05日10時56分
大阪管区気象台 発表
令和4年 台風第4号に関する大阪府気象情報が発表されました。
台風第4号から変わった温帯低気圧の影響で、大雨となるおそれがあります。大阪府では6日明け方にかけて低い土地の浸水や土砂災害、河川の増水に十分注意してください。

SNS（個人のアカウント）
2022年7月5日15時53分配信

速報性 ☆☆☆
詳細さ ☆☆☆
信頼性 ☆☆☆

H はるか
@xxxxx_xxx

2022年7月5日 15:53

台風近づいているのかな、うちの近所も風が強くなってきた！
みんなも今のうちに庭の鉢植えを回収したほうがいいかも。





同じSNSでも、信頼性が高そうな投稿もあれば、そうではなさそうな投稿もあるね。



時や場合に応じて、必要な情報が得られるメディアを選べるようにしよう。

× SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を
気候変動に具体的な対策を

285ページ インターネットの活用

災害時には、いつも以上に正確な情報が求められる。災害時の情報収集・情報の読み取りについて考えよう。

やってみよう　災害時の情報収集

岸さんは、飼い犬（小型犬）を連れて避難したいと考えている。

▼次のうち、どのメディアで調べれば、必要な情報が手に入る可能性がより高いだろうか。また、そのように判断した根拠を話し合おう。

㋐ テレビのニュース
㋑ 新聞記事
㋒ 自治体のウェブサイト
㋓ 個人のSNSの投稿
㋔ 自治体や公的機関のSNSの投稿
㋕ 家族や友人に聞く



ここをチェック

- そのメディアで調べれば、自分が欲しい情報を手に入れることができるか。
- そのメディアで、正確で客観的な情報が手に入るか。

やってみよう　災害時の情報の読み取り

左ページのAは、若葉市の公式ウェブサイトである。

▼次のうち、Aから読み取れる情報には○、誤った情報には×、ここからだけではわからない情報には△を付けよう。

① 若葉健康プラザでは、ペットといっしょに室内に避難することができる。［　　］
② 避難所には災害用の備蓄品があるため、ペットフードなどを用意して行く必要はない。［　　］
③ 南青空小学校は、収容可能人数を超えたため、ペット同伴での避難者の受け入れを停止している。［　　］
④ 盲導犬といっしょに室内に避難したい場合、同伴避難ができる避難所に行かなければならない。［　　］

▼AとBとCのどちらがより信頼性の高い情報であるか考えよう。また、そのように判断した理由を話し合おう。

ここをチェック

- 情報の発信源により近い情報の示し方はどちらか。
- その投稿は、事実か。個人の意見か。

A 市の公式ウェブサイト

https://www.wakabacity.lg.jp/info/bousai/003/

■ 室内へのペット同伴避難を受け入れる避難所について

最終更新日：2024年10月11日

若葉市内の指定避難所のうち、次の4か所では、ペット（犬、猫、小動物）の室内への同伴避難が可能です。ただし、ペットの同伴が可能なエリアとそれ以外のエリアを分けているため、同伴が可能なエリア以外の場所に、ペットを入れることはできません。

避難所：若葉市民センター（若葉市王子町1-13）
南青空小学校（若葉市青空南2-32-4）
若葉生涯学習センター（若葉市田山187-2）
若葉健康プラザ（若葉市立花町37-42）

なお、その他全ての避難所で、同行避難が可能です。ただし、同行避難では、原則、屋外での受け入れとなります。　※盲導犬、介助犬、聴導犬などは除きます。

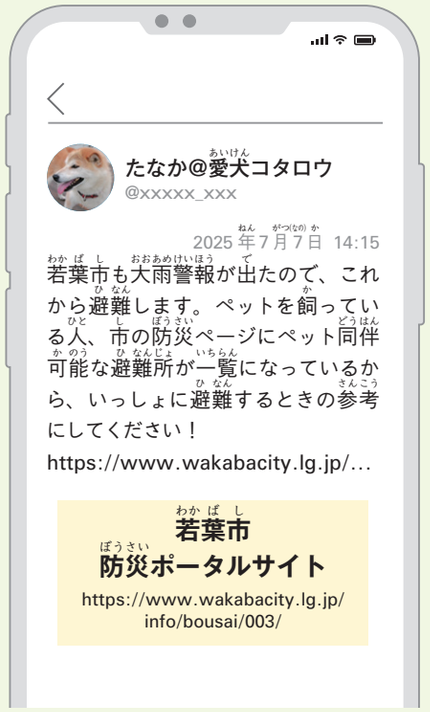
■ ペットといっしょに避難する際に心がけてほしいこと

- 避難所でのペットの世話は、決められた場所で、飼い主の責任で行ってください。避難所には、ペットフードやトイレ用品などの用意はありませんので、持参してください。
- 屋内の場合は、原則、ペットをケージやキャリーバッグなどに入れてください。
- 屋外の場合は、ケージに入れる、または、柱などに係留するなどしてください。

B 個人のSNSの投稿 1



C 個人のSNSの投稿 2



情報

デジタル市民として生きる

坂本 旬

「インターネット上の情報に気をつけて。」と言われたことはないだろうか。インターネットは速報性に優れているといわれる。しかし、同時に、インターネット上のさまざまなソーシャルメディアには匿名で発信されている情報も多く、情報の信頼性が問題となっている。①

いっぽうで、近年では、新聞やテレビといった伝統的なマスメディアも、ソーシャルメディアに参入している。②さらに、国や自治体、企業などもSNSの公式アカウントを通じて信頼性の高い情報を発信しており、伝統的なマスメディアとソーシャルメディアの境界は曖昧なものとなった。このように、今は、もはやインターネットだからという理由だけで情報の信頼性を判断することは難しい時代である。

ソーシャルメディアでは、誰もが情報発信者になることができる。つまり、誰でも新聞社やテレビ局と同様のメディアになれるということだ。情報発信者として私たちは、マスメディアと同じ責任をもたなければならない。同時に、私たちは、情報の受信者として、情報にはデマや誤った情報が含まれていることも意識しなければならない。

では、どうすれば情報の信頼性を評価できるだろうか。情報の信頼性を判断するポイントは、次の三つだ。

(1) 誰が発信したのか。（情報の発信源）

(2) いつ発信されたのか。（最新の情報か、古い情報か）

(3) その情報には根拠があるのか。（根拠となる事実の確認）

まず、(1)について。ソーシャルメディアならば、アカウントを確認しよう。実在する人物や機関なのか、それとも匿名なのか。ウェブサイトならば、設置者や運営者を確認しよう。新聞や新聞社のネットニュースの場合は、記事を書いた記者の名前が明示されている場合もある。

同時に、(2)の、情報の作成された日時や発信された日時も確認しよう。古い情報の場合もあるからだ。

さらに、(3)の情報の根拠を調べよう。そのためには、その情報の裏づけとなる情報を、タブレット端末やスマートフォンを使って調べるとよい。その情報に根拠はあるのか、他の情報源は何と言っているのか確認しよう。情報源を遡って調べなければならないこともある。

一つの情報に接したとき、同時並行で他の情報源を調べることを「横読み」という。インターネットの時代には、情報を横に読むことで、その信頼性を調べることが容易になった。

今は誰でも簡単に情報を発信できる時代だ。だからこそ、「すごい」と思う情報に出会ってもすぐに共有しないことが大切だ。情報の信頼性を評価する三つのポイントを思い出して、まずは一歩立ち止まろう。そして、情報を発信したり、共有したりするときは、責任ある情報発信者になろう。それが、デジタル時代に生きる市民、デジタル市民としての責任だ。



筆者 **坂本旬** 一九五九（昭和三四）——
大阪府出身。メディア情報研究者。
著書 「メディアリテラシーを学ぶ」など。
出典 本書のための書きおろし。

注
①ソーシャルメディア＝インターネットを利用して、誰でも手軽に情報を発信し、相互のやり取りができる双方向のメディアのこと。SNSや動画投稿サイト、メッセージアプリなど、さまざまな種類がある。
②マスメディア＝新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど、大衆に向けて情報を伝達するメディアのこと。

広がる読書



「10代からの情報キャッチボール入門」
下村健一
ネット時代の今、情報の被害者・加害者にならないために、情報の受信と発信の基本を学ぼう。



「14歳からの自然災害と防災」
社会応援ネットワーク
「ペットといっしょに避難するには？」。災害に関する身近で素朴な疑問について、Q&A方式で解説。



「保存版 新しい防災のきほん事典」
永田宏和 石井美恵子 監修
日常の備えや被災時の対応など、防災・危機管理の基本知識を網羅した防災マニュアル。

新出漢字
78 伴 ハン バン ともなう
79 涯 ガイ
80 匿 トク
80 曖 アイ
80 昧 マイ
80 遡 ソ さかのぼる

漢字の練習

いつも本はそばに

読書活動

読書を楽しむ

本を読み終えたら、読書ノートに記録を残し、友達に紹介したり、感想を伝え合ったりしよう。本との出会いを通して、読書ライフを豊かにしていこう。

本を紹介する ブックトークをしよう

ブックトークとは
テーマを決めて集めた多様なジャンルの本を紹介すること。

1 テーマを決めて本を集める

グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を集める。テーマとの意外なつながりがある本も用意できるとよい。

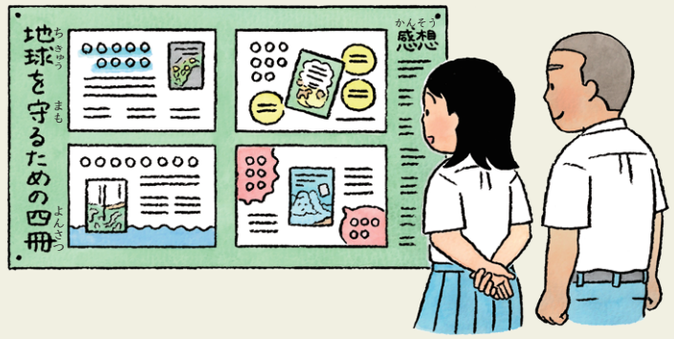
夢
- 登場人物が見た夢が次々と現実になっていく小説
- 眠っている間に見る夢について書かれた本
- 世界の子供たちの将来の夢について紹介した本

感想を交流する 読書ポスターを作ろう

テーマを決めて本を選び、読書ポスターを作ろう。

①グループごとにテーマを決める。
②テーマに沿った本を各自選び、紹介したい言葉・情報をカードにまとめる。
③②のカードをポスターに貼っていく。
④互いのカードを読み合い、感じたことをポスターに書き込む。
興味を引かれた本は、実際に読んでみよう。

［テーマ例］
環境、戦争、ノーベル賞　など



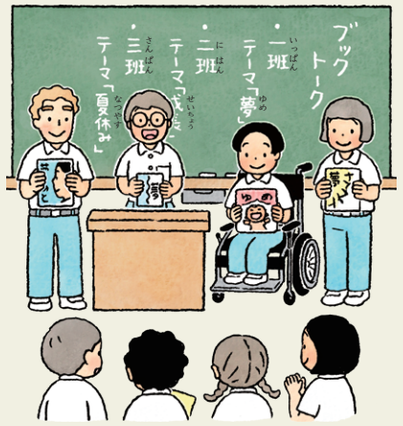
［テーマ例］夏休み、中学生、成長、冒険、魔法、波、空、伸びる、飛ぶ、贈り物、黒、猫　など

2 話の構成を考える

グループで話し合い、何冊の本を、どのような順番で紹介するか考える。あらかじめクラスで制限時間を決めておき、時間内に収まるように調整するとよい。聞き手のことを考えながら、印象的なページを見せたり、本の中の文章を読んだりするなど、魅力的なブックトークになるように工夫しよう。

3 ブックトークをする

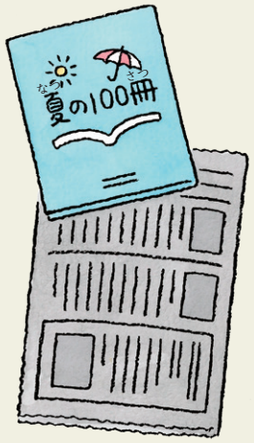
発表する順番を決めて、グループごとにブックトークをしよう。



読書ライフを楽しむために 読みたい本のリストを作ろう

夏休みに読みたい本のリストを作り、読書ノートに記録しておこう。「部活動に関する本を読みたい。」「友達が薦めてくれた、あの本を読みたい。」など、どんな本を読みたいか考えてみよう。

★私たちの周りには、読みたい本の情報がいっぱい
- 友達や家族のお薦め
- 書店や図書館の棚
- お気に入りの作家の他の本
- 新聞の書評欄や広告欄
- 図書館の貸し出し本ランキング
- 出版社が出しているパンフレット
（「○○の夏の100冊」など）



夏休みに読みたい本のリスト

■田中さんのお薦め
・「きみの友だち」重松 清

■教科書の「本の世界を広げよう」で紹介されていた本
・「法隆寺を支えた木」西岡常一　小原二郎
・「夕凪の街　桜の国」こうの史代

読書

翻訳作品を読み比べよう

フランスの作家、サン＝テグジュペリが書いた「星の王子さま」は、三百以上の言語に翻訳され、世界中の人々に読まれている。日本では、長い間、内藤濯氏の翻訳で親しまれてきたが、現在では、個性あふれるさまざまな訳が出版されている。

ここでは、二人の翻訳者による文章を読み比べてみよう。

星の王子さま　サン＝テグジュペリ

主な登場人物（物語冒頭部分）
僕……飛行機の操縦士。この物語の語り手。
王子さま…小さな星から地球にやって来た。

「僕」がサハラ砂漠に不時着し、王子さまと出会うところから物語が始まる。次の場面は、王子さまが初めて「僕」の飛行機を見たときの場面である。

翻訳とは

ある言語で書かれた文章を、他の言語に置き換えることを翻訳という。「星の王子さま」は、フランス語で書かれた作品を日本語に訳したものである。

翻訳者は、作者の意図や作品に書かれた内容を考えながら適切な言葉を選び出し、文章にまとめていく。

やってみよう

翻訳の違いによって、作品の印象はどう変わるだろうか。人物の言動や様子が描かれた表現を比べ、人柄や心情の違いを考えてみよう。

新出漢字　翻（ホン）（ひるがえる）（ひるがえす）

漢字の練習



内藤濯訳

「それ、なあに？　そのしなもの？」
「しなものじゃないよ。これ、飛ぶんだ。飛行機なんだ。僕の飛行機なんだ。」
僕は、鼻を高くしながら、鳥のように飛べる人間だといってやりました。すると、王子さまは、大声を上げて言いました。
「なんだって！　君、天から落ちてきたんだね？」
「そうだよ。」と、僕は、しおらしい顔をして言いました。
「へええ！　変だなあ、そりゃ……。」
王子さまは、そう言って、たいそうかわいらしい声で笑いました。笑われた僕は、とても腹が立ちました。天から落ちるなんて、ありがたくないことなんですから、真剣に考えてもらいたかったのです。やがて、王子さまはまたこう言いました。
「じゃあ、君も、天からやって来たんだね！　どの星から来たの？」
そのとたん、王子さまの夢のような姿が、ぽうっと光ったような気がしました。

続きはこちら



星の王子さま
サン＝テグジュペリ
内藤濯訳

池澤夏樹訳

「このモノ、いったい何？」
「モノじゃないよ。これは飛ぶんだ。飛行機だよ。僕の飛行機。」
僕は得意になって自分が飛べることを彼に教えた。
すると彼はさけんだ――。
「そうか！　じゃ君は空から落ちてきたの？」
「そうだよ。」と僕はつつましく答えた。
「ああ、それはおかしいね。」
そう言って王子さまがけらけらと笑ったので、僕は相当むっとした。僕としては自分の不運をもう少し真剣に受け止めてほしかったのだ。
次に彼はこう言った――。
「君も空から来たんだ！　君の星はどれ？」
そのとき、僕は彼がここにいるというなぞに一筋の光が差したように思った。

続きはこちら



星の王子さま
サン＝テグジュペリ
池澤夏樹訳

コラム

「わからない」は人生の宝物

鴻巣　友季子

軽焼きまんじゅう、蒸しもち、しょうがパン——これらがどんな食べ物か、わかりますか？　答えは順に、シュークリーム、パン、ジンジャーブレッド。それぞれ、モンゴメリの「赤毛のアン」、デフォーの「ロビンソン・クルーソー」、トラヴァースの「メアリー・ポピンズ」に出てくる訳語です。

「シュークリームがまんじゅう？」と驚くでしょう。ジンジャーブレッドは「ブレッド」と付いていますが、パンではなくビスケットですね。これは誤訳というより、苦肉の策なのです。これらの作品が初めて訳された明治から昭和初期、日本の読者はまだまだ西洋の食べ物になじみがありませんでした。そのため、読者がイメージを喚起できるよう、翻訳者が日本の文化に引きつけて訳したのですね。私は「妙な食べ物だなあ。」と首をかしげつつも、登場人物たちがおいしそうに食べているので、きっとすてきなものなのだろうと、わくわくしたものです。

私は小学生の頃から、主に海外の翻訳小説を読んでいました。なぜ？　ひと言でいえば、こうした「違和感」や「不思議」を求めていたのだと思います。海外文学の中で出会う、聞き慣れない名前の食べ物やドレス、季節の行事に胸がときめきました。

翻訳小説は、「アレクセイ・フョードロヴィチ・カラマーゾフ」など、覚えにくい人名が出てくるので苦手、外国の文化を知らないとよく理解できないから敬遠してしまう、という人もいます。確かに外国文化への知識があれば、より深く味わえるでしょう。でも聞いてください。文学や小説というのは、何もかもいっぺんにわからなくていいんです。私にとっては、むしろ「わからない」ところが魅力でした。日本語の日常生活で出会えないものや考え方、それは新しい世界への扉に見えました。

例えば、「あしながおじさん」に出てきた「かもじゅ」というのが長年わかりませんでした。それが「かもじ」のなまったもので、「かもじ」とは付け毛のことだと知ったとき、「ああ、なるほど！」と。どうしてその場面に「かもじゅ」が出てきたのか、二十年分のなぞが解けて感動しました。

小説って、これぐらいのんびりした理解でもかまわないんです。二十年かけた「なるほど」は人生の宝物。「違和感」と「不思議」に満ちた海外文学をもっと読んでみませんか？



筆者　**鴻巣友季子**　一九六三（昭和三八）——
東京都出身。翻訳家・文芸評論家。
著書　「翻訳ってなんだろう?」、訳書「嵐が丘」など。
出典　本書のための書きおろし。

読書案内

本の世界を広げよう

外国文学

本で世界を旅しよう





飛ぶ教室
エーリヒ・ケストナー
池田香代子訳
寄宿学校で学ぶ少年たちと、それを見守る先生のきずなを描く。



宝島
R・L・スティーヴンスン
海保眞夫訳
宝島を目ざす航海は陰謀と戦いの連続だった。冒険物語の名作。



変身
フランツ・カフカ
高橋義孝訳
ある朝、巨大な虫に変身していた男と、その家族の物語。



三国志　上・中・下巻
羅貫中
小川環樹　武部利男　編訳
英雄豪傑が割拠し、知略を尽くして戦う。二、三世紀、魏・呉・蜀三国の壮大な興亡史。



アンネの日記
アンネ・フランク
深町眞理子訳
ナチスの迫害から逃れて暮らすユダヤ人少女アンネは、日記を通して自分を見つめひたむきに生きた。

290ページ「盆土産」「形」





赤毛のアン
L・M・モンゴメリ
村岡花子訳
おしゃべりと空想が大好きな女の子アン。失敗を重ねながらも周囲と共に成長していく。



ロビンソン・クルーソー
ダニエル・デフォー
海保眞夫訳
たった一人、無人島に漂着した主人公。知恵と工夫と勇気をかてに、サバイバル生活が始まる。



翻訳書簡『赤毛のアン』をめぐる言葉の旅
上白石萌音
俳優・上白石萌音が翻訳に挑戦。表現を磨く言葉の旅。



レ・ミゼラブル　上・下巻
ヴィクトル・ユーゴー
豊島与志雄　編訳
十九年間投獄された男の人生が、ある出会いを機に変わり始める。



最後のひと葉
オー・ヘンリー
金原瑞人訳
胸が温かくなったり、驚いたり。多彩な味わいのある短編集。



ムーミン谷の彗星
トーベ・ヤンソン　下村隆一訳
空から赤い彗星が近づいてきた。ムーミン谷の運命はどうなる。

戦争・平和

平和とは何かを考える

夕凪の街　桜の国

こうの史代



原爆症による皆実の死は、弟とその子供たちの心に刻まれる。原爆投下後十年の広島から平成の東京へ。綿々とつながる家族の物語。

弟の戦争

ロバート・ウェストール　原田勝訳



湾岸戦争開戦の日、イギリスで平和に暮らす兄弟を事件が襲った。

綾瀬はるか「戦争」を聞く



当事者に寄り添い、聞いた、語られることのなかった戦争の記憶。

あのころはフリードリヒがいた

ハンス・ペーター・リヒター　上田真而子訳



ヒトラー政権下のドイツで生きた「ぼく」とフリードリヒの物語。

さがしています

アーサー・ビナード作　岡倉禎志写真



原爆によって持ち主を失った「もの」たちの声なき声を聞く。

生きのびるために

デボラ・エリス　もりうちすみこ訳



父がタリバン兵士に連れ去られ、少女は家族のために動きだす。

ガラスのうさぎ

高木敏子



終戦直後の悲惨な状況の中で懸命に生きる、十二歳の少女を描く。

文化

受け継がれてきたもの

世界を変えた建物

クリスティーネ・パクスマン著　鈴木咲子監修



約一万年前から現在までの、画期的な建築を年代順に解説した絵本。人類がつちかってきた歴史を知ることで未来の建築も見えてくる。

和食とは何か

熊倉功夫　江原絢子



ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」について考えよう。

カムイ・ユーカラ

山本多助



アイヌ民族が大切に語り継いできた、動物の神々の物語。

ルリユールおじさん

いせひでこ



製本・装丁の職人ルリユール。繊細な手仕事で、本は生まれ変わる。

すぐわかる日本の伝統色

福田邦夫



古典の一節とともに、日本の伝統色を解説。見て、楽しむ一冊。

法隆寺を支えた木

西岡常一　小原二郎



宮大工の経験や洞察を専門家が解説。木の知恵を後世に伝える。

色を奏でる

志村ふくみ



草木から「色をいただく」。染織家がつづる自然への思い。



環境

地球の声に耳を澄ます

水辺のワンダー



橋本淳司

自然との共生ではなく、自然の一部として生きることを訴える。

沈黙の春



レイチェル・カーソン　青樹築一訳

環境破壊に警鐘を鳴らし、自然の大切さを美しい言葉で訴えた一冊。

つれてこられただけなのに　外来生物の言い分をきく



小宮輝之監修

外来生物は本当に悪者か？　日本に根付いた理由から考える。

タマゾン川



山崎充哲

多摩川再生の取り組みを通して、命との向き合い方を考える。



旅

さあ、旅立とう

そして、ぼくは旅に出た。



大竹英洋

夢をかなえるために、アメリカを旅する若者のノンフィクション。

夏への扉

ロバート・A・ハインライン　福島正実訳



冷凍睡眠に入った男は三十年後、西暦二〇〇〇年に目覚めた。

旅の絵本



安野光雅

旅の風景を描いた絵本。新たな発見を楽しみに、共に出かけよう。

深夜特急　全六巻



沢木耕太郎

インドから乗り合いバスでイギリスへ。大陸横断の旅が始まる。



言葉

言葉の森へ出かけよう

くらべてわかる　オノマトペ



小野正弘

「ぎょっ」と「げっ」を比べてみる。驚きが強いのはどちらだろうか。

翻訳できない世界のことば



エラ・フランシス・サンダース　前田まゆみ訳

言葉は文化を映す。「翻訳できない」言葉から異文化に触れよう。

めんどくさがりなきみのための文章教室



はやみねかおる

作文が得意な猫「マ・ダナイ」によるユーモアあふれる文章教室。

サラダ記念日



俵万智

恋の喜びや痛み、何気ない情景が、鮮やかに歌われた短歌集。

私の一冊

人間失格

太宰治

抑圧された少年の転落の人生。道化の仮面があばかれる不安が人生をくるわせる。



中学2年生のとき、友達から「お前みたいな主人公が出てくるから読んでみ。」そう言って渡されました。



又吉直樹
1980年　大阪府出身。
作家、お笑い芸人。

私のおすすめ

自分でも書いてみよう

季節のしおり 夏

あなたが夏を感じるものは、何だろうか。潮の香り、麦わら帽子、蜜のかかったかき氷……。作品に描かれた情景の中に、夏を感じてみよう。

俤して山ほととぎすほしいまま

杉田久女

海を知らぬ少女の前に麦藁帽のわれは両手をひろげていたり

寺山修司

あてなるもの。（中略）削り氷に甘葛入れて、あたらしき鋺に入れたる。

清少納言「枕草子」より

（夏の行事と暦）

- 端午の節句……五月五日。菖蒲の節句ともいい、菖蒲を軒先にかざる風習がある。
- 更衣……季節に合わせて服を入れかえること。元は宮中行事であった。
- 土用の丑……夏の暑さに負けないように、うなぎを食べる風習がある。



4 人間のきずな

さまざまな関係を捉え、考えを深める

ヒューマノイド　小説　伊坂幸太郎

字のない葉書　随筆　向田邦子

表現を工夫して書こう　手紙や電子メールを書く

［推敲］表現の効果を考える

言葉2　敬語

聞き上手になろう　質問で思いや考えを引き出す

漢字2　同じ訓・同じ音をもつ漢字

漢字に親しもう3



色の名前4　青竹色　｜　青竹の肌のような、明るく濃い緑色。実際の竹より青みが強い。

ヒューマノイド

伊坂 幸太郎

読む
登場人物の言動の意味を考え、自分の解釈を語り合おう。［学習活動］

目標
- 文章の構成や場面の展開についての理解を深める。
- 過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考える。

約束を思い出したのは、職場の会議室にいるときだ。打ち合わせで、各部署の担当者がテーブルをぐるっと囲んでいた。十数人はいる。

会議中の緊張感は苦手だった。入社して八年がたつけれど、年下の社員のほうがしっかりして見えるし、自分の発言に手応えを感じたこともない。

休憩に入ったところで、隣に座っていた先輩社員が、「失敗したなあ。」とため息をついた。

彼女は先ほどの説明がうまくいかなかったことを反省しているのだ。

「特に問題なかったと思いますけど。」

「恥かいちゃった。」

その瞬間、頭の記憶の箱、その錠に鍵がかちゃりと入ったような感覚を覚えた。

「人間は、恥ずかしいと思うようにできていますから。」

そう口にした自分に、はっとする。十数年前、同級生から聞いた言葉だ。

ふと気になり携帯端末を触り、カレンダーを確かめ、ショックを受ける。

タクジの顔と言葉が浮かぶ。六月十日に会おう。じゃあ、三十歳になったときに。

三十歳の六月十日は、今日だ。そう思ったところで進行役の上司が、「それでは会議を再開します。」と立ち上がった。

タクジとは、特別仲がよいというほどでもなかった。所属する部活動も違い、中学校以外の場所で遊んだ記憶もない。もっと親しい友達は別にいた。ただ、彼と教室でたわいもない話をするのは好きだった。

「僕がヒューマノイドロボットを作るなら。」

タクジは、よくそういう言い方をした。姿や考え方が人間そっくりの、もしくは人間以上の知能をもつロボットを作るとしたら、という意味だ。

例えば僕が、「ゲームをやっていても、すぐ飽きてしまうんだ。」と言うと、タクジは、「僕がヒューマノイドロボットを作るとしたら、『飽きる』機能は付けるよ。」と真面目な顔で主張した。「人間はあえて、飽きるようにできている。そう思うんだよね。」と。

「できている、ってどういうこと。」

「飽きることがなかったら、ずっと同じことをやっているだけになるだろ。飽きるからこそ、新しいことをやろうとする。新しいことをやるから人間は進歩したんだ。『飽きる』という機能がないと、人類は進化しない。」



4 手応え 意
5 漢 憩（ケイ いこい（いこう））
休憩
9 漢 憶（オク）
記憶
9 漢 錠（ジョウ）
錠

5 たわいもない 意
9 もしくは 文
13 機能 意

人類の進化とは大げさだな、と僕はあきれた。

「だから、僕がヒューマノイドロボットを作るとしたら、『飽きる』機能は絶対に付ける。」

何をばかなことを言っているのだ、と僕は思ったが、自分が勉強に飽きてくると、「これは人間が誰しももっている機能なのかもしれない。」と考えるようにはなった。

そもそもタクジと話すようになったのも、「人間の機能」の話題がきっかけだった。「恥ずかしくなる」機能について、だ。

その日、僕は登校中に恥をかいた。交差点の赤信号で止まっているとき、左前方に同級生らしき姿を見つけ、「アイコ、おはよう。」と声をかけた。相手が振り返り、それがアイコではなく、上級生だとわかったときには、ぞっとした。向こうはけげんそうに眉をひそめていたが、僕は、「間違えました。」とも「すみません。」とも言えなかった。取り繕うように髪の毛を触り、信号が切り替わるのを待つだけだった。そこを、タクジに目撃されたのだ。からかわれるにちがいない、と覚悟した。けれど、彼は笑うでもなく、「どうして人間って恥ずかしくなるのか、前から不思議だったんだよね。」と真剣な顔で言うものだから、驚いた。

「どういうこと。」

「だって、恥ずかしい気持ちなんて要らないじゃないか。誰かに迷惑をかけたならまだしも、人前で転んだだけでも恥ずかしくなる。恥をかくと、見捨てられたような気持ちになるし、自分の評価が地におちたような気分になる。そんな機能があって、何の役に立つんだろう。」

僕は困惑した。「恥ずかしさ」と「機能」を結び付ける人に初めて会った。

10 漢 ぞっとする 意
10 眉をひそめる
関 眉を開く
眉ひとつ動かさない
眉根を寄せる
11 取り繕う 意
19 地におちる 文
10 漢 眉（ビ）（ミ）まゆ
12 漢 替 タイ かえる かわる
切り替わる
17 音 迷惑（メイワク）

少しすると彼が、「あ、わかった。」と、うれしそうにこっちを見た。「失敗を繰り返さないためかな。こんな恥ずかしいことはもうごめんだ、と思って、次には気をつける。そのための機能なのかも。」

「でも、大勢の前で名前を呼ばれただけでも恥ずかしくなるよ。失敗したときだけではなくて、目立っただけで恥をかく。」

「確かに。」タクジも認めた。少し考えた後で、「もし僕がヒューマノイドロボットを作るなら、人間の恥ずかしい気持ちを理解できるようにする。」と宣言するように言った。

「え。」

「人間にとって、恥をかくか、かかないかというのは重要なことだろ。恥ずかしかった記憶はいつまでたっても、くっきりと覚えている。恥をかいたことで泣く人もいれば、怒る人もいる。そんなこともわかってくれないロボットなんて信用したくない。」

会議で飛び交う発言をよそに、僕は中学時代のことに思いをはせている。

授業中に、恥ずかしい言い間違いをし、同級生たちから笑われたことがあった。たいしたミスではなく、だからこそ周りも気楽に笑ったのだろうが、僕自身はどうしていいのかわからず、顔を引きつらせ、弱々しい笑みを浮かべるだけだった。

すると、すぐにタクジが手を挙げた。そして、別の言い間違いをした。「連鎖反応です。」と、彼が真面目な面もちで言うと、教室がまたどっと沸いた。

今から思えば僕は、恥をかく場面でも動揺しないタクジに、憧れに近い思いを抱いていたのかもしれない。失敗や不運に対し、いちいち落ち込む自分とは違うのだ、と。

13 思いをはせる 文
18 面もち 意
19 動揺する 類
13 訓 飛び交う（とびかう）
17 漢 鎖（サ）（くさり）
連鎖反応
19 漢 憧（ショウ）（あこがれる）
憧れ



だから、だ。だから僕はあの日、あれほどタクジに腹を立ててしまったのだろう。

会議室のモニターにはグラフが映し出されていた。ただ、僕の視線の先には、タクジが美術の時間に転倒した場面が浮かび上がっている。

「うわっ。」と、タクジの上げた声が美術室に響いた。いったい何事が起きたのか、と顔を上げると、そのときにはタクジが腰を床に打ちつけている。誰かの絵の具を踏み潰し、チューブから色とりどりの中身が飛び出した。

突然の出来事に、すぐには誰も動けない。

タクジは慌てて立ち上がったものの、絵の具に滑ったのか、再びひっくり返った。近くにいた同級生にカラフルな滴が飛び散る。少し離れた場所にいた僕のジャージにも、黄色の斑点が幾つかできたほどだ。

タクジは立ち尽くし、少ししてから謝った。耳まで赤くなっていた。

美術の授業は急きょ、雑巾とバケツを使った大掃除の時間となる。誰かが舌打ちをし、別の誰かがタクジを責める言葉をつぶやいた。僕はといえば、謝り続けるタクジの顔を見ることができず、ひたすら床を拭いた。

その日の放課後だ。

教室を出た僕を、タクジが呼び止めてきた。何の用かと思えば、ボットの日らしいんだ。語呂で、ロボットと読めるから。」と言う。「駅前の広場で、ロボットに関するイベントをやるから、いっしょに行こうよ。」

怒りにも似た、いら立ちが湧いた。

さっき絵の具をひっくり返し、クラス中に迷惑をかけたというのに、どうしてそんなにのんきなことが言えるのか。何がロボットのイベントだ。

「行かないよ。」自分でも意外なほど、冷たい声が出ていた。「それどころじゃないから。」

タクジは笑顔のできそこないを浮かべた後で、視線をそらした。

「そうか。そうだよね。」彼は寂しげな表情になったが、雰囲気を少しでも和らげるためなのか、「じゃあ、二十歳になったときに。」と言った。軽口のつもりだったのだろう。「ロボットの日、六月十日に、駅前広場で会おう。」

「意味のわからないことを言わないでよ。」

タクジは肩を落としたが、最後の力を振り絞るかのように、「僕がロボットを作るとしたら、転ばないようにはするね。」と口にした。

僕は無言で回れ右をして、廊下を先に進んだ。その背中に、「二十歳がだめなら、じゃあ、三十歳になったときにしようか。」と彼の声が聞こえてきたけれど、立ち止まらなかった。

週明け、タクジが引っ越したことが判明した。タクジ側の希望で、みんなには知らせるこ

13 ……ものの 文
18 立ち尽くす 文
9 漢 床 ショウ とこ ゆか
10 漢 潰 カイ つぶす つぶれる
14 漢 滑 カツ コツ すべる なめらか
18 訓 謝る（あやまる）
20 漢 巾 キン

床 ゆか
踏み潰す つぶす
滑る すべる
雑巾 キン

2 ひたすら 文
16 肩を落とす 関 肩を持つ 肩で風を切る 肩の荷が下りる
16 振り絞る 文
5 漢 呂 ロ
7 漢 湧 ユウ わく
12 漢 雰 フン

語呂 ロ
湧く わく
雰囲気 フンイキ

とができなかった、と先生が申し訳なさそうに説明するのを、僕は窓の外を眺めながら聞いていた。

　会議はいつのまにか終わっている。資料の整理を終えると、窓の外が既に暗い。挨拶をし、職場を後にした。

　エレベーターの中で携帯端末を触り、再び日付を確かめる。六月十日はロボットの日、と心の中でつぶやく。

　タクジが引っ越した後、僕は連絡を取ろうと思ったものの、行動には移さなかった。最後のやり取りに後ろめたさがあり、その後ろめたさと向き合うことを避けていたのだろう。部活動の大会や高校受験のあれやこれやで忙しいのをいいことに、結局、それきりになった。ただ、時おり、タクジとの最後のやり取りのときの自分の態度を思い出すと、胸の奥に重苦しいものを感じた。

　駅のホームで、電車が来るのを待っているときも、僕はタクジのことを考えていた。あの美術の授業で、タクジはわざと転んだわけではなかった。謝ってもくれた。

　プラットホームに設置されたディスプレイ広告が目に入った。カラフルな絵の具がはじける映像が繰り返されている。頭の中を小突かれたような気分になった。

　自宅とは逆方向に行く列車に乗り込んでいた。

　駅を出るとすぐに目的の場所に着いた。昔、駅前広場だった場所は、ドーム型球場を小さくしたような施設となっている。スポーツの試合やコンサートの会場として使われることが

9 漢 避 ける　4 漢 拶 サツ　4 漢 挨 アイ　4 漢 既 すでに

避ける　挨拶　挨拶　既に

多く、僕も何度か来たことがあった。

　入り口近くには、「ロボットの日」と表示があり、イベント内容が示されていた。今もタクジが、ロボットに興味があるのならばこれを見に来ているのではないか、と期待が増す。日も落ちたから、終了しているのかと思いきや、まだ開催中だ。「入場無料」の文言にも後押しされ、僕は吸い込まれるように中に入った。

　ドーム内は広々としていて、中央にはステージが置かれていた。そこから外側に向かって、傾きをつけて観客席がぐるっと囲んでいる。

　ステージ上では二人の人間が距離を取り、キャッチボールをしている。長い距離を緩やかな山を描くように飛び、ボールが行ったり来たりしている。ポーン、と放られたものが、ポーン、と戻ってくる。その軌道を眺めているだけで気持ちよくなったが、高い位置に設置された大型ビジョンの映像を見て、その一方が人間ではなく、ロボットだとわかった。

　ロボットがキャッチボールの相手をしているのだ。

「ロボットは子供から高齢者まで、人と触れ合うことを目的としているため、人の形に似ているほうが安心感をもってもらえると考えました。」と開発者らしき人の説明が、スピーカーから聞こえてきた。「AI機能により、相手に合わせて反応も変えられます。」

　そのAI機能で人探しはできないのかな、と思いながら僕はタクジの姿を探し、あちこち歩き回った。観客席にいる人たちの顔を確かめていく。

　少しすると、タクジが今日ここに来る可能性はかなり低いことに気がついた。僕もたまたま思い出しただけなのだ。そもそも、中学生の頃のタクジの顔しか知らない。万が一、彼が

15 AI 人工知能。人間の知能をコンピュータを用いて人工的に再現したもの。

20 万が一 文

10 漢 軌 キ　4 漢 催 サイ もよおす

軌道　開催

ここに来ていたとしても、わかるわけがなかった。

一気に疲れて、僕は空いている席を見つけると腰を下ろした。明日の仕事のことを考えながら、ロボットの滑らかな動きを、ぼんやりと眺める。先ほどまでキャッチボールをしていたロボットが今度は移動し始めていた。予想以上に滑らかに歩行している。

「ロボットに付いたカメラは、遠くの映像も拡大して届けてくれます。」開発者が説明すると、大型ビジョンに、観客席の様子が映し出された。移動するロボットのカメラが捉えたものだろう。

僕は感心したが、最後まで見ている必要もないと思い、席から立つ。ゆっくりと出口へ向かおうとした。

すると、「あ。」と観客席から声が上がった。何事かと振り返れば、ステージ上の器具にぶつかり、ロボットが転倒したところだった。

「ああ、そういえば、言い忘れていました。」とマイクを通した声が聞こえる。「このロボットは転んでも、自分で起き上がります。転ぶことはしかたがありません。大事なのは、起き上がることです。」

ふとその言葉に引っ掛かりを覚えた。ほぼ同時に、「久しぶり！」と大きな声がドーム内に響き渡った。

ぎょっとし、通路上で動けなくなる。スピーカーから流れる開発者の声だった。

「元気だった？」



大型ビジョンの映像が切り替わり、ステージ上の開発者が映った。手を振っている。

僕は通路で棒立ちになったまま、しばらく動けなかった。

「皆さん、友人が来てくれていました。」と彼は無邪気に言い、そして僕の名前を呼んだ。

約束のことを覚えていたのか、それとも約束とは無関係に、このイベントに参加していただけなのかはわからない。ただ確かに、彼はそこにいた。ロボットの日、三十歳のときに、だ。

彼が操作したのか、それともＡＩが判断したのか、ロボットが僕の方を指さし、その後で手を振った。

「タクジ！」と叫びたかった。ただ、言葉が外に出なかった。胸に空気が詰まっているかのようだ。タクジ、あのときはごめん。それをどうにか伝えないと、とあせる。

観客席にいる人たちが、僕に注目していた。ドーム中の視線が集まるかのようだ。僕の顔は真っ赤になっていたにちがいない。

こちらに手を振るヒューマノイドロボットは、この恥ずかしさをわかっているようには、とうてい見えなかった。

タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。



作者 **伊坂幸太郎** 一九七一（昭和四六）――千葉県出身。小説家。
著書「重力ピエロ」「アヒルと鴨のコインロッカー」「チルドレン」「ゴールデンスランバー」「逆ソクラテス」「死神の精度」など。
出典 本書のための書きおろし。

作者メッセージ

junaida・絵

3 無邪気 類

3 漢 邪 ジャ
無邪気

8 漢 叫 キョウ さけぶ
叫ぶ

漢字の練習

広がる読書

「逆ソクラテス」伊坂幸太郎



「カザアナ」森 絵都



221ページ 人物像　109ページ 表現の効果　103ページ 言動の意味　27ページ 登場人物の設定

登場人物の言動の意味を考える

学びのカギ

その言動の背景にあるものは。

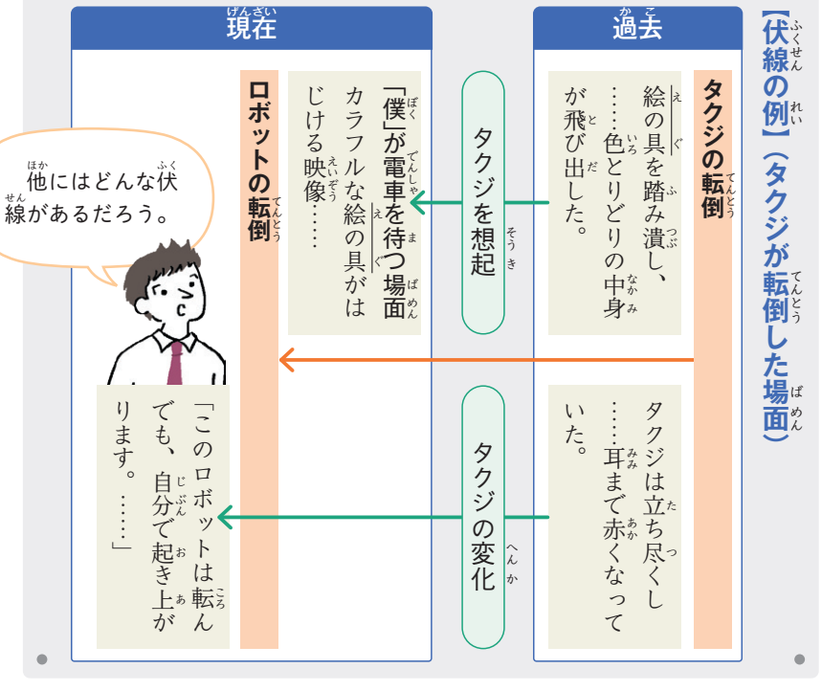
- 小説では、登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品の印象にどう関わっているかを考えることが大切である。
- その言動が話の展開の中でどんな意味をもつかは、繰り返し出てくる物や、複数の場面で起こった出来事などに着目して伏線を見つけ、それらを結び付けて考えると捉えやすい。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【学習で用いる言葉】

伏線　小説などにおいて、後の展開に備えて、それに関連した事柄を前の方でほのめかしておくこと。



言の葉ポケット

「はっとする」「耳まで赤くなっていた」のように、人物の心情が表れた言動の描写の中で、特に印象に残ったものを挙げてみよう。

学びへの扉

見通しをもつ

登場人物の言動の意味を考え、自分の解釈を語り合おう。［学習活動］

目標

- 文章の構成や場面の展開についての理解を深める。（知る）
- 過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考える。（読む）

捉える

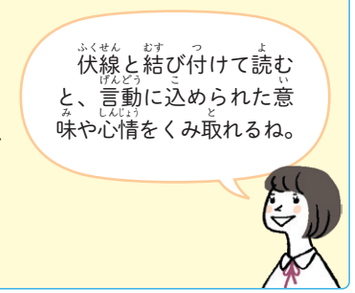
1 場面の展開に注意して、人物の設定を捉えよう。

①「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつのか、簡潔にまとめよう。
②中学時代のタクジの言動から、その人物像を捉えよう。

読み深める

2 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈しよう。

①タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか。
②「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」（101ページ14行目）とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているのだろうか。



考えをもつ

3 作品を読んで考えたことを語り合おう。

作品の構成や人物の言動の意味などに対する自分の解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、友達と語り合おう。

振り返る

- 知る　□「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか。
- 読む　□作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか。
- つなぐ　□友達の解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げてみよう。

字のない葉書

向田 邦子

読む

表現の効果に着目して読み、感じたことや考えたことを発表しよう。［学習活動］

目標

- 随筆の味わい方を知り、日常の読書に生かす。
- 文章の構成や、人物や出来事を語るときの表現から、筆者の思いを考える。

死んだ父は筆まめな人であった。

私が女学校一年で初めて親元を離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。当時保険会社の支店長をしていたが、一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で、

「向田邦子殿」

と書かれた表書きを初めて見たときは、ひどくびっくりした。父が娘宛ての手紙に「殿」を使うのは当然なのだが、つい四、五日前まで、

「おい、邦子！」

と呼び捨てにされ、「ばかやろう！」の罵声やげんこつは日常のことであったから、突然の変わりように、こそばゆいような晴れがましいような気分になったのであろう。

文面も、折り目正しい時候の挨拶に始まり、新しい東京の社宅の間取りから、庭の植木の種類まで書いてあった。文中、私を貴女とよび、

「貴女の学力では難しい漢字もあるが、勉強になるからまめに字引を引くように。」

という訓戒も添えられていた。

ふんどし一つで家中を歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子供たちに手を上げる父の姿はどこにもなく、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親がそこにあった。

暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父は、他人行儀という形でしか十三歳の娘に手紙が書けなかったのであろう。もしかしたら、日頃気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中でやってみたのかもしれない。

手紙は一日に二通来ることもあり、一学期の別居期間にかなりの数になった。私は輪ゴムで束ね、しばらく保存していたのだが、いつとはなしにどこかへいってしまった。父は六十四歳でなくなったから、この手紙のあと、かれこれ三十年付き合ったことになるが、優しい父の姿を見せたのは、この手紙の中だけである。

この手紙もなつかしいが、最も心に残るものをといわれれば、父が宛名を書き、妹が「文面」を書いた、あの葉書ということになろう。

終戦の年の四月、小学校一年の末の妹が甲府に学童疎開をすることになった。既に前の年の秋、同じ小学校に通っていた上の妹は疎開をしていたが、下の妹はあまりに幼く不憫だというので、両親が手放さなかったのである。ところが、三月十日の東京大空襲で、家こそ焼け残ったものの命からがらのめにあい、このまま一家全滅するよりは、と心を決めたらしい。

妹の出発が決まると、暗幕を垂らした暗い電灯の下で、母は当時貴重品になっていたキャラコで肌着を縫って名札を付け、父はおびただしい葉書にきちょうめんな筆で自分宛ての宛名を書いた。

2 女学校　ここでは、旧教育制度で小学校六年を終えた女子に中等教育を施した学校のこと。このとき一家は父の転勤で東京に移っていたが、筆者は編入試験の都合で父の前任地に残っていた。
2 三日にあげず 意
3 おろそか 類
9 こそばゆい 意
4 漢 殿 デン テン との どの
〜殿
5 漢 宛 あてる
宛て
8 漢 罵 バ ののしる
罵声

14 学童疎開　空襲などによる戦災から身を守るため、都市の子供が安全な地方へ引っ越すこと。
16 三月十日の東京大空襲　四十平方キロメートルが焼失し、十万人が死亡、百万人が焼け出されたと推定される。
18 暗幕を垂らした暗い電灯　夜間、敵の空襲に備えて、光が外にもれないようにしていた。
18 キャラコ　薄くて光沢のある白木綿地。
17 命からがら 意
19 おびただしい 意
4 音 照れ性（てれショウ）
4 漢 儀 ギ
他人行儀
17 漢 滅 メツ ほろびる ほろぼす
全滅
19 漢 肌 はだ
肌着
19 漢 縫 ホウ ぬう
縫う

「元気な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポストに入れなさい。」と言ってきかせた。妹は、まだ字が書けなかった。

宛名だけ書かれたかさ高な葉書の束をリュックサックに入れ、雑炊用のどんぶりを抱えて、妹は遠足にでも行くようにはしゃいで出かけていった。

一週間ほどで、初めての葉書が着いた。紙いっぱいはみ出すほどの、威勢のいい赤鉛筆の大マルである。付き添っていった人の話では、地元婦人会が赤飯やぼた餅を振る舞って歓迎してくださったとかで、かぼちゃの茎まで食べていた東京に比べれば大マルにちがいなかった。

ところが、次の日からマルは急激に小さくなっていった。情けない黒鉛筆の小マルは、ついにバツに変わった。その頃、少し離れた所に疎開していた上の妹が、下の妹に会いに行った。下の妹は、校舎の壁に寄り掛かって梅干しの種をしゃぶっていたが、姉の姿を見ると、種をぺっと吐き出して泣いたそうな。

まもなくバツの葉書も来なくなった。三月目に母が迎えに行ったとき、百日ぜきをわずらっていた妹は、しらみだらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていたという。

妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつける大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。これぐらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、

「帰ってきたよ！」

3 雑炊 野菜などを入れて炊いた水気の多い粥。食糧難の時代によく作られた。

17 うらなり つるや幹の末の方になる実。つやが悪く、味も落ちる。

3 漢 炊 スイ たく
雑炊 スイ

4 はしゃぐ 意

3 漢 餅 ヘイ もち
ぼた餅 もち

6 漢 壁 ヘキ かべ
壁 かべ

11 漢 吐 トはく
吐き出す はき

12 漢 穫 カク
収穫 カク

15 漢 叱 シツ しかる
叱る しかる

16 漢

と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、痩せた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。

私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。

あれから三十一年。父はなくなり、妹も当時の父に近い年になった。だが、あの字のない葉書は、誰がどこにしまったのかそれともなくなったのか、私は一度も見ていない。

川上和生・絵

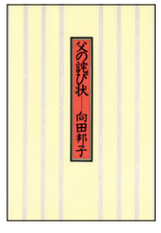




筆者 **向田邦子** 一九二九（昭和四）――一九八一（昭和五六）
東京都出身。放送作家・小説家。
著書 「父の詫び状」「思い出トランプ」「あ・うん」など。
出典 「眠る盃」

広がる読書

「父の詫び状」向田邦子



「小石川の家」青木 玉



3 漢 痩 ソウ やせる
痩せる やせる

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

表現の効果に着目して読み、感じたことや考えたことを発表しよう。［学習活動］

目標
- 随筆の味わい方を知り、日常の読書に生かす。（知る）
- 文章の構成や、人物や出来事を語るときの表現から、筆者の思いを考える。（読む）

捉える

1 二つの思い出を整理しよう。

この文章は、筆者の二つの思い出を中心に構成された随筆である。それぞれの内容を整理しよう。

前半 筆者が親元を離れていたとき　後半 終戦の年



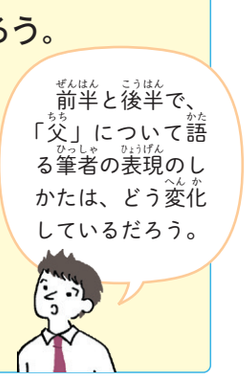
読み深める

2 表現に着目して、人物の人柄や心情を読み取ろろう。

①前半の思い出から想像される「父」の人柄を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめよう。

②「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像してみよう。

③なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考えよう。



考えをもつ

3 「父」に対する「私」の思いについて考えよう。

「父」に対する「私」の思いについて、自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表してみよう。

振り返る
- 知る　□今回学んだ随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か。
- 読む　□「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか。
- つなぐ　□随筆と小説の違いについて、友達と考えを交流しよう。

221ページ 人物像　109ページ 表現の効果　103ページ 言動の意味　27ページ 登場人物の設定

学びのカギ

表現の効果を考える

表現のしかたに隠された筆者の工夫。

- 心情や人柄を描くときには、それを直接表現したり、言動や様子、情景などの描写を通して表したりする。
- 描かれ方の違いに着目することで、筆者の意図や文章全体の特徴を読み取ることができる。

【学習で用いる言葉】

表現の効果　描写のしかたや表現の技法（比喩など）、簡潔な述べ方・詳細な述べ方、敬体・常体、和文調の文体・漢文調の文体など、表現が文章に与える効果。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【対比的な表現】

情けない黒鉛筆の小マル
↔ 違いが強調される。
威勢のいい赤鉛筆の大マル

【対照的な描写のしかた】

後半の思い出から31年後の現在

「父」にまつわる二つの思い出

【前半】
- 暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父
- この手紙もなつかしい

【後半】
- 私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。
- 父は、はだしで表へ飛び出した。

「父」の人柄や「私」の心情を直接的に表現。
↔ 対照的
人柄や心情を、行動や様子の描写で表現。

言の葉ポケット

「筆まめ」「大ぶりの筆」「きちょうめんな筆」の「筆」が表す意味を調べてみよう。また、「筆」を使った熟語や慣用句を集めよう。

274ページ 語彙ブック

書く

表現を工夫して書こう

手紙や電子メールを書く

手紙や電子メールは、質問、依頼、案内、報告、お礼などを広く使われている。相手や目的に応じて通信手段を選び、自分の思いや用件が的確に伝わるように、表現を工夫して書こう。

いろいろな通信文 288ページ

書くことのミニレッスン

目標
- 敬語の働きを理解し、適切に使う。（知る）
- 自分の思いや用件が的確に伝わるように、表現を工夫して書く。（書く）

1 伝える相手や目的、内容を決める

2 適切な通信手段を選ぶ

3 手紙や電子メールを書く ICT

- それぞれの形式に沿って書く。
- 自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。

表現の効果を考える 112ページ

4 学習を振り返る

- 友達と読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し合う。



学びのカギ

表現を工夫して思いを伝える

- 相手や目的に応じて通信手段を選び、敬語を適切に用いて書く。
- 思いや用件が的確に伝わるように、具体的な説明を入れたり、より効果的な語句・表現を用いたり、用件を端的にまとめたりする。

113ページ 敬語
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

［電子メールの例（植物園訪問の依頼）］

宛先
・相手のメールアドレスを入力する。

件名
・用件を端的に書く。

宛名
・個人→「様」「先生」。
団体→「御中」など。

本文
・最初に簡単な挨拶と自己紹介を書く。
・用件を端的に書く。
・読みやすい長さで改行する。

署名
・送信者の所属、氏名、メールアドレスを書く。

宛先　info@ △△△△ .or.jp
件名　植物園訪問のお願い（南中・遠山オリバー）

青空町立太陽植物園　ご担当者様

突然のご連絡、失礼いたします。
南中学校２年２組の遠山オリバーと申します。

僕たちは今、総合的な学習の時間の中で、
学校周辺の樹木や草花について調べています。
その中に、図鑑やインターネットで調べても、わからない植物があります。
もし可能でしたら、貴園にうかがいますので、
それらの名前や特徴について、教えていただけないでしょうか。

僕たち（５人のグループです）は、平日の午後３時半から５時であれば、
いつでもおうかがいできますが、貴園のご都合はいかがでしょうか。
お忙しいところ、お手数をおかけしますが、
ご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

****

青空町立南中学校　２年２組　遠山オリバー
o-toyama@ □□□□ .ed.jp

［手紙の例（植物園訪問のお礼）］

1
(ア) 拝啓
(イ) すがすがしい秋晴れの日が続いています。(ウ) 太陽植物園の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。
さて、先日はお忙しいところ、僕たちのためにお時間をいただき、ありがとうございました。植物園を案内していただいたおかげで、僕たちが知りたかった植物の名前や特徴だけでなく、他の植物の魅力にも触れることができました。熱意あふれる説明をうかがううちに、植物に興味が湧きました。「誰もが植物と触れ合える憩いの場にしたい。」とおっしゃっていたのが印象に残っています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
2
(エ) 九月も終わりに近づき、ようやく朝夕は涼しくなってきました。お忙しいと思いますが、皆様、お体を大切になさってください。
3
(カ) 九月二十九日
(オ) 敬具
4
(キ) 青空町立南中学校二年二組
遠山　オリバー
(ク) 青空町立太陽植物園　御中

1 前文
(ア) 頭語「拝啓」など。
＊拝啓―敬具　前略―草々
(イ) 時候（季節）の挨拶
(ウ) 安否を気遣う

2 主文
・本文　お礼（――）や感想（～～）が伝わるよう、自分の思いを具体的に表現する。

3 末文
(エ) 結びの言葉
(オ) 結語　頭語と対応するものを記す（(ア) 頭語欄＊を参照）。

4 後付け
(カ) 日付
(キ) 署名
(ク) 宛名

書く

［推敲］

表現の効果を考える

書くことのミニレッスン

遠山さんは、小学校の恩師に出す手紙の下書きをした。

本間先生、先日は久しぶりに①あ感激しました。本日は、先生にお願いしたいことがあり、お手紙を書きました。

僕は、中学校で吹奏楽部に入りました。小学生のとき、クラブ活動を通して音楽のすばらしさを教えてくださった、本間先生のせいです。今では、先生が口癖のように③い言っていた「音楽は一生の宝物。」という言葉を実感しながら、どんなことでも話せる気が置ける④き仲間たちと、練習にはげんでいる⑤。

⑥さて、十一月に市の音楽会がありますが、僕は二年前に初めて見学しましたが、このときの吹奏楽部の演奏には魅了されました。⑦いちばんの衝撃は、サックスに出会いました。あのときの独奏は目立っていました。吹奏楽部で迷わずサックスを選んだのは、その感動が忘れられなかったからです。

今年は、僕も音楽会に参加します。本番に向けて⑧イいっしょうけんめい一生懸命練習してきました。僕に音楽のすばらしさを教えてくださった本間先生に聴いていただけるなら、こんなにうれしいことはありません。お時間がありましたら、ぜひおうかがいください。

15　10　5

推敲するときは、自分の考えや思いが相手に伝わる表現になっているかどうかを、検討することが大切である。表現の効果に着目して、手紙を推敲してみよう。

1　次の観点を参考に、――線部①～⑧を書き改めよう。

言葉の使い方や意味

- ☑ 言葉を適切に選んでいるか。（②）
- ☑ 熟語や慣用句・ことわざを適切に使っているか。（④）
- ☑ 常体（だ・である）か敬体（です・ます）のどちらかに統一されているか。（⑤）
- ☑ 主語・述語の対応は正しいか。（⑦）

読む相手への配慮

- ☑ 敬語を適切に使っているか。（①③⑧）
- ☑ 長くて読みにくい文はないか。（⑥）

2　――線部㋐㋑について、より効果的な表現を考えよう。

㋐演奏を聴いたときの感動が、より伝わる表現に書き換えよう。

目立っていました。→ひときわ［　　］。

㋑ヒントを参考に、音楽会の本番に向けてどのように努力したかが伝わるように書き換えよう。

一生懸命練習してきました。→［　　］。

［ヒント］
- 比喩や慣用表現などの修飾語を使う。
- 練習時間や方法などを、具体的に説明する。

言葉2

敬語

Ⓐ㋐とⒷ㋑の言葉遣いを比べてみると、どのような印象の違いがあるだろう。また、Ⓐ㋐のような言葉は、どのような場面で使うだろう。



敬語の働き

上のⒶ㋐とⒷ㋑は同じような内容だが、Ⓐ㋐には話題の中の人物や聞き手への敬意が表れている。このような表現を**敬語**という。敬語を使うと、敬意や改まった気持ちを表すことができる。そのため、目上の人や初対面の人、不特定多数の人を相手として話すときに用いられることが多い。

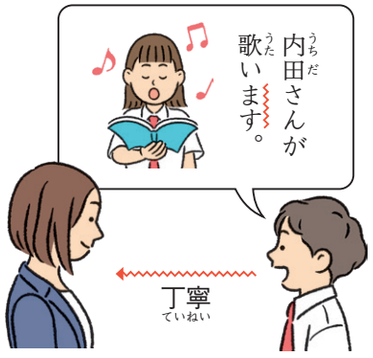
敬語の種類

丁寧語

文末を「……ます」「……です」とすると、丁寧な言葉遣いになる。

このように、話し手（書き手）が聞き手（読み手）に対して丁寧さを表す敬語を**丁寧語**という。

15　10　5



例
- ……です　●……ます
- ……（で）ございます

尊敬語

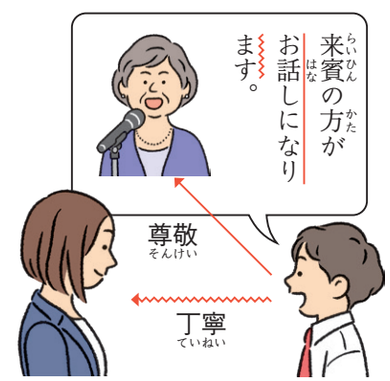
「お話しになる」は、「話す」という（来賓の方の）行為を高める言い方である。

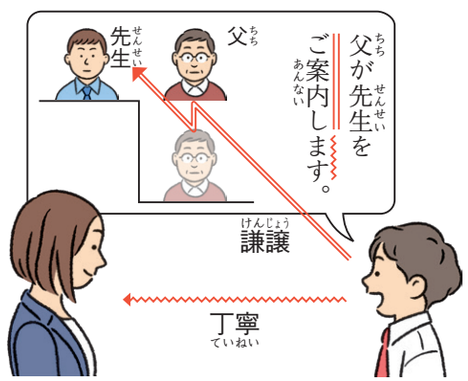
このように、動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語を**尊敬語**という。

謙譲語

「ご案内する」は、「案内する」という（父の）行為のへりくだった言い方である。これにより、行為が向かう先（先生）への敬意を表すことができる。

このように、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語を**謙譲語**という。謙譲語は、行為をする人が自分自身や身内のときによく使われる。





尊敬語と謙譲語の例

動詞	尊敬語	謙譲語
動詞全般に使える形	お（ご）～になる ～れる・られる	お（ご）～する
特定の形に変化する動詞	いらっしゃる おいでになる いらっしゃる おいでになる おっしゃる ご覧になる 召しあがる なさる くださる	参る＊・伺う おる＊ 申す＊・申しあげる 拝見する いただく いたす＊ いただく 伺う・承る 存じる＊
行く・来る いる 言う・話す 見る 食べる する くれる もらう 聞く 知る・思う		
名詞全般に付く形	（先生からの） お手紙・ご意見	（先生への） お手紙・ご意見
特定の名詞に付く形	芳名・御社・ 貴校・尊父	愚見＊・弊社＊・ 拙著＊・粗品＊
名詞	尊敬語	謙譲語

※**丁重語**　謙譲語の中には、＊印の語（114ページ表内）のように、動作・行為の向かう先ではなく、聞き手（読み手）への敬意を表すものがある。動詞の場合は、一般に「ます」を付けて使われる。これを丁重語という。

例　私は、明日から、旅行に参ります。

※**美化語**　「お鍋」「お盆」などの「お」は、誰に対する敬意でもない。話し手（書き手）が、自分自身の言葉を美しく表現するものである。これを美化語という。

敬語の組み合わせ

実際の生活では、敬語を組み合わせて使うことが多い。次の例で、敬語の種類と、誰への敬意なのかを確認しよう。

例

俳諧について研究されている西村先生から、
尊敬　謙譲　丁寧　尊敬
ご著書をいただきました。
謙譲　丁寧
関心のある方にお貸しします。

生活に生かす

敬語を使うときは適切に

敬語には、自分と、相手や話題の中の人物との関係を示す働きがある。使い方を誤ると、失礼になるので注意しよう。

- **尊敬語と謙譲語を間違えない。**
  - × 本田先生が、私の絵を拝見する。
  - ○ 本田先生が、私の絵をご覧になる。
- **自分自身や身内に尊敬語を使わない。**
  - × お母さんが、中野先生にお会いになる。
  - ○ 母が、中野先生にお会いする。
- **敬語を重ねすぎない。**
  - × お客様がスープをお召しあがりになられる。
  - ○ お客様がスープを召しあがる。

新出漢字

113	伺	（シ）うかがう	114	譲	ジョウ ゆずる
114	為	イ	114	芳	ホウ（かんばしい）
114	謙	ケン	114	賓	ヒン
114	弊	ヘイ	114	御	ギョ ゴ おん
114	愚	グ おろか	115	鍋	なべ
114	為	イ	115	盆	ボン
114	謙	ケン	115	諧	カイ
114	弊	ヘイ	114	拙	セツ つたない
114	愚	グ おろか	114	粗	ソ あらい

漢字の練習

話す 聞く

聞き上手になろう

質問で思いや考えを引き出す

聞き上手な人は、相手の話を受け止め、的確な質問を返すことで、思いや考えを引き出していく。ここでは、「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、友達にインタビューをしてみよう。

インタビューをする

目標
- 言葉には、相手の思いや考えを引き出す働きがあることを意識して質問する。（知る）
- 話の展開に注意して、相手の思いや考えを受け止め、質問する。（話・聞）

1 インタビューの準備をする

話し手（1名）、聞き手（1名）、聴衆（1～2名）を決め、役割ごとに準備をする。

2 インタビューを行う

一人5分程度でインタビューをする。役割は順に交代する。

3 学習を振り返る

それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。

学びのカギ

質問で思いや考えを引き出す

- 相手の話に耳を傾け、誠実な態度で聞く。
- 話し手の考えを踏まえつつ、相手が答えやすいよう、明確で具体的な質問を心がける。
- 一問一答で終わらないよう、相手の答えを受けて、さらに話を広げたり深めたりできる質問をする。
- 用意した質問にとらわれず、相手の話を聞いて生まれた疑問や感想を大切にして対話する。

284ページ インタビューをする
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図



1 インタビューの準備をする

［話し手］
- どんなことを話したいかを考える。
- 話す内容を決めたら、聞き手となる人に、事前に話題を伝える。

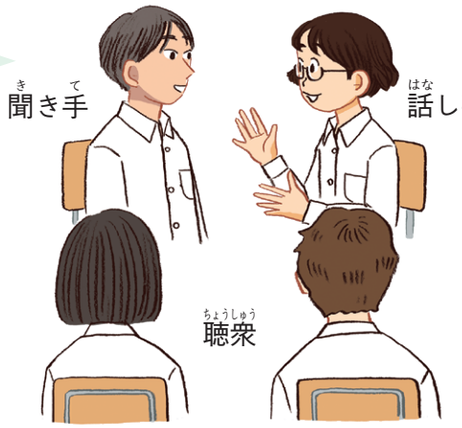
［聞き手］
話し手から話題を聞いたら、次の観点を基に、質問の内容を考える。
- 話し手が話したいのは、どんな思いやエピソードか。
- 自分はどんな話を引き出したいか。

聴衆はどうか。

2 インタビューを行う

［聞き手］
- 話し手の話を受けて質問を返す。

［聴衆］
- 効果的だと思った質問や聞き方は書き留めておき、自分が聞き手をする際に生かす。



［思いや考えを引き出す質問］
- 言い換えを促す
「それは、どういうことですか。」
- 具体化を促す
「○○を詳しく教えてください。」
- 理由を尋ねる
「○○なのは、なぜですか。」
- 思いや考えを聞く
「そのとき、どう思いましたか。」

［インタビューの例］

田中（聞き手）　岸さんの「今、夢中になっていること」は、「黒板を消すこと」なんですね。これは、どういうことですか。

岸（話し手）　黒板係は、休み時間に黒板を消しますよね。そのときに、チョークの粉や文字の跡が一つも残らないように、黒板をぴかぴかにするのが楽しいんです。

田中　そういえば、先週、岸さんが黒板を消した後、次の授業の先生が、黒板がきれいだって驚いていましたね。あのとき、どう思いましたか。

岸　声には出しませんでしたが、「やった。」と思っていました。

田中　やっぱり、そうですよね。きれいに拭くこつがあれば、詳しく教えてください。

岸　はい。まず、黒板消しをこまめに掃除することです。黒板消しそのものにチョークの粉が付いていたら、きれいになりませんから。それから、消し方にも……。（後略）

漢字2

同じ訓・同じ音をもつ漢字

漢字には、「暑い」「熱い」「厚い」のように、同じ訓をもつものがある。また、同じ音をもつ漢字も多く、「機会」「機械」のように、同じ読みの熟語もある。

漢字を書くとき、パソコンで漢字に変換するときには、使い分けに注意しよう。



同じ訓をもつ漢字

「暑い」「熱い」「厚い」のように、同じ訓をもつ漢字を**同訓異字**という。それぞれの漢字が表す意味を考え、文脈に合わせて使い分けよう。漢字の意味は、その漢字を使った熟語を思い浮かべると理解しやすい。

早い	速い	誤る	謝る
意味▼時期や時刻が前である。（例）早春・早朝）	意味▼動きが速やかである。（例）速度・高速）	意味▼間違える。（例）誤答・誤解・誤診）	意味▼わびる。（例）謝罪・陳謝）
使い方▼朝早く、起きる。	使い方▼兄は足が速い。	使い方▼機器の操作を誤る。	使い方▼誠心誠意謝る。

同じ音をもつ漢字

「機会」「機械」のように、同じ音をもつ漢字から成る言葉を**同音異義語**という。その漢字を使った他の熟語や、訓を思い浮かべて、その漢字の意味を考え、使い分けよう。

関心	指示	感心	支持
意味▼心引かれて、関わろうとすること。（関係・関連の「関わる」＋「心」）	意味▼指し示すこと。（「指す」＋「示す」）	意味▼心に深く感じること。（感動・感激・感慨の「感じる」＋「心」）	意味▼支え、後押しすること。（「支える」＋「持つ」）
使い方▼酪農に関心をもつ。	使い方▼進行方向を指示する。	使い方▼彼の誠実な態度に感心する。	使い方▼市長の福祉政策を支持する。

同訓異字や同音異義語には、使い分けが難しいものもある。迷ったときは、辞典で意味や使い分けを確認しよう。

練習問題

次の文の――線部に合う言葉を〈　〉から選ぼう。また、もう一方の言葉を使って短文を作ろう。

① 法案を倫理委員会にはかる。〈図る・諮る〉
② サッカーチームの指揮をとる。〈捕る・執る〉
③ 青銅で鐘をいる。〈射る・鋳る〉
④ 大学で哲学をおさめる。〈修める・納める〉
⑤ 遭難者がせいかんする。〈静観・生還〉
⑥ くじゅうの選択を迫られる。〈苦汁・苦渋〉
⑦ 他人の行動にかんしょうしない。〈干渉・感傷〉
⑧ へいこう感覚を失って転ぶ。〈並行・平衡〉
⑨ 市民が自由をきょうじゅする。〈教授・享受〉
⑩ 打球のきせきが弧を描く。〈奇跡・軌跡〉

● は中学校で学習する音訓　321ページ

新出漢字

119 倫 リン	119 諮 はかる	118 診 みる	119 享 キョウ
119 遭 あう	119 汁 しる	118 陳 チン	119 弧 コ
119 渋 しぶ・しぶい・しぶる	119 執 とる	119 酪 ラク	
119 渉 ショウ	119 鐘 かね	119 慨 ガイ	
119 衡 コウ	119 鋳 いる	119 社 シ	
	119 哲 テツ		

漢字一覧表

漢字に親しもう３

新しく習う漢字 308ページ

1 次の――線部の言葉を読もう。

【漢字の読み（食生活）】

① 旅館で料理を配膳する。［　　］
② 海藻のサラダを作る。［　　］
③ 旬の野菜を食べる。［　　］
④ 伝統的な製法でみそを醸造する。［　　］
⑤ ヨーグルトに蜂蜜をかける。［　　］
⑥ 彼の好物は麺類だ。［　　］
⑦ 食後に煎茶を飲む。［　　］
⑧ 石臼でそばをひく。［　　］

2 次の熟語を読み、下のア～エから熟語の構成が同じものを選ぼう。

【熟語の構成】

① 充塡［　　］（　　）
② 佳作［　　］（　　）
③ 凹凸［　　］（　　）
④ 募金［　　］（　　）

ア 寒暖　イ 観劇　ウ 摩擦　エ 油膜

3 次の――線部は〈刀〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

【同じ部首の漢字】

① 過剰［　　］　② 剛直［　　］
③ 削減［　　］　④ 洗剤［　　］

新しく習う音訓 321ページ

4 次の文に合う言葉を〈　〉から選ぼう。

・は中学校で学習する音訓

【漢字の訓読み】

① 朝日に〈生える・映える〉花の姿。［　　］
② 科学者が自伝を〈表す・現す・著す〉。［　　］
③ 彼女を生徒会長に〈押す・推す〉。［　　］
④ 洋服の生地を〈裁つ・絶つ・断つ〉。［　　］

新出漢字

120 膳 ゼン	120 麺 メン	120 佳 カ	120 膜 マク
120 藻 ソウ も	120 煎 セン いる	120 凹 オウ	120 剰 ジョウ
120 旬 ジュン シュン	120 臼 キュウ うす	120 凸 トツ	120 剛 ゴウ
120 醸 ジョウ（かもす）	120 充 ジュウ（あてる）	120 募 ボ つのる	120 剤 ザイ
120 蜜 ミツ	120 塡 テン		

漢字一覧表

5 論理を捉えて

根拠を吟味し、説得力を高める

モアイは語る——地球の未来 論説

安田喜憲

思考のレッスン1　根拠の吟味

適切な根拠を選んで書こう

意見文を書く

聴きひたる　月夜の浜辺 詩

中原中也

季節のしおり　秋



色の名前 5　空色　｜晴れた空のような明るい青色。江戸時代には衣類などの色に好んで使われた。

モアイは語る——地球の未来

安田 喜憲

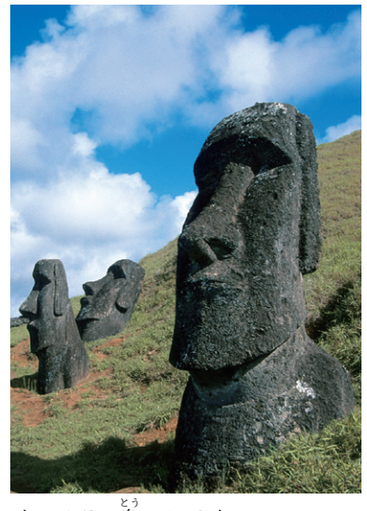
読む

目標

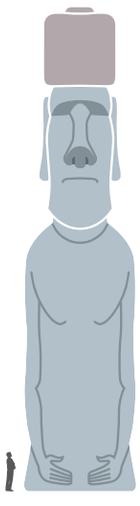
- 文章の構成や論理の展開を吟味し、自分の考えを文章にまとめよう。［学習活動］
- 意見を裏づけるための、適切な根拠の在り方について理解する。
- 知識や経験を基に、文章の構成や論理の展開、筆者の主張を吟味する。

君たちはモアイを知っているだろうか。それは、人間の顔を彫った巨大な石像であり、大きなものでは高さ二十メートル、重さ八十トンにも達する。モアイは、南太平洋の絶海の孤島イースター島にある。イースター島は、日本の種子島の半分にも満たない大きさの火山島だ。この小さな島で、これまでに千体近いモアイが発見されている。

いったいこの膨大な数の巨像を誰が作り、あれほど大きな像をどうやって運んだのか。また、あるときを境として、この巨像モアイは突然作られなくなる。いったい何があったのか。モアイを作った文明はどうなってしまったのだろう



イースター島のモアイ



高さ20メートルのモアイ

5 **イースター島**　南米大陸沖三千八百キロメートルにあるチリ領の島。人口は八千人ほど。面積は約百六十平方キロメートル。

6 **種子島**　鹿児島県大隅諸島の一つ。面積は約四百四十五平方キロメートル。

4 **絶海**　意

2 漢 **巨**　キョ
……巨大

4 漢 **孤**　コ
……孤島

9 漢 **膨**　ボウ　ふくらむ　ふくれる
……膨大

か。実は、この絶海の孤島で起きた出来事は、私たちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題を投げかけているのである。これまでにわかってきたイースター島の歴史について述べながら、モアイの秘密に迫っていきたい。

絶海の孤島の巨像を作ったのは誰か。謎が謎を呼び、宇宙人がやって来て作ったのではないかという説まで飛び出した。しかし、最近になって、それは西方から島伝いにやって来たポリネシア人であることが判明した。墓の中の化石人骨の分析や、彼らが持ってきたヒョウタンなどの栽培作物の分析から明らかになったのだ。さらに、初期の遺跡から出土した炭化物を測定した結果、ポリネシア人が最初にこの島にやって来たのは、五世紀頃であることも明らかになった。

その頃、人々はポリネシアから運んできたバナナやタロイモを栽培し、豊かな海の資源を採って生活していた。そして、十一世紀頃、突然巨大なモアイの製造が始まる。同じ時期に、



海を背にして立つモアイ

9 **ポリネシア**　オセアニア東部、太平洋の中部に位置する、多くの島々の総称。

11 **ヒョウタン**　熱帯から温帯地方にかけて、きわめて古い時代から栽培されている。果実を加工すると、容器として利用できる。

18 **タロイモ**　サトイモやそれに似たサトイモ科の植物。ポリネシアでは現在も主食である。

6 漢 **謎**　なぞ
……謎

12 漢 **栽**　サイ
……栽培

12 漢 **培**　バイ　つちかう
……栽培

遺跡の数も急増しており、この島の人口が急激に増加を始めたことに二倍ずつ増加し、十六世紀には一万五千から二万に達していたと推定されている。

大半のモアイは、島の東部にあるラノ・ララクとよばれる石切り場で作られた。このラノ・ララクには、モアイを作るのに適した軟らかい凝灰岩が露出していたからである。人々は硬い溶岩や黒曜石でできた石器を使って、モアイを削り出した。

削り出されたモアイは、海岸に運ばれ、アフとよばれる台座の上に立てられた。アフの上のモアイは、大抵の場合、陸の方に向けて初めて、モアイに目の玉が入れられた。アフの上のモアイは、守り神だったからだと考え立てられた。それは、モアイがそれぞれの集落の祖先神であり、られる。人々はいつもモアイの目に見守られながら生活していたのであろう。



それにしても、ラノ・ララクの石切り場から、数十トンもあるモアイをどのようにして海岸のアフまで運んだのだろうか。石ころだらけの火山島を十キロも二十キロも運ぶには、木のころが必要不可欠である。モアイを台座のアフの上に立てるときでも、支柱は必要だ。

しかし、現在のイースター島には、オーストラリアから持ってきて最近植栽したユーカリの木以外には、森は全くなく、広大な草原が広がっているだけである。モアイが作られた時代、モアイの運搬に必要な木材は存在したのだろうか。この謎を解決したのが、私たちの研究だった。私はニュージーランドのマセイ大学J・フレンリー教授と共に、イースター島の火口湖にボーリングをして堆積物を採取し、堆積物の中に含まれている花粉の化石を分析してみた。すると、イースター島にポリネシア人が移住した五世紀頃の土の中から、ヤシの花粉が大量に発見されたのだ。このことは、人間が移住する前のイースター島が、ヤシの森に覆われていたことを示している。

まっすぐに成長するヤシの木は、モアイを運ぶための ころには最適だ。島の人々はヤシの木をころとして使い、完成したモアイを海岸まで運んだのであろう。

私たちの花粉分析の結果から、もう一つの事実も浮かび上がってきた。ヤシの花粉の量は、七世紀頃から、代わってイネ科やタデ科などの草の花粉と炭片が増えてくる。これは、広大な草原を作るために伐採されたのだろう。人口が増加する中で家屋の材料のことは、ヤシの森が消滅していったことを物語っている。人々の日々の薪、それに農耕地を作るために伐採されたのだろう。すると運搬用のころや支柱としても使われるようになり、森がよりいっそう破壊されていったのだと考えられる。

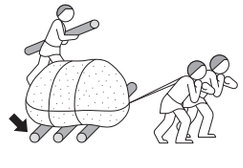
ラノ・ララクの石切り場からは、未完成のモアイ像が約二百六十体も発見された。なかには作りかけの二百トン近い巨像もあった。運ぶ途中で放棄されたモアイも残されている。おそらく森が消滅した結果、海岸までモアイを運ぶことができなくなったのであろう。

では、モアイを作った文明は、いったいどうなったのだろうか。

4 **凝灰岩** 細かい火山灰などが固まってできた岩石。加工しやすい。

5 **黒曜石** ガラスのようにつやつやかな火成岩。黒いものが多い。破片がするどいので、ナイフや矢尻などに使われた。

14 **ころ** 大きく重い物などを移動させるときに、下に入れて転がす棒。

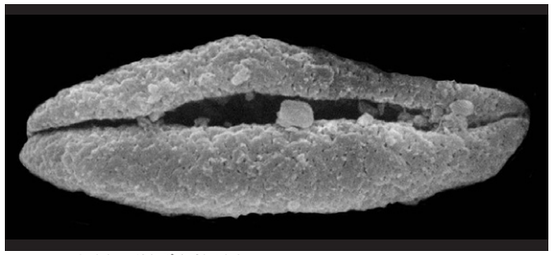


19 漢 **搬** ハン
運搬

7 漢 **抵** テイ
大抵

5 漢 **溶** ヨウ とける・とかす・とく
溶岩

4 漢 **凝** ギョウ こる・こらす
凝灰岩（音 ギョウカイガン）


ヤシの花粉の顕微鏡写真

2 **火口湖** 火口に水がたまってできた湖。

2 **ボーリング** 地質を調査したり、地下資源を採取したりするために、地中に深く穴を掘ること。



12 **炭片** 山火事や人間の火の使用によって燃えた炭の細かな破片。

13 **消滅** 類

18 漢 **棄** キ
放棄

14 漢 **薪** シン たきぎ
薪

11 漢 **徐** ジョ
徐々に

2 漢 **堆** タイ
堆積物

かつて島が豊かなヤシの森に覆われていた時代には、土地も肥え、の食料も豊富だった。しかし、森が消滅するとともに、豊かな表層土壌れ、流失してしまった。火山島はただでさえ岩だらけだ。その島においてしまうと、もう主食のバナナやタロイモを栽培することは困難となったため船を造ることもままならなくなり、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

こうして、イースター島はしだいに食料危機に直面していくことになった。その過程で、イースター島の部族間の抗争も頻発した。そのときに倒され破壊されたモアイ像も多くあったと考えられている。そのような経過をたどり、イースター島の文明は崩壊してしまった。

モアイも作られることはなくなった。文明を崩壊させた根本的原因は、森の消滅にあったのだ。千体以上のモアイの巨像を作り続けた文明は、十七世紀後半から十八世紀前半に崩壊したと推定されている。

イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない。日本列島において文明が長く繁栄してきた背景にも、国土の七十パーセント近くが森で覆われているということが深く関わっている。日本列島だけではない。地球そのものが、森によって支えられているという面もある。森林は、文明を守る生命線なのである。

現代の私たちは、地球始まって以来の異常な人口爆発の中で生きている。一九五〇年代には、半世紀もたたないうちに、その二倍の五十億を突破し、今や八十億を超えてしまった。イースター島の急激な人口の増加は、百年に二倍の割合であったから、いかに現代という時代が異常な時代であるかが理解できよう。

このまま人口の増加が続いていけば、二〇五〇年には九十七億に達するだろうと予測される。必要な食料はますます増えていくだろう。実際、二十一世紀に入ってからの二十年間で、世界の農耕地の面積は急速に拡大している。しかも、新たな農耕地の約半分は、森林を切り開いて生み出されたものだ。今のところ、全人口を支えるだけの食料生産は維持されているが、分配の不均衡により、飢餓に悩まされる国や地域は増えている。目の前の危機を乗り越えるために、これ以上、森林を切り開けば、表層土壌の流失によって、結果的に食料不足が恒常化するおそれもある。

絶海の孤島のイースター島では、森林資源が枯渇し、島の住民が飢餓に直面したとき、どこからも食料を運んでくることができなかった。地球も同じである。広大な宇宙という漆黒の海にぽっかりと浮かぶ青い生命の島、地球。その森を破壊し尽くしたとき、その先に待っているのはイースター島と同じ飢餓地獄である。とするならば、私たちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。それが、人類の生き延びる道なのである。

5 ままならない 文
6 直面 文
9 根本(的) 意
13 繁栄 意
2 侵 シン おかす
7 抗 コウ
7 頻 ヒン
8 崩 ホウ くずれる くずす
13 有限 対
5 飢 キ うえる
5 餓 ガ
7 恒 コウ
10 漆 シツ うるし
12 獄 ゴク

（127ページ）

漢字の練習



筆者 **安田喜憲** 一九四六（昭和二一）――三重県出身。環境考古学者。
著書 「世界史のなかの縄文文化」「人類破滅の選択」「文明は緑を食べる」「日本文化の風土」など。
出典 本書のための書きおろし。

モアイ・イースター島研究について

モアイやイースター島の文明については、さまざまな学説が提唱されている。ここでは、その一部を紹介する。

モアイは歩いて移動した？

モアイを運ぶ際に、木のころではなくロープを用いたとする説もある。モアイを立たせて左右に揺らしながら運ぶ実験の映像では、まるでモアイ自身が歩いて移動しているように見える。

森林破壊の原因はネズミだった？

イースター島の森林破壊の原因は、人間による森林伐採ではなく、ポリネシア人が持ち込んだネズミであったとする説もある。

広がる読書



「イースター島を行く」
野村哲也



「イースター島 改訂版」
柳谷杞一郎

179ページ 文章の比較　129ページ 論理の展開の吟味　51ページ 文章と図表

学びのカギ

論理の展開を吟味する

その根拠に、疑う余地はないか。

- **論理の展開**とは、意見や主張を導くための、筋道の通った考えの進め方のことである。
- 論説を読むときには、筆者の意見とそれを支える根拠を捉えることが必要だ。
- そのうえで、示された根拠の正確性や客観性、根拠と意見の結び付き（「理由づけ」）などを吟味し、信頼性を判断することが大切である。

【学習で用いる言葉】

論理　考えを進めていく筋道や、思考の組み立てのこと。

278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【論理の展開を吟味する観点】

意見（構成上の「結論」部分から）

地球の未来　イースター島の（このような）運命は、私たちにも無縁なことではない。

理由づけ　吟味　根拠を意見と結び付ける「理由づけ」に無理はないか。

根拠（構成上の「本論」部分から）

イースター島で起きた出来事

問い① モアイを作ったのは誰か

答え①　意見：ポリネシア人

根拠：化石人骨の分析／栽培作物の分析

吟味　筆者の意見を裏づける根拠として適切か。



問い② モアイをどうやって……

130ページ 思考のレッスン1 根拠の吟味

言の葉ポケット

環境問題を論じるときに使われる漢語を本文中から探し、短文を作ってみよう。（例「資源」「破壊」「消滅」など）

学びへの扉

見通しをもつ

文章の構成や論理の展開を吟味し、自分の考えを文章にまとめよう。［学習活動］

目標

- 意見を裏づけるための、適切な根拠の在り方について理解する。（知る）
- 知識や経験を基に、文章の構成や論理の展開、筆者の主張を吟味する。（読む）

捉える

1　文章の構成に着目し、内容を捉えよう。

①文章全体を序論・本論・結論に分けてみよう。

②問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめよう。

読み深める

2　論理の展開を吟味しよう。

①筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考えよう。

②「モアイの秘密」（123ページ5行目）を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開についてどう考えるか。「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合おう。

考えをもつ

3　筆者の主張に対する意見を文章にまとめよう。

あなたは筆者の主張をどのように受け止めたか。自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度で意見をまとめよう。

- 筆者の主張に対する自分の立場を明確に示す。
  ［立場］納得した・できなかった／基本的には支持するが、○○という点では疑問が残る　など
- 意見の裏づけとなる根拠（事実）を示す。

振り返る

- 知る　□筆者は本文の中で、何を根拠に、どのような意見を述べているか。
- 読む　□論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか。
- つなぐ　□論理の展開を吟味するときに大切だと感じたことを挙げてみよう。

情報 思考のレッスン1

根拠の吟味

■根拠の適切さを吟味する

文章を読んだり、話を聞いたりするときには、筆者や話し手の**意見**が、どんな**根拠**に基づき、意見とどのように結び付けられているか（**「理由づけ」**）を把握する必要がある。そのうえで、示された根拠や「理由づけ」が適切かどうかを、次のような観点で吟味してみよう。

意見
私たちのクラスは、今年の文化祭で、ダンスに取り組むべきだ。



1 客観的な事実を根拠としているか

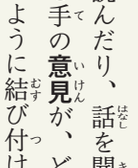
ダンスがいちばん盛り上がるから。



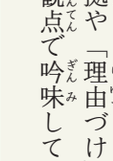
どうして、そう言い切れるの。

2 根拠とする事実に信頼が置けるか

同じグループの友達にきいたら、みんな、ダンスが好きだと言っていたから。

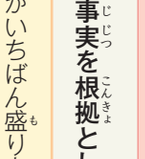


他のグループの人はどうかな。

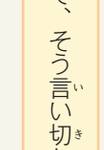


3 適切な「理由づけ」が示されているか

クラスでのアンケートの結果、ダンスに取り組みたいという回答が三割を超えたから。



三割は多いのかな。根拠として適切かどうかは、「理由づけ」がないと判断できない……。



思考のレッスン2 具体と抽象 ➡ 180ページ
情報整理のレッスン 思考の視覚化 ➡ 52ページ

問題1 ▼次の文章を根拠と「理由づけ」の観点で吟味し、問題点や、不足している情報を指摘しよう。

①給食のメニューに、地域の伝統食を取り入れるべきだ。生徒総会で提案したところ、過半数の支持を得たからだ。

②あなたはこの本を買うべきだ。この本を買った三人の読者が全員一致で、「役に立った」と言っているからだ。

③中学校の体育で、サッカーをする時間を増やすべきだ。サッカーを通して、クラスメイトとのきずなを深められるからだ。

■意見の説得力を高めるには

適切な根拠を「理由づけ」とともに示すことで、意見の説得力が高まる。

- **適切な「理由づけ」を示す。**
  ↓根拠とした事実が、どのように意見を支えているかを明確にする。
- **根拠と「理由づけ」を複数用意する。**
  ↓複数の根拠を、適切な「理由づけ」によって意見に結び付けられれば、意見の信頼性が高まる。
- **客観的で信頼性の高い事実を根拠とする。**
  ↓主観や解釈が入らないようにする。

チェックポイント

意見を読んだり、聞いたりするときには、次の点を確認しよう。

- ☑客観的で信頼性の高い事実を根拠としているか。
- ☑適切な「理由づけ」を明確に示しているか。
- ☑適切な根拠と「理由づけ」を、複数提示しているか。



意見 私たちのクラスは、今年の文化祭で、ダンスに取り組むべきだ。

「理由づけ」（意見と根拠の結び付き）を明確にする。

理由づけ 文化祭では、在校生に楽しんでもらえる演目を選んだほうがよいから。

理由づけ クラスの演目では、クラスの皆がやりたいことに取り組むべきだから。

「理由づけ」（意見と根拠の結び付き）を明確にする。

根拠1 昨年度の在校生全員へのアンケートでは、「ダンスが楽しかった。」と答えた人が最も多かった。

根拠2 クラスの約6割の人が、体育の授業でダンスを選択している。

根拠3 クラスでアンケートを取った結果、「文化祭ではダンスに取り組みたい。」という声が8割に達した。

客観的で信頼性の高い事実を複数示すのが理想

問題2 ▼次の①～④のうち、幾つかの事柄を使って、Aさんの意見の説得力を高めよう。

Aさんの意見
私は、友達に謝るときには、電話より手紙で気持ちを伝えたほうがよいと考える。手紙のほうが、思いや考えが伝わるからだ。

①手紙には、封筒と便箋を選ぶ楽しみがある。

②手紙は、もらった人が何度も読み返すことができる。

③手紙は、時間をかけて言葉を選ぶことができる。

④私なら、電話よりも手紙をもらったほうがうれしい。

新出漢字
130 致 チ いたす
130 吟 ギン
130 把 ハ

漢字の練習

書く

適切な根拠を選んで書こう

意見文を書く

説得力のある意見を述べるためには、適切な根拠を示すことが必要だ。ここでは、さまざまな考え方のできる課題について、自分の立場や提案を決めて意見文を書く。適切な根拠を選び、構成を工夫して、自分の意見が明確に伝わる文章を書こう。

282ページ 発想を広げる

書くことのミニレッスン

目標
- 意見を支える適切な根拠の選び方を知る。（知る）
- 適切な根拠を選び、構成や記述を工夫して、自分の考えが伝わる意見文を書く。（書く）

集める・整理する

1 課題を決め、調べる

- 地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。
- 課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。

組み立てる

2 構成を考える ICT

- 適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。
- 読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。

表現する

3 意見文を書く

- 600 ～ 800 字程度でまとめる。
- 根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。

共有する

4 交流する

- 意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。

振り返る 135ページ

生かす
- 日常　話し合いのときに、根拠を示して説得力のある発言をする。
- 将来　地域の課題の解決策を提案する。



233ページ 学びの価値づけ
225ページ 表現の効果
133ページ 根拠・構成
110ページ 表現の工夫
55ページ 情報整理

学びのカギ

適切な根拠を選び、構成を工夫する

- 適切な根拠を選び、「理由づけ」を合わせて示すことで、意見の説得力が高まる。
  - 正確で客観的な事実を根拠としているか。
  - 根拠と意見を無理なく結び付ける「理由づけ」が示せるか。
  - 根拠と「理由づけ」を複数示せるか。
- 意見が明確に伝わるように、構成を工夫する。
  - まず、文章の構成（序論―本論―結論、「頭括型」「尾括型」「双括型」など）を決める。
  - 意見、根拠、「理由づけ」、想定される反論とそれに対する意見などの要素を、どの順序で述べるとわかりやすいかを考える。
  - 段落相互の関係を明確にするために、接続詞や順序を表す言葉などを活用する。

130ページ 思考のレッスン1 根拠の吟味
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

課題　若者の投票率を上げるには、どうすればよいか。

意見：中学校の授業で、模擬選挙を行うべきだ。

理由づけ：……

理由づけ：模擬選挙を行うことで、選挙の意義を知り、関心を高めることができる。

根拠2：……

根拠1：若者の意識調査（総務省）の結果
- 関心の低さ
- 選挙の意義への理解不足

【構成の例（双括型）】

意見	根拠1 理由づけ	根拠2 理由づけ	反論	意見
○○について、私は……と考える。	第一に、……（だから）だ。	第二に、……（だから）だ。	これに対して、……という考えもあるだろう。しかし、……。	以上のことから、私は、……と考える。



［調べた内容］

- **2022年参議院議員選挙の結果**
  総務省「第26回参議院議員通常選挙年齢別投票者数調」2022年
  - 10代の投票率　35.42%
  - 全年代の投票率 52.05%
- **若者が投票しない主な理由**
  総務省「18歳選挙権に関する意識調査」2016年
  - 「選挙にあまり関心がなかったから」19.4%
  - 「投票所に行くのが面倒だったから」16.1%
- **新聞記事「若者投票率　高さの秘密」**
  （○○新聞、2022年6月24日朝刊）
  - 山形県遊佐町「少年議会」
  - スウェーデン「学校選挙」
  - →どちらも中学生が投票する機会がある。
- **青空市立北高校の事例**
  - 3年生の投票率 6割超（「学校便り9月号」2022年）。
  - 「模擬選挙で選挙への意識が高まった」（姉の話）

［構成のしかた］

頭括型	尾括型	双括型
意見→根拠　理由づけ 初めに自分の意見を述べ、その後に根拠や理由を示す方法。	根拠　理由づけ→意見 初めに根拠や理由づけを示したうえで、最後に自分の意見を述べる方法。	意見→根拠　理由づけ→意見 自分の意見を示してから根拠・理由づけを述べ、最後にもう一度、意見をまとめて述べる方法。

言の葉ポケット

- **引用するときの表現**　286ページ 引用・出典
- ○○によると、「……」である。
- ○○には、「……」と書かれている。
- **事実を伝える文末表現**
- ……だ／である／している。
- ……がわかる。
- **考えを伝える文末表現**
- ……だろう／といえる。
- ……と考えられる／推測される。
- ……ではないか／ないだろうか。

［意見文の例］

若者の投票率を上げるにはどうすればよいか

意見

若者の投票率の低さが問題になっている。総務省によると、二〇二二年二組　岸さやか
年参議院議員選挙の十代の投票率は約三十五パーセントで、全年代の平均値、約五十二パーセントを大きく下回った。若者の投票率を上げるには、何が必要だろうか。

私は、中学校の授業で模擬選挙を行い、投票の意義や方法を実践的に学ぶ場を設けることが必要だと考える。そう考える理由は二つある。

▼**書きだし**
・話題提起として、現状や課題を書く。

▼**自分の意見（＝＝）**を簡潔に示す。

根拠・理由づけ

第一に、模擬選挙を通して、投票の意義を深く学ぶことができる。若者が投票しない主な理由として、「選挙にあまり関心がなかったから」「投票所に行くのが面倒だったから」などがあり（総務省「十八歳選挙権に関する意識調査」二〇一六年）、投票の意義を学ぶ点に課題があることが読み取れる。模擬選挙で実際に一票を投じることで、一票の重みや投票の意義を学ぶことができるだろう。

第二に、模擬選挙を体験することで、投票の具体的な方法や流れがわかる。私自身、あと四年で投票できる年齢になるが、投票している自分を想像できず、不安がある。模擬選挙を通して具体的な方法がわかれば、不安は軽減されるだろう。さらに、選挙権を得る直前の高校からではなく、義務教育の中学校から行うことで、よりしっかりと準備することができる。実際に、若者の投票率が高いことで知られる山形県遊佐町やスウェーデンでは、中学生が投票する機会を設けているという（○○新聞、二〇二二年六月二十四日朝刊）。

いっぽう、授業で模擬選挙を行ったからといって、実際に選挙に行くようになるとは限らないという反論もあるだろう。確かに、模擬選挙を行うことで投票率が上がるという事実を示す有力な資料を見つけることはできなかった。しかし、高校の授業で模擬選挙を体験した姉によると、実際に、選挙への意欲は高まったという。毎年模擬選挙を行っている姉の高校では、三年生の二〇二二年参議院議員選挙の投票率が六割を超えていたそうだ（青空市立北高校「学校便り　九月号」二〇二二年）。

以上のことから、私は、投票の意義や方法を学ぶために、中学校の授業で模擬選挙を行うことを提案する。

▼**根拠・理由づけ**
・意見を支える根拠（──）や、理由づけ（～～）を具体的に示す。
・事実や調べたことを表す文末表現と、考えを表す文末表現とを使い分ける。

▼**反論に対する意見**
・反論と、反論を想定して考えたことや調べたことを書く。

▼**まとめ**
・根拠や反論を踏まえて、改めて自分の意見をまとめる。
・書きだしと対応させる。

ICT 構成を検討する　341ページ

意見や根拠の順序を入れ替えて、どの順序がわかりやすいか考えよう。

振り返る

- **知る**　□どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか。
- **書く**　□自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか。
- **つなぐ**　□意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げてみよう。

聴きひたる

言葉の響きやリズムを味わいながら聴こう。

月夜の浜辺

中原 中也

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
月に向つてそれは抛れず
浪に向つてそれは抛れず
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
指先に沁み、心に沁みた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
どうしてそれが、捨てられようか？

朗読音声



作者 **中原中也** 一九〇七（明治四〇）――一九三七（昭和一二） 山口県出身。詩人。
もの悲しさ、人生のむなしさなどを美しく幻想的に表現した。
著書 「山羊の歌」「在りし日の歌」など。
出典 「新編 中原中也全集 第一巻 詩Ⅰ 本文篇」

新出漢字

忍 ニン しのぶ しのばせる

漢字の練習

広がる読書

「日本の名詩を読みかえす」
高橋順子 編・解説



季節のしおり 秋

あなたが秋を感じるものは、何だろうか。金色の稲穂、高く澄んだ空、色づく果実……。作品に描かれた情景の中に、秋を感じてみよう。

葡萄食ふ一語一語の如くにて

中村草田男

葛の花　踏みしだかれて、色あたらし。
この山道を行きし人あり

釈　迢空

秋深き隣は何をする人ぞ

松尾芭蕉

（秋の行事と暦）

- **七夕の節句**……七月七日。年に一度、彦星と織姫が会うことができるという伝説がある。
- **重陽の節句**……九月九日。菊をかざったり菊酒を飲んだりする風習があり、菊の節句ともいう。
- **中秋の名月**……旧暦八月十五日（現在の九月～十月頃）の月。だんごやすすきを供え、月見を行う風習がある。



6 いにしえの心を訪ねる

昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ

音読を楽しむ　平家物語　古文・音読

「平家物語」の世界

「平家物語」の主な登場人物たち　古文・資料

扇の的――「平家物語」から　古文

仁和寺にある法師――「徒然草」から　古文　兼好法師

係り結び

漢詩の風景　漢詩・解説　石川忠久

律詩について



色の名前6　赤朽葉 ●　｜　葉が紅葉で黄色から赤みを増していくときのような色。

音読を楽しむ

平家物語

祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらはす
おごれる人も久しからず
ただ春の夜の夢のごとし
たけき者もつひには滅びぬ
ひとへに風の前の塵に同じ

「平家物語」は、平家一門の興亡のありさまを語った軍記物語である。漢語を巧みに交えた文章には独特の調子とリズムがあり、琵琶法師の語る「平曲（平家琵琶）」として広く民衆に親しまれた。冒頭部分を音読し、言葉の響きを楽しもう。

①祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。
②沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。
おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

祇園精舎の鐘の音には、万物の常ならぬことを伝える響きがある。白々と散る沙羅双樹の花の色は、栄える者の必ず滅びゆく道理を表す。権力におごる人も長くは栄えず（続かず）、春の夜の夢のようにはかない。武力ある者もまた、ついには消えうせること、ひとえに風に吹き飛ぶ塵のようなものだ。



琵琶法師＝琵琶を弾きながら物語などを語る盲目の僧。絵は「七十一番職人歌合」（部分）。

「平家物語」冒頭朗読音声

①祇園精舎＝昔、インドの須達長者が、釈迦のために建立した寺院。
②沙羅双樹＝インド北部原産の常緑高木。釈迦がなくなったとき、その床の四方に二本ずつ植えられていたこの木が、悲しみのために枯れ、白色に変じたという。

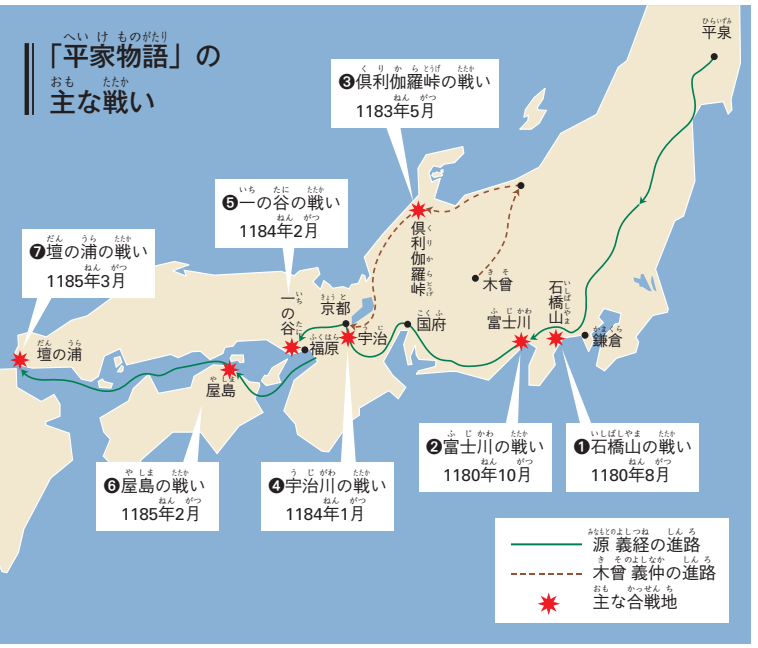
「平家物語」の世界

平家の栄華

保元の乱・平治の乱で勢力を広げた平清盛は、武士として初めて太政大臣にまで昇りつめ、一族は全盛期を迎える。おごり高ぶる平家に反感をもつ人が増えていく。



平家の栄華を象徴する厳島神社（広島）



- 保元の乱
- 平治の乱
- 平清盛が太政大臣になる。
- 平家追討の令旨。

❶石橋山の戦い　勝 平家

挙兵直後の頼朝、大敗！

伊豆で挙兵した源頼朝は、石橋山（神奈川県小田原市）で戦いに挑むが、自軍の十倍の敵に敗れ、撤退する。

源氏の挙兵

天皇家が出した平家追討の令旨が、全国各地の源氏に届き、平家打倒の動きが始まる。



[右上] 平家の兵に引っ掛けられ、義経は弓を海に落としてしまう。
151ページ 弓流し

[左下] 平家軍の挑発を受け、与一は船上の扇を射ることになるが……。
146ページ 扇の的

❻屋島の戦い
「源平合戦図屏風」（部分）

❷ 富士川の戦い　勝 源氏
水鳥の羽音に、平家総崩れ？

富士川（静岡県富士市）の両岸に陣を構えた両軍。平家は水鳥の飛び立つ羽音を源氏の襲来と勘違いし、逃げ惑う。

平清盛が熱病で死去。

「頼朝が首をはねて、我が墓の前に掛くべし。」（平清盛）

❸ 倶利伽羅峠の戦い　勝 源氏
義仲の奇襲で平家は谷底へ

頼朝のいとこに当たる木曾義仲は、倶利伽羅峠（石川県と富山県の県境）で平家とぶつかる。夜の奇襲で峠の断崖に追い込まれた平家は、次々と谷底に転落していく。

義仲の軍が迫ると平家は都を離れ、六歳の安徳天皇を連れて西国に逃亡。

❹ 宇治川の戦い　勝 源義経
源氏どうしが激突する

義仲の横暴な振る舞いで都の治安が悪化。頼朝の命令を受けた義経らが義仲軍を追討。

❺ 一の谷の戦い　勝 源氏
「鵯越の逆落とし」で源氏勝利

険しい山道を馬で駆け下りる奇襲により、平家は大混乱。一門の多くがなくなる。



熊谷 直実（右）の招きに応じて振り返る平敦盛（左）。
304ページ 敦盛の最期
「一の谷合戦図屏風」（部分）

平家の滅亡

壇の浦の戦いで、ついに平家は滅亡する。



❼壇の浦の戦い　二位の尼が安徳天皇を抱きかかえ、入水する。　「源平合戦図屏風」（部分）

二位の尼（清盛の妻時子）は、八歳になる孫の安徳天皇を抱きかかえ、舟端に歩み出た。幼い天皇に、「私をどこへ連れていこうとするのか。」ときかれた尼は、はらはらと涙を流し、「波の下にも都はございます。」と答えて、共に海底深くしずんでいった。

安徳天皇の母である建礼門院も後を追って入水するが、源氏の武士に引き上げられる。

建礼門院は、後に出家して、京都大原で平家一門を弔う。

❻ 屋島の戦い　勝 源氏
嵐の海を渡り、平家を奇襲

わずかな舟で四国へ渡った義経は平家を背後から急襲。慌てた平家は舟で海へ逃れる。

※「扇の的」「弓流し」はこの戦い。

❼ 壇の浦の戦い　勝 源氏
最終決戦！ 平家滅亡

両船団が海上で向かい合う。潮の流れが変わり、源氏が優勢に。安徳天皇らが入水し、仕えていた女性たちも海に身を投げる。武将たちも壮絶な最期を遂げ、平家は滅亡する。

「見るべきほどのことは見つ。今は自害せん。」（平知盛）

建礼門院、死去。

「平家物語」の主な登場人物たち

源氏



源 頼朝

武家政治の創始者

1147–1199　平家滅亡後、鎌倉幕府を開いた。

天皇家



後白河法皇

平家滅亡の黒幕？

1127–1192　最初は清盛と協調。その後対立し、源氏に命じて平家を滅亡させた。

平家



平 清盛

栄華をきわめた平家の棟梁

1118–1181　武士として初の太政大臣となった。



木曾 義仲

京を制圧するも……

1154–1184　源義仲。頼朝のいとこ。義経らに敗れ戦死。



源義経

平家討伐の立役者

1159–1189　頼朝の末弟。源平合戦や義仲追討で活躍。



平敦盛

悲劇の若武者

1169–1184　清盛のおい。一の谷の戦いで戦死。

304ページ 敦盛の最期

源氏略系図

- 為朝
- 義賢
  - 義仲（木曾）
- 義朝
  - 義経
  - 範頼
  - 頼朝

天皇家略系図

- 後白河法皇
  - 以仁王
  - 高倉天皇
    - 安徳天皇

平家略系図

- 清盛
  - 時子（二位の尼）
  - 徳子（建礼門院）
  - 知盛
- 経盛
  - 敦盛

扇の的——「平家物語」から

読む

登場人物のものの見方・考え方について、自分の考えをまとめよう。［学習活動］

目標

- 作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。
- 登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉える。

「平家物語」朗読音声

治承四年（一一八〇）八月、源頼朝は伊豆で挙兵し、やがて鎌倉を本拠地に定めた。その年の九月には、同じ源氏一族である木曾義仲が信濃で兵を挙げた。義仲の軍は、倶利伽羅峠の戦いで平家を打ち破り、寿永二年（一一八三）七月、京へ攻め上る。平家の人々は、これを防ぎ切れず、都を捨て、西国へと落ちていった。翌年、ようやく勢力を盛り返して一の谷に陣を構えた平家だったが、頼朝の弟、義経の率いる平家追討軍の奇襲に遭って、たちまち敗走し、屋島に退いた。元暦二年（一一八五）二月、義経は、僅かな手勢と共に嵐をついて海を渡り、平家の背後から突如として屋島へ攻め寄せた。慌てた平家は舟を浮かべて海上に逃れ、陸の源氏と向き合った。

日暮れを迎え、双方が軍勢をひきかけているところへ、沖の方から、小舟が一そう、水ぎわへ向かってこぎ寄せてきた。「何だろう。」と見ていると、舟の中から、年若い女房が姿を見せ、扇をさおの先に付けて舟端に立て、陸に向かって手招きをした。この扇を射落として

1 **源頼朝** 一四七―一九九　後に鎌倉に幕府を開いた武家政治の創始者。伊豆は今の静岡県の東部。

2 **木曾義仲** 一五四―一八四　源義仲。信濃（今の長野県）の木曾で育った。頼朝のいとこ。

題 漢 **扇** おうぎ

5 漢 **陣** ジン

6 漢 **僅** キン わずか

6 漢 **嵐** あらし

7 漢 **如**（ニョ） ジョ

7 漢 **舟** シュウ ふね

突如 ジョ



みよ、とのことのようであった。義経は、下野国の住人、那須与一に命じて射させようとする。与一は、まだ二十歳前後の男であった。うまく射切れるかわからないと、一度は辞退する与一だったが、義経の命令は絶対であって、辞退し切れず、「では当たり外れはとにかく、仰せのとおり射てみましょう。」と、御前を退き、黒のたくましい馬に鞍を置いて、またがった。弓を取り直し、手綱をかい繰り、水ぎわへ向かって馬を歩ませると、味方の兵士たちは、「この若者ならば、確かに射当てるにちがいない。」と、その後ろ姿をはるかに見送ったが、それは、義経も同じ思いだった。矢ごろが少し遠かったので、海へ六間ばかり馬を乗り入れたが、それでもまだ、扇との間は四十間余りはあると見えた。

（146ページ）

4 **一の谷** 今の兵庫県神戸市須磨区の海岸近くにある。

5 **義経** 一五九―一八九　頼朝の末弟。父義朝の九男で、その官位から九郎判官ともよばれる。

6 **屋島** 今の香川県高松市北部にあった島。今は陸続きのみさき。

10 **女房** 元、宮中に部屋をたまわった身分の高い女官。転じて、貴族・武家などに仕える女性。

（147ページ）

2 **下野国** 今の栃木県。

17 **矢ごろ** 矢を射るのに適当な距離。

18 **六間** 一間は約一・八メートル。

12 漢 **綱** コウ つな

手綱（訓 たづな）

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ揺りすゑ漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」

時は二月十八日、午後六時頃のことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸を打つ波も高かった。舟は、揺り上げられ揺り落とされ上下に漂っているので、さおの先の扇もそれにつれて動きを止めず、ひらひらと揺れている。沖には平家が、舟を海上一面に並べて見物している。陸では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守っている。どちらを見ても、まことに晴れがましくないということはない。与一は目を閉じて、

「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々の、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神、願わくは、あの扇の真ん中を射させてください。これを射損じれば、弓を折り、自害して、再び人に顔を合わせるつもりはありません。いま一度故郷へ帰そうとお思いでしたら、この矢を外させないでください。」

と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなったりける。

与一、かぶらを取ってつがひ、よっぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふっとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。夕日が輝く中に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が白い波の上に漂って、浮きつしずみつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

と心に念じながら、目をかっと見開くと、風も（揺れが静まって）射やすくなっていたのだった。

与一は、かぶら矢を取ってつがえ、十分に引き絞ってひょうと放った。小柄なので、矢は十二束三伏だが、弓は強い、かぶら矢は、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりを立てて、誤ることなく扇の要から一寸ほど離れた所をひいふっと射切った。かぶら矢は海へ落ち、扇は空へと舞い上がった。しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。夕日が輝く中に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が白い波の上に漂って、浮きつしずみつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

上5 **くつばみ**　馬の口に含ませ、手綱を付けるための金具。くつわ。（147ページ参照）

上8 **八幡大菩薩**　八幡神（弓矢の神）と仏教の菩薩とを同一視して信仰していた。

上8 **日光の権現**　栃木県日光市にある二荒山神社（の祭神）。

上9 **宇都宮**　栃木県宇都宮市にある二荒山神社（の祭神）。

上9 **那須の湯泉大明神**　栃木県那須郡那須町にある温泉神社（の祭神）。

下5 漢 **漂**　ヒョウ　ただよう　漂う

上12 訓 **面**（おもて）

上3 **かぶら**　音を立てて飛ぶように作った矢。かぶら矢。開戦の合図などに用いる。（147ページ参照）

上4 **十二束三伏**　「束」（古くは「束」ともいった）は一握り（指四本分）の幅、「伏」は指一本分の幅のことをいう。矢の長さは体格に比例する。大柄で力の強い射手は十五束の矢を射たとされるが、与一は小柄なので、矢は長くない。

上6 **一寸**　約三センチメートル。

上6 **ひいふつ**　矢が風を切り、的に当たった音。

上10 **かかやいたる**　当時は、「かかやく」と清音で発音した。

上13 **えびら**　腰に付ける、矢を入れる道具。

下9 漢 **浦**　うら　浦

いてどよめきけり。

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、

「御定ぞ、つかまつれ。」

と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。

「あ、射たり。」

と言ふ人もあり、また、

あまりのおもしろさに、感動したのであろう、舟の中から、年の頃が五十歳ぐらいで、黒革おどしの鎧を着て、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあった所に立って舞を舞った。そのとき、伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませてきて、

「御命令であるぞ、射よ。」

と言ったので、今度は中差を取ってしっかりと弓につがえ、十分に引き絞って、男の頸の骨をひょうふっと射て、舟底へ真っ逆さまに射倒した。平家方は静まりかえって音もしない、源氏方は今度もえびらをたたいてどっと歓声を上げた。

「ああ、よく射た。」

と言う人もあり、また、

「心ないことを。」

と言う者もあった。

「情けなし。」

と言ふ者もあり。

この後、よく知られた義経の弓流しの逸話が続く。

源氏の行為を残念に思ったのだろうか、水ぎわに二百人余りの平家が攻めてきたが、逆に八十余騎の源氏に攻め立てられ、舟に逃げ帰ってしまう。勝ちに乗じた源氏は、馬の太腹がつかるほど海に乗り入れて戦った。そのとき、義経の弓がはずみで平家に引っ掛けられ落とされてしまう。義経は、味方の制止も聞かず、むちでかき寄せて取ろうとし、やっと拾い上げて帰った。老臣たちが、「どんなに高価な弓であろうとも、どうしてお命に替えられましょうか。」と非難すると、義経はその理由を答えた。

「弓の惜しさに取らばこそ。義経が弓といはば、二人しても張り、もしは三人しても張り、叔父の為朝が弓のやうならば、わざとも落としても取らすべし。尪弱たる弓を敵の取り持つて、『これこそ源氏の大将九郎義経が弓よ。』とて、嘲哢せんずるが口惜しければ、命にかへて取るぞかし。」

と、宣へば、みな人これを感じける。

「弓が惜しくて取るなら非難もされようがそうではない。義経の弓が、二人がかり、三人がかりで張る叔父の為朝の弓のようなら、わざと落としても取らせよう。弱々しい弓を敵が拾い、『なんとこれが源氏の大将九郎義経の弓だよ。』と嘲笑するにちがいないのがくやしいので、命懸けで拾ったのだよ。」と言われたので、全ての人がこれを聞き感じ入ったのだった。

上4 **黒革をどし**　黒い革ひもで鎧の板をつづり合わせたもの。
上4 **白柄**　白木で作った柄。
上6 **伊勢三郎義盛**　義経に仕える重臣。
上8 **中差**　えびらの中の、上差のかぶら矢の次に差してある戦闘用の矢。
上2 漢 **堪**（カン）　堪える
下3 訓 **黒革**（くろかわ）

上10 **為朝**　一三九―一七〇？　源為朝。勇猛な武将として知られる。弓矢の名手で、強弓の使い手であったといわれる。
3 漢 **逸**（イツ）　逸話
4 漢 **騎**（キ）　八十余騎
下9 漢 **惜**（セキ・おしい・おしむ）　惜しい
下13 漢 **嘲**（チョウ・あざける）　嘲笑

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

登場人物のものの見方・考え方について、自分の考えをまとめよう。［学習活動］

目標

- 作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。（知る）
- 登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉える。（読む）

捉える

1 朗読して古典のリズムを楽しもう。

「平家物語」冒頭部分（140ページ）や、「扇の的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しもう。



読み深める

2 登場人物の言動から、心情を考えよう。

①水ぎわへ向かって馬を歩ませる与一や、それを見送る源氏の武士たち、義経の思いはどのようなものだったか、考えよう。
②最後の場面で、「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合ってみよう。

考えをもつ

3 読み取ったことを基に自分の考えを述べよう。

「平家物語」の登場人物たちの言動から、どのようなものの見方や考え方を読み取っただろうか。それに対する自分の考えを述べてみよう。



振り返る

- 知る　□朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか。
- 読む　□登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か。
- つなぐ　□作品を読んで、現代に通じる（現代とは違う）と感じた部分などを挙げてみよう。

出典　「平家物語」鎌倉時代に成立した軍記物語。作者は、信濃前司行長といわれるが、はっきりしない。物語には、人生をはかないものとする仏教の無常観を基調としながら、公家社会から武家社会への移り変わりを背景に、新時代の担い手となった武士の姿が生き生きと描かれている。原文は「平家物語」（新編日本古典文学全集 45・46）による。



伝統芸能



能の演目「屋島（八島）」

302ページ 古典芸能の世界

作家による現代語訳



「平家物語」（古川日出男訳、二〇一六年）

アニメーション



「平家物語」（「平家物語」製作委員会、二〇二一年）

広がる読書



「平家物語」



「義経」（上・下巻）司馬遼太郎

仁和寺にある法師——「徒然草」から

兼好法師

「徒然草」朗読音声

古文を読み、作者が何を伝えようとしているのか話し合おう。［学習活動］

目標

- 現代語訳や注を手がかりに読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る。
- 読み取った内容を自分の経験と結び付け、作者のものの見方について考える。

鎌倉時代の末に、兼好法師によって書かれた「徒然草」は、「枕草子」と並ぶ日本の代表的な随筆文学である。自然や人間についての鋭い考えや感想、見聞が書きつづられ、無常観に基づく人生観や美意識が読み取れる。次に挙げた冒頭部分と一つの章段を読んでみよう。

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。（序段）

することがなく退屈であるのに任せて、一日中、硯に向かいながら、心に次々と浮かんでは消えていく、とりとめもないことを、何というあてもなく書きつけていると、妙に心騒ぎがすることである。

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、仁和寺にいる法師が

残念なことに思われて

あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

徒歩で参詣した

極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

これだけのものと思い込んで

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登り

仲間に向かって　長年の間　うわさに聞いたのよりも勝って　それにしても

しは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参ることこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。

（それを）知りたかったけれど　本来の目的だ

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。（第五十二段）

その道の先導者　あってほしいものである



作者　**兼好法師**　一二八三？——一三五七？　鎌倉時代末期から南北朝時代初期に活躍した歌人。和漢の思想・学問に通じていた。三十歳前後で出家し、随筆「徒然草」を著した。

出典　「徒然草」　原文は、「徒然草全注釈　上巻」による。



題　**仁和寺**　京都市右京区御室にある真言宗御室派の総本山。

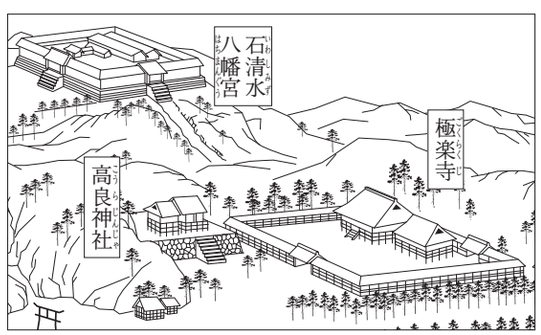
3　**冒頭部分と一つの章段**　「徒然草」は、序段および二百四十三の章段から成る。

9　**石清水**　石清水八幡宮。京都府八幡市の男山の山上にある。麓には、付属の極楽寺と高良神社があったが、極楽寺は明治元年（一八六八）に兵火で焼失した。

1　漢　鎌　鎌倉時代

2　漢　鋭　鋭い

注4　訓　勝る（まさる）



漢字の練習

広がる読書

「兼好さんの遺言」　清川妙



学びへの扉

見通しをもつ

古文を読み、作者が何を伝えようとしているのか話し合おう。［学習活動］

目標

- 現代語訳や注を手がかりに読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る。(知る)
- 読み取った内容を自分の経験と結び付け、作者のものの見方について考える。(読む)

捉える

1 現代語訳を手がかりにして読もう。

現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉えよう。

読み深める

2 本文を読み、内容をまとめよう。

①仁和寺の法師は、どんな勘違いをしたのだろうか。155ページ下段の絵を使って説明しよう。

②作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出そう。

考えをもつ

3 作者の考え方について話し合おう。

仁和寺の法師の描き方や、「少しのことにも……」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合おう。

振り返る

- 知る　□この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか。
- 読む　□どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか。
- つなぐ　□作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考えよう。

係り結び

係り結びは、作者や登場人物の感動や疑問などの気持ちを強調するときに用いられる。次に挙げた例のように、「ぞ」や「こそ」（係りの助詞という）が付いた語句が強調され、文末（結びの部分）が、――線部のように変化する。係りの助詞には、他に「なむ」「や」「か」などがある。

例「尊い」ことを「こそ」で強調

尊くこそおはしけれ。（155ページ4行目）

尊くおはしけり。（「こそ」が入らない形）

例仁和寺の法師の言葉を「ぞ」で強調

「山までは見ず。」とぞ言ひける。（155ページ6行目）

「山までは見ず。」と言ひけり。（「ぞ」が入らない形）

人物の特徴を捉えて論じよう

270ページ 語彙ブック

「扇の的」や「仁和寺にある法師」に登場する人物の特徴を捉え、その人物像（性格や行動のしかた、ものの考え方など）を論じる文章を書こう。

登場人物の中から、論じる人物を決める

「平家物語」の那須与一、義経、黒革おどしの鎧を着た男、伊勢三郎義盛、年若い女房など。「徒然草」に登場する「仁和寺にある法師」など。

人物の特徴を捉えて、文章にまとめる

1. 選んだ人物の言葉や行動、それに対する周囲の人の反応など、どのような人物かがわかる表現に着目しながら本文を読む。
2. 「○○は□□な人物である。」というように、その人物の特徴をできるだけ簡潔に（一文程度で）まとめる。また、なぜそう思うのか、文章から読み取れることを明確にしておく。
3. 構成を工夫しながら、三百字程度の文章にまとめる。最後に自分の考えや感想を入れるとよい。
4. 書いた文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。

例「仁和寺にある法師」について

「仁和寺にある法師」は、真面目で信心深いが、自分の思い込みにとらわれてしまう、融通のきかない人物である。

この法師は、年を取るまで石清水八幡宮に参拝しなかったのを残念に思い、たった一人で歩いて出かけた。誰も誘わずに、参拝することだけを目的として出かけたことからは、真面目な性格がうかがえる。

しかし、極楽寺と高良神社に参拝し、本来の目的である石清水八幡宮には参拝しないで帰ってきてしまった。山に登る人を見て疑問をもちながらも、自分の思い込みを見直すことができなかったのである。

法師の物事にまっすぐに取り組む真面目さや、信仰心には感心する。しかし、自分の思い込みにとらわれすぎるところは玉にきずである。事前に人に尋ねたり、疑問をもった時点で確かめたりすればよかったのではないだろうか。

自分の考えや感想 ／ 文章から読み取れること ／ 人物の特徴

漢詩の風景

石川 忠久

春暁

孟浩然

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少

春 眠 不 覚 暁
処 処 聞 啼 鳥
夜 来 風 雨 声
花 落 知 多 少

春の眠りは、誰しも経験があるように、非常に気持ちのよいものです。寒くてつらい、長かった冬も過ぎ、いよいよ春になったぞという喜びを、「暁を覚えず」、つまり、夜が明けたのも気づかないぬくぬくとした眠りで表しています。外はいい天気らしく、あちらでもこちらでも鳥の声が聞こえます。そういえば、ゆうべは「風雨」の音がしていたなあ、と回想します。花はいったいどれほど散ったことやら。作者は寝床の中にいて、明るくのどかな気分に浸っているのです。

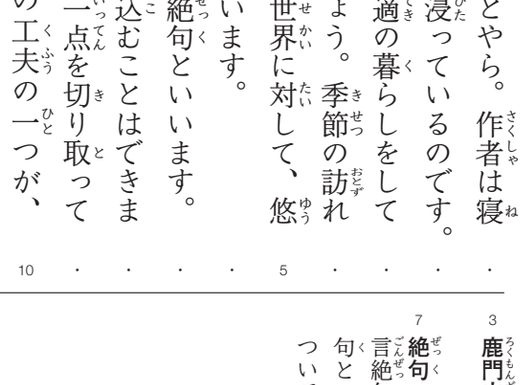
作者の孟浩然は、故郷の鹿門山に自適の暮らしをしていました。この詩はその頃のものでしょう。季節の訪れも気づかず、あくせくと過ごす俗人の世界に対して、悠然と自然に溶け入った世界が歌われています。

このような、四句から成る漢詩を、絶句といいます。短い詩型ですから、あれもこれも歌い込むことはできません。そこで、詩人は、ここぞという一点を切り取って心の高まりや感動を表現します。その工夫の一つが、「起承転結」という構成法です。

第一句は、歌い起こして、起句といいます。起句が平凡だと詩は生きません。「春暁」では、春の眠りの心地よさを、朝になったことに気づかないと表現するところに、詩人の発想があります。第二句は承句といい、起句を承けてさらに展開します。第三句は転句で、場面が転換します。「夜」「風雨」という語が暗い雰囲気をかもし出し、前半の明るい情景から一変します。これが転換の妙味、読者に、おやっと思わせます。最後は、全体を締めくくる結句です。読者の眼前には、庭一面に散り敷いた花びらが、ぱっと広がります。花びらは雨にぬれ、朝日を浴びていよいよ鮮やかです。転句が暗いだけによけい印象が強くなるのです。

そして、それが余韻となって、春の朝の気分が漂います。見事な収束です。

この構成法は、誰かが考え出したものではなく、永年の知恵で自然に定まったものなのです。


春の朝

読む

漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果を考えて朗読しよう。［学習活動］

漢詩 三編 朗読音声

目標

- 古典のものの見方や考え方を知り、漢詩の特徴を生かして朗読する。
- 漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、構成や表現の効果を考える。

1 **孟浩然** 六九―七三〇 唐代の詩人。

2 漢 **暁**（ギョウ） あかつき

暁 あかつき

3 **鹿門山** 今の湖北省にある。

7 **絶句** 一句が五文字のものを五言絶句、七文字のものを七言絶句という。（164ページ「律詩について」参照）

5 漢 **俗** ゾク

俗人 ゾクジン

5 漢 **悠** ユウ

悠然 ユウゼン

12 漢 **凡**（ボン・ハン） 平凡 ボンペイ

16 漢 **締**（テイ しまる しめる） 締めくくる しめくくる

17 漢 **敷**（フ しく） 散り敷く ちりしく

絶句

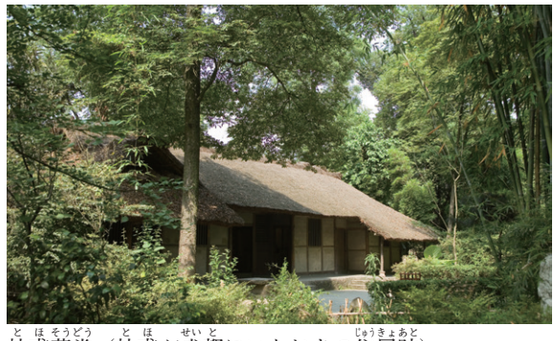
杜甫

江は碧にして鳥は逾よ白く
山は青くして花は然えんと欲す
今春看す又過ぐ
何れの日か是れ帰年ならん

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是帰年

この詩は、杜甫が成都にいたときの作です。うち続く戦乱を避けて、友人を頼りにこの地へ来たのです。まず、この地の美しい風景が前半の二句に描かれます。川は深みどりに澄み渡り、その水の色をバックに水鳥はいっそう白く見える。「碧」は深く澄んだみどりです。向こうの山は青々と茂っている。それをバックに花が燃えるように咲いている。この花は、つつじか何かでしょうか。「然」は「燃」と同じ。「然えんと欲す」とは、今にも燃えだしそうの意で、花が真っ赤に咲いているさまです。二句十字の中に、「碧・白・青・然＝赤」と色を表す字が四つも含まれ、なんとも鮮やかな南国の春景色が浮かび上がります。

後半では、この風景を前にした作者の思いが歌われます。今年の春も、あれよあれよという間に過ぎてゆく。いつ故郷へ帰る年が来るのだろうか。「看す」は、見ている間に、という意味です。故郷へ帰れないままにまた春が過ぎてゆく、それをどうすることもできないのです。異郷の明るい春景色の中で、悲しみに沈む作者の姿が強く印象づけられます。北の故郷を離れて六年目、杜甫は五十三歳でした。



杜甫草堂（杜甫が成都にいたときの住居跡）

1 **杜甫** 七一二―七七〇 唐代の代表的な詩人の一人。
6 **成都** 今の四川省の省都、成都市。
8 **前半の二句** この二句は対句になっており、形や意味が似た構成になっている。
11 漢 **茂** しげる
4 漢 **又** また
……又 また
……茂る しげる

3 **故郷** 杜甫が帰りたい故郷とは、都の長安（今の陝西省西安市）である。
7 **黄鶴楼** 昔、仙人の描いた黄色い鶴が壁から抜け出し、仙人を乗せて飛び去ったという伝説から、この仙人を記念して建てられたといわれる。現存するのは一九八〇年代に再建されたもの。
7 **李白** 七〇一―七六二 唐代の代表的な詩人の一人。杜甫と並び称される。
9 **揚州** 長江（揚子江）の下流、江蘇省にある。
12 **武昌** 今の湖北省武漢市の一部。長江中流部にある。
5 漢 **沈** チン しずむ しずめる
12 漢 **楼** ロウ
13 漢 **浪** ロウ
……沈む しずむ
……楼 ロウ
……浪人 ロウニン

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

李白

故人西のかた黄鶴楼を辞し
煙花三月揚州に下る
孤帆の遠影碧空に尽き
唯だ見る長江の天際に流るるを

故人西辞黄鶴楼
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
唯見長江天際流

黄鶴楼は武昌の町にあります。長江を見下ろすこの楼の上で、孟浩然を見送った詩です。二人とも浪人の身の上でした。就職の手づるを求めての旅でしょうか。孟浩然はここから揚

州へ行くのです。「故人」とは古くからの親友のこと。友は、西にあるこの黄鶴楼に別れを告げて、春、かすみ立つ三月に、揚州へと舟で下ってゆく。「煙花」とは春がすみです。旧暦の三月は晩春です。揚州は広陵ともいい、長江下流第一の繁華な都。前半は、なにやら華やかな情景が描かれます。

しかし、後半は華やかさとは逆に、孟浩然の孤独な姿が捉えられます。広い長江の流れにぽつんと一つ浮かんだ帆掛け舟。その白帆の小さな姿がゆるゆると遠ざかる。いつまでもいつまでも黄鶴楼の上で見送る李白。やがて白帆は青空のかなたにふっと消える。後には、ただ天際まで続く長江の水が流れるばかり。こう歌い放つことによって、別離の悲しみは尽きずに漂うのです。



筆者　**石川忠久**　一九三二（昭和七）――二〇二二（令和四）　東京都出身。中国文学者。
著書　「漢詩の世界」「漢詩の風景」「漢詩への招待」「日本人の漢詩――風雅の過去へ」など。
出典　本書のための書きおろし。



黄鶴楼

広がる読書

「漢詩への招待」石川忠久



「漢詩のレッスン」川合康三



4 漢 **暦**
こよみ

旧暦

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果を考えて朗読しよう。［学習活動］

目標
- 古典のものの見方や考え方を知り、漢詩の特徴を生かして朗読する。（知る）
- 漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、構成や表現の効果を考える。（読む）

捉える

1 漢詩に描かれた情景や心情を読み取ろう。

３編の漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取ろう。

読み深める

2 構成や表現の効果を味わおう。

①それぞれの漢詩について、筆者が注目した構成や表現とその効果を、簡潔にまとめよう。
②漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合おう。

筆者の着眼点や、評価のしかたが、作品のよさを伝えるときの参考になりそう。



考えをもつ

3 漢詩の特徴を生かして朗読しよう。

①グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読しよう。
②何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合おう。

振り返る

- **知る**　□漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか。
- **読む**　□漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か。
- **つなぐ**　□朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げてみよう。

律詩について

春望　杜甫

国破れて山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺ぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
烽火三月に連なり
家書万金に抵る
白頭掻けば更に短く
渾べて簪に勝へざらんと欲す

国破レテ山河在リ
城春ニシテ草木深シ
感レ時ニハ花ニモ濺レ涙ヲ
恨レ別レテハ鳥ニモ驚レ心ヲ
烽火連二三月一
家書抵二万金一
白頭掻ケバ更ニ短ク
渾ベテ欲レ不レ勝レ簪ニ

戦乱によって国都は破壊されたが、山と河はそのままにある。
城壁で囲まれた町の中にも春が訪れ、草や木が生い茂っている。
時勢に悲しみを感じては花にも涙を流し、
別れを恨めしく思っては鳥の声にも心を驚かす。
戦乱は三か月間も続き、
家族からの手紙は万金にも値する。
白髪頭をかくとますます抜けて少なくなり、
全くかんざしで冠を留められないほどだ。

「春望」のように八句でできている詩を**律詩**という。律詩は、一句の字数が五字であるか七字であるかによって五言律詩、七言律詩に分けられる。また、第三句・第四句と第五句・第六句が必ず対句になる。対句とは、同じ構成の二つの句を対にして並べる表現技法のことである。「春望」は五言律詩であり、第一句・第二句、第三句・第四句、第五句・第六句が対句になっている。

注
春望＝春の眺め。
国＝国都。長安のこと。
城＝城壁で囲まれた都市。これも長安を指す。
別れ＝戦乱によって家族と別れること。
烽火＝戦いののろし。ここでは、戦乱のこと。
三月＝春三月とする説もある。
簪＝冠を髪に留めるためのピンのこと。

7 価値を語る

自分にとっての価値を見きわめ、伝え合う

君は「最後の晩餐」を知っているか　評論
布施英利

「最後の晩餐」の新しさ　解説
藤原えりみ

思考のレッスン2　具体と抽象

季節のしおり　冬

［話し合い（進行）］話し合いの流れを整理しよう

文法への扉2　走る。走らない。走ろうよ。

立場を尊重して話し合おう
討論で視野を広げる

漢字に親しもう4



色の名前7　檸檬色 ● ｜ 熟したレモンのような、鮮やかな黄色。

君は「最後の晩餐」を知っているか

布施 英利

読む

文章の比較を通して気づいたことや考えたことを話し合おう。［学習活動］

目標

- 表などを用いて、情報を整理する。
- 観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考える。

イタリアの天才画家というと、誰を思い浮かべるだろう。

「春（ラ・プリマヴェーラ）」や「ヴィーナスの誕生」で有名なボッティチェリだろうか。それとも彫刻家でもあったミケランジェロか。十四世紀から十六世紀のイタリアで、ルネサンス美術が花開いた時代、いろいろな天才がいた。しかし、誰もが一番に挙げるのは、やはりレオナルド・ダ・ヴィンチではないだろうか。

「モナ・リザ」や「最後の晩餐」など、レオナルドの絵は、それまでの絵画とは違う、全く新しいものだった。彼は、人体の科学である「解剖学」や、空間の科学である「遠近法」、それに光の科学である「明暗法」などを研究し、新しい絵画を生み出したのだ。

「科学が生み出した新しい芸術」などというと、どこか難しいと思うかもしれない。しかし、イタリアに行って「最後の晩餐」の前に立ったら、どう思うだろうか。私は、この絵を見たとき、なぜか「かっこいい。」と思った。それが名画というものなのか。すばらしい絵の前に立つと、理屈ではなく、まず衝撃がやってくる。それから、じっくりと分析する。分析もまた、名画を味わう楽しみの一つである。

2 **ボッティチェリ** 一四四五―一五一〇 イタリアの画家。代表作に「春（ラ・プリマヴェーラ）」（167ページ）などがある。

3 **ミケランジェロ** 一四七五―一五六四 イタリアの画家・彫刻家。代表作に絵画「最後の審判」（167ページ）、彫刻「ダヴィデ」「ピエタ」などがある。

4 やはり 文

7 漢 剖 ボウ

12 漢 屈 クツ

12 漢 衝 ショウ

解剖学 ボウ

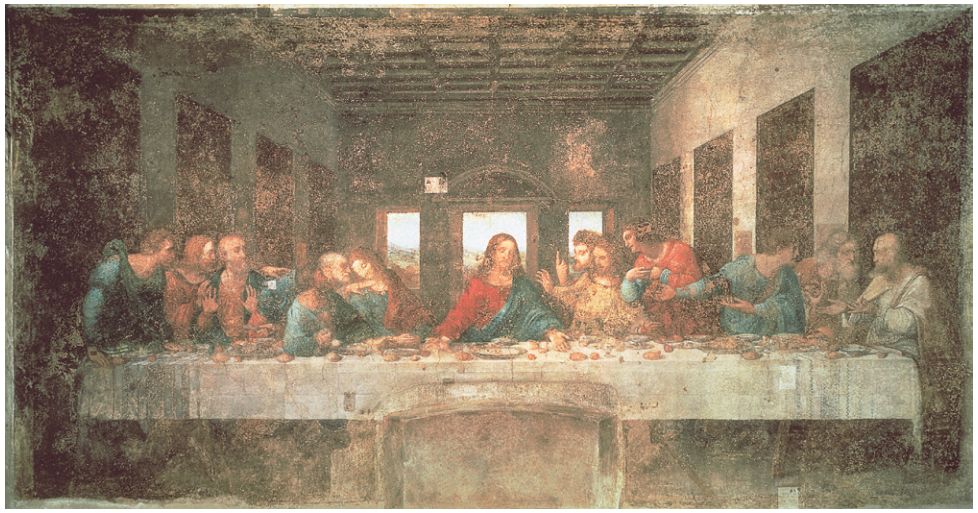
理屈 クツ

衝撃 ショウ

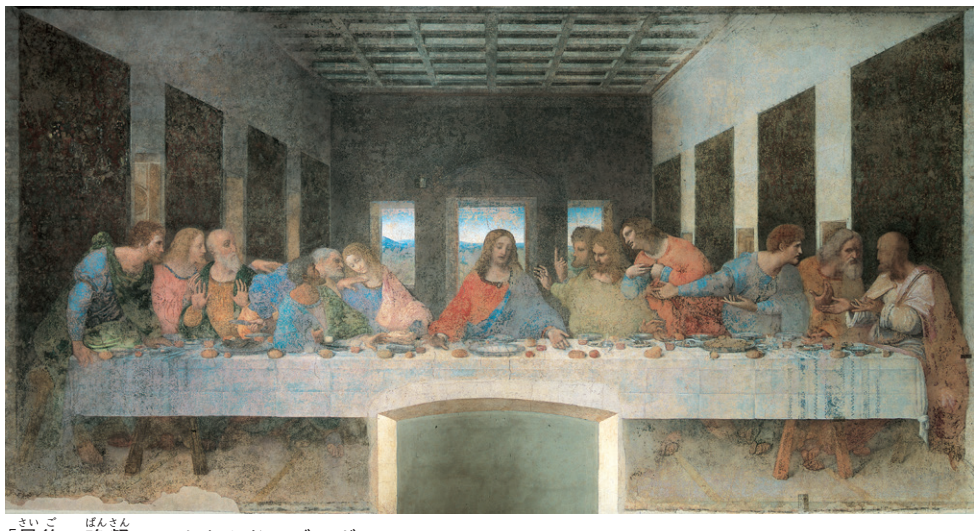
修復前後の「最後の晩餐」

レオナルドの「最後の晩餐」には、1977年から1999年にわたって、大規模な修復が施された。かびやほこりなどの汚れや、後世の画家による加筆部分が取り除かれた結果、描かれた当初の状態にかなり近づいたとされている。

修復前



修復後



「最後の晩餐」レオナルド・ダ・ヴィンチ
420×910cm ／ 1495–98年作
サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院蔵（イタリア）

ルネサンス期に活躍した芸術家たちの代表作

14世紀頃にイタリアから始まった、古典文化を理想として文化の革新を目ざした運動をルネサンスという。人間や自然をありのままに表現した芸術作品が数多く生み出された。



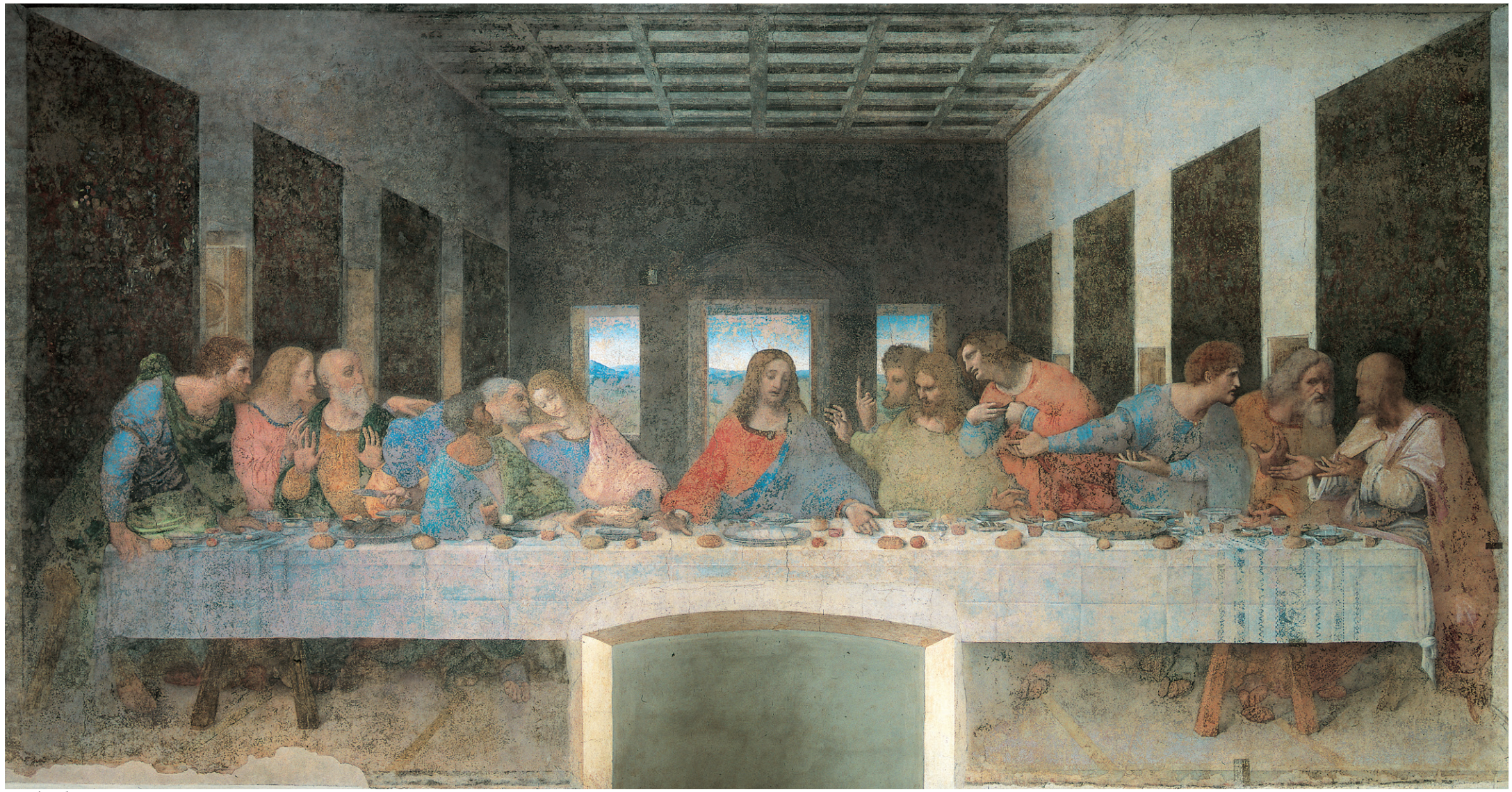
「春（ラ・プリマヴェーラ）」サンドロ・ボッティチェリ
207×319cm ／ 1480年頃作　ウフィツィ美術館蔵（イタリア）



「モナ・リザ」レオナルド・ダ・ヴィンチ
79.4×53.4cm ／ 1503–19年頃作
ルーヴル美術館蔵（フランス）



「最後の審判」ミケランジェロ・ブオナローティ
13.7×12.2m ／ 1535–41年作
システィーナ礼拝堂蔵（ヴァチカン）



「最後の晩餐」レオナルド・ダ・ヴィンチ
420×910cm ／ 1495–98年作
サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院蔵（イタリア）

「最後の晩餐」は、イタリアの北の町、ミラノにある。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の食堂の壁画として、十五世紀末に描かれた。高さ四・二メートル、幅九・一メートルもある巨大な絵だ。

まず目に入るのは、白いテーブルクロスの掛かった食卓、そして食卓の向こうにいる十三人の男。まるで芝居の幕が開いて、舞台の上でドラマが始まったかのようだ。机の上には、パンや魚の料理が載った皿、それに飲み物の入ったコップがある。食事の光景らしいが、誰も飲食をしていない。ある男は両手を広げ、別の男は視線を中央の人物に向けている。

なぜ、誰も食事をしていないのか。それに落ち着き払った中央の人物と、その周りで動揺している男たちは誰なのか。まずは、そんなふうに絵を「読む」ことから分析を始めるのもよい。

人物は、三人ずつのグループと中央の人物というふうに分けて見ることもできる。中央の人物が何か言っている。その言葉が、人々の動揺を誘い、ざわめきが広がる。静かな水面に小石を投げると丸い水紋が広がるように、隣の人物へ、さらに隣の人物へと、動揺が伝わる。何かが、起こっている。この絵の人物の構図から、そんなことが感じられる。

中央にいるのがキリストである。彼は、弟子の一人に裏切られ、やがて磔になる。ここに描かれている場面は、裏切りがある、という予言を耳にした弟子たちが驚き、ざわめいているところだ。明日、キリストは磔刑になる。だから、これが「最後の晩餐」なのだ。

弟子たちの動揺は、手のポーズにも表れている。たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。手のポーズは心の動きを表すが、ここにはいろ



2 **ミラノ**　イタリア北部の都市。服飾・繊維産業で知られる。

2 **サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院**　キリスト教の宗派の一つであるカトリック教会の聖堂。修道院は、修道士または修道女が一定の規律を守り共同生活を営む場所のこと。

5 漢 **卓**　タク
……食卓　タク

6 漢 **芝**　しば
……芝居　しばい

14 漢 **紋**　モン
……水紋　モンよう

16 音 **弟子**（デシ）

18 漢 **刑**　ケイ
……磔刑　ケイ

いろな手があり、いろいろな心の動きがある。驚き、失意、怒り、諦め……。まるで手のポーズの見本帳である。それは、手に託された心の動きの見本帳でもある。

レオナルドは、どうしてこんなにもうまく、いろいろな手を描くことができたのだろうか。実は、彼は人体の解剖を通して骨格や筋肉の研究をし、人の体がどのような仕組みでできているかを知り尽くしていた。だから、手だけでなく顔の表情や容貌も、一人一人の心の内面までもえぐるように描くことができた。

さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ。壁のタピスリーや天井の格子模様を見てみよう。壁がだんだん狭くなって、タピスリーも奥にいくほど小さくなる。これが遠近法だ。レオナルドは、絵画の遠近法を探究し、それをこの絵で完成させた。この絵には、遠くのものは小さく見えるという、遠近法の原理が使われている。室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描くことで、部屋に奥行きが感じられるようになる。

遠近法には、さらに別の効果もある。壁のタピスリーや天井の格子など、奥に向かって狭まっていく線を延ばしていくと、その線は一つの点に集まる。これを遠近法の消失点というが、なんと、その点の位置が、キリストの額なのだ。これにより、絵を見る人の視線は自然とキリストに集まっていく。この絵の主人公は、キリスト。誰が見ても、そう思わせる効果がある。遠近法という絵画の技法が、そこに描かれた人物たちの物語を、ドラマチックに演出している。これは、描かれた絵が偶然そうなったということではない。レオナルドは、明らかに計算をしてこの絵を描いたのだ。その証拠に、キリストの右のこめみには、くぎの穴の跡がある。このくぎから糸を張って、あちこちに延ばし、画面の構図を決めていったのだ。まるで設計図のような絵ともいえる。



レオナルドが描いた筋肉の解剖図

また、レオナルドは、光の効果も緻密に計算していた。描かれた部屋の白い壁を見ると、右側には光が当たり、左側は影になっている。この壁画は食堂の壁に描かれているが、描かれた部屋の明暗は、食堂の窓から差し込む現実の光の方向と合致している。そのため、壁に描かれた部屋は、あたかも本物の食堂の延長にあるようにすら見える。

このように、遠近法や光の明暗の効果を合わせて用いることで、絵に描かれているのが本物の部屋であるように見えてくる。だから、かつての修道士たちのように、こんな部屋で食事をしたら、まるでキリストたちといっしょに晩餐

7 タピスリー　絵柄を織り込んだ布製の壁掛け。

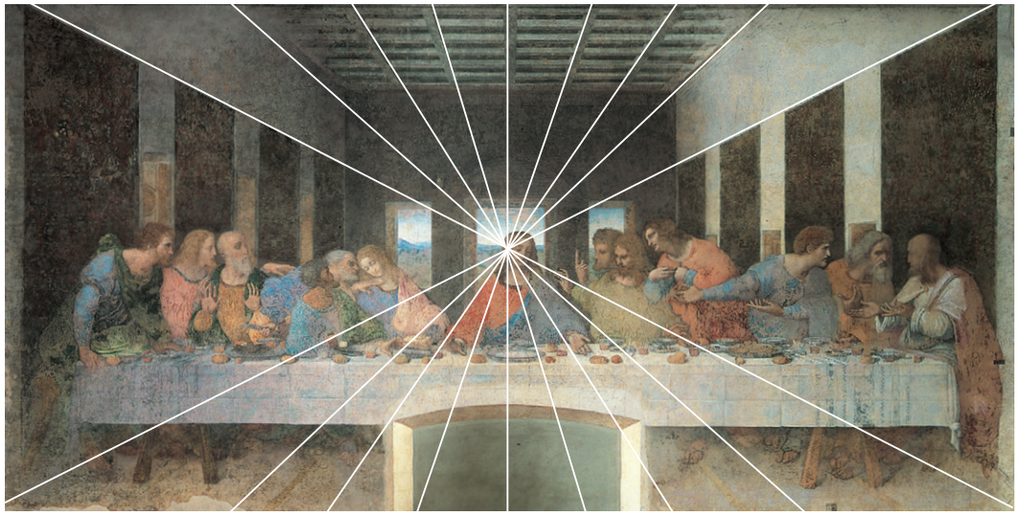
1 失意 対

10 原理 意

5 漢 貌（ボウ）　容貌

7 音 天井（テンジョウ）

8 漢 狭（キョウ）（せまい・せばめる・せばまる）　狭い



1 偶然 対

8 漢 緻（チ）

緻密（チミツ）



絵が描かれた当時、食堂だった部屋。現在は閉鎖されているが、当時は左側の窓から光が差し込み、右側の壁を照らしていた。

をしているような気持ちになるにちがいない。

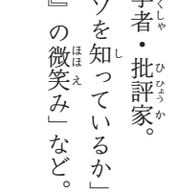
解剖学、遠近法、明暗法。そのような絵画の科学が、それまで誰も描かなかった新しい絵を生み出した。レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性を目のあたりにできること。これが、「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思わせる一つの要因だろう。

ただ、残念なことに、この絵は描かれてから五百年もたって、今では絵の具が剝げ落ち、ぼろぼろになってしまった。そこで、絵の修復が行われた。

「最後の晩餐」の修復が終了したのは、一九九九年五月のことだ。それまでかびやほこりで薄汚れて、暗い印象のあった絵から、鮮やかな色彩がよみがえった。しかし、絵の細かいところはわからない。レオナルドが描いた細部は、既に剝がれ落ちて、消えてなくなっていた。修復の作業は、あくまで汚れを落とすことと、現状の絵をそのままに保護することだ。だから修復された絵には、もう細かい描写はない。今、私たちが見ることができるのは、その絵を眺めると、文句がないほどに魅力的なのだ。確かに細部は落ちて、消えてなくなっている。しかし、そのためにかえって、絵の「全体」がよく見えるようになった。人物の輪郭が作る形。その連なり。絵の構図がもっている画家の意図。つまり、レオナルドが、絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。だから、いきなり「かっこいい。」と思えるのだ。

逆に、絵が完成したばかりの頃、それを見た人たちは、細部の描き込みのすごさに息をのんで、感嘆したのかもしれない。しかし、そういうものに目を奪われて、この絵がもっている本当の魅力が「見えなかった」。そんなことがあったのではないか。そして細部が剝げ落ち、ぼんやりした形の連なりだけが残った。修復は、そのような「全体」をより明快に見えるようにした。だとしたら、本当の「最後の晩餐」は、二十一世紀の私たちが初めて見たのかもしれない。レオナルドが描きたかったのは「それ」なのだ。

「最後の晩餐」は、建物の壁に描かれている。だから、レオナルドが暮らし、この絵を描いたミラノの町でしか見ることができない。君もいつか、イタリアを旅して、この絵を自分の目で見てほしい。五百年も昔に描かれた名画は、二十一世紀の今も生きている。芸術は永遠なのだ。



筆者インタビュー

筆者　**布施英利**　一九六〇（昭和三五）――　群馬県出身。芸術学者・批評家。

著書　「君はレオナルド・ダ・ヴィンチを知っているか」「君はピカソを知っているか」「京都美術鑑賞入門」「絵筆のいらない絵画教室」「『モナリザ』の微笑み」など。

出典　本書のための書きおろし。

5 目のあたり 文
17 あくまで 文
4 訓 究める（きわめる）
10 漢 剝 ハク はがす はぐ はがれる はげる
剝げ落ちる

3 駆使 意
6 感嘆 意
6 目を奪われる 関 目を凝らす 目を留める 目を引く
2 漢 郭 カク
輪郭
6 漢 嘆 タン なげく なげかわしい
感嘆

漢字の練習

広がる読書

「構図がわかれば絵画がわかる」布施英利



「ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』はなぜ傑作か？」高階秀爾



解説

レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晩餐」の新しさ

目標

- 表などを用いて、情報を整理する。
- 観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考える。

作品の成立年代
（解説文中）





1「最後の晩餐」作者不詳　6世紀作
サンタポリナーレ・ヌオーヴォ聖堂蔵（イタリア）

レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晩餐」は、ミラノのサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院に描かれた壁画である。レオナルドの作品の中では最大、かつ希少な完成作品であり、ルネサンスを代表する美術作品の一つとされる。

「最後の晩餐」は、古くからキリスト教の重要な主題として描かれてきた。でも、それまでの絵画と比べて、レオナルドの何がそれほど新しかったのだろうか。

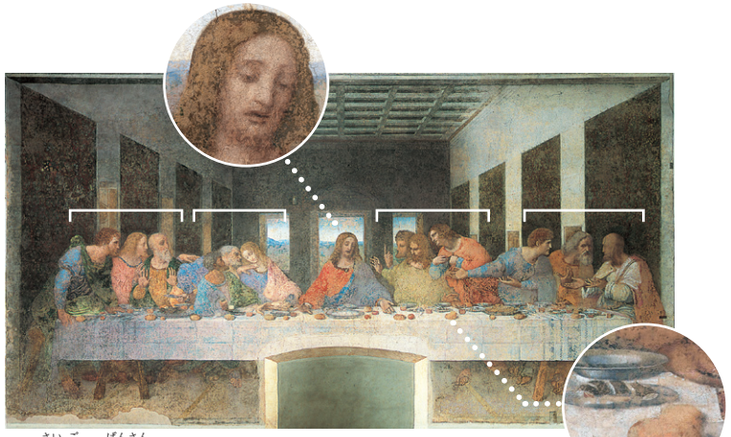
過去の作品（1）（2）を見て、まず気づくのは、十三人が食卓を囲む構図の難しさである。人物を重ねたり背を向かせたりと、画家たちは何世紀もの間、試行錯誤を繰り返してきた。やがて、裏切り者のユダのみを食卓の手前に配置する構図が考案され、カスターニョの作品（3）に見られるように、空間には奥行きが生まれ、人物の感情表現も豊かになった。



2「最後の晩餐」ジョット・ディ・ボンドーネ
1304－05年作／スクロヴェーニ礼拝堂蔵（イタリア）



3「最後の晩餐」アンドレア・デル・カスターニョ　1447年頃作　サンタポッローニア修道院蔵（イタリア）



4「最後の晩餐」レオナルド・ダ・ヴィンチ
420×910cm／1495－98年作
サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院蔵（イタリア）

だが、この作品と比べてもレオナルドの構図（4）は画期的だ。奥行きは格段に増し、キリストの左右に三人ずつに分けて配置された使徒たちは、裏切り者を詮索したり、キリストを問い詰めたりと、画面にドラマチックな動きを与えている。

動きの少ないカスターニョの作品とは対照的だ。激情を表す腕の動きやまなざしには、構図上独立し、静けさを保つキリストに視線を誘導する効果もある。

もう一つ画期的だったのは、人物の頭部に光輪を描かなかったことだ。聖書の中の出来事を、臨場感あふれる現実の情景として描こうとしたのだろう。

一九九九年、約二十年に及ぶ修復作業が完了し、後世の画家が上描きした絵の具や汚れ、かびが取り除かれた。その結果、絵の具の剝落は多いものの、言葉を発した直後のキリストの唇が開いていること、食卓の上の魚やパン、金属やガラスの器、テーブルクロスの折り目や壁掛けの花模様に至るまで、きわめて緻密に描写されていたことが明らかになった。

完成したばかりの壁画を見た、当時のフランス国王は、「この絵を国に持って帰りたい。」とつぶやいたという。レオナルドの「最後の晩餐」は、何よりその新しさで人々を驚かせ、魅了したのだ。

（美術ジャーナリスト　藤原えりみ）

179ページ 文章の比較 ／ 129ページ 論理の展開の吟味 ／ 51ページ 文章と図表

比べると、見えないものが見えてくる。

【文章を比較することの効果】
- 題材や内容への理解が深まる。
- その文章の特徴が明らかになる。
- それぞれの筆者の対象への見方や、述べ方の違いが浮かび上がる。

【比較するときの留意点】
- 同じ観点で比較する。
- 比較して気づいたことを伝えたり、検討したりするときには、どの観点で比較したかを明確にする。

【学習で用いる言葉】
比較　二つ以上のものを照らし合わせ、一定の観点から共通点・相違点を見いだしたり、比べたりすること。

278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

学びのカギ

観点を明確にして文章を比較する

【二つの文章を比較する】

表に整理すると、観点ごとに比較しやすい。

観点		君は「最後の晩餐」を知っているか	「最後の晩餐」の新しさ
①内容	作品への評価	・かっこいい	・新しい
	指摘された「新しさ」	・解剖学 ・遠近法……	・構図 ・
②形式	文章の種類	・評論	・解説
	説明のしかた	・評価→分析	・他の作品との比較

①書かれている内容を観点にして比較する。
例 ・「最後の晩餐」を、それぞれどんな言葉で評しているか。
・「新しさ」として、それぞれどんなことを指摘しているか。

②文章の形式や書き方を観点にして比較する。
例 ・それぞれの文章の種類は何か。
・「最後の晩餐」の魅力をどんな方法で説明しているか。

言の葉ポケット

本文の中から、文章や作品を評価するときに使える言葉を探し、書き留めよう。

学びへの扉

見通しをもつ

文章の比較を通して気づいたことや考えたことを話し合おう。［学習活動］

目標
- 表などを用いて、情報を整理する。（知る）
- 観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考える。（読む）

捉える

1 二つの文章を比べながら読み、内容を捉えよう。

①次の観点で本文に印を付けながら、二つの文章を通読しよう。
・筆者の着眼点　・筆者が端的に「最後の晩餐」を評した言葉

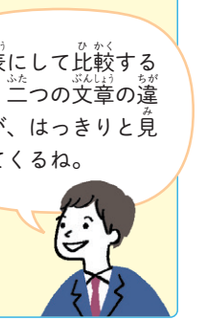
②「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者は、なぜ「最後の晩餐」を「かっこいい」と思ったのか。本文中の言葉を使って説明しよう。

③「『最後の晩餐』の新しさ」で筆者が指摘する「新しさ」とは何か。本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げてみよう。

読み深める

2 文章を比較し、気づいたことを話し合おう。

次の観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合おう。
・「最後の晩餐」の魅力を説明する方法（説明のしかた）。
・文章の書き方や、表現の特徴。



考えをもつ

3 筆者の意図や目的を考えよう。

筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか。文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考えよう。

振り返る
- 知る　□文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか。
- 読む　□同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか。
- つなぐ　□文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げてみよう。

情報 思考のレッスン2

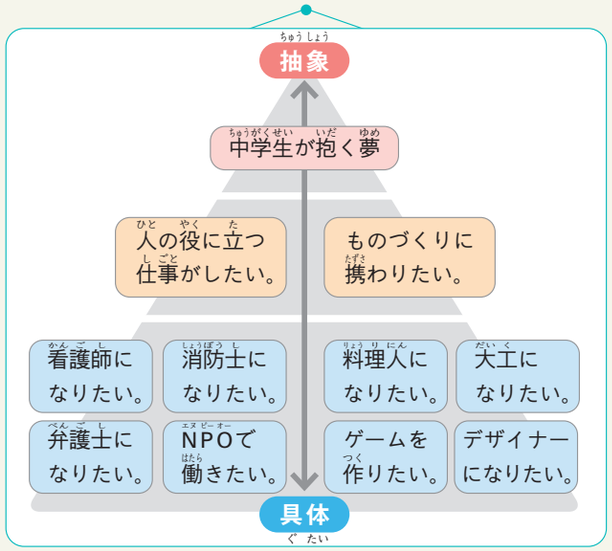
具体と抽象

思考のレッスン1 根拠の吟味 ➡ 130ページ

情報整理のレッスン 思考の視覚化 ➡ 52ページ

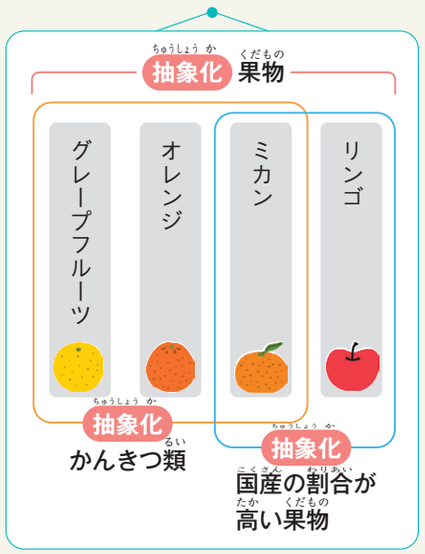
■具体と抽象

言葉を聞いて、形や内容が明確に思い浮かぶ物事を**具体**といい、複数の物事に共通する要素（特徴や性質など）をまとめたものを**抽象**という。



■「抽象化」とは

「抽象化」とは、複数の具体物・具体例から共通の特徴を取り出してまとめることだ。色や形、性質など、さまざまな観点で抽象化することができる。



どの特徴に注目するかでまとめ方が変わってくるね。



■具体化と抽象化を生かして伝え合う

考えを伝え合うときには、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと、理解が深まる。抽象的な話には、具体例を添えると意図が伝わりやすくなる。反対に話が細部に入りすぎたときには、いったんまとめて抽象化し、話の全体像や目的を確認するとよい。

私の学校は、とてもすてきなんだよ。



どんなところがすてきなの。



具体化のための言葉
- 例えば、……。

抽象化のための言葉
- つまり、……。
- すなわち、……。
- 要するに、……。

具体化のための言葉
- 具体的には、……。
- 例えば、……。
- このように、……。

[具体的な事例を挙げる]

例えば、校舎の階段や廊下の壁には手すりが付いているし、廊下には休憩できるベンチが置いてあるんだ。玄関の階段の横には、スロープがある。それから最近、教室の入り口の段差をなくす工事もしていたよ。



[抽象化してまとめる]

つまり、校舎に、誰もが使いやすく、安全に利用できるような工夫がなされているということだね。



チェックポイント

考えを伝え合うときには、次のことに気をつけよう。

- ☑ 説明する内容について、相手が理解しやすいような具体例を示しているか。
- ☑ 話を言い換えたり、まとめたりするときは、具体的な情報を基にして抽象化をしているか。

問題1 ▼ 山口さんは、自分が住むK市について、次の三つの新聞記事を見つけた。この三つの情報から、まとめとしてどんなことがいえるだろう。「このように」という言葉に続けて書いてみよう。

記事① 全国の自治体に先駆けて、高校生までの子供の医療費を無償化した。

記事② 小学校に入学する全ての児童にランドセルを無償で支給している。

記事③ 子供が安心して遊べる児童館や公園を増やす取り組みをしている。

問題2 ▼ 次の言葉の意味を、「例えば」という言葉を使って、具体例を挙げながら説明してみよう。

① 未熟
② 誠実
③ 楽観的
④ 肩の荷が下りる
⑤ 我を忘れる

新出漢字

180 療 リョウ

181 玄 ゲン

漢字の練習

季節のしおり 冬

あなたが冬を感じるものは、何だろうか。みかんの香り、冬木立、何気ない会話の中のぬくもり……。作品に描かれた情景の中に、冬を感じてみよう。

冬の行事と暦

- **冬至**……十二月二十二日頃。ゆず湯に入ったり、かぼちゃを食べたりする風習がある。
- **すす払い**……正月を迎える準備として、年末にすすやほこりを払い、大掃除をすること。
- **追儺**……悪鬼や疫病を追い払う行事。現在は節分に行われるが、元は大みそかの夜に行われた。

街をゆき子供の傍を通る時

木下利玄

蜜柑の香せり冬がまた来る

斧入れて香におどろくや冬木立

与謝蕪村

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

俵万智



話す聞く

［話し合い（進行）］

話し合いの流れを整理しよう

話し合いで一定の結論を導き出すためには、進行役が全体の流れを整理することが大切だ。ここでは、意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて整理する練習をしよう。



▼二次元コードの動画を視聴しよう

台本は184ページ

美化委員が、年末の大掃除で重点的に掃除をする所を決めようとしている。進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴し、下の問題に取り組もう。

やってみよう

1. **進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめよう。**

では一度、みんなの意見をまとめます。

2. **184ページ下段のポイントを参考に、1でまとめた意見を見直そう。**

3. **2で気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合おう。**

［話し合いの様子］

進行役　今日は、大掃除でどこを重点的に掃除するかを決めましょう。何か意見はありますか。では、野口さん。

野口　窓ガラスはどうでしょう。いつもは時間がなくて拭けないので、この機会に掃除をしてはどうかと思います。

田中　いいですね。僕の教室の窓ガラスも、最近、土ぼこりが目立つなと思っていました。そうだ。土ぼこりといえば昇降口はどうですか。

今西　普段の掃除の時間にも、昇降口の掃除はしていますよね。特別、大掃除で取り上げなくてもいいんじゃないですか。

田中　確かにそうですね。普段は掃除をしない所に重点を置くといいのかもしれません。

今西　では、例えば、美術室はどうですか。石こう像などの備品の下に、ほこりがたまっています。全ての備品を一度教室の外に出して棚や床を拭いたら、きれいになるんじゃないでしょうか。

田中　それなら、美術室を含めた全ての特別教室で、普段は動かさない備品を外に出して掃除をするのはどうですか。

野口　なるほど、それはいい案ですね。

今西　私も、それがいいと思います。

進行役　では一度、みんなの意見をまとめます。（後略）

話し合いの流れを整理するために

進行役の役割

- 話し合いで出た意見や、その数を確かめる。
  例「これまでに、○つの意見が出ました。」
  「○○と□□という意見が挙がりました。」
- それまでに出た意見の共通点と相違点を整理する。
  例「○○と□□は、……という点で共通しています。」
  「○○と□□は、……という点で異なっています。」
- それまでに出た意見について、参加者がどのように評価・判断しているのかを、観点に則してまとめる。
  例「○○という観点から、□□と△△という意見が残りました。」
  「○○という観点から、□□が最もふさわしいと考えている人が多いようです。」



文法への扉 2

走る。走らない。走ろうよ。

左の例のように、「走る」は、後に付く語によって形が変化する。「歩く」「笑う」「起きる」「食べる」は、どのように変化するだろう。



文法ワーク

動詞「走る」の後に、それぞれ「ない」と「ば」を付けた表を見てみよう。

	—ない	—ば
走る	走らない	走れば
歩く	歩かない	歩けば
笑う	笑わない	笑えば
起きる	起きない	起きれば
食べる	食べない	食べれば

「走る」「歩く」「笑う」「起きる」「食べる」の共通点がありそうだ。これら三つとは変化のしかたが異なる。このような、語の形の変化には、どのような規則性があるのだろうか。

「文法2 用言の活用」を読んで、動詞・形容詞・形容動詞の語の形の変化のしかたについて整理しよう。

文法2 用言の活用（246〜250ページ）

1 活用

2 用言の活用
1 動詞の活用
2 形容詞・形容動詞の活用

話す 聞く

立場を尊重して話し合おう

討論で視野を広げる

それぞれの立場から意見を述べ、互いの意見の違いなどを踏まえて論じ合うことを討論という。ここでは、立場を決め、互いの意見を尊重しながら討論することを通して、自分の視野を広げよう。

282ページ 発想を広げる

表現 テーマ例集

目標
- 意見を裏づけるための、より適切な根拠の在り方について考える。（知る）
- 異なる立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。（話・聞）

集める・整理する

1 テーマについて情報を集める

- テーマと用語の定義を全体で確認する。
- 各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。

組み立てる

2 立場に分かれ、考えをまとめる

- 立場（肯定側・否定側）を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。

伝え合う

3 グループで討論する

- 司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。（グループの中で役割を交代しながら討論を行うとよい。）

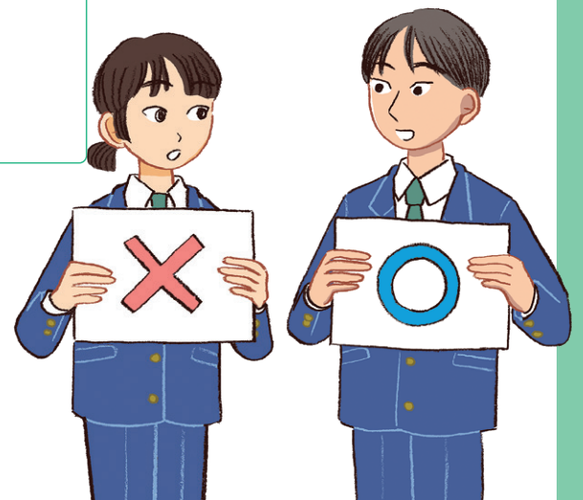
共有する

4 討論を振り返る ICT

- 相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。
- 司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。

振り返る 189ページ

生かす
- 日常 生徒会からの提案について是非を検討する。
- 将来 地域の問題について討論する。



233ページ 学びの価値づけ
187ページ 立場の尊重
116ページ 質問
33ページ 資料や機器

学びのカギ

互いの立場や意見を尊重する

- 討論で用いる用語の定義を確認し、全体で共通理解を図る。
- 自分たちの意見を裏づける根拠（客観性の高い事実）を複数集め、意見と適切に結び付けて話す（理由づけ）。
- 相手側がどのような根拠を基に意見を述べているのかに注意して聞く。意見の背景を理解することで、互いの発言を多角的に検討したり、話し合いを円滑に進行したりすることができる。
- 相手側の意見と自分たちの意見を比較し、共通点や相違点、論点を明確にして、質問したり反論したりする。

280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

討論のテーマと用語の定義

テーマ 今よりもオンライン授業を増やすべきである。

【この討論での定義】
学校から配信された授業の動画を自宅で視聴すること。
（オンライン授業のうち、ここでは特に動画配信型の授業について話し合う。）

討論の概要

肯定	立場	否定
オンライン授業を増やすべきである。	意見	オンライン授業を増やすべきではない。
わかるまで繰り返し視聴し、復習できる。	理由づけ	多様な意見に耳を傾ける機会が減る。
① 大学が行った学生アンケートの結果 ② 新聞記事（大学教授のコメント）	根拠（事実）	① クラスで行ったインタビューの結果 ② ……



■ 討論をする

テーマ　今よりもオンライン授業を増やすべきである。

【この討論での定義】学校から配信された授業の動画を自宅で視聴すること。

ICT 録画して振り返る

341ページ

討論の流れ

1 次の点を確認（司会） 肯定側
- テーマ、用語の定義
- 討論の流れ

2分

2 肯定側意見 肯定側
- 立場とメリットを簡潔に述べる。
- 根拠となる事実や体験を述べる。
  - →最初に根拠の数を示す。
  - →「一つ目は」「二つ目は」など、数字で整理する。



僕たちは、「オンライン授業を増やすべきである」と考えます。なぜなら、学校で決められた時間に視聴した後も、わかるまで繰り返し視聴し、復習できるからです。

根拠となる資料を二つ示します。

一つ目は、二〇二〇年度に東風大学が行った「オンライン講義に関する学生アンケート」です。「オンライン講義を受講してよかったと思うこと」の第三位に、「何度でも復習できる」点が挙がっています。

二つ目は、二〇二一年十月三日の照葉新聞です。オンライン授業のメリットは、学生が「授業を何度でも見返すことができ、復習しやすい」ところにあるという、大学教授のコメントが紹介されていました。

このように、授業を受ける側も、教える側も、「復習しやすい」という点にメリットを感じています。

これらは大学での事例ですが、中学校でも同じような効果を期待できます。オンライン授業なら、繰り返し視聴できるだけでなく、自分が必要とする部分に焦点を絞って学習できるからです。視聴する部分や回数を自分で決めることができれば、効率的に学習でき、知識の定着や苦手分野の克服にもつながると考えます。



3 否定側質疑 否定側
- 相手側の意見や根拠について質問する。
  - →相手の意見のどの部分について質問しているかを明確にする。

肯定側は、「わかるまで繰り返し視聴し、復習できる」と主張していますが、何度見ても説明されている内容が理解できないときには、どうすればいいのでしょうか。



4 否定側意見 否定側
- 具体的な数字を出す。

私たちは、「オンライン授業を増やすべきではない」と考えます。なぜなら、オンライン授業が増えると、そのぶん、対面型の授業が減り、友達や先生の多様な意見に耳を傾ける機会が減ってしまうからです。

根拠として、クラスで行ったインタビューの結果を示します。無作為に選んだ十五人に、「対面で学ぶことのよさ」を三つ、挙げてもらいました。その結果、十五人中、十人もの人が、一番に……（後略）



5 肯定側質疑 肯定側
- 1分

6 作戦タイム 肯定側
- 2分

7 否定側反論 否定側
- 2分

8 肯定側反論 肯定側
- 相手側の意見を引用しながら、自分たちの考えを述べる。

否定側は、「オンライン授業が増えると、多様な意見に耳を傾ける機会が減る」と主張しますが、私たちは、オンライン授業を増やしても、交流の機会は減らないと考えています。例えば、先生の解説が中心の授業は動画で配信し、それを基に考えたことを対面で交流するといった工夫をすれば、交流の時間が減ることはありません。さらに、あらかじめ自分の意見をもって参加できるので、議論の質も高まると考えます。

9 振り返り 肯定側・否定側
- 肯定側・否定側
- 司会

2分

9 振り返り
- 否定側の振り返り
  - →自分の考えの変化を伝える。

僕は否定の立場でしたが、自分が必要な部分に焦点を絞って視聴することで学習効率が上がるという、肯定側が主張するメリットには共感しました。



- 司会の振り返り
  - →それぞれのよかった点を伝える。

肯定側は、根拠となる事実を複数示していて説得力がありました。否定側は、クラスのみんなにインタビューをして、対面の授業のよさを分析したところがいいと思いました。



振り返る

知る	□意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気をつけたか。
話す・聞く	□異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか。
つなぐ	□実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げてみよう。

漢字に親しもう 4

1 新しく習う漢字 308ページ

次の——線部の熟語を読もう。

①平和条約を批准する。【漢字の読み（歴史）】［　　］
②校外学習で古墳に行く。［　　］
③羅針盤の発明。［　　］
④狩猟や採集で生活する。［　　］
⑤内乱が勃発する。［　　］
⑥凄絶な戦いの痕跡。［　　］
⑦朝廷に権力が集中する。［　　］

2

次の——線部の言葉を読もう。

①洞窟を探検する。【漢字の読み（自然）】［　　］
②さんご礁の保全に取り組む。［　　］
③冥王星は一九三〇年に発見された。［　　］
④空気中の気体の約八割は窒素だ。［　　］
⑤岬に灯台が立っている。［　　］
⑥丘陵から景色を眺める。［　　］
⑦大気圏に突入する。［　　］

3

次の□に合う漢字を〈　〉から選ぼう。【同じ音読みの漢字】

①オク〈憶・臆〉　(ア)□病　(イ)□記
②カイ〈楷・階〉　(ア)□段　(イ)□書
③テイ〈邸・抵〉　(ア)□抗　(イ)□宅
④ガイ〈骸・該〉　(ア)□骨　(イ)□当
⑤タク〈拓・択〉　(ア)開□　(イ)□選
⑥ヒツ〈泌・必〉　(ア)□然　(イ)□分

4

次の□に合う漢字を下の□から選び、意味を調べよう。【慣用句・ことわざ】

①□に金棒　意味［　　］
②□に真珠　［　　］
③□の一声　［　　］
④□に風　［　　］

鶴　鬼　柳　豚

5

次の——線部は〈　〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。【同じ部首の漢字】

①〈口〉
委嘱［　　］　呪縛［　　］
示唆［　　］　喉元［　　］
②〈水〉
沼地［　　］　汎用［　　］
肥沃［　　］

6

新しく習う音訓　・は中学校で学習する音訓 321ページ

次の□に合う漢字を〈　〉から選ぼう。【同じ読みの漢字】

①お歳□を贈る。〈墓・暮〉
②衣□を変える。〈装・粧〉
③優勝するのは至難の□だ。〈技・業〉
④秘密を□露する。〈爆・暴〉
⑤福□をもたらす。〈韻・音〉

7

次の——線部の漢字を、（　）内の読みとの違いに注意して読もう。【同じ漢字の読み】

①乳飲み子をあやす。（牛乳）［　　］
②住所に大字が付く。（文字）［　　］
③故あって、退出する。（故障）［　　］
④程よいところで切りあげる。（程度）［　　］
⑤頭文字を大文字で書く。（頭脳）［　　］
⑥失敗を気に病む。（病院）［　　］

新出漢字

190 猟 リョウ	190 勃 ボツ	190 窟 クツ	190 陵 リョウ（みささぎ）	190 圏 ケン	190 礁 ショウ	190 凄 セイ	190 墳 フン
190 岬 みさき	190 邸 テイ	190 鶴 つる	190 該 ガイ	190 鬼 キ おに	190 柳 リュウ やなぎ	191 唆 サ（そそのかす）	191 呪 ジュ のろう
190 洞 ドウ ほら	190 珠 シュ	190 骸 ガイ	190 該 ガイ	191 沼 ショウ（ぬま）	190 痕 コン あと	190 羅 ラ	191 沃 ヨク
190 准 ジュン	190 凄 セイ	190 墳 フン	190 圏 ケン	190 礁 ショウ	190 冥 メイ（ミョウ）	191 汎 ハン	190 臆 オク
190 勃 ボツ	190 窟 クツ	190 陵 リョウ（みささぎ）	190 骸 ガイ	190 該 ガイ	190 拓 タク	190 臆 オク	190 楷 カイ
190 廷 テイ	190 窒 チツ	190 楷 カイ	190 泌 ヒツ（ヒ）	191 嘱 ショク	191 盤 バン		

漢字一覧表

いつも本はそばに

読書

「自分らしさ」を認め合う社会へ

社会の中で互いの違いを認め合い、一人一人が自分らしく生きるために、必要なことは何だろうか。読書を通して考えてみよう。

父と話せば

温 又柔



筆者 温 又柔 一九八〇（昭和五五）――
台湾の台北市生まれ。小説家。
著書 「台湾生まれ 日本語育ち」「『国語』から旅立って」など。

温又柔さんは台湾出身の両親の元に生まれ、三歳になるまで台湾で過ごした。その後、日本に移り住み、現在は、日本語で小説などの執筆を行っている。

父は、台湾にいるときに独学で日本語を学んだ。受験勉強をする要領で、日本語文法や例文をひたすら暗記した。父と話すときはいつも、語学書の例文のような日本語が返ってくる。

「君は、我が家で最も日本語が上手です。」

父の言葉は、幼い私を有頂天にさせた。当時、平仮名と片仮名を覚えたうれしさから私は、読める文字を見つけるたび、声を出したがった。本を開く私に、読んでください、と父が促す。私がすらすらと読んでみせると、すごいですね、と褒めてくれる。（このおうちで、私はいちばん日本語が上手！）

台湾人の両親は、私や五歳年下の妹に、もっと中国語をしゃべりなさい、とか、決して中国語を忘れないように、とか言ったことがない。それどころか父は、

「我們孩子的日語，說得比我們還流利（うちの子たちは、僕たちより日本語が流暢なんだ）！」

と叔父や叔母たちに誇ってみせる。

父にしてみれば、私たち姉妹の中国語が台湾人にしてはたどたどしくても、日本ですくすくと育っているのなら、その

ほうが安心だし、それで十分だと考えていたのだ。日本人の知人から、娘さんたちはまるで日本人ですね、と言われたときもこんなふうに応じていた。

「私の子供たちの①母語は、日本語ですよ。」

「如果爸爸一直叫我一定要学好中文、我大概不会想学习中文（もしもパパから絶対に中国語をやりなさいってうるさく言われてたのなら、かえってやる気をなくしていたかもしれない）。」

「也許吧（そうかもしれないね）。」

上海で再会した私たち父娘は、珍しく中国語で会話をしていた。語学留学生として滞在中、父に会いに行った二十歳のときのことだ。九〇年代後半から父の出張が増えた。上海も、父が頻繁に出向いた街の一つだった。

「妳最近學習怎麼樣（調子はどう）？」

父がそう切りだしたので、それなら私も中国語をしゃべろうと努めたのだ。

「不錯（好調ですよ）！」

私は知る限りの単語を駆使してつなぎ合わせながら父としゃべる。話しながらも、自分の中国語は日本語の文章を直訳する調子だと感じる。次から次へと頭に浮かぶ日本語を、いちいち中国語に直すのをじれったく感じる。とうとう私は音を上げて日本語になる。

「ずっと中国語だけをしゃべるのって難しい。もっとがんばらなくちゃ……。」

父も日本語に切り替える。

「君の中国語、なかなか上手でしたよ。」

全くパパときたら、と私は苦笑する。娘にとことん甘いのだから。

そんな父に、中国語で叱られたことが一度だけある。上海に留学する数年前、家族四人で台北の食堂に入ったときのことだ。愛想のない店員が、さっさと座れ、といった調子で空いている席を指さす。注文を取る間も終始仏頂面で、お手ふきをください、と頼んでも、そんなものはない、とにべもない。彼女が人数分のおわんと箸を投げるようにこちらへよこすさまを見ていよいよ辟易した私は、

「日本じゃありえないよね。」

とささやいた。その私の口調や表情に、たぶん、蔑むようなものがにじんでいたのだ。これだから日本のほうが台湾よりもずっと優れているんだ、といったようなものが。

「日本と台湾は文化が違う……不要擺那副臭臉！」

そんな顔をするな、という日本語がとっさには思いつかなかったのだろう。それを中国語で父は言った。そして、その

勢いのまま中国語で続けた。

「それぞれ文化が違うんだ。自分の基準を押し付けて、それに当てはまらないからといって、相手のことを見下すような態度を取るんじゃない。」

今でも、あのときの怒気を含んだ父の声をはっきりと思い出せる。父が言わんとすることを日本語によって何度もかみ締め、猛省したときの心境とともに。

②一昨年の暮れ、私にとって一冊目となるエッセー集「台湾生まれ　日本語育ち」が刊行された。父は叔父や叔母たちに、「這一本書、主角就是我老婆（この本の主役は、僕の妻なんだよ）！」と私の本を説明した。かつて、僕の娘たちは僕らよりもずっと日本語が流暢なんだ、と皆に語っていたときとそっくりな調子で。

たとえ娘たちが相手でも日本語を話すときは徹底的に日本語のみをしゃべろうと努める父とは対照的に、私の母は聞き手が娘だけなら三つの言語――日本語と中国語と台湾語――をおおらかに織り交ぜる。「ママ語」と称したそんな母の言葉こそが自分の母語なのだと発見するまでの過程を、私はその本に書いた。

「複数のものが出会います。それぞれが混ざります。文化はおもしろくなります。そう、君のママの言葉のようにね……。」

昔から変わらない「です・ます調」の日本語で話す父になずきながら私は、ほかでもない父が自分の本を気に入ってくれたことがうれしくて、ほんのちょっとの間、有頂天になる。

注
①母語＝幼い頃、最初に習得する言語のこと。
②一昨年＝この文章は、二〇一七年に執筆された。

温又柔さんの本



台湾生まれ　日本語育ち

幼少期から聞き慣れていた両親が話す「台湾語」「中国語」と、日本の小学校で学んだ「日本語」と。三つの言語を行き来し、揺れ動く心模様を描く。



「国語」から旅立って

「『国語』とはいったい何だろう」と筆者は自問自答を繰り返す。さまざまな葛藤を乗り越え、「筆者にとっての『国語』」と出会うまで。

六千回のトライの先に

吉藤オリイ

吉藤オリィさんは、学校に通えなかった頃の経験から、分身ロボット「オリヒメ」を開発した。外出ができない人でも、オリヒメに搭載されたカメラ、マイク、スピーカーを通すことで、まるで同じ場所にいるかのように会話ができる。

しかし、開発から三年半がたった二〇一三年、「それだけでは足りない」と言う人が現れた。後に吉藤さんの親友となる、番田雄太さんである。

番田さんは、四歳のときに交通事故で頸髄を損傷し、重度の障害で体の首から下の部分を全く動かせなくなった。番田さんは、それから二十年を病院のベッドで過ごしたが、ウェブサイトやSNSを通して、自分の思いを発信し続けていた。

彼は自分が置かれている状況をなんとか変えようと、何年間もかけて、顎を使い、六千人以上にメールを送り続けていたそうだ。

そしてあるとき、オリヒメを開発している最中の私を見つけ、SNSでメッセージを送ってきた。

ちょうど私は、あるビジネスコンテストの最終審査前で、私のエントリー内容が大会のウェブサイトに掲載されているのを発見し、連絡してきたのだ。

メールのやり取りをしながら、初めは変わった人だなと思ったが、彼のSNSの個人ページを見て、彼の人生を知り、衝撃を受けた。それと同時に強烈に会いたくなった。

「できないこと」には価値がある。私の持論だ。

できないことがあるということは、そのことについて誰よりも考えることができる。

体を動かせる人は、体が動くありがたさについて深く考えたりはしない。

だからこそ番田に話を聞いてみたいと思い、メールのやり取りを始めた。

「オリヒメでどこか行きたい所はある?」ときくと、答えはいまいちだった。

会社にも学校にも、どこにも所属していない彼は、たとえ分身ロボットがあったとしても、そもそも「会いたい友達」



筆者　**吉藤オリィ**　一九八七（昭和六二）――
奈良県出身。ロボット開発者。
著書　『『孤独』は消せる。」「サイボーグ時代」など。

はいないし、「行きたい場所」もあまりないのだという。

私はメールでのやり取りに加え、オリヒメの実験機に接続してもらって語り合った。

「これまで二十年、『明日一日でも長く生きるために、今日何もするな。』と言われた人生でした。同じ病室の子供たちは、外の世界を全く見ることもなく旅立っていき、私はそんな彼らに対して何もしてあげられませんでした。私たちはいったい何のために生かされたのだろう。何のために生まれてきたのだろう。私はたとえ明日死ぬことになっても、今日自分の人生を生きたい。」

「なぜ寝たきりだからといって、何でも『我慢しなさい』と言われなくてはならないのでしょうか。周囲に対して感謝し続けないといけないのでしょうか。外に行くことはなにも特別なことじゃないはずです。他の人と同じように学校に行ったり、太陽の下でくつろいだり、働いたりしたいと思うことが、どうして贅沢なことなのでしょうか。」

番田は、自分が置かれている状況について「しかたない」とは全く考えていなかった。自分と同世代の人がやっている普通のことを、全く諦めてはいなかった。

私たちはお互いの思う「孤独」について語り合い、やがて意気投合し、私は番田を秘書として雇うことにした。

ただ、秘書といってもビジネスメールのやり取りはできないし、専門知識ももっていない。それらは徐々に覚えてもらうとして、番田と話しているうちに、いっしょにやりたいと思った講演活動を始めることにした。



吉藤さんと番田さん



吉藤さんとオリヒメ

番田は「二十年も寝たきりだった人の話を、誰が聞きたいの？」と、自信なさげだったが、どの大学にも、どの福祉系のシンポジウム①にも、入院中の寝たきりの講師は登場しない。

聴衆たちは番田の話す「人生で感じたこと」を食い入るように聴き、短いスピーチが終わると拍手喝采となった。

番田にとっては価値がないと思っていた、人とは違う人生。それは、多くの人たちの関心を引きつけたようだ。講演後、私と番田は多くの人たちに囲まれた。（中略）

番田には講演以外にも重要な仕事があった。

オリヒメのユーザーとして、オリヒメの改善点を提案してもらうことだ。

彼を雇ったことによって、私は「社会的によいことをしていますね」と、周囲から褒められたが、そうじゃない。

私が番田を必要としたのは、「二十年間も体を動かしたことがない」という、多くの人がもっていない番田の特性を強みに感じていたからだ。これは彼の能力だ。番田は体を動かすことが「できない」。（中略）

ロボットや車椅子も、使われることで意味をもつ。番田のように毎日使ってくれて、そのうえで「できないこと」「うまくいかないこと」を発見できるのは、私にとって、とてもありがたいことだ。どうやって、それをできるようにするかを考えて、工夫ができて、すぐに実験することができた。そして番田は、さらにできることを増やした。

番田と出会い、意気投合しなければ、オリヒメは今の形にはなっていなかっただろう。

やがて番田は、私抜きでも、一人で講演活動を行えるようになり、自分で営業もできるようになった。ビジネスメールも自然に打つことができるようになった。幾つかの会議に出席して議事録を取ったり、スケジューリングをしたり、プレゼン資料を作ったりすることもあった。

将来は独立して自分の会社をつくり、自分と同じような寝たきりの子供たちの夢を応援するヘルパー事業所を立ち上げたいと話すようになった。

番田はビジネスプランコンテストにも応募し第一次審査を通過、第二次審査はグループワークだったが、番田はそこにオリヒメで参加し、いっしょに勉強できる友人がいることを喜んだ。残念ながらその大会はそれ以上進めなかったが、それでも諦めず、また挑戦したいと言った。

そして将来は、これまでずっと自分を介護してくれている両親に楽をしてもらうために、東京で一人暮らしをしたいと言った。「家は飲食店にして、オリィといっしょに店をやっ

て、自分で作った料理を自分の所に運んで、自分に食べさせるのはどうだろう？」などと、よく雑談を交わした。

ところが、二〇一七年三月頃から番田の体調は急激に悪化し、四月のメッセージを最後にやり取りができなくなった。番田は②ICUに入院した。お見舞いに行ったときも、既に意識が朦朧とした状態になっていて、ほとんど会話は成り立たなかった。

そんな中でも「会社の人は今、どれぐらいいるの？」「オリィは今、大丈夫？」など、会社や私のことを心配する番田がいた。その後お見舞いに行ったときは、もう声を出すことができなくなっていて、私が一方的に番田に話しかけるばかりだった。

二〇一七年九月、番田はなくなった。二十八歳だった。

番田の生き方は、たとえ寝たきりでも、ここまでやることができる、ここまで人は変わることができる、ということを多くの人の心に刻んだ。

番田と冗談で語り合っていた、寝たきりでも働ける「分身ロボットカフェ」という構想は、彼がなくなって一年後の二〇一八年に、彼の後輩となる、十人の③外出困難なパイロットたちといっしょに実現させた。④ALSの人たちや、それまで、ほとんど社会で働いた経験がなかった人たちが、動き回るオリヒメを使って働くことができるカフェだ。


分身ロボットカフェ

今では⑤約五十人の仲間たちがオリヒメを使って働き、人と出会い、成長しながら、新しい働き方の「事例」を増やし続けている。

全ては、番田との出会いから始まった。

その出会いが生まれたのは、私と番田がお互い発信を続け、そして番田が私の発信を見つけて連絡を取ってきてくれたおかげだ。

メールのマナーもわからず、ほとんどの人に無視されながら、番田が六千人にメールを諦めずに打ち続けたことは、結果的に彼の人生を変え、多くの人に希望をつなぐことになった。

私は今も、実験が失敗続きで心が折れそうになったら、いつも思うのだ。

「私は六千回トライしただろうか」と。

注
①シンポジウム＝立場の異なる専門家が討論し、そこに聴衆が加わって、質疑応答を行う形式の討論会。
②ICU＝集中治療室のこと。
③パイロット＝ここでは、オリヒメを使って働く人のこと。
④ALS＝筋萎縮性側索硬化症。筋肉が萎縮していく進行性の難病。
⑤約五十人＝二〇二二年時点では、六十人以上の人が働いている。

原典はこちら



ミライの武器 「夢中になれる」を見つける授業
吉藤オリィ

分身ロボット「オリヒメ」はどのようにして生まれたのか。開発者が語る、オリヒメ誕生の経緯、そして、これからの時代を生きる人たちへのメッセージとは……。

新出漢字
192 褒（ホウ） ほめる
192 誇（コ） ほこる
193 滞（タイ） とどこおる
196 雇（コ） やとう
198 冗（ジョウ）

漢字の練習

読書案内

本の世界を広げよう

290ページ「盆土産」「形」



共生

今を共に生きる



リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ
こまつあやこ
帰国生の沙弥が短歌でつむぐ、悩みあり笑いありの中学校生活。



種をまく人
ポール・フライシュマン　片岡しのぶ訳
少女がまいた小さな種が、言葉も年齢も違う人々の輪を作り出す。



ふるさとって呼んでもいいですか
ナディ
六歳のとき、家族と共にイランから来日したナディの体験談。



音のない世界と音のある世界をつなぐ
松森果林
十代で聴力を失った筆者による、実体験を基にした社会への提言。



わたしのくらし　世界のくらし
マット・ラマス　おおつかのりこ訳
世界に暮らす子供たちが登場。違うことや同じことを見つけよう。



16歳の語り部
雁部那由多他
小学五年生時の震災体験を語る三人。今、伝えたい言葉がある。



アフリカ少年が日本で育った結果
星野ルネ
カメルーン生まれ日本育ちの少年。その半生をユーモラスに描く。



朔と新
いとうみく
ブラインドマラソンを通して、つらい過去と向き合う兄弟の物語。

ウスビ・サコの「まだ、空気読めません」
ウスビ・サコ
「なんでやねん」。筆者の鋭いツッコミから、気づきが生まれるはず。



多文化に出会うブックガイド
世界とつながる子どもの本棚プロジェクト編
異なる国や文化を知るための本を、テーマや地域、国ごとに紹介。



14歳からのLGBTQ+
社会応援ネットワーク
LGBTQ+について知り、考えるための、三十二のQ&A。



生き方

人生の深さを知る

紛争地の看護師
白川優子
国境なき医師団の看護師である筆者が、紛争地のありのままを描く、生と死のドキュメント。



雪の写真家　ベントレー
J・B・マーティン　千葉茂樹訳
生涯を雪の研究と結晶の撮影にささげたベントレーの生きざま。



挑戦
山中伸弥　藤井聡太
大事なのは、試すこと、努力を続けること、結果を楽しむこと。



くまとやまねこ
湯本香樹実文　酒井駒子絵
世界を回る「くまとやまねこ音楽団」。彼らの心をつなぐものとは。



ジョン万次郎
マーギー・プロイス　金原瑞人訳
嵐の海でアメリカの船に救助された万次郎。波乱万丈の物語。



研究するって面白い！
伊藤由佳理編著
十一人の科学者たち。その生き方と、研究内容を紹介。



「フラフラ」のすすめ
益川敏英
ノーベル物理学賞受賞者の益川先生が贈る、熱中するためのヒント。



芸術

アートの世界へ

美術館って、おもしろい！
モラヴィア美術館　阿部賢一　須藤輝彦訳
美術館の歴史、働く人たち、展覧会の準備……。美術館の裏側を、イラストと共に解説。



白い馬
東山魁夷絵　松本猛文
少年は白い馬に導かれ……。少年の歩みを追って、名画の世界へ。



かわいい絵巻
上野友愛　岡本麻美
「かわいい」を合い言葉に、何百年も前の絵巻とつながろう。



数と音楽
坂口博樹著　桜井進監修
メロディーやリズム、音階……。音楽は「数」に満ちあふれている。



書のひみつ
古賀弘幸
「書」の見方や歴史など、秘密を紹介。誰でも「書」を楽しめる。



音楽家の伝記　はじめに読む1冊　バッハ
ひのまどか
高みを目ざし作曲を続けたバッハの世界へ、扉を開いてみよう。



蜜蜂と遠雷
恩田陸
国際ピアノコンクールで交錯する、若きピアニストたちの思い。



いのち
大切にする心

雪とパイナップル
鎌田 實

チョルノービリ原発事故で被曝した少年と日本人看護師との交流。



いつでも会える
菊田まりこ

大好きな飼い主に会えなくなり、泣いてばかりの犬のシロは……。



いのちってなんだろう
中村桂子他

立場が異なれば見方も変わる。五人が「いのち」をテーマに語る。



命の境界線
今西乃子

人と野生動物には境界線がある。共生のためにできること。





食
心と体を作る土台

地球の食卓
ピーター・メンツェル他

世界各国の食事を公開。食卓からは生活や文化が見えてくる。



カレーライスを一から作る
前田亜紀

九か月かけて完成したカレーライスからは、命の味がする。



食べるとはどういうことか
佐藤洋一郎

「食」の持続性の危機。食の問題を総合的に捉えた一冊。



いのちをはぐくむ農と食
小泉武夫

日本の「農」と「食」の未来のために、現状と課題を見つめよう。





暮らし
日常を豊かに

世界10000年の名作住宅
菊地尊也

滝の上の家や立体パズルの家。世界の名作住宅を写真と共に紹介。



ライラックのワンピース
小川雅子

裁縫好きの「ぼく」。ある少女から洋服を直してほしいと頼まれる。



平安女子の楽しい！生活
川村裕子

千年前の作品を通して、「平安女子」の暮らしをのぞく。



ごきげんな散歩道
森沢明夫

日常のささやかな幸せを見つけに、ふらりと散歩に出かけよう。



私の一冊

パラ・スター
阿部暁子

宝良は車いすテニス選手、百花は車いすの製作エンジニアを目ざし、迷いながら前へ。



選手と、選手を支えるエンジニアの姿がリアルに描かれている。宝良の姿を自分に重ねて涙しました。



大谷桃子
1995年 栃木県出身。
車いすテニス選手。

私のおすすめ
自分でも書いてみよう

8 表現を見つめる

多様な表現に触れ、自分の経験と重ねて理解を深める

走れメロス　小説　太宰治
漢字に親しもう5
文法への扉3　一字違いで大違い

描写を工夫して書こう
心の動きが伝わるように物語を書く
言葉3　話し言葉と書き言葉
漢字3　送り仮名

国語の学びを振り返ろう
「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る

鍵　詩　茨木のり子



色の名前8　純白○｜にごりのない、透き通った白。

走れメロス

太宰治

読む　観点を選んで分析し、自分が感じた作品の魅力を伝え合おう。［学習活動］

目標
- 作品の魅力を語るうえで鍵となる語句を見つけ、その意味や語感を確かめる。
- 人物像や表現の効果など、自分の選んだ観点で作品の魅力を捉える。

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。今日未明、メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里離れたこのシラクスの町にやって来た。メロスには父も、母もない。女房もない。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。この妹は、村のある律儀な一牧人を、近々花婿として迎えることになっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴のごちそうやらを買いに、はるばる町にやって来たのだ。まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今はこのシラクスの町で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく会わなかったのだから、訪ねていくのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、町の暗いのはあたりまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になってきた。道で会った若い衆を捕まえて、何かあったのか、二年前にこの町に来たときは、夜でも皆が歌を歌って、町はにぎやかであったはずだが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老爺に会い、今度はもっと語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺の体を揺すぶって質問を重ねた。老爺は、辺りをはばかる低声で、僅かに答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いているというのですが、誰もそんな、悪心をもってはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を信ずることができぬというのです。このごろは、臣下の心をもお疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば、十字架にかけられて殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

メロスは単純な男であった。買い物を背負ったままで、のそのそ王城に入っていった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。

1 邪知暴虐の王　悪知恵を働かせて、人民にひどい仕打ちをする王のこと。
8 竹馬の友　意
11 ひっそり　文
1 漢 虐　ギャク（しいたげる）　……邪知暴虐
3 漢 敏　ビン　……敏感
6 漢 婿　セイ　むこ　……花婿
7 漢 嫁　カ　よめ　とつぐ　……花嫁
7 漢 宴　エン　……祝宴

（204ページ）
2 牧人　牧場で馬や牛を飼う人。ここでは羊飼いの意。
4 十里　一里は約三・九キロメートル。

4 シラクス　イタリアのシチリア島東岸にある港町。ギリシア時代にできた古い町で、ギリシア・ローマ時代の遺跡がある。

（205ページ）
19 巡邏　見回って歩くこと。パトロール。
4 はばかる　意
11 漢 賢　ケン　かしこい　……賢臣
14 音 人質（ひとジチ）
19 漢 吏　リ　……警吏

「この短刀で何をするつもりであったか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもって問い詰めた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが正当の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲のかたまりさ。信じてはならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。

「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんなきれいな清らかなことでも言える。わしには、人のはらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになってから、泣いてわびたって聞かぬぞ。」



7 憫笑 哀れんで笑うこと。

3 問い詰める 関 追い詰める 思い詰める 通い詰める
10 いきり立つ 意
13 正当 対
14 私欲 関 私利私欲
12 訓 民（たみ）
18 訓 報いる（むくいる）

「ああ、王は利口だ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、――」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくると言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまって、三日目の日暮れまで、ここに帰ってこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そっとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰ってこないに決まっている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるの



20 15 10 5

1 うぬぼれる 意
11 無二 意
16 ほくそ笑む 関 ほほ笑む あざ笑う せせら笑う

1 漢 乞 こう ……命乞い
4 漢 亭 テイ ……亭主

も気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きっと殺すぞ。ちょっと遅れて来るがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命が大事だったら、遅れて来い。おまえの心は、わかっているぞ。」

メロスはくやしく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。

竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱き締めた。友と友の間は、それでよかった。セリヌンティウスは縄打たれた。メロスはすぐに出発した。初夏、満天の星である。

メロスはその夜、一睡もせず十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは明くる日の午前、日は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を始めていた。メロスの十六の妹も、今日は兄の代わりに羊群の番をしていた。よろめいて歩いてくる兄の、疲労困憊の姿を見つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。

「なんでもない。」メロスは無理に笑おうと努めた。「町に用事を残してきた。またすぐ町に行かなければならぬ。明日、おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよかろう。」

妹は頬を赤らめた。

2 **磔刑** はりつけの刑。

9 じだんだ(を踏む) 意

14 漢 睡 スイ
一睡

14 漢 到 トウ
到着

「うれしいか。きれいな衣装も買ってきた。さあ、これから行って、村の人たちに知らせてこい。結婚式は明日だと。」

メロスは、また、よろよろと歩きだし、家へ帰って神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調え、間もなく床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらいの深い眠りに落ちてしまった。

目が覚めたのは夜だった。メロスは起きてすぐ、花婿の家を訪れた。そうして、少し事情があるから、結婚式を明日にしてくれ、と頼んだ。婿の牧人は驚き、それはいけない、こちらにはまだなんの支度もできていない、ぶどうの季節まで待ってくれ、とさらに押して頼んだ。メロスは、待つことはできぬ、どうか明日にしてくれたまえ、と答えた。メロスは、とさらに議論を続けて、やっと、どうにか婿をなだめ、すかして、説き伏せた。結婚式は、真昼に行われた。新郎新婦の、神々への宣誓が済んだ頃、黒雲が空を覆い、ぽつりぽつり雨が降りだし、やがて車軸を流すような大雨となった。

祝宴に列席していた村人たちは、なにか不吉なものを感じたが、それでも、めいめい気持ちを引き立て、狭い家の中で、むんむん蒸し暑いのもこらえ、陽気に歌を歌い、手を打った。メロスも満面に喜色をたたえ、しばらくは、王とのあの約束をさえ忘れていた。祝宴は、夜に入っていよいよ乱れ華やかになり、人々は、外の豪雨を全く気にしなくなった。

メロスは、一生このままここにいたい、と思った。このよい人たちと生涯暮らしていきたいと願ったが、今は、自分の体で、自分のものではない。ままならぬことである。メロスは、我が身にむち打ち、ついに出発



12 **車軸を流す** 車の軸(心棒)のような雨脚の太い雨が降る意で、大雨の様子を表す。

15 陽気 対

15 満面 関 喜色満面
得意満面

15 たたえる 意

3 漢 飾 ショク かざる
飾る

3 訓 調える(ととのえる)

9 漢 諾 ダク
承諾

11 漢 郎 ロウ
新郎

14 訓 蒸し暑い(むしあつい)

を決意した。明日の日没までには、まだ十分の時がある。ちょっとひと眠りして、それからすぐに出発しよう、と考えた。その頃には、雨も小降りになっていよう。少しでも長くこの家にぐずぐずとどまっていたかった。メロスほどの男にも、やはり未練の情というものはある。今宵呆然、歓喜に酔っているらしい花嫁に近寄り、

「おめでとう。私は疲れてしまったから、ちょっとご免こうむって眠りたい。目が覚めたら、すぐに町に出かける。大切な用事があるのだ。私がいなくても、もうおまえには優しい亭主があるのだから、決して寂しいことはない。おまえの兄のいちばん嫌いなものは、人を疑うことと、それから、うそをつくことだ。おまえに言いたいのは、それだけだ。亭主との間に、どんな秘密でも作ってはならぬ。おまえの兄は、たぶんえらい男なのだから、おまえもその誇りをもっていろ。」

花嫁は、夢見心地でうなずいた。メロスは、それから花婿の肩をたたいて、

「支度のないのはお互いさまさ。私の家にも、宝といっては妹と羊だけだ。他には何もない。全部あげよう。もう一つ、メロスの弟になったことを誇ってくれ。」

花婿はもみ手して、照れていた。メロスは笑って村人たちにも会釈して、宴席から立ち去り、羊小屋に潜り込んで、死んだように深く眠った。

目が覚めたのは、明くる日の薄明の頃である。メロスは跳ね起き、南無三、寝過ごしたか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合う。今日はぜひとも、あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。そうして笑ってはりつけの台に上ってやる。メロスは、悠々と身支度を始めた。雨も、幾分小降りになっている様子である。身支度はできた。さて、メロスは、ぶるんと両腕を大きく振って、雨中、矢のごとく走り出た。

私は、今宵、殺される。殺されるために走るのだ。身代わりの友を救うために走るのだ。王の奸佞邪知を打ち破るために走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。若いときから名誉を守れ。さらば、ふるさと。若いメロスは、つらかった。幾度か、立ち止まりそうになった。えい、えいと大声上げて、自身を叱りながら走った。村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村に着いた頃には雨もやみ、日は高く昇って、そろそろ暑くなってきた。メロスは額の汗を拳で払い、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。妹たちは、きっとよい夫婦になるだろう。私には、今、なんの気がかりもないはずだ。まっすぐに王城に行き着けば、それでよいのだ。そんなに急ぐ必要もない。ゆっくり歩こう、と持ち前ののんきさを取り返し、好きな小歌をいい声で歌いだした。ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達した頃、降って湧いた災難、メロスの足は、はたと止まった。見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源地は氾濫し、濁流とうとうと下流に集まり、猛勢一挙に橋を破壊し、どうどうと響きをあげる激流が、こっぱみじんに橋げたを跳ね飛ばしていた。彼は茫然と立ちすくんだ。あちこちと眺め回し、また、声を限りに呼び立ててみたが、繋舟は残らず波にさらわれて影なく、渡し守の姿も見えない。流れはいよいよ膨れ上がり、海のように なっている。メロスは川岸にうずくまり、男泣きに泣きながらゼウスに手を上げて哀願した。「ああ、しずめたまえ、荒れ狂う流れを！　時は刻々に過ぎていきます。太陽も既に真昼時です。あれが沈んでしまわぬうちに、王城に行き着くことができなかったら、あのよい友達が、私のために死ぬのです。」

---

4 **呆然** ぼうぜん　どうしてよいかわからず、ぼうっとするさま。

16 **南無三** なむさんぼう　「南無三宝」の略。「しまった」の意。

18 **信実** しんじつ　正直。真心。（「真実」は、本当のこと。）

3 **未練** 意　みれん

11 **夢見心地** 関 **夢心地** ゆめごこち　**夢うつつ**　**夢物語**

19 **悠々** ゆうゆう　関 **悠々閑々** ゆうゆうかんかん　**悠々自適** ゆうゆうじてき

4 漢 **酔** スイ・よう　**酔う**

16 漢 **跳** チョウ・とぶ　**跳ね起きる**

3 **奸佞邪知** かんねいじゃち　心がねじけて、悪賢いこと。

14 **茫然** ぼうぜん　予想もしない出来事に、気が抜けてぼんやりするさま。

15 **繋舟** けいしゅう　岸につないだ舟。ここでは渡し舟のこと。

17 **ゼウス**　ギリシア神話の最高神。

12 **はたと** 文

14 **立ちすくむ** 意

18 漢 **狂** キョウ・くるう・くるおしい　**荒れ狂う**

13 漢 **濫** ラン　**氾濫**

13 漢 **氾** ハン　**氾濫**

7 漢 **拳** ケン・こぶし　**拳**



濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく躍り狂う。波は波をのみ、巻き、あおり立て、そうして、時は刻一刻と消えていく。今はメロスも覚悟した。泳ぎ切るより他にない。ああ、神々も照覧あれ！　濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、今こそ発揮してみせる。メロスはざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。満身の力を腕に込めて、押し寄せ渦巻き引きずる流れを、なんのこれしきとかき分けかき分け、獅子奮迅の人の子の姿には神も哀れと思ったか、ついに憐愍を垂れてくれた。押し流されつつも、見事、対岸の樹木の幹にすがりつくことができたのである。ありがたい。メロスは馬のように大きな胴震いを一つして、すぐにまた先を急いだ。一刻といえどもむだにはできない。日は既に西に傾きかけている。ぜいぜい荒い呼吸をしながら峠を登り、登り切ってほっとしたとき、突然、目の前に一隊の山賊が躍り出た。

「待て。」

「何をするのだ。私は日の沈まぬうちに王城へ行かなければならぬ。放せ。」

「どっこい放さぬ。持ち物全部を置いていけ。」

「私には、命の他には何もない。その、たった一つの命も、これから王にくれてやるのだ。」

「その、命が欲しいのだ。」

「さては、王の命令で、ここで私を待ち伏せしていたのだな。」

山賊たちは、ものも言わず一斉に棍棒を振り上げた。メロスはひょいと体を折り曲げ、飛鳥のごとく身近の一人に襲いかかり、その棍棒を奪い取って、「気の毒だが、正義のためだ！」と猛然一撃、たちまち三人を殴り倒し、残る者のひるむ隙に、さっさと走っ

3 照覧 明らかに見ること。神仏がご覧になること。
6 獅子奮迅 獅子が荒れ狂うような勢いで、奮闘すること。
7 憐愍 哀れみの気持ち。
20 ひるむ 文
3 訓 誠（まこと）
11 漢 賊 ゾク …… 山賊
20 漢 殴（オウ）なぐる …… 殴り倒す
20 漢 隙（ゲキ）すき …… 隙



て峠を下った。一気に峠を駆け降りたが、さすがに疲労し、折から午後の灼熱の太陽がまともにかっと照ってきて、メロスは幾度となくめまいを感じ、これではならぬと気を取り直しては、よろよろ二、三歩歩いて、ついに、がくりとひざを折った。立ち上がることができぬのだ。天を仰いで、くやし泣きに泣きだした。ああ、あ、濁流を泳ぎ切り、山賊を三人も打ち倒し、韋駄天、ここまで突破してきたメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切って動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思うつぼだぞと自分を叱ってみるのだが、全身萎えて、もはや芋虫ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にごろりと寝転がった。身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣くった。私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかけたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私はきっと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺



5 韋駄天 韋駄天のように走って。「韋駄天」は、仏法の守護神の一人で、非常に速く走るとされている。
7 希代 世にまれなこと。
7 漢 まさしく 文
7 漢 思うつぼ 意
16 漢 精も根も尽きる 意
4 漢 仰 ギョウ コウ あおぐ（おおせ） …… 仰ぐ
8 漢 萎 イ なえる …… 萎える
8 漢 芋 …… 芋虫
9 漢 傍 ボウ（かたわら） …… 路傍
14 音 真紅（シンク）
17 漢 欺 ギ あざむく …… 欺く

かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのの雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だってるだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セを信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友ちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、つもりは、みじんもなかった。信じてくれ！　私は急だ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜きたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、おいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だ王は私に、ちょっと遅れて来い、と耳打ちした。遅れ私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣を憎んだると、私は王の言うままになっている。私は遅れていして私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろ死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最ンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがり悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家があまさか私を村から追い出すようなことはしないだろうだの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生法ではなかったか。ああ、何もかもばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢を投げんでしまった。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そで耳を澄ました。すぐ足元で、水が流れているらしい見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささいるのである。その泉に吸い込まれるようにメロスはすくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、僅かながら行の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望での葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日私を待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かにるのだ。私は信じられている。私の命なぞは問題では気のいいことは言っておられぬ。私は信頼に報いなけ一事だ。走れ！　メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻のあれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れて悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。だ。再び立って走れるようになったではないか。ありして死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずんずんよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてく

19 **定法**　いつも変わらぬ法則。

2 無心 意

12 独り合点 関 独り占め　独り相撲　独り舞台

18 まさか 文

11 漢 卑（いやしい）（いやしむ）（いやしめる）　卑劣

20 漢 醜（シュウ みにくい）　醜い

1 **やんぬるかな**　もうおしまいだ。万事休す。

1 **四肢**　両腕と両脚。

3 **せんせん**　浅い川などの水がさらさらと流れる音。またはその様子。

16 **五臓**　内臓の総称。ここでは体全体のこと。

1 漢 肢（シ）　四肢

ださい。

道行く人を押しのけ、跳ね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席の真っただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も速く走った。一団の旅人とさっと擦れ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今頃は、あの男も、はりつけにかかっているよ。」ああ、その男、その男のために私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体なんかはどうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。見える。はるか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けてきらきら光っている。

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。

「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。

「フィロストラトスでございます。あなたのお友達セリヌンティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでございます。むだでございます。走るのはやめてください。もう、あの方をお助けになることはできません。」

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あの方が死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申しあげます。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったなら！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るより他はない。

「やめてください。走るのはやめてください。今はご自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんあの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題ではないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！　フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。ひょっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は空っぽだ。何一つ考えていない。ただ、訳のわからぬ大きな力に引きずられて走った。日はゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と、大声で刑場の群衆に向かって叫んだつもりであったが、喉が潰れてしゃがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。既に、はりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは徐々につり上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆をかき分けかき分け、

「私だ、刑吏！　殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」

9 **塔楼** 「塔」も「楼」も高くそびえ立つ建物のこと。

3 仰天 関 あっけにとられる
腰を抜かす
肝を潰す

5 小耳に挟む 関 小首をかしげる
小腹が減る

3 漢 蹴 シュウ ける …… 蹴飛ばす

7 音 風体（フウテイ）

8 漢 裸 ラ はだか …… 全裸体

18 漢 恨 コン うらむ うらめしい …… 恨む

11 **言うにや及ぶ** 言うまでもない。「言うに及ばず」も同じ。



と、かすれた声で精いっぱいに叫びながら、ついには りつけ台に上り、つり上げられてゆく友の両足にかじ りついた。群衆はどよめいた。あっぱれ。許せ、と 口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれ たのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて 言った。「私を殴れ。力いっぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、全てを察した様子でうなずき、刑場いっぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きにおいおい声を放って泣いた。

3 どよめく 意

9 漢 擁（ヨウ）

抱擁（ヨウ）

群衆の中からも、歔欷の声が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまをまじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはかなったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どっと群衆の間に、歓声が起こった。

「万歳、王様万歳。」

一人の少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。よき友は、気をきかせて教えてやった。

「メロス、君は、真っ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。メロスの裸体を皆に見られるのが、たまらなくくやしいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。

1 歔欷 すすり泣き。

8 緋 火のような、濃く明るい紅色。

2 まじまじ 関 きょろきょろ じろじろ じっと

3 空虚 意

12 赤面 意

4 漢 虚（キョ）

空虚（キョ）

7 音 万歳（バンザイ）

漢字の練習



作者 **太宰治** 一九〇九（明治四二）――一九四八（昭和二三） 青森県出身。
小説家。
著書 「富嶽百景」「新釈諸国噺」「津軽」「斜陽」「人間失格」など。
出典 「太宰治全集 3」

早川鉄兵・切り絵

広がる読書



「斜陽」太宰治

221ページ 人物像 | 109ページ 表現の効果 | 103ページ 言動の意味 | 27ページ 登場人物の設定

学びのカギ

人物像に着目する

それぞれの人物に起きた変化。

- 人物像を捉えるときには、登場人物の行動や会話、心情や考えなどを結び付けて考えることが大切である。
- 登場人物の考え方や心情、人間関係は、場面が展開する中で変化することがある。登場時の設定などを基にしながら、どう変化したかを、作品全体を通して読み取るようにする。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図



【王の人物像】

冒頭

人物像を表す表現
- 邪知暴虐……［直接表現］
- 「人の心は、あてにならない。」……［会話］
- 残虐な気持ちで、そっとほくそ笑んだ。［様子］

結末

人物像を表す表現
- 顔を赤らめて、こう言った。……［様子・行動］
- 「信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。」……［会話］

どの場面で、何をきっかけに、どのように変化したのか。

言の葉ポケット

この作品には、「激怒」「邪悪」「歓喜」などの漢語が多く使われている。和語に置き換え、印象の違いを考えてみよう。

学びへの扉

見通しをもつ

観点を選んで分析し、自分が感じた作品の魅力を伝え合おう。［学習活動］

目標
- 作品の魅力を語るうえで鍵となる語句を見つけ、その意味や語感を確かめる。（知る）
- 人物像や表現の効果など、自分の選んだ観点で作品の魅力を捉える。（読む）

捉える

1 作品の設定と場面の展開を押さえよう。

作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分けよう。

作品の魅力を語るために、初めの感想を、観点ごとに整理しておくといいね。
［観点例］人物像、表現の効果など



読み深める

2 場面の展開に即して人物像を読み取ろう。

①冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているか。
②村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したか。
③王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したか。

考えをもつ

3 作品の魅力をまとめ、語り合おう。

1・2で読み深めたことや、次のような観点を参考に、自分が感じた作品の魅力を文章にまとめ、グループで語り合おう。

［魅力を語り合う観点］
・人物像　・表現の効果　・場面の展開
・語句の使い方　・描写　・主題（テーマ）　など

学習の初めと比べて、作品の印象や自分の考えはどう変わっただろう。



振り返る
- 知る　□どの語句に着目して、作品の魅力を語ったか。
- 読む　□友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか。
- つなぐ　□他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げてみよう。

漢字に親しもう 5

1 新しく習う漢字 308ページ

次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み（医療・健康）】

① 免疫力が低下する。［　　］
② 嗅覚に異常を覚える。［　　］
③ 毎日の運動を奨励する。［　　］
④ 喉の潤いを保つ。［　　］
⑤ 足の傷が癒える。［　　］
⑥ 健康診断で尿検査を受ける。［　　］
⑦ 皮膚科で診察を受ける。［　　］

2 次の□に合う漢字を下の□から選び、四字熟語を作ろう。【四字熟語】

① 勇猛［　］［　］
② 時期［　］［　］
③ ［　］［　］遠慮
④ 白紙［　］［　］

尚早　撤回　果敢　深謀

3 次の文に合う熟語を〈　〉から選ぼう。【同じ読みの熟語】

① この映画は〈不朽・普及〉の名作だ。［　　］
② 風邪の〈賞状・症状〉が治まる。［　　］

新しく習う音訓 ・は中学校で学習する音訓 321ページ

4 次の――線部の漢字を、（　）内の読みとの違いに注意して読もう。【同じ漢字の読み】

① 河川を調査する。（川遊び）［　　］
② 機織りの実演を見る。（機械）［　　］
③ 旅客機に乗る。（客間）［　　］
④ 小児科にかかる。（児童）［　　］

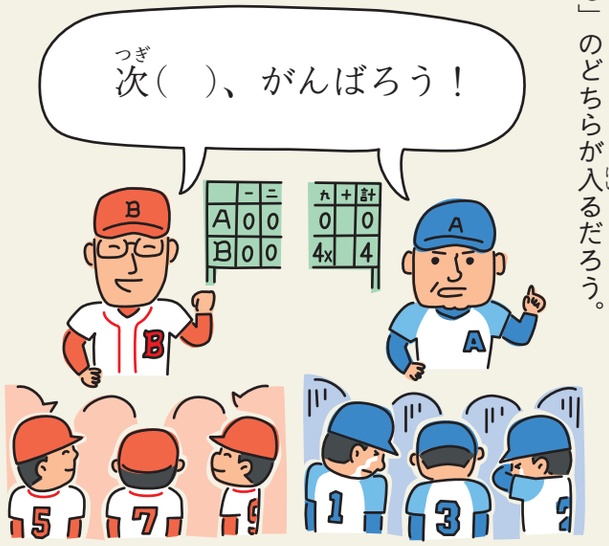
新出漢字

222 疫（エキ）（ヤク）　222 嗅（キュウ）かぐ　222 奨（ショウ）　222 励（レイ）はげむ　はげます
222 潤（ジュン）うるおう　うるおす　うるむ　222 癒（ユ）える　いやす　222 尿（ニョウ）　222 膚（フ）　222 尚（ショウ）
222 撤（テツ）　222 敢（カン）　222 謀（ボウ）（ム）（はかる）　222 朽（キュウ）くちる　222 症（ショウ）

漢字一覧表

文法への扉 3

一字違いで大違い



野球の試合が終わり、コーチが選手に言葉をかけている。Aチームと Bチーム、それぞれの言葉の（　）には、「は」と「も」のどちらが入るだろう。

文法ワーク

上の例文では、（　）に入れる助詞によって、意味する内容が変わる。

● 次（は）、がんばろう。
↓ 今日の試合は負けたので、次の試合をがんばろう。

● 次（も）、がんばろう。
↓ 今日の試合と同じように、次の試合をがんばろう。

もし、（　）に「こそ」を入れると、次の試合がより強調され、「から」「まで」などを入れると期間が限定される。

また、「がんばろう」は、動詞「がんばる」に助動詞「う」を付けることによって、話し手の意志を表している。

このように、付属語を使い分けることで、内容を的確に伝えることができる。

「文法3 付属語」を読んで、付属語の働きと種類を確認し、文章を読んだり、表現したりするときに生かしていこう。

文法3 付属語

（251〜256ページ）

1 付属語

2 付属語の種類
1 助動詞
2 助詞

251ページ

書く

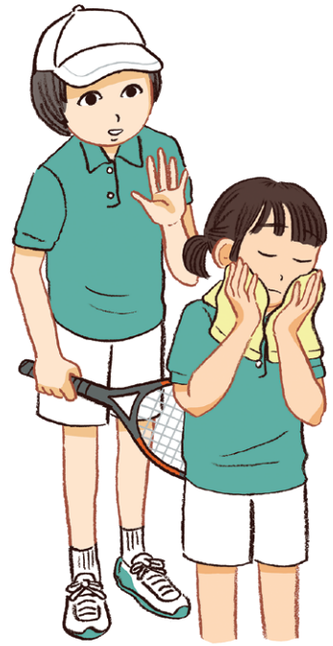
描写を工夫して書こう

心の動きが伝わるように物語を書く

自分の体験を基に、「心が動いた瞬間」を物語にしてみよう。これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にしながら、場面の様子や人物の心情が生き生きと伝わるように、描写を工夫して書こう。

282ページ 発想を広げる

書くことのミニレッスン



目標
- 語感を磨き、語彙を豊かにする。（知る）
- 表現の効果を考えて描写を工夫したり、読み手からの助言を踏まえて自分の作品のよい点や改善点を見いだしたりする。（書く）

集める・整理する

1 題材を決める

・日常生活を振り返って、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。

組み立てる

2 設定や構成を考える

・設定（時、場所、登場人物）を考える。
・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。
・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。

表現する

3 物語を書く

・描写を工夫して物語を書く。
・書きあがったら、推敲する。

共有する

4 作品を読み合う ICT

・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。
・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見いだす。

振り返る 227ページ

生かす
- 日常　描写を工夫して日記を書く。
- 将来　自分の思いが伝わる手紙を書く。

233ページ 学びの価値づけ
225ページ 表現の効果
133ページ 根拠・構成
110ページ 表現の工夫
55ページ 情報整理

学びのカギ

表現の効果を考えて描写する

- 文学的な文章を書いたり評価したりするときには、描写など、表現の効果に着目するとよい。
- 描写とは、物事の様子や状態、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描くことである。
- 的確に描写することで、読み手は感覚を追体験し、感情移入することができる。

204ページ 走れメロス
268ページ 語彙ブック
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

描写の工夫

描写の種類

行動描写・人物描写
- 登場人物の行動、様子　など

情景描写
- 周囲の様子や風景　など

・買い物を背負ったままで、のそのそ王城に入っていった。［行動→人物像］
・その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。［様子→人物像］
・初夏、満天の星である。［情景→心情］

心情描写
- 登場人物の感情
- 心の中の声（独白）　など

・メロスは激怒した。［感情］
・ああ、何もかもばかばかしい。［心の中の声］
※心情を直接的に描き出す。

描写の方法

表現技法を用いて描写する
- 比喩（直喩・隠喩・擬人法）
- 体言止め　●倒置　●反復
- 対句　●省略　など

・濁流は……ますます激しく躍り狂う。［擬人法］
・見よ、前方の川を。［倒置］
※登場人物の心情や人物像を間接的に表現できる。

五感で描写する
- 色、形（視覚）　●音（聴覚）
- 匂い（嗅覚）　●味（味覚）
- 手触り（触覚）　など

・ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。［聴覚］
・斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。［視覚］



［物語の例］

今日は、❶律子にとって大切な日。三年生の坂本真希とペアを組んで初めての試合に出るのだ。真希は、部の中で最もテニスがうまく、しかも誰にでも明るく接する憧れの存在だ。

状況設定・発端

「先輩、よろしくお願いします。」

律子はぺこりと頭を下げる。❷真希の日に焼けた笑顔の向こうに、真っ白な入道雲が見えた。

試合が始まった。❸相手チームの応援の声ばかり聞こえる。律子は大きく息を吸い込むと、慎重にサーブを打った。だが、ボールはネットに掛かる。次こそは……、そう意気込むが、今度はオーバー。❹湿った重たい空気が体にまとわりついた。先輩とペアを組んで試合に出るなんて、まだ早かったのかもしれない。そう思うと、とたんに体が動かなくなった。少しも活躍できないまま、時間だけが過ぎていく。第一ゲーム、第二ゲームを続けて失った。

展開

――私のせいだ。

律子はタオルを顔に押し当てる。泣き声になりそうな熱い空気を、ぐっとのみ込んだ。

そのときだった。うつむく律子の肩を、誰かがポンとたたいた。

「ドンマイ、律子。考えすぎ。いつものように、楽な気持ちでやってごらん。」

❺心の中に、さっと風が吹き抜けた。顔を上げると、真希と目が合った。笑っている。

「はい。」

❻律子は大きな声で返事をすると、自分の位置に着き、相手コートをまっすぐ見つめた。

山場

第三ゲーム開始。律子のサーブの番がやって来た。さっきの真希の言葉を何度も何度も、おまじないのように心の中でつぶやきながら、力強いサーブを打ち込む。あれだけ決まらなかったサーブがうそのように次々と決まっていく。真希も「その調子。」と目で合図を送ってくれる。大丈夫、これならすぐに相手チームに追いつける。

その後も試合は続いた。

結末

▼❶**登場人物の呼称**
ここでは、第三者の視点から書いている。

▼❷**心情を表す表現**（～）
風景の描写
ペアを組んで初めての試合に挑む律子の高揚感を表している。

❸**音の描写**
律子が緊張していることを、間接的に表現している。

❹**気持ちそのものの描写**
不安な気持ちを、律子の視点から、率直に表している。

❺**比喩表現**
比喩を使って、追い詰められていた律子の気持ちが変化し、楽になったことを表現している。

❻**行動の描写**
前向きな気持ちに変化した様子を表している。

▼**場面の転換を表す表現**（＝）
時間や場所を表す言葉で変わり目を表すことが多い。一行空きを入れることで表す場合もある。

言の葉ポケット

心情を表す言葉
- 喜び……舞い上がる／小躍りする／心が弾む／浮かれる
- 悲しみ…胸が張り裂ける／気落ちする／悲痛／悲壮
- 感動……感嘆／心を打たれる／はっとする／胸に迫る

など

色彩を表す言葉
- 鮮やかな／澄んだ／くすんだ
- 赤み／青み／黄みがかった　など

比喩表現の例
- まるで／あたかも○○のようだ。
- ○○みたいな□□　など

達人からのひと言

「すごい」などの言葉をすぐに使わず、どうすごいのか、自分の言葉で描写してみるといいかもしれません。直接的な表現は、ここぞというときにだけ使うと効果的です。

瀬尾まいこさん（小説家）

書き込み機能を使って、作品の感想や助言を伝えよう。

ICT 作品を共有し、助言する

341ページ

［助言の例］



この作品は、登場人物の心情が丁寧に描写されているね。そのおかげで、登場人物の気持ちに寄り添いながら作品を読み進めることができたよ。



僕も、特に登場人物に関する描写が優れていると思った。ただ、「その後も試合は続いた。」という最後の一文が、ちょっと気になったんだ。事実をそのまま伝えているだけという印象を受けたよ。



二人とも、ありがとう。描写が効果的だったということだよね。意識していたところだから、とてもうれしい。

最後の一文については、言われてみると確かにそうだね。例えば、「律子はぐっとラケットを握り直した。」と変えるのはどうかな。決意がはっきりと伝わる結末になりそう。

よい点

改善点

振り返る

- **知る**　□新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか。
- **書く**　□心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか。
- **つなぐ**　□物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合ってみよう。

言葉3

話し言葉と書き言葉

ある内容を、音声で伝える場合と、文字で伝える場合では、どのような違いがあるだろう。それぞれの言葉の特徴を考えてみよう。

音声で伝える

次の金曜は、校庭の清掃をするよ。全員参加で、四時半に、体育倉庫の前に集まって。四時半ね。あ、あと、軍手も忘れないでね。

文字で伝える

清掃作業のお知らせ

校庭の清掃作業を行います。美化委員は全員参加してください。

日　時：2月15日(金)
　　午後4時30分
集合場所：校庭の
　　体育倉庫の前
持ち物：軍手



話し言葉

音声によって伝えられる言葉を、**話し言葉**という。

話し言葉は、目の前にいる相手に対して使われることが多い。伝える相手がはっきりしており、同じものを見聞きしていることから、次のような特徴が挙げられる。

- その場にあるものや様子を指示する語句（こそあど言葉）で示すことができる。
  - ⬇「これ」「その本」「あれぐらいの高さ」など。
- 状況や相手に応じて、内容を省略できる。
  - ⬇「（待っていたバスが）来たよ。」など。
- 音声を調整しながら伝えられる。
  - ⬇重要な部分を大きな声にする、ゆっくり話す、など。
- 念を押したり同意を求めたりする言葉が多く使われる。
  - ⬇「……ですね。」「……よね。」など。

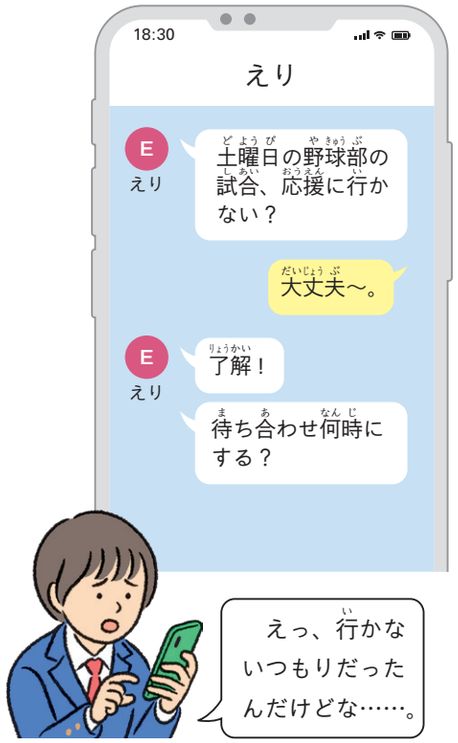
音声は、普通はその場限りで消えてしまう。また、日本語には同じ発音の言葉が多い。話し言葉では、こうした音声の特徴を踏まえ、伝え方を工夫しよう。

生活に生かす

SNSでのコミュニケーション

SNSやメッセージアプリなどでは、短いメッセージを、短時間で何度もやり取りすることが多い。また、同じ知識を共有している前提で、言葉を省略することもある。文字（書き言葉）でのやり取りでありながら、話し言葉の特徴もあるコミュニケーションといえるだろう。話し言葉のように気軽にやり取りができる反面、誤解なく伝えるためには、書き方に注意が必要だ。

▼左のやり取りを読み、どうして誤解が生じてしまったのか、考えてみよう。



●重要な内容は、繰り返して、相手に確認を求める。
●同じ発音の言葉は、読み方を変えるなどして区別する。
　⬇「市立（イチリツ）」「私立（ワタクシリツ）」など。

書き言葉

文字によって伝えられる言葉を、**書き言葉**という。

書き言葉は、文字として残るため、目の前にいない相手にも情報を伝えることができる。また、読み手は、必要であれば、何度も読み返すことができる。

そのいっぽうで、書き言葉は、いつ、どこで、誰に読まれるかわからないので、曖昧な書き方では誤解が生じることもある。次のような点に注意して、誰が読んでも正確に情報が伝わるように書き表そう。

●必要な情報を整理し、具体的に書く。
　⬇「いつ・どこで・誰が・何を」などの基本情報を書く。
　⬇数や程度、物の名前などは、具体的に表す。
●基本的に、共通語で書く。
●表記や文末を整え、誤解を与えない明快な文章にする。
　⬇漢字・平仮名・片仮名、句読点を適切に用いる。
　⬇常体（「だ・である」）か、敬体（「です・ます」）のいずれかに統一する。

漢字3 送り仮名

送り仮名は、漢字の読みを明らかに示すために付けられる。付け方の主な原則と例外を覚えておき、文章を読むときや、書くときに活用しよう。



1 活用のある語 原則、活用語尾を送る。

「　」の中に活用語尾を書き込もう。

	動詞	形容詞	形容動詞
原則	通ら｜ない 通り｜ます 通る 通れ｜ば 通れ｜（命令） 通ろう	軽かろう 軽かった 軽くなる 軽い 軽ければ	変だろう 変だった 変だ 変なので 変ならば
	通｜「　」ない 通｜「　」ます 通う 通｜「　」ば 通｜「　」（命令） 通｜「　」う	短｜「　」う 短｜「　」た 短｜「　」なる 短い 短｜「　」ば	主｜「　」う 主｜「　」た 主だ 主｜「　」ので 主｜「　」ば
例外	○ 明ら｜む × 明む ○ 教わ｜る × 教る など	語幹が「し」で終わる場合 ○ 美し｜い × 美い その他の例外 危な｜い　大き｜い　など	活用語尾の前に「か」「やか」「らか」を含む場合 ○ 暖かだ × 暖だ その他の例外 平ら｜だ　幸せ｜だ　など

246ページ 文法2

2 名詞 原則、送り仮名を付けない。

	名詞
原則	山　何　井　肘　堤　菊 筆箱　教科書　国語辞典
例外	後ろ　自ら 情け　誉れ　など

3 副詞・連体詞・接続詞 原則、最後の一音を送る。

	副詞・連体詞・接続詞
原則	必ず　再び　少し　既に 全く　最も　及び
例外	大いに　直ちに 並びに　又　など

※ただし、副詞・連体詞・接続詞には、平仮名で書くものも多い。

原則とは異なる送り仮名の付け方をする語

▼**他の語を含む語** 含まれている語にそろえる。

- 動く（自動詞）
  - 動かす（他動詞）
  - 重い（形容詞）
    - 重み（名詞）
  - 重たい（形容詞）
    - 重さ（名詞）
- 努める（動詞）
  - 努めて（副詞）
- 薫る（動詞）
  - 薫り（名詞）
- 正しい（形容詞）
  - 正しさ（名詞）

▼**活用のある語から派生した名詞** 元の語にそろえる。

- 重い（形容詞）
  - 重み（名詞）

練習問題

次の文の――線部を〈　〉の漢字を使って書こう。

① 二体の人形を巧みにあやつる。〈操〉
② 悪人をこらしめる。〈懲〉
③ ご提案をつつしんでお受けします。〈謹〉
④ ねばりづよく取り組む。〈粘・強〉
⑤ 仕事をなまける。〈怠〉
⑥ 日々の鍛練をおこたらない。〈怠〉
⑦ 疲労のあまり判断力がにぶくなる。〈鈍〉
⑧ 童歌を歌うほがらかな声が響く。〈朗〉
⑨ 子供がすこやかに育つ。〈健〉
⑩ 後にうれいを残す。〈憂〉
⑪ 栄養のかたよりに注意する。〈偏〉
⑫ きたる土曜日に文化祭が行われる。〈来〉

新出漢字

231 井（ドンぶり）
231 肘（ひじ）
231 堤（テイ つつみ）
231 菊（キク）
231 誉（ヨ ほまれ）
231 薫（クン かおる）
231 懲（チョウ こりる こらす こらしめる）
231 謹（キン つつしむ）
231 粘（ネン ねばる）
231 怠（タイ おこたる なまける）
231 鍛（タン きたえる）
231 鈍（ドン にぶい にぶる）
231 憂（ユウ うれえる うれい）
231 偏（ヘン かたよる）

漢字一覧表

321ページ 練習問題・は中学校で学習する音訓

書く　話す・聞く

国語の学びを振り返ろう

「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る

この一年間の国語学習は、あなたにどんな変化をもたらしただろう。なったことや、考え方が変わったところを基に、「国語を学ぶ意義」について語り合おう。そして、考えたことをコピーにまとめ、クラスで交流しよう。できるように

目標

- 自分の具体的な変化から共通点を見つけ、抽象化してまとめる。（知る）
- 互いの考えを尊重しつつ対話する。（話・聞）
- 友達からのコメントを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。（書く）

集める・整理する

1 対話を通して考える

- １年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。
- 「国語を学ぶ意義」を考える。

組み立てる・表現する

2 コピーにまとめる

- 自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。

3 コピーの説明を書く

- そのコピーを付けた意図や理由を、200 ～ 300 字程度で説明する。

共有する

4 クラスで共有し、交流する ICT

- 作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。

振り返る 235ページ

生かす

- 日常　日記を振り返り、１年間の成長を考える。
- 将来　旅の記録を振り返り、自分の変化を見つめる。



233ページ 学びの価値づけ
［書く］280ページ 表現の効果｜根拠・構成｜表現の工夫｜情報整理
［話す・聞く］280ページ 立場の尊重｜質問｜資料や機器

学びのカギ

これまでの学びを価値づける

【学びを振り返るとき】

- できるようになったこと、考え方が変わったことを挙げ、振り返る観点を決める。
- 決めた観点で教科書やノート、書いた文章や写真、録画などを振り返り、気づいた点を挙げる。
- ある時点の自分と現在の自分とを比較し、その変化を具体的に書き出す。
- 自分で気づいた観点や変化を基に、対話を通して、考えを深める。

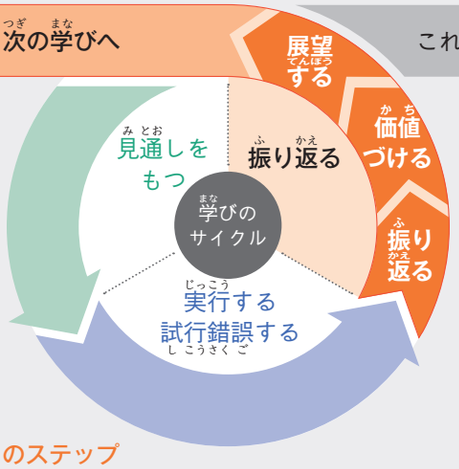
【学びを価値づけるとき】

- 振り返った内容から共通点を見つけ、抽象化してまとめる。（＝価値づけ）

280ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

学びのサイクル



振り返りのステップ

［振り返る］
学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。

［価値づける］
身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。

［展望する］
学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。

学びを「振り返る」とはどういうことか、改めて考えよう。その気づきを日々の学習にも生かし、振り返りの質を高めよう。



■対話する

水島　この一年で、語彙力は大事だと思うようになった。よく、きに「やばい」や「すごい」という言葉を使うのはよくないしょう。でも、どうしてそういわれるのか、あまりぴんときてでも、語彙力は大事だって考えが変わったんだね。それは、どうして？

野口　授業でやった「ヒューマノイド」がおもしろくて、「すごい！」と思ったんだ。過去の場面と現在の場面を行き来する構成も巧みだと感じたし、作中の「笑顔のできそこない」という表現が、今でも覚えているほど印象的だった。ただ、そのときは、何をどう「すごい」と感じたのか、自分の中でうまく整理できなくて。もやもやして歯がゆい思いをしたのがきっかけかな。すごくおもしろい作品なのに、自分の語彙力がないせいで、たいしておもしろさが伝わらない感想を書くことになるのは嫌だと思った。

水島　つまり、「すごくおもしろかった」ことを、魅力的に伝えるためには、語彙力が要るってことだよね。確かに、今聞いた「ヒューマノイド」の説明は魅力的だったよ。

野口　語彙力の大事さに気づいてから、いいなと感じた表現に出会ったら、メモするようにしているんだ。効果があったなら、うれしいな。

水島　そうなんだね。効果が出ていると思う。今までの話を整理して、「国語を学ぶ意義」としてまとめると、どうなるだろう。

野口　僕の場合は、「自分の思いを形にすること」になるかな。つまり、自分の頭の中にあるもやもやしたものを、言葉で明確にして、……（後略）

言の葉ポケット

考えを整理し、価値づけるときの表現

- ○○と□□を比較して、……。
- 今、振り返って考えると、……。
- 整理してまとめると、……。
- 考え方が変わったのはなぜですか。
- つまり、……ということですか。

■コピーや説明を書く

［コピー］
- 伝えたいことを短く端的に書く。
- 体言止めや比喩を用いるなど、表現を工夫する。

［コピーの説明］
- そのコピーを付けた意図や理由、背景を具体的に書く。
- 自分が伝えたいことは何かを明確にし、整理して書く。
- 事前知識のない、初めて読む人にも理解できるように書く。

［作品例］

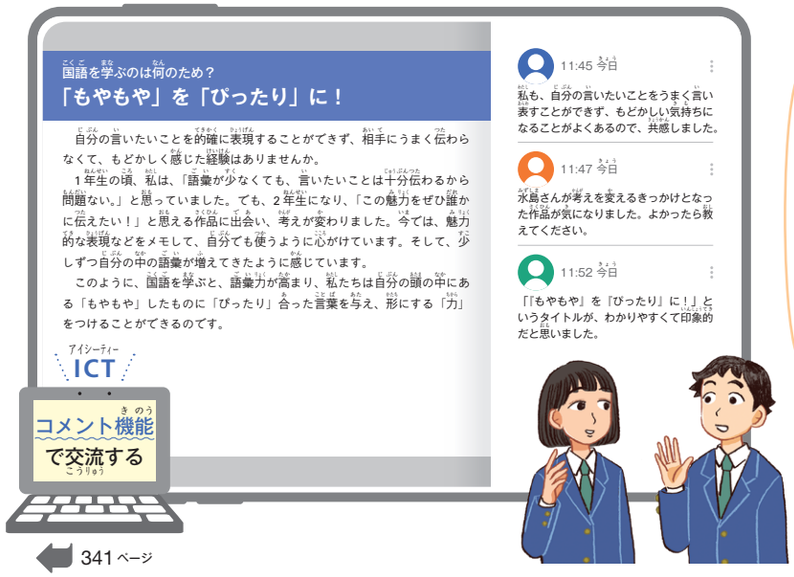
国語を学ぶのは何のため？
「もやもや」を「ぴったり」に！

自分の言いたいことを的確に表現することができず、相手にうまく伝わらなくて、もどかしく感じた経験はありませんか。

1年生の頃、私は、「語彙が少なくても、言いたいことは十分伝わるから問題ない。」と思っていました。でも、2年生になり、「この魅力をぜひ誰かに伝えたい！」と思える作品に出会い、考えが変わりました。今では、魅力的な表現などをメモして、自分でも使うように心がけています。そして、少しずつ自分の中の語彙が増えてきたように感じています。

このように、国語を学ぶと、語彙力が高まり、私たちは自分の頭の中にある「もやもや」したものに「ぴったり」合った言葉を与え、形にする「力」をつけることができるのです。

■作品を共有し、交流する



341ページ

もらったコメントを読むと、自分の作品のよい点や、もっと改善できそうな点がわかるね。

振り返る

- **知る**　□1年間の学びを振り返る際に、具体的な変化をどのように抽象化してまとめたか。
- **話す・聞く**　□対話の際に、互いの考えを尊重しながら、さらに考えを深めるために、どのような点を心がけたか。
- **書く**　□作品に付いたコメントから見いだした、自分の文章のよい点や改善点は何か。
- **つなぐ**　□友達の作品を読み、さらに考えが深まったことや新しく気づいたことを挙げてみよう。

鍵

茨木 のり子

一つの鍵が　手に入ると
たちまち扉はひらかれる
硬く閉された内部の隅々まで
明暗くっきりと見渡せて

人の性格も
謎めいた行動も
物と物との関係も
複雑にからまりあった事件も
なぜ　なにゆえ　かく在ったか
どうなろうとしていたか
どうなろうとしているか
あっけないほど　すとん　と胸に落ちる

ちっぽけだが
それなくしてはひらかない黄金の鍵
人がそれを見つけ出し
きれいに解明してみせてくれたとき

ああ　と呻く
私も行ったのだその鍵のありかの近くまで
もっと落ちついて　ゆっくり佇んでいたら
探し出せたにちがいない
鍵にすれば
出会いを求めて
身をよじっていたのかも知れないのに

木の枝に無造作にぶらさがり
土の奥深くで燐光を発し
虫くいの文献　聞き流した語尾に内包され
海の底で腐蝕せず
渡り鳥の指標になってきらめき
束になって空中を　ちゃりりんと飛んでいたり

生きいそぎ　死にいそぐひとびとの群れ
見る人が見たら
この世はまだ
あまたの鍵のひびきあい
ふかぶかとした息づきで
燦然と輝いてみえるだろう

読む

詩を読み味わい、作者のものの見方について語り合おう。［学習活動］

目標

- 詩の中で使われている語句に着目して、語感を磨き、語彙を豊かにする。
- 詩を読んで感じたことを自分の経験と結び付け、考えを深める。

学びへの扉

見通しをもつ

詩を読み味わい、作者のものの見方について語り合おう。［学習活動］

目標

- 詩の中で使われている語句に着目して、語感を磨き、語彙を豊かにする。（知る）
- 詩を読んで感じたことを自分の経験と結び付け、考えを深める。（読む）

捉える

1 印象に残った語句や表現を話し合おう。

詩の中で印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合おう。

読み深める

2 表現の意味を考えよう。

①作者は、「鍵」をどのようなものとして描いているか。詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表しよう。

②「鍵」によって「ひらかれる」「扉」（236ページ2行目）の向こうには、どんなものがあるか考えてみよう。

考えをもつ

3 作者のものの見方について語り合おう。

「私」は「この世」（237ページ18行目）をどんな世界と捉えているのだろう。あなたが考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合おう。

振り返る

- 知る　□詩の中で使われているどのような語句に着目したか。
- 読む　□作者のものの見方を考える手がかりとなった友達の発言にはどんなものがあったか。
- つなぐ　□「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表してみよう。

注意する語句

236 解明 意

237 内包 意

237 あまた 意



作者　**茨木のり子**　一九二六（大正一五）――二〇〇六（平成一八）

大阪府出身。詩人。

著書　詩集「見えない配達夫」「倚りかからず」、解説「詩のこころを読む」など。

出典　「自分の感受性くらい」

広がる読書



「詩のこころを読む」茨木のり子



学びを深める

文法　一年生の復習……240
文法1　自立語……242
文法2　用言の活用……246
文法3　付属語……251
［練習］小学校六年生で学習した漢字……257
小学校六年生で学習した漢字一覧……260
国語の力試し……262
語彙ブック……267

文法

一年生の復習

1 言葉の単位

文は、次のような単位に分けられる。

・文 ・文節 ・単語

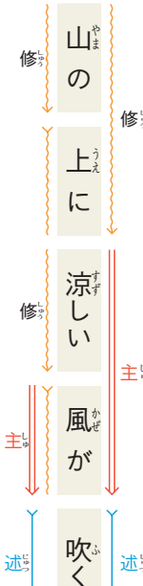
文は、さまざまな働きをする文節が相互に関係をもつことで組み立てられている。文を組み立てる部分となる文節や連文節を、文の成分という。

文の成分（ ）内は連文節の場合

- 主語・述語（主部・述部）
- 修飾語（修飾部）
- 接続語（接続部）
- 独立語（独立部）

文節どうしの関係

- 主・述の関係……主語・述語（主部・述部）
- 修飾・被修飾の関係……修飾語（修飾部）
- 接続の関係……接続語（接続部）
- 独立の関係……独立語（独立部）



- **文** 一まとまりの内容を表す一続きの言葉。最後に「。（句点）」を付ける。
- **文節** 発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。間に「ね」などを入れて区切れるかどうかを確認する。
- **単語** 文法上、意味や働きをもつ言葉としては、最小の単位。

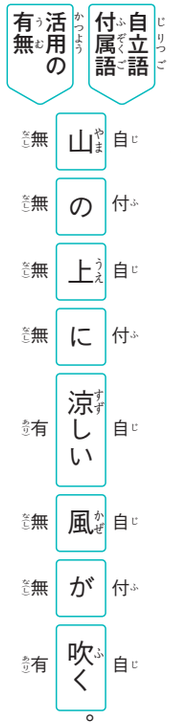
- **主・述の関係**［主語（部）・述語（部）］
  主語（部）＝「何（誰）が」を表す。
  述語（部）＝「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」を表す。
- **修飾・被修飾の関係**［修飾語（部）］
  他の文節を説明したり、内容を補ったりする。
- **接続の関係**［接続語（部）］
  文と文、文節と文節をつなぐ。
  - 寒かった。だから、行かなかった。
  - 寒かったから、行かなかった。
- **独立の関係**［独立語（部）］
  他の文節とは直接関係がない。
  - おや、つばめだ。 - はい、田中です。

2 文の組み立て

3 単語の分類

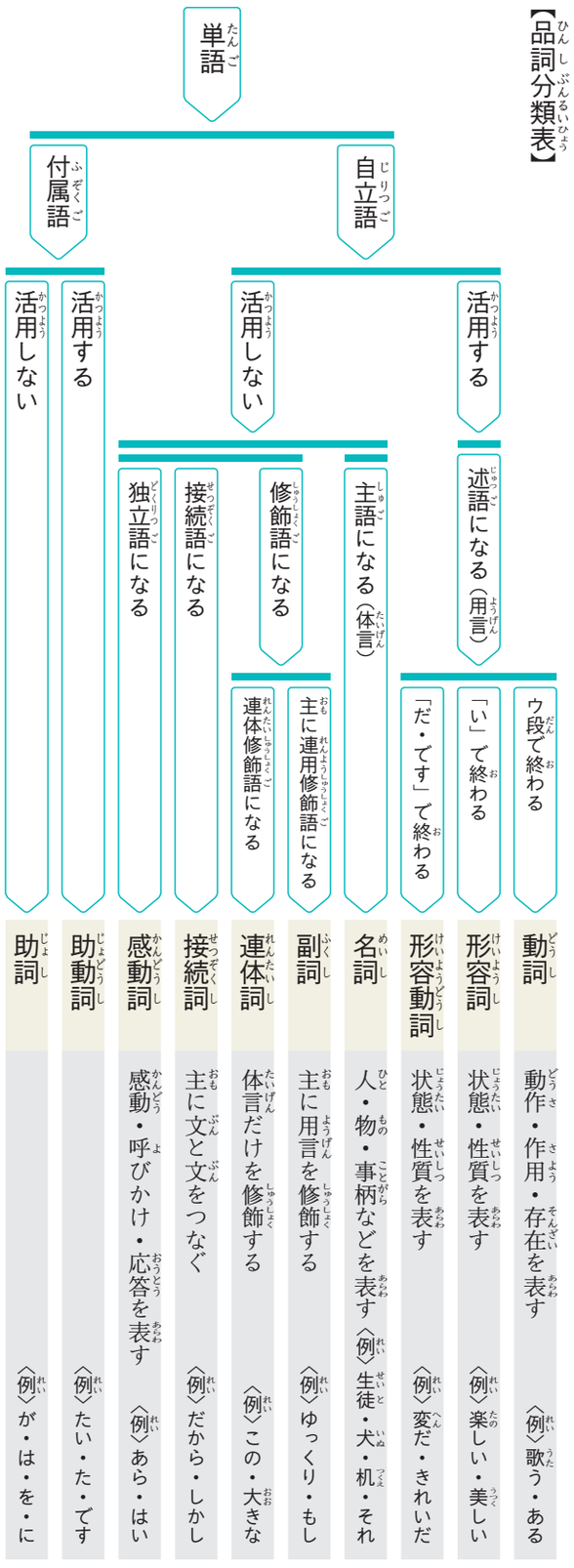
単語は、**自立語**と**付属語**、**活用の有無**で大きく分類できる。そのうえで、どんな文の成分になるか、言い切りの形は何かなどの基準で詳しく分類したものを、**品詞**という。

- **自立語・付属語**
- **活用の有無**
- **品詞**



- **自立語と付属語**
  自立語＝単独で文節を作ることができる。
  付属語＝単独では文節を作ることができない。
- **活用** 文の中で使われるとき、単語の形が規則的に変化すること。
- **体言** 活用しない自立語の中で、「が・は・も」などを後に付けて主語になることができるもの（名詞）。
- **用言** 活用し、単独で述語になることができる自立語（動詞・形容詞・形容動詞）。

【品詞分類表】



文法 1

自立語

1 活用する自立語

活用する自立語（用言）には、動詞・形容詞・形容動詞の三種類がある。

1 動詞

- 活用する自立語のうち、「どうする・どうなる・ある」（動作・変化・存在）を表し、言い切りが「ウ」段の音になる単語を**動詞**という。
- 動詞には、動作の対象（「何を」）を必要とする**他動詞**と必要としない**自動詞**がある。

2 形容詞

- 活用する自立語のうち、「どんなだ」（状態・性質）を表し、言い切りが「い」になる単語を**形容詞**という。

3 形容動詞

- 活用する自立語のうち、「どんなだ」（状態・性質）を表し、言い切りが「だ・です」に、名詞が後に付く形が「な」になる単語を**形容動詞**という。

活用する自立語

- **状態・性質**
  - 言い切りが「だ・です」〈例〉好きだ／元気だ／静かです → **形容動詞**
  - 言い切りが「い」〈例〉うれしい／やさしい／新しい → **形容詞**
- **動作・変化・存在** → **動詞**
  - 言い切りが「ウ」段〈例〉曲げる／遊ぶ／乾く
  - 自動詞〈例〉兄が起きる。
  - 他動詞〈例〉母が兄を起こす。

話すこと・書くことに生かす

自動詞と他動詞

述語を自動詞にするか、他動詞にするかで主語が変わり、文の意味や印象も変化する。

① 気分が変わる。（自動詞）

② （私が）気分を変える。（他動詞）

①は気分が自然に変化する様子を、②は自分で意図的に気分を変化させる様子を表す。

③ 食器が割れました。（自動詞）

④ （僕が）食器を割りました。（他動詞）

③は事実の報告だが、④は割った人の存在と責任の所在を暗示している。

練習問題

2 活用しない自立語

活用しない自立語には、名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の五種類がある。

1 名詞

- 活用しない自立語の中で「が・は・も」などを後に付けて主語になることができる単語を体言という。品詞では、**名詞**がこれに当たる。
- 名詞は、人・物・事柄などを表す。
- 名詞には、次のようなものがある。

普通名詞	一般的な名詞。ほとんどがこれに当たる。〈例〉犬・学校・文化祭・出会い
代名詞	人・物・場所・方向などを指し示す。〈例〉私・彼女・これ・あちら
固有名詞	人名・地名など特定の物事の名前を表す。〈例〉夏目漱石・平家物語・日本
数詞	物の数量や順序を表す。数字を含む。〈例〉一つ・二冊・三番目
形式名詞	本来の意味が薄れ、常に連体修飾語を付けて使われる。〈例〉彼のことを知っている。／一年生のときに出会った。

主語

名詞：友達＋が／友達＋は／友達＋も

来る。

［補助動詞、補助形容詞］

- 補助の関係にある文節のうち、後に付いて意味を補う単語を、補助（形式）動詞、補助（形式）形容詞という。

補助動詞
- 花が咲いている。
- 父に相談してみる。

補助形容詞
- 道のりは遠くない。
- まだ必要でない。

◆文の中での名詞の働き

名詞は、文の中で主語になる以外にも、次のような働きをする。

- 友達＋と → 〈連用修飾語〉　友達と本を読む。
- 友達＋の → 〈連体修飾語〉　友達の本を借りる。
- 友達＋だ → 〈述語〉　彼と私は友達だ。
- 友達（単独）→ 〈独立語〉　友達、それは人生の宝物だ。

2 副詞

●活用しない自立語のうち、主に連用修飾語となり、様子・状態や程度を表す単語を**副詞**という。

●副詞には、次のようなものがある。

状態の副詞	程度の副詞	呼応の副詞
「どのように」という状態を表す。	「どのくらい」という程度を表す。	下に決まった言い方がくる。
〈例〉そっと触れる。きらきら光る。	〈例〉とても甘い。ずいぶん待った。 ※用言だけでなく、場所・方向・時間を表す体言や副詞を修飾することもある。 〈例〉ごく近く。ずっと昔。 かなり後ろ。もっとゆっくり。	〈例〉たとえ……ても（でも）……。 もし……なら（ば）……。 決して……ない。

兄は、毎朝　犬と　のんびり　散歩する。
→「どのように散歩するか」様子・状態を表す。
最近、朝晩は　かなり　冷え込む。
→「どのくらい冷え込むか」程度を表す。

▼次の呼応の副詞を使って、短文を作ろう。

①たとえ
②もし
③決して
④たぶん
⑤まるで

◆「静かな」と「大きな」の品詞

「静かな山」「大きな山」の「静かな」「大きな」は、同じ品詞のように見える。しかし、言い切りの形を考えると、品詞が異なることがわかる。

- 言い切りの形が「○○だ」。
  静かな　山→○静かだ。
  活用がある→形容動詞
- 「大きな」という形のみ。
  大きな　山→×大きだ。
  活用がない→連体詞

3 連体詞

●活用しない自立語のうち、連体修飾語にしかならない単語を**連体詞**という。

この本　その本　あの本　どの本
大きな木　小さな花　おかしな話
たいしたこと　とんだ災難
ある人　いかなる状況　あらゆる事態
わが道　あらぬ疑い

4 接続詞

●活用しない自立語のうち、接続語になり、前後の文や語をつなぐ単語を**接続詞**という。

●接続詞には、次のようなものがある。

順接	逆接	並列・累加	対比・選択	説明・補足	転換
前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。	前の内容から予想される展開とは違うことを述べる。	前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。	前に述べたことと比べたり、どちらかを選んだりする。	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	前に述べたことと話題を変える。
〈例〉それで・だから・すると・したがって	〈例〉しかし・けれども・ところが	〈例〉また・そして・なお・しかも	〈例〉または・あるいは・それとも・いっぽう	〈例〉つまり・なぜなら・例えば	〈例〉さて・ところで・ときに

小さな妹には、あまりに遠い道のりだった。
しかし、彼女は歩き切った。［逆接］
明日の遠足の集合時間は、八時です。また、学校到着は、午後三時の予定です。［並列・累加］

5 感動詞

●活用しない自立語のうち、独立語になり、応答や呼びかけ、感動などを表す単語を**感動詞**という。

はい、林です。［応答］
ねえ、放課後に遊ぼうよ。［呼びかけ］
ああ、驚いた。あら、雪だわ。［感動］
おはよう、いい天気だね。［挨拶］

▼次の――線部の品詞を答えよう。

①このケーキはおいしい。
②はい、高木です。ところで、あなたはどなたですか。
③妹といっしょに、ゆっくり歩く。
④ああ、今日の空は、さわやかだな。
⑤両手を広げ、そして、深く息を吸う。
⑥もし、その本が読みたいなら、君に貸そう。

文法 2

用言の活用

1 活用

●後に付く言葉や、文中での働きにより、単語の形が規則的に変化することを**活用**という。

●活用によって変化した単語の形を**活用形**という。また、活用しても常に変化しない部分を**語幹**、変化する部分を**活用語尾**という。

●活用形は、後にどのような言葉が付くかによって、**未然形**・**連用形**・**終止形**・**連体形**・**仮定形**・**命令形**の六種類に分けられる。

〈例〉話す

語幹：はな

活用形

活用語尾	活用形
さ	ない［未然形］
し	ます［連用形］
す	とき［連体形］
せ	ば［仮定形］

活用形	後に付く主なもの（動詞の場合）
未然形	―ない ―う ―よう ―れる ―せる ―ぬ など。
連用形	用言や、―ます ―た ―て など。
終止形	言い切る形。 ―と ―から ―けれど など。
連体形	体言や、―ので ―のに など。
仮定形	「もし～すれば」と仮定するときの形。 ―ば
命令形	命令して言い切る形。

◆五十音の行と段

	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
ア行	あ	い	う	え	お
カ行	か	き	く	け	こ
サ行	さ	し	す	せ	そ
タ行	た	ち	つ	て	と
ナ行	な	に	ぬ	ね	の
ハ行	は	ひ	ふ	へ	ほ
マ行	ま	み	む	め	も
ヤ行	や		ゆ		よ
ラ行	ら	り	る	れ	ろ
ワ行	わ				を
	ん				

練習問題

2 用言の活用

1 動詞の活用

●動詞の活用は、次の五種類に分けられる。

①**五段活用**……活用語尾が、五十音のある行の「ア・イ・ウ・エ・オ」（五段）に沿って変化する。
※「ない」を付けると直前が「ア」段の音になる。

②**上一段活用**……活用語尾に五十音の「イ」段の音が入り、その音を中心に「イ・イ・イル・イル・イレ・イロ」と変化する。
※「ない」を付けると直前が「イ」段の音になる。

③**下一段活用**……活用語尾に五十音の「エ」段の音が入り、その音を中心に「エ・エ・エル・エル・エレ・エロ」と変化する。
※「ない」を付けると直前が「エ」段の音になる。

④**カ行変格活用**……「来る」の特殊な活用。

⑤**サ行変格活用**……「する」と、「勉強する」など「する」が付く動詞の特殊な活用。

五段活用
〈例〉書く
kaka-ない
kaki-ます
kaku。
kaku-とき
kake-ば
kake。
kako-う

上一段活用
〈例〉起きる
oki-ない
oki-ます
okiru。
okiru-とき
okire-ば
okiro。

下一段活用
〈例〉食べる
tabe-ない
tabe-ます
taberu。
taberu-とき
tabere-ば
tabero。

◆「カ変」「サ変」

「カ行変格活用」と「サ行変格活用」は、それぞれ「カ変」「サ変」と省略して表すことがある。

◆音便（動詞の場合）

五段活用の連用形に「た」や「て」が付くとき、発音しやすいように音が変化する場合がある。これを音便という。動詞の音便には、次の三種類がある。

●**イ音便**……「い」に変化する。
（「く・ぐ」などで終わる動詞）
・書く＋た　書きた→書いた
※例外もある。
・行く＋た　行きた→行った

●**促音便**……「っ」に変化する。
（「う・つ・る」などで終わる動詞）
・打つ＋た　打ちた→打った

●**撥音便**……「ん」に変化する。
（「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞）
・読む＋た　読みた→読んだ

［動詞の活用］

活用の種類	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
五段	書く	か		こ	き	く	くとき／くので	けば	け
上一段	起きる	お		き	き	きる	きるとき／きるので	きれば	きろ
下一段	食べる	た		べ	べ	べる	べるとき／べるので	べれば	べろ
カ変	来る	○		こ	き	くる	くるとき／くるので	くれば	こい
サ変	する	○		し／せ／さ	し	する	するとき／するので	すれば	しろ

▼次の動詞の活用を考え、表に書き込もう。

活用の種類	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	走る	（　）		—ない／—う／—よう	—ます／—た／—て	。	—とき／—ので	—ば	。
	走れる	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	○

▼次の文から動詞を抜き出し、活用の種類と活用形を答えよう。

① この本を借りようと思います。
② 話す人の目を見ろ。
③ 赤と青を混ぜれば、紫になる。
④ 大勢の客を乗せて、バスが来た。
⑤ 握手をすれば、気持ちが通じる。

◆可能動詞の活用

「……できる」という意味を含んだ動詞を可能動詞という。可能動詞には、次のものが該当する。

① 「できる」（上一段活用）
② 五段活用の動詞を基にした、下一段活用の動詞
・飲む（五段）→飲める（下一段）
・走る（五段）→走れる（下一段）

ただし、可能動詞には命令形がない。

2 形容詞・形容動詞の活用

●形容詞・形容動詞も活用するが、動詞とは異なり、命令形がない。また、動詞と形容詞は終止形と連体形が同じだが、形容動詞では形が異なる。

形容詞	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	かわいい	かわい		かろ	かっく	い	いとき／いので	ければ	○

形容動詞	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	静かだ	しずか		だろ	だっで／でに	だ	な	なら	○
	元気です	げんき		でしょ	でし	です	（です）	○	○

▼次の形容詞・形容動詞の活用を考え、表に書き込もう。

形容詞	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
美しい		（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	美しい	（　）		—う	—た／—ない／—なる	。	—とき／—ので	—ば	。
	美しかろう	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	○

形容動詞	基本形	活用形	後に付く主なもの／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
自由だ		（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	自由だ	（　）		—う	—た／—ない／—なる	。	—とき／—ので	—ば	。
	自由だろう	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	○

◆音便（形容詞の場合）

形容詞の連用形に、「ございます」が付くときには、ウ音便が生じる。

・暑く＋ございます
→暑うございます
音便により語幹が変わることもある。
・楽しく＋ございます
→楽しゅうございます

◆「平和だ」か、「平和＋だ」か

① 毎日が平和だ。
② 最も尊いものは平和だ。

①の「平和だ」は形容動詞、②の「平和だ」は名詞である「平和」の後に「だ」が付いたものである。

直前に「とても」などを入れると、区別できることが多い。「とても」が入る場合は形容動詞、入れると不自然になるものは「名詞＋だ」である。

▼次の文から、形容詞、形容動詞を抜き出し、その活用形を答えよう。

① 今夜は、さぞ寒かろう。
② 静かにしていよう。
③ 暑ければ、窓を開けなさい。

口語動詞活用表

活用の種類		五段活用				上一段活用		下一段活用		変格活用	
基本形		ある	運ぶ	笑う	行く	生きる	似る	答える	出る	カ変	サ変
語幹＼後に付く主なもの	活用形	あ	はこ	わら	い	い	［に］	こた	［て］	○	○
—ない／—う／よう	未然形	ろ（ら）	ば	わ お	か こ	き	に	え	で	こ	し さ せ
—ます —た —て	連用形	っ り	ん び	っ い	っ き	き	に	え	で	き	し
—。	終止形	る	ぶ	う	く	きる	にる	える	でる	くる	する
—とき —ので	連体形	る	ぶ	う	く	きる	にる	える	でる	くる	する
—ば	仮定形	れ	べ	え	け	きれ	にれ	えれ	でれ	くれ	すれ
—。	命令形	（れ）	べ	え	け	きろ	にろ	えろ	でろ	こい	しろ

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。
※カ変・サ変、全体で二音節しかない上一段・下一段の動詞（「似る」「出る」など）の場合、語幹と活用語尾は区別できない。表中には［　］で示した。

口語形容詞活用表

基本形		明るい	早い	新しい
語幹＼後に付く主なもの	活用形	あかる	はや	あたらし
—う	未然形	かろ	かろ	かろ
—た —ない —なる —ございます	連用形	かっ く う	かっ く	かっ く
—。	終止形	い	い	い
—とき —ので	連体形	い	い	い
—ば	仮定形	けれ	けれ	けれ
—。	命令形	○	○	○

口語形容動詞活用表

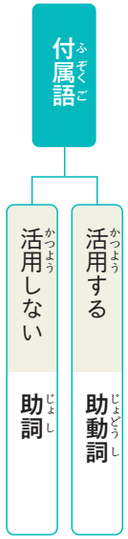
基本形		明らかだ 重要だ	明らかです 重要です
語幹＼後に付く主なもの	活用形	あきらか じゅうよう	あきらか じゅうよう
—う	未然形	だろ	でしょ
—た —ない —なる	連用形	だっ で に	でし
—。	終止形	だ	です
—とき —ので	連体形	な	（です）
—ば	仮定形	なら	○
—。	命令形	○	○

文法 3

付属語

1 付属語

● 付属語には、**助動詞**・**助詞**の二種類がある。
● 活用する付属語を**助動詞**、活用しない付属語を**助詞**という。



練習問題

2 付属語の種類

1 助動詞

● 活用する付属語を**助動詞**という。
● 助動詞は、用言・体言や他の助動詞などの後に付いて、意味を付け加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりする。

・朝焼けが、美しい。
→ 助動詞を使っていない。「何が―どんなだ」という事柄を表す。

・朝焼けが、美しかった。
・朝焼けが、美しかったそうだ。
→「過去」の意味を付け加えている。
→「過去」「伝聞」の意味を付け加えている。

▼次の文を文節に区切り、助動詞に線を引こう。

① 今夜は、星が見えない。
② 校長先生は、正午に戻られる予定です。
③ 雨が強くなりそうだから、皆を早めに帰宅させよう。
④ 小学生の頃、決して約束は破るまいと心に決めた。
⑤ あの雲は、まるで魚のような形をしていますね。

●一つの助動詞が、さまざまな意味を表す場合もある。主な助動詞の働きには次のようなものがある。

れる・られる	受け身	他からの動作を受ける。
	可能	それができるということを表す。
	尊敬	動作主への敬意を表す。
	自発	自然とその状態になる。
せる・させる	使役	他に強制したり、他の行動を容認したりして、何かをさせる。
たい・たがる	希望	話し手・書き手が望むこと。 話し手・書き手以外が望むこと。
ない・ぬ（ん）	否定（打ち消し）	物事や動作を打ち消す。
う・よう	推量	想像・予想する。
	意志	何かをしようとする。
	勧誘	何かをいっしょにしようと誘う。
た	過去	現在より以前のこと。
	完了	物事が終了し、動きが止まること。
	存続	ある状態が続いていること。
	想起	思い出し、思い当たること。
ます	丁寧	相手への丁寧な気持ちを表す。

- 先生に呼ばれる。
- 六時には起きられる。
- 先生が家に来られる。
- 面影がしのばれる。
- 字を書かせる。
- 野菜を食べさせる。
- 水を飲みたい。
- 犬が水を飲みたがる。
- 最近、雨が降らない。
- 言わぬが花。
- 外は寒かろう。
- 僕も帰ろう。
- さあ、始めよう。
- 昨夜は寒かった。
- 作品が完成した。
- 高くそびえた山々。
- これは君のだったね。
- 来週、決定します。

◆「れる」「られる」の見分け方

「れる」「られる」には、受け身・可能・尊敬・自発の意味がある。区別に迷うときは、次のような意味や使い方になっているか確かめよう。

- **受け身**＝「○○に……をされる」
- **可能**＝「……ができる」
- **尊敬**＝助動詞を含む文節が、尊敬語の対象となる人物の行動を表す。
- **自発**＝「自然に……」を補える。

◆「ない」の品詞の見分け方

助動詞「ない」と補助形容詞「ない」の違いに注意しよう。迷った場合は、同じ否定の意味を表す助動詞「ぬ」に置き換えてみよう。

- このところ、雨が降らない。

「ない」を「ぬ」に置き換えられる。

「降らぬ」○　→助動詞

- 外はまだ暗くない。

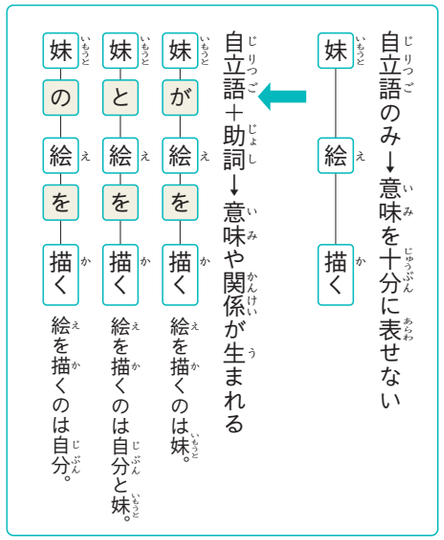
「ない」を「ぬ」に置き換えられない。

「暗くぬ」×　→補助形容詞

2 助詞

●活用しない付属語を**助詞**という。

●助詞は、自立語の後に付いて、さまざまな意味を付け加えたり、語句と語句の関係を示したりする。



らしい	推定	根拠に基づいて推し量る。
ようだ・ようです	推定	根拠に基づいて推し量る。
	比喩	物事を何かにたとえる。
	例示	例として示す。
そうだ・そうです	推定・様態	物事の様子や状態から推し量る。
	伝聞	他の人から聞いたこと。
まい	否定の意志	今後はそうしないという気持ち。
	否定の推量	今後はそうならないという予想。
だ・です	断定	物事を確かなこととして言い切る。

- 雪が降ったらしい。
- 風はやんだようだ。
- まるで絵画のようだ。
- 君のような元気な人。
- 明日は晴れそうだ。
- 悪口は言うまい。
- 雨にはなるまい。
- あの山が富士山だ。
- 弟は、小学生です。

▼次の各組の文で、――線を引いた助動詞のうち、意味・用法が他と違うのはどれだろう。

①
- 弟が母に叱られた。
- 先生が田中さんを指名された。
- 先生から、「よくできた。」と言われた。

②
- 風景が描かれた絵を購入する。
- 昨日は、雨が降った。
- 眼鏡を掛けた人の隣に座る。

▼次の文を文節に区切り、助詞に線を引こう。

①私は、週に一回は麺類を食べる。
②思い切り走ると、息があがる。
③コーヒーか紅茶か、好きなほうを選ぶ。
④ねえ、愛子さん、午後からどこへ行くの。
⑤駅前でバスに乗り換え、図書館に行く。

●助詞には次のような種類がある。

①格助詞
主に体言の後に付いて、体言とその下の語句との関係を示す。

が・を・に・で・と・から・へ・より・の・や

②副助詞
いろいろな語句の後に付いて、意味を付け加える。

は・も・こそ・まで・しか・だけ・ほど・など・だって・でも・さえ・ばかり・くらい（ぐらい）・ずつ・か・とか・なり

など

主語を作る
連用修飾語を作る
- 鳥が飛ぶ。［対象］
- 本を読む。［相手］
- 先生に話す。［相手］
- 紙で作る。［材料］
- 「賛成。」と言う。［引用］
- 空から降る。［起点］
- 南へ向かう。［方向］
- 彼は僕より背が高い。［比較の基準］

連体修飾語を作る
- 木の名前。

並立の関係を作る
- AとB。AやB。

◆「の」の表す意味・用法
- 人類の宝。→連体修飾語を作る
- 僕の作った話。→後の動作や状態の主語を表す
- 「の」を「が」に置き換えられる。
- この本は僕のだ。→体言の代用
- 「の」を「……のもの」「……のこと」に置き換えられる。

話すこと・書くことに生かす
副助詞が表す意味
①君がリーダーだ。格助詞
②君こそリーダーだ。副助詞
①②はどちらも同じ内容だが、「こそ」には、「君」を推す話し手（書き手）の強い思いが感じられる。
副助詞は、ある事柄に対する話し手や書き手の捉え方・取り上げ方を表す。効果的に使って、伝えたいことを的確に表現しよう。

- 生水は飲まない。［取り立てる・限定する］
- 数学もできる。［他に同類がある］
- 来年こそがんばろう。［強調］
- 子供にまで笑われる。［極端な例］
- 僕しか知らない。［否定と呼応する限定］
- 野菜だけ食べた。［限定］
- 一時間ほどたった。［大体の程度］
- お茶などを飲む。［例示］
- あめを三個ずつ配る。［割り当て］

③接続助詞
主に活用する語句の後に付き、いろいろな関係で前後をつなぐ。

から・ば・と・が・けれど・ながら・のに・ても（でも）・ので・て（で）・し・つつ・なり

など

④終助詞
文や文節の終わりに付いて、話し手・書き手の気持ちや態度を表す。

か・な・なあ・ぞ・かしら・ね（ねえ）・よ・の・わ・とも・さ・や

など

- おなかがすいたから、何か食べよう。［理由］
- 雨が降れば、中止にする。［条件］
- 彼を訪ねたが、会えなかった。［逆接］
- 行ったけれど、間に合わなかった。［逆接］
- 歩きながら話す。［同時］
- テレビを見つつ、雑誌を読む。［同時］
- 風邪をひいて、学校を休む。［原因・理由］

- 彼も行くのだろうか。［疑問］
- 誰にも言うな。［禁止］
- きれいな空だなあ。［感動］
- 本当らしいぞ。［強調］
- 今、何時かしら。［疑問］
- 川島さんなら、さっき帰ったよ。［告知］

▼次の――線部の助詞の、意味・用法の違いを考えよう。

①・弟と私は、トランプでゲームをした。
・弟が帰ってきたと、姉が知らせてくれた。

②・弟が帰ってくると、家の中がにぎやかになる。
・改築中の図書館が、ようやく完成した。

③・遠回りをしたが、時間どおりに到着した。
・隣の教室から、笑い声が聞こえた。

④・暗くなってきたから、明かりをつけた。
・いつ戻ってくるの。
・これは、僕の筆箱だ。

口語助動詞活用表

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	主な接続	用例
受け身・可能・尊敬・自発	れる	れ	れ	れる	れる	れれ	れろ／れよ	未然形（五段・サ変）	話を聞かれる。食べられる魚。先生が来られる。昔がしのばれる。
	られる	られ	られ	られる	られる	られれ	られろ／られよ	未然形（右以外）	
使役	せる	せ	せ	せる	せる	せれ	せろ／せよ	未然形（五段・サ変）	頭を働かせる。話をやめさせる。
	させる	させ	させ	させる	させる	させれ	させろ／させよ	未然形（右以外）	
希望	たい	たかろ	たく	たい	たい	たければ	○	連用形	あの曲をピアノで弾きたい。お菓子を食べたがる。
	たがる	たがろ	たがり	たがる	たがる	たがれば	○		
否定（打ち消し）	ない	なかろ	なく	ない	ない	なければ	○	未然形	彼のことは知らない。知らぬが仏。
	ぬ（ん）	○	ず	ぬ（ん）	ぬ（ん）	ね	○		
推量・意志・勧誘	う	○	○	う	う	○	○	未然形（五段・形容詞・形容動詞）	彼女も来るだろう。学校に行こう。いっしょにサッカーをしよう。
	よう	○	○	よう				未然形（右以外）	
過去・完了・存続・想起	た	たろ	○	た	た	たら	○	連用形	絵を描いた。本を読み終えた。これから授業が始まります。
丁寧	ます	ませ／ましょ	まし	ます	ます	ますれ	（ませ）（まし）	連用形	
推定	らしい	○	らしかっ／らしく	らしい	らしい	○	○	体言、形容動詞の語幹、動詞・形容詞の終止形	外は雨らしい。
推定・例示・比喩	ようだ	ようだろ	ようだっ／ように	ようだ	ような	ようなら	○	連体形、体言＋「の」、連体詞「この」	雨が降るようだ。紅葉のような手。スミレのような春の花。
推定・様態	そうだ	そうだろ	そうだっ／そうに	そうだ	そうな	そうなら	○	連用形、形容詞・形容動詞の語幹	雨が降りそうだ。おいしそうだ。
伝聞	そうだ	○	そうで	そうだ	○	○	○	終止形	あの人は元気にやっているそうだ。
否定の意志・否定の推量	まい	○	○	まい	（まい）	○	○	終止形（五段以外は未然形にも接続）	あそこには行くまい。
断定	だ	だろ	だっ／で	だ	（な）	なら	○	体言・助詞「の」 ※「です」は形容詞の終止形にも付く。	私は十四歳だ。ここが私たちの学校です。
	です	でしょ	でし	です	（です）	○	○		

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。

［練習］小学校六年生で学習した漢字

1 次の□に入る適切な漢字を書こう。

❶ □道切符を一□買う。
❷ 委員長の任期□長を□認する。
❸ 父の□生日は、僕の□生日の□日だ。
❹ □の□満を調べる。
❺ 方位□石の□が北を指す。
❻ この図書館の□書は約三万□だ。
❼ 試合開始の□言を聞き、□が高鳴る。
❽ □□に□査機を打ち上げる。
❾ 仕事を□ごとに分□する。
❿ □糸は□のまゆから作られる。
⓫ 明日、□便物が□く予定だ。
⓬ □族の□らしを描いた物語。
⓭ ピアノの演□会で実力を発□する。
⓮ □色の空から雨が□る。
⓯ 参加者に発言する□利を□める。
⓰ □者に人気がある音楽雑□を買う。
⓱ 議会で野□の提案が□決される。
⓲ □分をひかえるように□告する。
⓳ 彼は□実に仕事をこなす立□な人物だ。
⓴ 公園の□場や鉄□で遊ぶ。
㉑ □□の調子がよくない。
㉒ 海□いの町の新鮮な魚に□つづみを打つ。
㉓ □売機が故□している。

260・261ページの一覧表も活用しながら、小学校六年生で学習した漢字を正確に書けるようにしよう。

2 矢印の方向に読むと、漢字二字の熟語ができる。□に入る漢字を、後の□の中から選んで書こう。

❶ 候 ↓ 助 ← 給 ← □ → 強
❷ 苦 ↓ 解 ← 易 ← □ → 破
❸ 財 ↓ 石 ← 家 ← □ → 国
❹ 階 ↓ 落 ← 手 ← □ → 石
❺ 死 ↓ 興 ← 国 ← □ → 命
❻ 品 ↑ 税 ← 期 ← □ → 収
❼ 意 ↓ 良 ← 親 ← □ → 行
❽ 自 ↓ 調 ← 法 ← □ → 規
❾ 注 ↓ 反 ← 発 ← □ → 放
❿ 像 ↓ 画 ← 反 ← □ → 上

善　映　難　射　宝

3 「　」内に示した読み方をする漢字を□に入れ、熟語を完成させよう。

❶［オン］□楽　□人　□度
❷［ダン］横□　□冬　□相
❸［コン］□難　□雑　□気
❹［ヒョウ］土□　□判　□目

4 それぞれの熟語は、□に共通の部分をもっている。□を補って、熟語を完成させよう。

〈例〉 □且 □哉 → 組織

❶ □市 □蔵 →
❷ □原 □流 →
❸ □義 □命 →
❹ □非 □憂 →
❺ □也 □或 →
❻ □敫 □咸 →
❼ □乎 □及 →
❽ □呉 □売 →

5 下の□の中から漢字を選び、四字熟語を完成させよう。

❶ □時 休業
❷ 公 □混 同
❸ □守
❹ □下

皇　密　臨　秘　陛　私　后　厳

6 次の各組の○には、同じ漢字が入る。適切な漢字を後の□の中から選んで□に書こう。

❶ ○略・政
❷ 肉・道 ○
❸ ○勢・容
❹ 命・皮 ○
❺ ○場・演
❻ 白・口 ○
❼ ○折・背
❽ 地・住 ○
❾ ○務・欠
❿ 度・縮 ○
⓫ ○物・米
⓬ 術・○愛

革　尺　策　骨　穀　紅　姿　劇　勤　筋　宅　仁

7 それぞれが慣用句になるように、A群から漢字を選び、送り仮名を付けて□に書こう。また、その慣用句の意味をB群から選んで、［　］に記号を書こう。

❶ 耳を［　］
❷ 頬を［　］
❸ 肩を［　］
❹ 腹を［　］
❺ 舌を［　］

A群　割　巻　染　疑　並

B群
ア　包み隠さずに話すこと。
イ　恥ずかしそうにすること。
ウ　非常に感心すること。
エ　聞いたことが信じられないこと。
オ　対等な力をもつこと。

小学校六年生で学習した漢字一覧

（一九一字）

●片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
●●は中学校で学習する音訓。
●●（ ）内は中学校では学習しもよい音訓。

あ行

胃 イ
胃胃胃胃

異 イ こと
異異異異

遺 イ ユイ
遺遺遺遺

域 イキ
域域域域

宇 ウ
宇宇宇宇

映 エイ うつる はえる
映映映映

延 エン のびる のべる のばす
延延延延

沿 エン そう
沿沿沿沿

恩 オン
恩恩恩恩

か行

我 ガ われ わが
我我我我

灰 カイ はい
灰灰灰灰

拡 カク
拡拡拡拡

革 カク かわ
革革革革

閣 カク
閣閣閣閣

割 カツ わる わり われる さく
割割割割

干 カン ほす ひる
干干干干

株 かぶ
株株株株

巻 カン まく まき
巻巻巻巻

看 カン
看看看看

簡 カン
簡簡簡簡

危 キ あぶない あやうい あやぶむ
危危危危

机 キ つくえ
机机机机

揮 キ
揮揮揮揮

貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ
貴貴貴貴

吸 キュウ すう
吸吸吸吸

疑 ギ うたがう
疑疑疑疑

敬 ケイ うやまう
敬敬敬敬

系 ケイ
系系系系

筋 キン すじ
筋筋筋筋

勤 キン（ゴン） つとめる つとまる
勤勤勤勤

郷 キョウ ゴウ
郷郷郷郷

胸 キョウ むね むな
胸胸胸胸

供 キョウ（ク） そなえる とも
供供供供

劇 ゲキ
劇劇劇劇

激 ゲキ はげしい
激激激激

穴 ケツ あな
穴穴穴穴

券 ケン
券券券券

絹 ケン きぬ
絹絹絹絹

権 ケン（ゴン）
権権権権

警 ケイ
警警警警

さ行

憲 ケン
憲憲憲憲

源 ゲン みなもと
源源源源

厳 ゲン（ゴン） おごそか きびしい
厳厳厳厳

己 コ キ おのれ
己己己己

呼 コ よぶ
呼呼呼呼

誤 ゴ あやまる
誤誤誤誤

后 コウ
后后后后

孝 コウ
孝孝孝孝

皇 コウ オウ
皇皇皇皇

紅 コウ ク べに くれない
紅紅紅紅

降 コウ おりる おろす ふる
降降降降

鋼 コウ はがね
鋼鋼鋼鋼

刻 コク きざむ
刻刻刻刻

穀 コク
穀穀穀穀

骨 コツ ほね
骨骨骨骨

困 コン こまる
困困困困

砂 サ すな
砂砂砂砂

座 ザ すわる
座座座座

済 サイ すむ すます
済済済済

裁 サイ たつ さばく
裁裁裁裁

策 サク
策策策策

冊 サツ（サク）
冊冊冊冊

蚕 サン かいこ
蚕蚕蚕蚕

至 シ いたる
至至至至

私 シ わたくし わたし
私私私私

姿 シ すがた
姿姿姿姿

視 シ
視視視視

詞 シ
詞詞詞詞

誌 シ
誌誌誌誌

磁 ジ
磁磁磁磁

射 シャ いる
射射射射

捨 シャ すてる
捨捨捨捨

尺 シャク
尺尺尺尺

若 ジャク（ニャク） わかい（もしくは）
若若若若

樹 ジュ
樹樹樹樹

収 シュウ おさめる おさまる
収収収収

宗 シュウ ソウ
宗宗宗宗

就 シュウ（ジュ） つく つける
就就就就

衆 シュウ（シュ）
衆衆衆衆

従 ジュウ（ショウ） したがう したがえる
従従従従

縦 ジュウ たて
縦縦縦縦

縮 シュク ちぢむ ちぢまる ちぢめる ちぢれる ちぢらす
縮縮縮縮

熟 ジュク うれる
熟熟熟熟

純 ジュン
純純純純

処 ショ
処処処処

署 ショ
署署署署

諸 ショ
諸諸諸諸

除 ジョ のぞく
除除除除

承 ショウ うける うけたまわる
承承承承

将 ショウ
将将将将

傷 ショウ きず いたむ いためる
傷傷傷傷

障 ショウ（さわる）
障障障障

蒸 ジョウ むす むれる むらす
蒸蒸蒸蒸

針 シン はり
針針針針

仁 ジン ニ
仁仁仁仁

垂 スイ たれる たらす
垂垂垂垂

推 スイ おす
推推推推

寸 スン
寸寸寸寸

盛 セイ（ジョウ） もる さかる さかん
盛盛盛盛

誠 セイ まこと
誠誠誠誠

舌 ゼツ した
舌舌舌舌

聖 セイ
聖聖聖聖

善 ゼン よい
善善善善

銭 セン ぜに
銭銭銭銭

泉 セン いずみ
泉泉泉泉

洗 セン あらう
洗洗洗洗

染 セン そめる そまる しみる（しみ）
染染染染

専 セン もっぱら
専専専専

宣 セン
宣宣宣宣

奏 ソウ（かなでる）
奏奏奏奏

窓 ソウ まど
窓窓窓窓

創 ソウ つくる
創創創創

装 ソウ ショウ（よそおう）
装装装装

層 ソウ
層層層層

操 ソウ（みさお） あやつる
操操操操

蔵 ゾウ くら
蔵蔵蔵蔵

臓 ゾウ
臓臓臓臓

存 ソン ゾン
存存存存

尊 ソン たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ
尊尊尊尊

た行

退 タイ しりぞく しりぞける
退退退退

宅 タク
宅宅宅宅

担 タン（かつぐ） （になう）
担担担担

探 タン さぐる さがす
探探探探

誕 タン
誕誕誕誕

段 ダン
段段段段

暖 ダン あたたか あたたかい あたたまる あたためる
暖暖暖暖

値 チ ね あたい
値値値値

宙 チュウ
宙宙宙宙

忠 チュウ
忠忠忠忠

著 チョ あらわす いちじるしい
著著著著

庁 チョウ
庁庁庁庁

頂 チョウ いただく いただき
頂頂頂頂

腸 チョウ
腸腸腸腸

潮 チョウ しお
潮潮潮潮

賃 チン
賃賃賃賃

痛 ツウ いたい いたむ いためる
痛痛痛痛

敵 テキ かたき
敵敵敵敵

展 テン
展展展展

討 トウ うつ
討討討討

党 トウ
党党党党

糖 トウ
糖糖糖糖

届 とどける とどく
届届届届

な行

認 ニン みとめる
認認認認

納 ノウ ナッ （ナ）（ナン） おさめる おさまる
納納納納

脳 ノウ
脳脳脳脳

派 ハ
派派派派

拝 ハイ おがむ
拝拝拝拝

背 ハイ せい そむく そむける
背背背背

肺 ハイ
肺肺肺肺

俳 ハイ
俳俳俳俳

班 ハン
班班班班

晩 バン
晩晩晩晩

否 ヒ（いな）
否否否否

批 ヒ
批批批批

秘 ヒ ひめる
秘秘秘秘

俵 ヒョウ たわら
俵俵俵俵

腹 フク はら
腹腹腹腹

奮 フン ふるう
奮奮奮奮

並 ヘイ なみ ならべる ならぶ ならびに
並並並並

陛 ヘイ
陛陛陛陛

閉 ヘイ とじる とざす しめる しまる
閉閉閉閉

片 ヘン かた
片片片片

補 ホ おぎなう
補補補補

暮 ボ くれる くらす
暮暮暮暮

宝 ホウ たから
宝宝宝宝

訪 ホウ おとずれる たずねる
訪訪訪訪

亡 ボウ（モウ）（ない）
亡亡亡

忘 ボウ わすれる
忘忘忘忘

棒 ボウ
棒棒棒棒

ま行

枚 マイ
枚枚枚枚

幕 マク バク
幕幕幕幕

密 ミツ
密密密密

盟 メイ
盟盟盟盟

模 モ ボ
模模模模

訳 ヤク わけ
訳訳訳訳

や行

郵 ユウ
郵郵郵郵

優 ユウ やさしい すぐれる
優優優優

預 ヨ あずける あずかる
預預預預

幼 ヨウ おさない
幼幼幼幼

欲 ヨク（ほっする） ほしい
欲欲欲欲

翌 ヨク
翌翌翌翌

乱 ラン みだれる みだす
乱乱乱乱

卵 ラン たまご
卵卵卵卵

ら行

覧 ラン
覧覧覧覧

裏 リ うら
裏裏裏裏

律 リツ（リチ）
律律律律

臨 リン のぞむ
臨臨臨臨

朗 ロウ ほがらか
朗朗朗朗

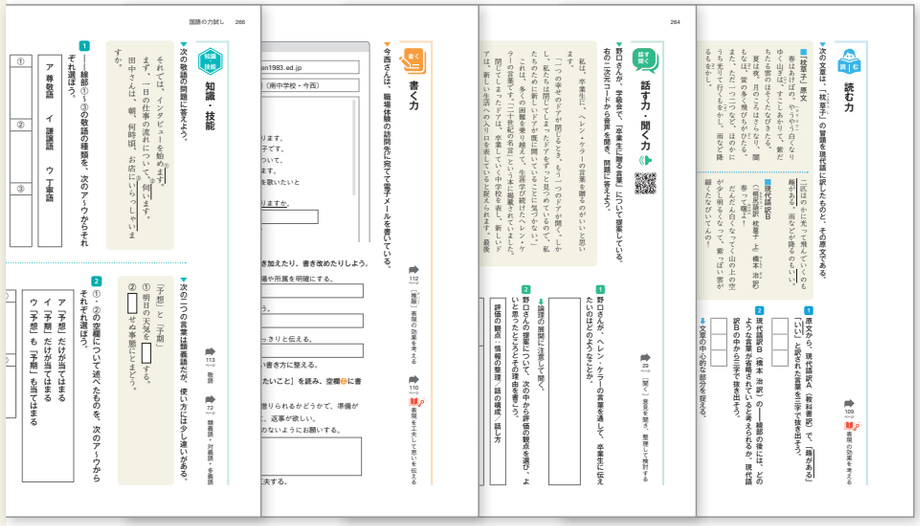
論 ロン
論論論論

わ行

和 ワ なごむ なごやか やわらぐ やわらげる
和和和和

国語の力試し

身につけた資質・能力を活用して、問題に取り組もう。



問題の構成

- 読む力……1 2 3
- 話す力・聞く力……1 2
- 書く力……1 2
- 知識・技能……1 2

時間の目安

40分

振り返りのヒント

行き詰まったときには、教科書の該当ページを見てみよう。

000ページ

問題と関連する「学びのカギ」や、小教材・コラムを示している。

その問題で確かめる、資質・能力を示している。

タブレットやパソコンで問題に取り組もう

※スマートフォンでは使用できません。

- 右の二次元コードを読み取ると、ウェブサイトで問題を解くことができる。
- 解答表示や自己採点の機能を使い、身につけた力を確認しよう。
- 時間があれば、ウェブサイト用の発展問題にも挑戦してみよう。



読む力

▼次の文章は、「枕草子」の冒頭を現代語に訳したものと、その原文である。

■「枕草子」原文

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。
夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

■現代語訳A（教科書訳）

春は明け方。だんだんと白んでいく山ぎわが、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている（のは風情がある）。
夏は夜。月の頃は言うまでもないが、闇もやはり、蛍が多く飛びかっている（のがよい）。また、ほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくのも趣がある。雨などが降るのもいい。

■現代語訳B

（「桃尻語訳 枕草子 上」橋本 治 訳）
春って曙よ！
だんだん白くなってく山の上の空が少し明るくなって、紫っぽい雲が細くたなびいてんの！
夏は夜よね。
月の頃はモチロン！
闇夜もねェ……。
蛍がいっぱい飛びかってるの。
あと、ホントに一つか二つなんかが、ぼんやりポーッと光ってくのもすてき。雨なんか降るのもすてきね。

109ページ 表現の効果を考える

1 原文から、現代語訳A（教科書訳）で、「趣がある」「いい」と訳された言葉を三字で抜き出そう。

2 現代語訳B（橋本 治 訳）の――線部の後には、どのような言葉が省略されていると考えられるか。現代語訳Bの中から三字で抜き出そう。

▼文章の中心的な部分を捉える。

3 あなたは、現代語訳A・Bのどちらに引かれるか。「表現のしかた」に触れながら、選んだ訳とその理由を書こう。

▼文章を比較し、表現の効果について考える。

話す・聞く

話す力・聞く力

▼野口さんが、学級会で、「卒業生に贈る言葉」について提案している。右の二次元コードから音声を聞き、問題に答えよう。

私は、卒業生に、ヘレン・ケラーの言葉を贈るのがいいと思います。

「一つの幸せのドアが閉じるとき、もう一つのドアが開く。しかし、私たちは閉じてしまったドアをずっと見つめているので、私たちのために新しいドアが既に開いていることに気づかない。」

これは、多くの困難を乗り越えて、生涯学び続けたヘレン・ケラーの言葉です。「二十世紀の名言」という本に掲載されていました。閉じてしまったドアは、卒業していく中学校を表し、新しいドアは、新しい生活への入り口を表していると捉えられます。最後の「既に開いていることに気づかない。」という部分には、前を向けば、チャンスはすぐそこにあるのだというメッセージも込められているように思います。新しい生活に向かって、力強く生きていくことを促すこの言葉は、卒業生にぴったりではないでしょうか。

卒業生の皆さんには、中学校での思い出を胸に、新しい生活で新しい挑戦をしてほしいと思います。

1 野口さんが、ヘレン・ケラーの言葉を通して、卒業生に伝えたいのはどのようなことか。

⬇論理の展開に注意して聞く。

2 野口さんの提案について、次の中から評価の観点を選び、よいと思ったところとその理由を書こう。

評価の観点：情報の整理／話の構成／話し方

評価の観点	よいと思ったところとその理由

⬇話し手の考えと比較して聞く。

29ページ［聞く］意見を聞き、整理して検討する

書く

書く力

▼今西さんは、職場体験の訪問先に宛てて電子メールを書いている。

宛先　soumu@aozora-yochien1983.ed.jp

件名　職場体験に関する質問（南中学校・今西）

青空町立青空幼稚園
北川　緑　先生

来週の職場体験でお世話になります、
ア　の今西律子です。
職場体験初日のお楽しみ会について、
イ お聞きになりたいことがあります。
当日は園児の皆さんと、童謡を歌いたいと考えています。
ウ ランチルームにオルガンはありますか。
エ

南中学校　2年2組　今西律子

1 ［推敲の観点］を基に文面を書き加えたり、書き改めたりしよう。

ア［推敲の観点］まず、自分の立場や所属を明確にする。

イ［推敲の観点］敬語を適切に使う。

ウ［推敲の観点］質問の内容をはっきりと伝える。

➡読み手にとってわかりやすい書き方に整える。

2 ［今西さんの考え］と［注意したいこと］を読み、空欄エに書く文面を考えよう。

エ［今西さんの考え］オルガンを借りられるかどうかで、準備が変わる。職場体験が始まる前に、返事が欲しい。
［注意したいこと］相手に失礼のないようにお願いする。

➡自分の考えが伝わるように工夫する。

112ページ［推敲］表現の効果を考える
110ページ 表現を工夫して思いを伝える

知識・技能

知識・技能

▼次の敬語の問題に答えよう。

それでは、インタビューを始めます。①
まず、一日の仕事の流れについて、②伺います。
田中さんは、朝、何時頃、お店に③いらっしゃいますか。

1 ——線部①～③の敬語の種類を、次のア～ウからそれぞれ選ぼう。

ア 尊敬語　イ 謙譲語　ウ 丁寧語

①	
②	
③	

⬇敬語の働きを理解して文章の中で使う。

▼次の二つの言葉は類義語だが、使い方には少し違いがある。

「予想」と「予期」
① 明日の天気を［　　］する。
② ［　　］せぬ事態にとまどう。

2 ①・②の空欄について述べたものを、次のア～ウからそれぞれ選ぼう。

ア「予想」だけが当てはまる
イ「予期」だけが当てはまる
ウ「予想」も「予期」も当てはまる

①	
②	

⬇語感を磨き語彙を豊かにする。

113ページ 敬語
72ページ 類義語・対義語・多義語

ぴったりの表現を見つけるために

語彙ブック

思っていることをうまく表現できない……。
そんなときには、語彙ブックを開いてみよう。
自分の思いや考えにぴったりの表現を見つけて、
言葉の世界を広げよう。



系統	1年	2年	3年
描写	情景を表す言葉	感覚で捉えた言葉	心の動きを表す言葉
言動	心情・行為を表す言葉	人物を表す言葉	慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語
思考	思考するときの言葉	抽象的な概念を表す言葉	批評するときの言葉
コラム	辞典を活用して言葉を広げよう	結び付きに着目して言葉を広げよう	言葉と私

言葉の宝箱（小学校）語彙ブック1年





描写

感覚で捉えた言葉

場面や状況などを伝えるとき、感覚で捉えた様子を表してみよう。表現の幅が広がり、生き生きと伝えることができる。

朝

- 朝日がさんさんと降り注ぐ。（視）
- 青い空が広がる。（視）
- 鳥のさえずりが、静寂を破る。（聴）
- 香ばしいコーヒーの匂いを嗅ぐ。（嗅）
- 甘いパンを食べる。（味）
- ひんやりとした朝。（触）

昼

- 鮮やかな黄色が特徴的な看板。（視）
- ぴりりと辛いパスタのソース。（味）
- かぐわしい花の香り。（嗅）
- ぽかぽかした陽気。（触）
- 猫の毛並みは、つやつやだ。（視）（触）

夕方

- らせん状の赤い滑り台で遊ぶ。（視）
- 公園の木々がざわざわと揺れる。（視）（聴）
- 帰宅する人々で、駅前はにぎやかだ。（視）（聴）
- 食欲を刺激するいい匂いが漂う。（嗅）
- ランニングで、体がほてる。（触）

夜

- 辺りが薄暗くなる。（視）
- 星がきらきらと輝き始める。（視）
- 閑静な住宅地。（聴）
- まろやかな味のビーフシチュー。（味）
- シャンプーの優しい匂いに包まれる。（嗅）
- ふかふかの布団で眠る。（触）

視覚

明暗・光と影

- きらめく
- 照る
- 燦然
- 薄明かり
- ぴかぴか
- ぎらぎら
- かげる
- ほの暗い
- おぼろげ
- 暗闇
- 漆黒
- 陰影

色彩

- さえる
- 鮮明
- カラフル
- 色あせる
- くすむ
- モノトーン

形状

- 角ばる
- 楕円
- ぺらぺら
- 平ら
- 凹凸
- 鋭い
- 一直線
- 湾曲
- 放射状

聴覚

音の大小

- やかましい
- 騒がしい
- 騒々しい
- わいわい
- わあわあ
- がやがや
- ひそやか
- 静粛
- しじま
- ひっそり
- しんと
- しめやか

音の調子

- 澄む
- 甲高い
- 伸びやか
- にごる
- こもる
- くぐもる
- とどろく
- きんきん
- どんどん

嗅覚

- かんばしい
- 芳香
- 香り立つ
- 香気
- くさい
- 臭気
- ぷんと
- つんと

味覚

- 美味
- 滋味
- うまみ
- 珍味
- 甘美
- まずい
- 辛み
- 塩辛い
- しょっぱい
- 苦い
- 渋い
- とろける
- すっきり
- すっぱい

触覚

- ふわふわ
- しっとり
- べたべた
- ざらざら
- ごつごつ
- つるつる
- 熱い
- 温かい
- ぬるい
- ぬくぬく
- 肌寒い
- 冷たい

言動

人物を表す言葉

人の性質や様子、態度などを表す言葉はさまざまにある。どの表現がぴったりくるかを考えて、使ってみよう。

似たような言葉でも……

似たような意味をもつ言葉でも、与える印象が異なる場合がある。

真面目

- 熱心
- いちず
- 真摯

● 課題に対して、真剣に取り組む。



● 生真面目なので、冗談が通じない。



- 頭が固い
- 四角四面
- 融通がきかない

こだわる

- 根気強い
- ひたむき
- 意志を貫く

● 細かなところまで粘り強く取り組む。



● 失敗に、いつまでも固執する。



- とらわれる
- 執着する
- 凝り固まる

賢い

- 理知的
- 頭脳明晰
- 利発

● 彼は、理解が早く、聡明な人だ。



● 彼は、利己的で抜け目がない。



- ずる賢い
- こざかしい
- 計算高い

無邪気

- 素直
- 純粋
- 天真爛漫

● あどけない笑顔に癒やされる。



● あさはかな振る舞いで周りを困らせる。



- 思慮に欠ける
- 単純
- 短絡的

人物を表す言葉

明るい

- 朗らか
- 明朗快活
- 陽気
- 気さく
- 人なつこい
- 滑稽
- ひょうきん
- コミカル
- ユーモラス

おおらか

- 寛大
- 寛容
- 度量が大きい
- 包容力のある
- 心の広い
- おっとり
- 悠然
- おだやか
- 気長

丁寧・謙虚

- 丁重
- うやうやしい
- 折り目正しい
- つつましい
- 腰が低い
- 控えめ
- 奥ゆかしい
- 遠慮深い
- 頭が低い

素直

- 温順
- 善良
- 純真無垢
- 飾り気のない
- 純粋
- 純真
- 素朴
- 従順
- 率直

強い

- 気が強い
- きつい
- したたか
- 負けず嫌い
- 勝ち気
- 気丈
- たくましい
- 屈強
- 剛健

正直

- まっすぐ
- 誠実
- 実直
- 真率
- 堅実
- 手堅い
- 律儀
- ざっくばらん
- 公明正大

優しい

- 思いやりのある
- 情に厚い
- 情の深い
- 気遣いのある
- こまやか
- 気がきく
- 慈愛に満ちた
- 温かい
- 温和

短気

- せっかち
- 短慮
- 気が短い
- 性急
- 気ぜわしい
- 怒りっぽい
- せわしない
- 慌ただしい
- せかせか

教科書の人物描写の例

星の花が降るころに

- 繊細さのかけらもない戸部君だから、……

少年の日の思い出

- 彼は冷淡に構え、……

アイスプラネット

- ぐうちゃんは「ぐうたら」している。

字のない葉書

- 死んだ父は筆まめな人であった。
- 威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親……

走れメロス

- のんきなメロスも、……
- メロスは単純な男であった。



思考

抽象的な概念を表す言葉

抽象的な概念を表す言葉は、思考を広げたり深めたりするための道具となる。意味を正しく理解し、適切に使えるようになろう。

言葉を広げる

●「創造」に関連する言葉

類義語　対義語

創作　模倣

創出　破壊

創造

関連する語……独創性　創意工夫　オリジナリティー

類義語や対義語、関連する語を挙げていくと、言葉が広がるね。



□**気持ち** 類 気分 関 精神・気・意識・心地・心持ち・情感・スピリット

□**意志** 類 意図 関 志向・志・心積もり・気構え・胸の内

□**活気** 類 生気 関 活力・活発・はつらつ・精気・生気にあふれる・自由闊達・伸び伸び

□**自信** 関 自慢・自負・慢心・うぬぼれ・自尊心・プライド

□**危険** 関 緊急・危機・緊迫・危難・火急・間一髪・絶体絶命 対 安全

□**具合** 類 調子 関 あんばい・かげん・都合・コンディション・兼ね合い・仕上がり

□**事実** 類 真実・現実 関 本当・まこと・真理・正真正銘・ありのまま 対 虚構

□**知識** 関 知恵・知力・英知・良識・機知・知見・教養・文殊の知恵

□**基本** 類 基礎・基盤 関 根底・根本・根幹・土台・いしずえ・基底・ベース

□**普通** 類 一般・通常・あたりまえ 関 凡庸・月並み・お決まり・ありきたり・日常茶飯 対 特別・特殊

□**類似** 類 近似・相似 関 共通・似たり寄ったり・大同小異・五十歩百歩 対 相違

□**事情** 関 情況・情勢・動向・いきさつ・風向き

□**論理** 類 理屈 関 筋道・論法・道理・つじつま・ロジック・理路整然

□**伝達** 関 伝言・通達・疎通・言づて・告知・コミュニケーション

□**判断** 類 判定・決断 関 評価・審判・批判・予断・断定・見立て・ジャッジ

□**議論** 類 論議・討論・討議 関 論争・論戦・弁論・反論・ディスカッション

□**検討** 関 吟味・検査・分析・鑑定・点検・思索・考慮・考察・チェック

学習や日常に生かす

国語

意図を明確に伝えるために、主観的な書き方を、もう少し客観的にしよう。

・趣旨・目的
・絶対↔相対
・偶然↔必然
・普遍↔特殊
・帰納↔演繹



この作品が、なんとなく好きだと思った。

どう表現したら……？

この作品を形作っている世界観に心引かれた。○○の視点からの描写が魅力的で、登場人物の設定も……

・価値観
・無常観
・先入観
・観点・着眼点・立場

社会

○○の改革
・従来の仕組みが変容。
→……に発展。

・背景・現状
・制度・システム・機構
・権利↔義務
・需要↔供給

数学

三角形の合同条件を使って証明する。○○が等しいから……

・仮定・確率
・定義・定理
・関数・代入
・比例↔反比例

理科

仮説を立てて検証した結果、○○の成り立ちと性質は……

・状態・変化
・現象・気象
・分解・還元
・反応・循環
・エネルギー

音楽

楽器の音色や旋律の特徴、リズムに気をつけて聴いてみよう。

・曲想・曲調
・フレーズ
・主題・テーマ
・拍・拍子
・テンポ

英語

自分の国の文化について、英語で伝え合うことができる。

・グループワーク
・ペアワーク
・インタビュー
・アナウンス
・メッセージ

美術

バランスのよい構図で、色彩のコントラストもきいている。

・表現・鑑賞
・発想・構想
・モチーフ
・調和・対比
・明度・彩度

日常

持続可能な社会を目ざし、再生可能エネルギーを推進……

・国際
・協調
・多文化共生
・防災・減災
・伝統文化

保健体育

攻撃と守備に分かれ……実戦を通して持久力の向上を図ろう。

・健康・疾病
・要因・依存
・予防・対処
・症状・維持
・精神↔肉体

技術家庭

栄養素
体の組織…調子
……分解・吸収

・加工・技術
・テクノロジー
・変換・資源
・衛生・摂取
・生産↔消費

コラム

結び付きに着目して言葉を広げよう

同じ言葉でも、それに結び付く言葉が変わると、意味やニュアンスが変化する。結び付きに着目して、言葉を広げていこう。

修飾語が変わると

笑う

形容動詞を使うと
- 豪快に
- 軽やかに
- 和やかに
- にこやかに
- 照れくさそうに
- 寂しげに
- 冷ややかに

擬音語・擬態語を使うと
- にんまりと
- にこにこと
- げらげらと
- くすくすと
- ふふふと

形容詞を使うと
- 明るく
- くったくなく
- あどけなく
- いたずらっぽく
- ぎこちなく

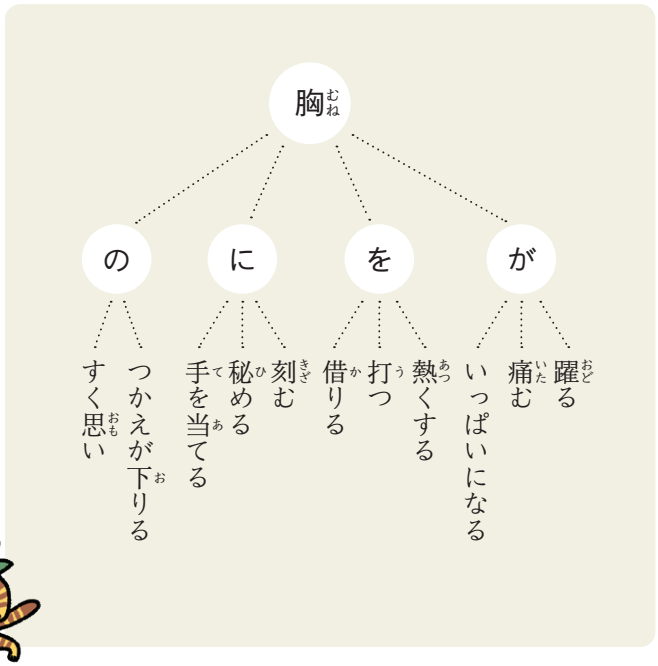
比喩・慣用表現を使うと
- お日さまのように
- 涙が出るほど
- 鼻で
- 腹を抱えて
- 肩を震わせて



複合語にすると

- 笑いかける
- 笑い合う
- 笑い転げる
- 笑い飛ばす
- 笑い崩れる

助詞が変わると



辞典などを使い、「走る」や「頭」に結び付く言葉を調べてみよう。





資料編

「学びのカギ」一覧　文学的な文章を読むために……276
「学びのカギ」一覧　説明的な文章を読むために……278
「学びのカギ」一覧　豊かに表現するために……280
●発想を広げる――表現テーマ例集……282
●インタビューをする……284
●インターネットの活用……285
●グラフの見方／引用・出典……287
●いろいろな通信文……288
盆土産……三浦哲郎……290
形……菊池寛……299
古典芸能の世界――能・狂言……302
敦盛の最期――「平家物語」から……304
二年生で学習した漢字……308
二年生で学習した音訓……321
常用漢字表……322
常用漢字表　付表……336
［索引］学習のための用語一覧……338
ICT活用のヒント……341

※「●」が付いている資料は「資料編デジタル」にも収録

資料編デジタル

「学びのカギ」一覧
文学的な文章を読むために

2年「学びのカギ」

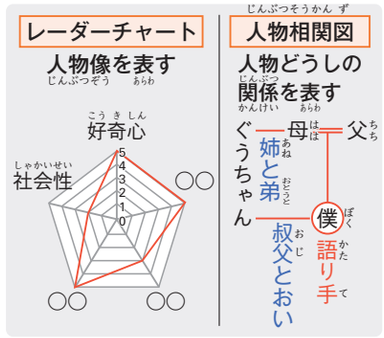
ここには、文学的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

学びの地図

捉える

登場人物の設定を捉える
27ページ

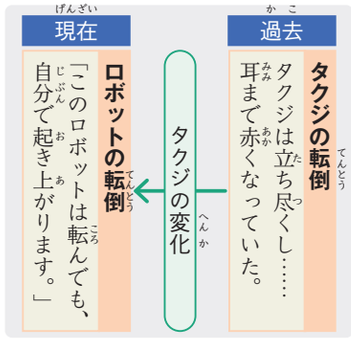
- 時や場所など、作品の舞台に関わる設定は、冒頭部で示されることが多い。
- 登場人物の設定は、次のような点に着目して捉えるとよい。
  名前、年齢／状況や立場／外見、性格、言動、考え方などの特徴／他の登場人物との関係



【学習で用いる言葉】
設定　時、場所、登場人物など、その作品全体に関わることを定めたもの。
人物像　作品全体を通して描かれる人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴。

登場人物の言動の意味を考える
103ページ

- 登場人物の言動が、話の展開や作品の印象にどう関わっているかを考える。
- 言動が話の展開の中でもつ意味は、繰り返し出てくる物や、複数の場面で起こった出来事などに着目して伏線を見つけ、結び付けて考えるとよい。

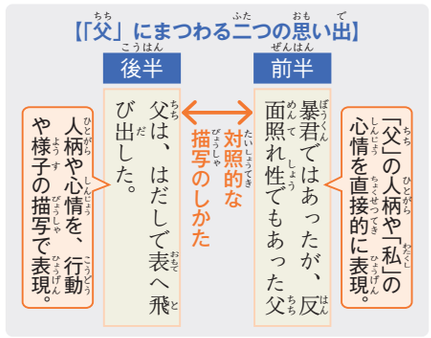


伏線　小説などにおいて、後の展開に備えて、それに関連した事柄を前の方でほのめかしておくこと。

読み深める

表現の効果を考える
109ページ

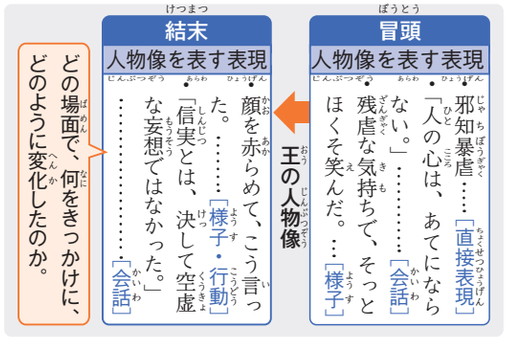
- 心情や人柄を描くときには、それを直接表現したり、言動や様子、情景などの描写を通して表したりする。
- 描かれ方の違いに着目することで、筆者の意図や文章全体の特徴を読み取ることができる。



表現の効果　描写のしかたや表現の技法（比喩など）、簡潔な述べ方・詳細な述べ方、敬体・常体、和文調の文体・漢文調の文体など、表現が文章に与える効果。

人物像に着目する
221ページ

- 人物像を捉えるときには、登場人物の行動や会話、心情や考えなどを結び付けて考えることが大切である。
- 登場人物の考え方や心情、人間関係は、場面が展開する中で変化することがある。登場時の設定などを基にしながら、どう変化したかを、作品全体を通して読み取るようにする。



人物像 ⬇

これまでに学習した観点

文章の種類
2ページ
- 散文…物語、小説、随筆　など
- 韻文…詩、短歌、俳句　など

題名
2ページ
- 舞台となる時や場所、登場人物の名前、作品を象徴する情景や事物、作者の思いなどに基づくものが多い。

場面、場面の展開
103ページ・221ページ

【場面】
- 作品の中にある幾つかのまとまり。
- 時や場所、登場人物の組み合わせが同じ部分を一場面とすることが多い。

【場面の展開】
①**状況設定（導入）**…作品の舞台となる時代背景や場所、登場人物やその置かれた状況などが示される。
②**展開**…出来事の経緯が示される。
③**山場**…状況が大きく動く場面。心情や考え方も変化することが多い。
④**結末**…出来事のその後など。余韻を残すなどの工夫がなされる。

描写
109ページ
- 物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描いたもの。
- 登場人物の心情は、行動や風景の描写に託して表現されることも多い。

語り手
27ページ
- 物語や小説の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら話を進めていく。

「学びのカギ」一覧

説明的な文章を読むために

ここには、説明的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

2年「学びのカギ」

読み深める

文章と図表を結び付けて読む

51ページ

- 図表を含む文章を読むときには、その図表が何のために示され、文章のどの部分と、どう結び付いているかを確かめることが大切だ。

【図表の効果】

- 意見の根拠となる。→実験や統計で得られた数値などの事実を示す。
- 視覚的に情報を伝える。→筆者の考えや、言葉で説明しにくいものをわかりやすく伝える。

本文

図6を見てほしい。Aほかの他のセミは、孵化がほぼ梅雨の期間に収まっているのに対し、Bアブラゼミクマゼミだけは、途中で梅雨が明けてしまった。

図表

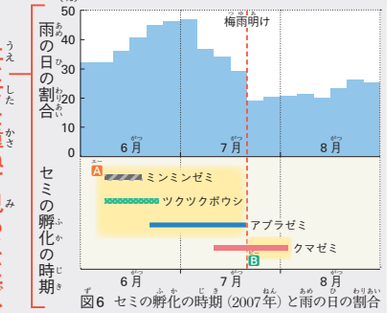


図6 セミの孵化の時期（2007年）と雨の日の割合

AとBが読み取れる。上と下を重ねて見ることで、

論理の展開を吟味する

129ページ

- 論理の展開とは、意見や主張を導くための、筋道の通った考えの進め方のことである。
- 論説を読むときには、筆者の意見とそれを支える根拠を捉える必要がある。
- そのうえで、根拠の正確性や客観性、根拠と意見の結び付き（「理由づけ」）などを吟味し、信頼性を判断することが大切である。

【論理の展開を吟味する観点】

意見（構成上の「結論」部分から）

↑理由づけ 吟味 根拠を意見と結び付ける「理由づけ」に無理はないか。

根拠（構成上の「本論」部分から）

問い①
答え① 意見 根拠 吟味 筆者の意見を裏づける根拠として適切か。

観点を明確にして文章を比較する

179ページ

【文章を比較することの効果】

- 題材や内容への理解が深まる。
- その文章の特徴が明らかになる。
- それぞれの筆者の対象への見方や、述べ方の違いが浮かび上がる。

【比較するときの留意点】

- 同じ観点で比較する。
- どの観点で比較したかを明確にする。

【二つの文章を比較する】

観点		文章A	文章B
①内容	作品への評価	・かっこいい	・新しい
	指摘された「新しさ」	・解剖学 ・遠近法……	・構図 ・
②形式	文章の種類	・評論	・解説
	説明のしかた	・評価→分析	・他の作品と

①書かれている内容を観点にして比較する。
②文章の形式や書き方を観点にして比較する。

【学習で用いる言葉】

論理　考えを進めていく筋道や、思考の組み立てのこと。

比較　二つ以上のものを照らし合わせ、一定の観点から共通点・相違点を見いだしたり、比べたりすること。

評論　物事の価値などを評価し、自分の見方を論じること。

解説　物事の要点や意味などをわかりやすく説明すること。

⬇下段「文章の種類」

これまでに学習した観点

文章の種類

2ページ

【事実や事柄を正確に伝える】

- 説明、記録、報告、解説　など

【根拠に基づき意見を述べる】

- 意見、論説、評論、批評　など

段落の役割

- 段落の役割に着目すると、文章の内容や構成、中心が捉えやすくなる。

例 導入、話題提示
問いと答え、理由、例示
まとめ、筆者の主張

文章の構成

- 文章全体の構成を捉えると、内容の整理や要旨の把握に役立つ。
- 説明的な文章は、典型的な構成の型を踏まえて書かれることが多い。

例 初め・中・終わり
序論・本論・結論

要旨と要約

- **要旨**…文章の内容や、筆者の考えの中心となる事柄のこと。「結論」のまとまりに表れることが多い。
- **要約**…目的や必要に応じて文章の内容を短くまとめること。題名や、キーワード、キーセンテンスなどを中心にまとめる。文章の要点や、筆者の主張の核が明確になる。

引用

286ページ

- 他の文章や統計調査から、文や数値などのデータを引いてくること。
- 「　」などで地の文とは区別される。
- 事実の説明や意見を補強したり、補足したりする役割がある。

学びの地図

読む

「学びのカギ」一覧 豊かに表現するために

ここには、話したり、聞いたり、書いたりするための基本的な観点をまとめてある。身につけた力を確認し、学習や日常生活に生かそう。

学びの地図

話すこと・聞くこと

組み立てる（話す）

資料や機器を活用して話す

- 伝えたいことを明確にする。
- 聞き手が知りたいことや、もっていない情報を予測する。
- 客観的な事実を根拠とする。
- 資料は、情報を焦点化し、視覚的にも工夫をする。
- 話し方に変化をつけ、聞き手を飽きさせない工夫をする。

【資料作成のポイント】



・情報を焦点化し、軽重をつける。
・数値はグラフや表で示す。

33ページ

伝え合う（聞く）

質問で思いや考えを引き出す

- 話し手の考えを踏まえ、明確で具体的な質問を心がける。
- 一問一答で終わらないよう、相手の答えを受けて質問をする。
- 用意した質問より、話を聞いて生まれた疑問や感想を大切にする。

【思いや考えを引き出す質問】

・「それは、どういうことですか。」（言い換えを促す）
・「○○を詳しく教えてください。」（具体化を促す）
・「○○なのは、なぜですか。」（理由を尋ねる）など

116ページ

伝え合う（話し合う）

互いの立場や意見を尊重する

- 用語の定義を確認し、共有する。
- 意見を裏づける根拠（客観性の高い事実）を複数集め、意見と適切に結び付けて話す（理由づけ）。
- 相手側がどのような根拠を基に意見を述べているのかに注意して聞く。意見の背景を理解する。
- 相手側の意見と自分たちの意見を比較し、共通点や相違点、論点を明確にして、質問したり反論したりする。

【討論の概要】

肯定	立場	否定
オンライン授業を増やすべきである。	意見	オンライン授業を増やすべきではない。
わかるまで繰り返し視聴し、復習できる。	理由づけ	多様な意見に耳を傾ける機会が減る。
① 大学が行った学生アンケートの結果 ② ……	根拠（事実）	① クラスで行ったインタビューの結果 ② ……

187ページ

振り返る

これまでの学びを価値づける

【学びを振り返るとき】

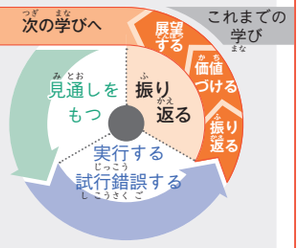
- ある時点の自分と現在の自分とを比較し、変化を具体的に書き出す。
- 自分で気づいた観点や変化を基に、対話を通して、考えを深める。

【学びを価値づけるとき】

- 振り返った内容から共通点を見つけ、抽象化してまとめる。（＝価値づけ）

233ページ

学びのサイクル



振り返りのステップ

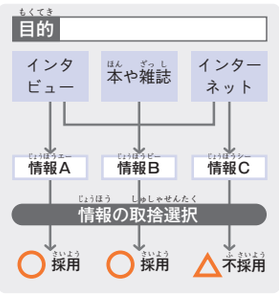
[振り返る] 学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。
[価値づける] 身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。
[展望する] 学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。

書くこと

集める・整理する

多様な方法で集めた情報を整理する

- 多様な方法で情報を集める。
- 複数の情報源で確かめ、信頼できる情報を選ぶ。
- 目的に合わせて取捨選択する。
- 図や記号などを使って、視覚的にわかりやすくまとめる。



55ページ

組み立てる・表現する

表現を工夫して思いを伝える

- 相手や目的に応じて通信手段を選び、敬語を適切に用いて書く。
- 思いや用件が的確に伝わるように、具体的な説明を入れたり、効果的な語句・表現を用いたり、用件を端的にまとめたりする。



110ページ

適切な根拠を選び、構成を工夫する

- 適切な根拠を選び、「理由づけ」を合わせて示すことで、意見の説得力が高まる。
- 意見が明確に伝わるように、構成を工夫する。

【構成の工夫】

・文章の構成を決める。
・各要素を、どの順序で述べるとよいかを考える。
・段落相互の関係を明確化。

133ページ

表現の効果を考えて描写する

- 文学的な文章を書いたり評価したりするときには、描写など、表現の効果に着目するとよい。
- 的確に描写すると、読み手は感覚を追体験し、感情移入できる。

【描写とは】

物事の様子や状態、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描くこと。

225ページ

話す・聞く

書く

発想を広げる——表現テーマ例集

ここには、話したり書いたりするときの手がかりとなるテーマ例が示してある。この例を参考に、自分の発想を大きく広げていこう。



説明・紹介・記録・報告

自分・生活
- 興味がある職業について
- 知らなかった友達の一面
- 職場体験で出会った人の紹介

自然・環境
- 絶滅のおそれがある動物
- 車の排出ガスの健康への影響
- 町の環境問題への取り組み
- 自治体による再生可能エネルギー導入の取り組み



意見・主張・討論

自分・生活
- 休みの日をどう過ごすか
- 自分にとって部活動とは
- 読みたい本を見つけるには

自然・環境
- 水質汚染を食い止めるには
- 食品の添加物使用の課題
- ごみ処理は有料化すべきか
- 私たちでできる気候変動対策とは



感想・随筆・創作・批評

自分・生活
- 十年後の私
- 私の○○記念日
- 自分にキャッチコピーを付ける
- 初めての一人旅
- スキー教室に参加して
- ペットが赤ちゃんを産んだ日
- 初めてできた後輩の姿を見て

自然
- 米作り体験で学んだこと

文化・芸術
- 自分の好きな短歌について
- 「星の王子さま」を読んで
- 合唱祭に参加して
- 自分を変えた本との出会い
- ○○展に入選した日
- 登場人物の視点から場面を捉えて創作する

福祉
- 地域のボランティア活動に参加して
- 地域のお年寄りを文化祭に招待して
- 福祉施設のバザーに参加して

文化
- 地域の文化が感じられる方言
- 地域の特産品の調査
- 兼好法師について

情報
- 他校との試合結果の報告
- 学校図書館の利用率の調査
- インターネットの特徴

福祉
- 身近にあるバリアフリーについての調査
- 海岸の清掃活動の報告

国際
- 世界の「こんにちは」について
- 外国から見た日本について
- 国際ボランティアに参加した人へのインタビュー



案内・手紙

連絡・案内
- 図書委員へ次回の会議の連絡
- 地域の方へ送る合唱発表会の案内状
- ボランティア活動への参加を呼びかけるポスター

依頼・お礼
- インタビューの依頼状
- 地域の安全を見守る活動をしている方へのお礼状

挨拶・メッセージ
- 転校した友達に近況を知らせる手紙
- ＡＬＴの先生に、学校の緑化活動について紹介する

人間関係・生き方
- 挨拶の大切さ
- 人は何のために仕事をするのか

情報
- 携帯電話のマナー
- インターネットとの付き合い方

国際
- 日本文化のよさとは
- 国際協力の必要性について



×SDGs

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

話す・聞く

書く

インターネットの活用

54ページ 情報を整理して伝えよう

インターネットの検索サイト（情報を検索するためのウェブサイト）を使うと、情報を簡単に収集できる。効率のよい検索方法や、確かな情報の選び方を知り、適切に活用しよう。

検索の方法

- 検索ボックスにキーワードを入力する。検索結果が多すぎる場合は絞り込む。
- 後で情報を引用するときのために、❷と❸を出典として控えておく。



❶ 検索ボックス

情報を絞り込む方法

- **キーワードを具体化する**

海洋プラスチックごみとは　検索

- **複数のキーワードで探す（AND 検索）**

キーワードの間を 1 字空ける。

プラスチックごみ　SDGs　検索

- **いずれかのキーワードを含むものを探す（OR 検索）**

キーワードの間に「OR」（半角大文字）を入力する。

リサイクル　OR　リユース　検索

- **特定のキーワードを外して検索する（NOT 検索）**

必要ないキーワードの前にマイナス「-」（半角）を付ける。

リサイクル　-ショップ　検索

❷ アドレス

最後の部分から、制作者が所属する組織の種類を特定できる。

- 「co.jp」……企業など
- 「ac.jp」……大学など
- 「go.jp」……政府機関など

❸ ウェブサイトの名称・制作者

誰が、どのような情報を発信しているか確認できる。

※検索のしかたや、検索結果の表示方法は、検索サイトによって異なることがある。

確かな情報の選び方

76ページ メディアの特徴を生かして情報を集めよう

- 次の点を確かめる。
  - 誰が、いつ、どんな目的で作成したウェブサイトか。
  - 最終更新日はいつか。
  - 図表や写真などの出典が示されているか。
- 複数の情報を集め、比較して、情報の客観性や信頼性を検討する。

インタビューをする

インタビューでは、本やインターネットでは得られない、当事者の生の声を聞くことができる。インタビューの手順や、相手の話の引き出し方を知り、学習に生かそう。

［インタビューの手順］

知りたいことの確認
↓
取材先の決定
↓
依頼
↓
事前調査・質問の検討
↓
インタビューの実施
↓
内容のまとめ

依頼の際の留意点

- 取材の目的と概要を伝える。
  - 自分たちの所属（学校名、学年、組）や名前
  - 取材の目的とおおまかな内容
  - 面会の方法（対面かオンラインか）、録音・録画や撮影の許可
  - 取材希望日（複数の候補から選んでもらう。）
  - 所要時間や訪問する人数、連絡先
- マナーに注意する。
  - 電話の場合、かける時間帯に配慮する。
  - 取材の承諾をもらった後に、改めて、日時、場所、取材内容などをまとめた文書を送る。
  - 前日に確認の電話を入れると、丁寧である。

インタビューの工夫

54ページ 情報を整理して伝えよう　116ページ 聞き上手になろう

- 聞き方の工夫
  - 丁寧にはっきりと話し、尋ねたいことを明確に述べる。
  - メモを取り、相づちを打ちながら聞く。
  - 一問一答にならないよう、大切なことはさらに詳しく尋ねる。
  - 相手の言葉を引用して質問したり、他の言葉で言い換えて相手の意図を確かめたりする。
- 質問の種類
  - 絞る質問……答えが一つに絞られる質問や、選択肢を示して選ばせる質問。事実や考えを確かめるときに使う。
  - 広げる質問……答え方を指定せず、相手に自由に答えさせる質問。話題を広げたり深めたりするときに使う。
- 留意点
  - 取材の前後には挨拶をする。敬語を適切に使う。
  - 取材の後には、お礼を伝える。後日、まとめたものを添えて手紙を出すのもよい。



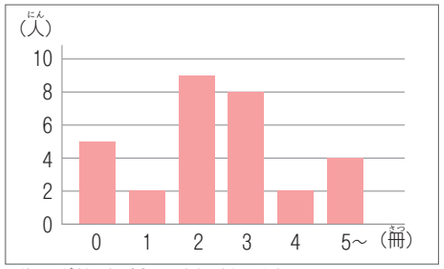
グラフの見方／引用・出典

情報を正しく読み取り、その信頼性を判断するために、また、相手にわかりやすく説得力をもって情報を伝えるために、グラフの見方や、引用のしかた、出典の示し方を学ぼう。

グラフの種類と特徴

棒グラフ

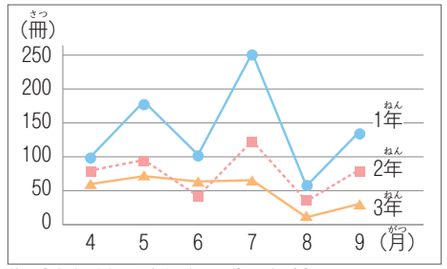
- 棒の長さによって、数量を示す。
- 数量の大小を比較しやすい。



7月の読書冊数（3年1組30人）

折れ線グラフ

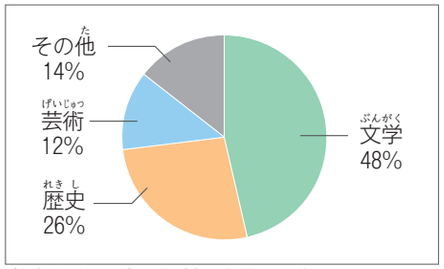
- 時間の推移による変化を示す。
- 数量の変化を捉えやすい。



学校図書館の月別貸し出し冊数

円グラフ

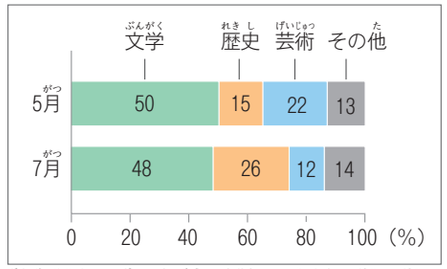
- 円全体に対する各項目の割合を示す。
- 全体に占める割合を捉えやすい。



分野別貸し出し冊数の割合（7月）

帯グラフ

- 帯全体に対する各項目の割合を示す。
- 割合の違いを比較しやすい。



分野別貸し出し冊数の割合の比較（5月、7月）

- グラフを読み取るときの**着眼点**
  - 特徴的な数値……最大値や最小値、ある部分にだけ見られる数値など。
  - 変化……増加・減少、変化の大きさ、変化のしかたなど。
  - 違い……項目（学年、分野、月など）の比較によって見える傾向など。
- グラフを読み取るときの**留意点**
  - 統計の取り方……調査の時期、対象者、対象全体の数は適切か。
  - 軸や目盛り……単位は一定か。目盛りが大きすぎたり、小さすぎたりしないか。
  - 数値……文字の大きさや色で、特定の数値を目立たせてはいないか。

著作権について

32ページ 魅力的な提案をしよう

- 著作権とは何か

文章や絵画、音楽などの著作物を使用する権利。著作者（作った人）が保有する。

- 著作物を許可なく転載したり、コピーして配布したり、自分の作品に使ったりすること、また、内容を勝手に変えることは法律で禁じられている。
- 著作者以外の人が著作物を使用するときは、原則、著作者の許可を得る。
- 著作者がなくなっている場合は、著作権継承者の許可を得る。

- 著作権者（著作者、著作権継承者）の許可が必要ない場合
  - ルールを守って引用するとき。
  - 個人的に使用したり、授業の中だけで使用したりするとき。
  - 著作権の保護期間（著作者の死後70年間）が過ぎているとき。

引用のしかた

132ページ 適切な根拠を選んで書こう

- 次のような方法で、引用部分と自分の文章を区別する。

引用部分に「　」を付けて示す方法

> 夏目漱石は、「吾輩は猫である」（○○社、□□□□年）という小説の中で、「人間の心理ほど解しがたいものはない。」（p.□）と書いている。

引用部分の前後に行を空け、1、2字下げて示す方法

> 夏目漱石は、人間の心理について、次のように書いている。
>
> 人間の心理ほど解しがたいものはない。（中略）猫などはそこへ行くと単純なものだ。（夏目漱石「吾輩は猫である」○○社、□□□□年、p.□）

- 誤字や脱字がないよう正確に抜き出し、出典を明記する。
- 引用部分は、必要最低限の範囲に絞る。

出典の示し方

- 著作物を引用したときには、出典を明確に示す。

著作物	出典として示す主な情報
本や資料	著者名、書名、発行所名、発行年、引用部分のページなど
新聞	新聞の名称、発行日、朝刊・夕刊の別など
ウェブサイト	制作者名、ウェブサイトの名称、アドレス、閲覧日など

いろいろな通信文

現代社会では、いろいろな通信文が利用されている。目的や内容に合わせてふさわしい形式を選ぼう。

手紙

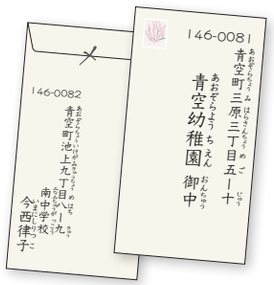
拝啓
朝夕はようやくしのぎやすさを感じる頃となりました。
青空幼稚園の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。
突然のお手紙にて失礼いたします。私は、南中学校二年二組の今西律子と申します。
南中学校では、関心のある職業の仕事現場を見学させていただく、職場訪問という活動を行っています。私は、小さな子供たちと触れ合う仕事にたいへん興味があり、自分が卒園した幼稚園を見学したいと考えております。

110ページ 表現を工夫して書こう

● 頭語と結語

頭語	結語
拝啓	敬具
一般的な場合	
謹啓	謹白
特に改まって書く場合	
前略	草々
前文を省略する場合	
敬具	返事の場合
拝復	

● 封筒の記入例



● 時候の挨拶

改まった手紙には「～の候」といった漢語調のものを、私的な手紙には日常の言葉で季節を表現したものをよく用いる。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
新春の候　厳寒の候 寒さがひとしお身にしみる頃となりました。	立春の候　余寒の候 梅のつぼみもほころぶ季節となりました。	春分の候　早春の候 日ごとに春の訪れを感じるようになりました。	仲春の候　春暖の候 うららかな季節となりました。	立夏の候　新緑の候 風薫る季節となりました。	初夏の候　梅雨の候 あじさいが美しく咲く季節となりました。
7月	**8月**	**9月**	**10月**	**11月**	**12月**
盛夏の候　向暑の候 いよいよ本格的な夏がやってまいりました。	立秋の候　残暑の候 日中は今なお厳しい暑さが続いております。	秋分の候　涼風の候 ひと雨ごとに涼しくなってまいりました。	仲秋の候　紅葉の候 青い空に秋の深まりを感じる季節となりました。	立冬の候　晩秋の候 木々も葉を落とし、冬の訪れを感じます。	師走の候　寒冷の候 年の瀬も押し迫ってまいりました。

はがき

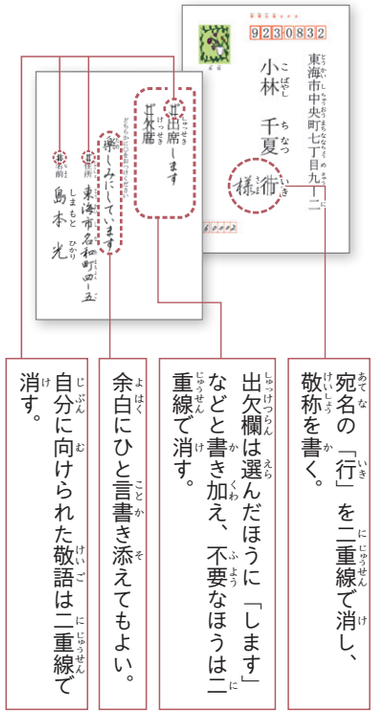
はがきは封書よりも手軽に利用できる。季節の便りや簡単な用件のときに活用しよう。



はがきの記入例

往復はがき・返信用の手紙

出欠確認が必要な招待状などには、往復はがきや返信用封筒を用いる場合がある。返信のときは次の部分を書き改める。



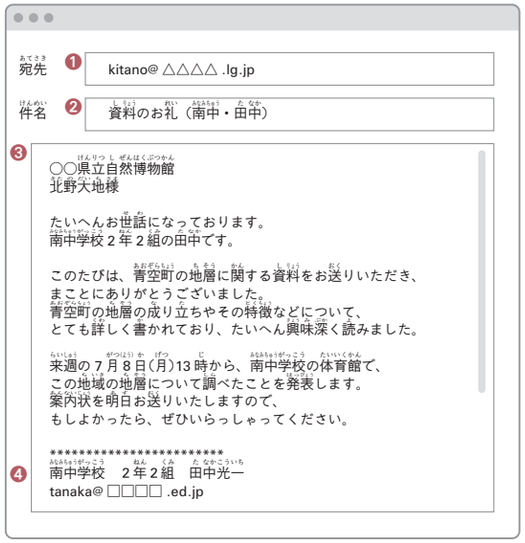
- 宛名の「行」を二重線で消し、敬称を書く。
- 出欠欄は選んだほうに「します」などと書き加え、不要なほうは二重線で消す。
- 余白にひと言書き添えてもよい。
- 自分に向けられた敬語は二重線で消す。

ファクシミリ

ファクシミリは気軽に利用できる反面、きちんと届いたかどうか確認が必要である。何枚送ったかが相手にわかるよう、一ページ目に送信枚数を明記しよう。

電子メール

電子メールのやり取りには、特有のマナーやルールがある。次に示した例を参考に、メールを活用しよう。



メールの注意点

❶ 宛先＝メールアドレスを間違えないようにする。
❷ 件名＝必ず付ける。用件がひと目でわかるものにする。
❸ 本文＝１行35字程度で改行し、用件を簡潔にまとめる。
❹ 署名＝送信者の氏名やメールアドレスを最後に入れる。

❶盆土産

三浦 哲郎

えびフライ、とつぶやいてみた。

足元で❷河鹿が鳴いている。腰を下ろしている石の陰にでもいるのだろうが、張りのあるいい声が川に漬けたゴム長のふくらはぎを伝って、ひざの裏をくすぐってくる。つぶやくにしても声にはならぬように気をつけないと、人声には敏感な河鹿を驚かせることになる。

えびフライ。発音がむつかしい。舌がうまく回らない。都会の人には造作もないことかもしれないが、こちらにはとんとなじみのない言葉だから、うっかりすると舌をかみそうになる。フライのほうはともかくとして、えびが、存外むつかしい。

えびフライ。さっき家を出てくるときも、つい、唐突にそうつぶやいて、姉に、

「まぁた、えんびだ。なして、間にんを入れる？　えんびじゃねくて、えびフライ。」

と訂正された。自分では、えびと言っているつもりなのだが、人にはえんびと聞こえるらしい。それが何度繰り返しても直らない。

けれども、そういう姉にしても、これから釣ろうとしている川魚のことを、いつもジャッコと言っている。❸分校の先生から、本当は❹雑魚というのだと聞いてきて、

「ジャッコじゃねくて、ザッコ。」

と教えてやっても、姉はジャッコと言うのをやめない。もう中学生だから、分校の子供に物を教わるのはおもしろくないとみえて、うるさそうに、

「そったらごと、とうの昔から覚えでら。」

そう言っていながら、今朝も❺まき餌にする❻荏胡麻を牛乳の空き瓶に詰めているところへ起きてきて、

「❼ジャッコ釣りな？　……んだ、父っちゃのだしをこさえておかねばなあ。」

と姉は言った。





作者　三浦哲郎　一九三一（昭和六）――二〇一〇（平成二二）　青森県出身。小説家。
著書　「忍ぶ川」「ユタとふしぎな仲間たち」など。
出典　「冬の雁」

父っちゃのだしというのは、父親の好きな生そばのだしのことで、父親はいつも、干した雑魚をだしにした生そばを食わないことには自分の村へ帰ってきたような気がしない、と言っている。

帰るなら、もっと早くに知らせてくれればこんなに慌てずに済むものを、ゆうべ、いきなり速達で、盆には帰ると言ってくるのだから、面くらってしまう。明日はもう盆の入りで、❽殺生はいけないから、釣るものは今日のうちに釣っておかなければいけない。釣った魚は、祖母にはらわたを抜いてもらって、囲炉裏の火でくし焼きにしてから、陰干しにする。今朝釣って、どうにか送り盆の晩には間に合うくらいだから、ゆうべは雨でも降って川がにごったりしたらと、気が気ではなかった。

えびフライ。どうもそいつが気にかかる。

ゆうべ、といっても、まだ日が暮れたばかりの頃だったが、町の郵便局から赤いスクーターがやって来たときは、家中で父っちゃのだしというのは、父親の好きな生そばのだしのことで、父親はいつも、干した雑魚をだしにした生そばを食わないことには自分の村へ帰ってきたような気がしない、と言っている。

帰るなら、もっと早くに知らせてくれればこんなに慌てずに済むものを、ゆうべ、いきなり速達で、盆には帰ると言ってくるのだから、面くらってしまう。明日はもう盆の入りで、❽殺生はいけないから、釣るものは今日のうちに釣っておかなければいけない。釣った魚は、祖母にはらわたを抜いてもらって、囲炉裏の火でくし焼きにしてから、陰干しにする。今朝釣って、どうにか送り盆の晩には間に合うくらいだから、ゆうべは雨でも降って川がにごったりしたらと、気が気ではなかった。

えびフライ。どうもそいつが気にかかる。

ゆうべ、といっても、まだ日が暮れたばかりの頃だったが、町の郵便局から赤いスクーターがやって来たときは、家中で

ひやりとさせられた。東京から速達だというから、てっきり父親の工事現場で事故でもあったのではないかと思ったのだ。普段、速達などには縁のない暮らしをしているから、急な知らせには訳もなく不吉なものを感じてしまう。

ところが、封筒の中には、伝票のような紙切れが一枚入っていて、その裏に、濃淡のいちじるしいボールペンの文字でこう書いてあった。

『盆には帰る。十一日の夜行に乗る❾すけ。土産は、えびフライ。油とソースを買っておけ。』

祖母と、姉と、三人で、しばらく顔を見合わせていた。父親は、正月休みで帰ってきたとき、今年の盆には帰れぬだろうと話していたから、みんなはすっかりその気でいたのだ。

もちろん、父親が帰ってくれるのはうれしかったが、正直いって土産が少し心もとなかった。えびフライというのは、まだ見たことも食ったこともない。姉に、どんなものかと尋ねてみると、

注
❶盆＝先祖の霊を家に迎えて供養する行事。旧暦七月十三日の盆の入りから十六日の送り盆までを指す。現在では、新暦の七月十五日前後や八月十五日前後に行う地方がある。
❷河鹿＝山間の清流にすむ小さなかえる。カジカガエル。
❸分校＝本校から遠い地域の児童のために作られた学校。
❹雑魚＝いろいろな種類の小魚の総称。
❺まき餌＝魚をおびき寄せるためにまく餌。
❻荏胡麻＝シソ科の一年草。種を川釣りの餌にする。
❼ジャッコ釣りな＝ジャッコ釣りかい。
❽殺生はいけない＝盆の間は、仏の戒めに従い、生き物は殺さないという習わしがある。
❾乗るすけ＝乗るから（な）。

「どったらもんって……えびのフライだえな。えんびじゃねくて、えびフライ。」

姉は、にこりともせずにそう言って、あとは黙って自分の鼻の頭でも眺めるような目つきをしていた。

えびなら、沼に小えびがたくさんいるし、フライというのも、給食に時たま鯖のフライが出るからわかる。けれども、両方いっしょにして、えびフライと言われると、急に何だかわからなくなる。あんな小えびを、どうやってフライにするのだろう。天ぷらのかき揚げのように、何匹もいっしょに揚げるのだろうか。それとも、小さく切り刻むかすり潰すかしたのを、手頃な大きさにまとめてコロッケのようにするのだろうか。そう言って祖母に尋ねてみると、祖母は、そうだともそうではないとも言わずに、ただ、

「……うめもんせ。」

とだけ言った。

それは、父親がわざわざ東京から盆土産に持って帰るくらいだから、とびきりうまいものにはちがいない。だからこそ、気になって、つい、

「えびフライ……。」

と、つぶやいてみないではいられないのだ。

牛乳瓶の荏胡麻を一口、ラッパ飲みの要領で頬張って、それをゆっくりとかみくだく。これはすこぶるまずいものだが、もうすぐうまいものが食えるのだから、今朝はあまり気にならない。父親の土産のうまさをよく味わうためにも、かえって口の中をなるべくまずくしておくほうがいいのだ。

かみくだいた荏胡麻を唾液といっしょに、前の川面へ吹き散らす。すると、それを争って食う雑魚の口で、川面はそこだけ夕立に打たれたようにあばたになる。そこへ短いさおをふわりと振って、小さな針を落としてやる。針には、湾曲したところに荏胡麻に似せた白い粒が付けてあるから、雑魚が間違えて食いついてくる。釣るというよりも、軽く引っ掛けて上げるだけだから、さおを静かに後ろの岸へ回して手元を振ると、雑魚は簡単に砂の上に落ちる。



盆前で、あまり暇な釣り人がいなかったせいか、よく肥えた雑魚ばかりで、それがぴちぴちと砂の斜面を跳ねながら水辺に並べた小石のさくを越えそうになるから、思わず、

「⓫ばためぐなじゃ、こりゃあ。」

とどなりつけると、とたんに、足元の河鹿がぴたりと鳴きやんだ。

父親は、村にいる頃から、うさぎの毛皮の防寒帽でも麦わら帽でもあみだかぶりにする癖があったが、今度も真新しい⓭ハンチングのひさしを上げて、はげ上がった額をまる出しにして帰ってきた。見上げると、その広い額の横じわから上の方は、そこだけ病んでもいるかのように生白かった。どうやら、工事現場のヘルメットばかりは自分の流儀で気ままにかぶるというわけにもいかないらしい。淡い空色のハンチングは、まだ頭になじんでいなくて、谷風にちょっとひさしをあおられただけで慌てて上から押さえつけなければならなかった。

土間の上⓮がり框で、土産の紙袋の口を開けてみて、まず、盛んに湯気を噴き上げる氷にびっくりさせられた。ぶっかき氷にしては不透明で白すぎる、なにやら砂糖菓子のようなかたまりが大小合わせて十個ほどもビニール袋に入っているので、これも土産の一つかと思って袋の口をほどいてみると、



⓾うめもんせ＝うまいもんだよ。
⓫ばためぐなじゃ＝ばたばたするな。騒ぐな。
⓬あみだかぶり＝帽子などを、前を上げ、後ろを下げてかぶること。
⓭ハンチング＝前に小さなひさしの付いた、平べったい帽子。鳥打ち帽。
⓮上がり框＝玄関など家の上がり口となっている所の床の縁に渡す横木。ここでは、土間からの上がり口、ほどの意。

読む

とたんに中から、もうもうと湯気のようなものが噴き出てきたのだ。びっくりして袋を取り落としたはずみに、中のかたまりが一つ飛び出した。

「あ、もったいない。」

と姉が言うので、急いで拾おうとすると、ちょうど囲炉裏の灰の中から掘り出したばかりの焼き栗をせっかちにつまんだときのように、指先がひりっとして、二度びっくりさせられた。そのうえそいつのほうから指先に吸い付いてくるので、慌てて強く手を振ると、そいつは板の間を囲炉裏の方まで転げていった。

「そったらもの、食っちゃなんねど。それはドライアイスつうもんだ。」

と、父親が炉端から振り向いて言った。

父親の話によれば、ドライアイスというのは空気に触れると白い煙になって跡形もなくなる氷だという。軽くて、とけても水にならないから、紙袋の中を冷やしたりするのに都合がいい。東京の上野駅から近くの町の駅までは、夜行でおよそ八時間かかる。それからバスに乗り換えて、村にいちばん近い停留所まで一時間かかる。それで父親は、そのドライアイスをビニール袋にどっさりもらって、道中それを小出しにしながら来たのだという。

そんなにまでして紙袋の中を冷やし続けなければならなかった訳は、袋の底から平べったい箱を取り出してみて、初めてわかった。その箱の蓋には、『冷凍食品　えびフライ』とあり、中にパン粉を付けて油で揚げるばかりにした大きなえびが、六尾並んでいるのが見えていた。えびフライといっても、まだ生ものだから、父親は家へ帰り着くまでに鮮度が怪しくなったらいけないと思い、ただこの六尾のえびだけのために、一晩中、眠りを寸断して冷やし続けながら帰ってきたのだ。

それにしても、箱の中のえびの大きさには、姉と二人で目をみはった。こんなに大きなえびがいるとは知らなかった。今朝釣ってきた雑魚のうちでいちばん大きなやつよりも、ずっと大きいし、よく肥えている。

「⑮ずんぶ大きかえん？　これでも頭は落としてある。」

父親は、満足そうに毛ずねをぴしゃぴしゃたたきながら言った。いったいどこの沼で捕れたえびだろうかと尋ねてみると、沼ではなくて海で捕れたえびだと父親は言った。

「これは車えびつうえびだけんど、海ではもっと大きなやつも捕れる。長えひげのあるやつも捕れる。」

父親が珍しくそんな冗談を言うので、思わず首をすくめて笑ってしまった。

午後遅く、裏の谷川のよどみに漬けておいたビールを引き揚げて戻ってくると、隣の喜作が独りで⑯畦道をふらついていた。隣でも父親が帰ったとみえて、真新しい、派手な色の横縞のTシャツをぎごちなく着て、腰には何連発かの細長い花火の筒を二本、刀のように差していた。

「父っちゃ、⑰帰ったてな？」

喜作は一級上の四年生だが、えらそうに腕組みをしてこちらのぬれたビールをじろじろ見ながらそう言うので、

「んだ。」

とうなずいてから、土産は何かときかれる前に、

「えびフライ。」

と言った。

喜作は気勢をそがれたように、口を開けたままきょとんとしていた。

「……⑱なんどえ？」

「えびフライ。」

「……えびフライって、何せ。」

それが知りたければ家に来てみろ。そう言いたかったが、見せるだけでももったいないのに、ついでに一口と言われるのがこわくて、

「なんでもねっす。」

と通り過ぎた。

普段、おかずの支度は全て姉がしているが、今夜はキャベツを細く刻むだけにして、フライは父親が自分で揚げた。煮えた油の中でパン粉のこげるいい匂いが、家の中に籠もった。四人家族に六尾では、配分がむつかしそうに思われたが、父親は明快に、

「お前と姉は二匹ずつ食え。おらと婆っちゃは一匹ずつでええ。」

と言って、その代わりに、今朝釣ってきた雑魚をビールの肴にした。くし焼きにしたまま囲炉裏の灰に立てておいたのを、あぶり直して、一尾ずつくしから抜いてはしょう油をかけて食った。ビールは三本あるから、はらはらして、

「あんまり食えば、そばのだしがなくならえ。」

と言うと、父親は薄く笑って、

「わかってらぁに。人のことは気にしねで、えびフライを⑳じっくと味わって食え。」

と言った。

揚げたてのえびフライは、口の中に入れると、しゃおっ、

---

⑮ずんぶ大きかえん＝ずいぶん大きいだろう。

⑯畦道＝田と田の間の細い道。

⑰帰ったてな＝帰ったんだってね。

⑱なんどえ＝何だって。

⑲なくならえ＝なくなるよ。

⑳じっくと＝じっくりと。

というような音を立てた。かむと、緻密な肉の中で前歯がかすかにきしむような、いい歯応えで、この辺りでくるみ味といっている えもいわれないうまさが口の中に広がった。

二尾も一度に食ってしまうのは惜しいような気がしたが、明日からは盆で、㉑精進しなければならない。最初は、自分のだけ先になくならないように、横目で姉を見ながら調子を合わせて食っていたが、二尾目になると、それも忘れてしまった。

不意に、祖母がむせてせき込んだ。姉が背中をたたいてやると、小皿にえびのしっぽを吐き出した。

「歯がねえのに、しっぽは無理だえなあ、婆っちゃ。えびは、しっぽを残す㉒のせ。」

と、父親が苦笑いして言った。

そんなら、食う前にそう教えてくれればよかった。姉の皿を見ると、やはりしっぽは見当たらなかった。姉もこちらの皿を見ていた。顔を見合わせて、首をすくめた。

「歯があれば、しっぽもうめえや。」

姉が誰にともなくそう言うので、

「んだ。うめえ。」

と同調して、その勢いで二尾目のしっぽも口の中に入れた。

父親の皿には、さすがにしっぽは残っていたが、案の定、焼いた雑魚はもうあらかたなくなっていた。

翌朝、目を覚ましたときも、まだ舌の根にゆうべのうまさが残っていた。あんなにうまい土産をもらったのだから、今朝もまた川へ出かけて、そばのだしを釣り直してこなければなるまいと思っていたのだが、その必要はなかった。父親が、一日半しか休暇をもらえなかったので、今夜の夜行で東京へ戻ると言いだしたからである。どうりで、ゆうべは雑魚の食い方が尋常ではないと思ったのだ。

午後から、みんなで、死んだ母親が好きだったコスモスときょうの花を摘みながら、共同墓地へ墓参りに出かけた。盛り土の上に、ただ丸い石を載せただけの小さすぎる墓を、せいぜい色とりどりの花で埋めて、供え物をし、細く裂いた松の根で迎え火をたいた。

祖母は、墓地へ登る坂道の途中から絶え間なく念仏を唱えていたが、祖母の南無阿弥陀仏は、いつも『なまん、だあうち』というふうに聞こえる。ところが、墓の前にしゃがんで迎え火に松の根をくべ足していたとき、祖母の『なまん、だあうち』の合間に、ふと、

「えんびフライ……。」

という言葉が混じるのを聞いた。

祖母は歯がないから、言葉はたいがい不明瞭だが、そのときは確かに、えびフライではなくえんびフライという言葉を

もらしたのだ。

祖母は昨夜の食卓の様子を（えびのしっぽが喉につかえたことは抜きにして）祖父と母親に報告しているのだろうかと思った。そういえば、祖父や母親は生きているうちに、えびのフライなど食ったことがあったろうか。祖父のことは知らないが、まだ田畑を作っている頃に早死にした母親は、あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなかろうか



——そんなことを考えているうちに、なんとなく墓を上目でしか見られなくなった。父親は、少し離れた崖っぷちに腰を下ろして、黙ってたばこをふかしていた。

父親が夕方の終バスで町へ出るので、独りで停留所まで送っていった。谷間は既に日がかげって、雑魚を釣った川原では早くも河鹿が鳴き始めていた。村外れのつり橋を渡り終えると、父親はとって付けたように、

㉑精進＝盆の間は、肉や魚を食べず、野菜などを食べるという習わしがある。

㉒残すのせ＝残すもんだよ。

読む

「こんだ正月に帰るすけ、もっとゆっくり。」
と言った。すると、なぜだか不意にしゃくり上げそうになって、とっさに、
「㉓冬だら、ドライアイスも要らねべな。」
と言った。
「いや、㉔そうでもなかべおん。」と、父親は首を横に振りながら言った。「冬は汽車の㉕スチームがききすぎて、汗こ出るくらい暑いすけ。ドライアイスだら、㉖夏どこでなく要るべおん。」
それからまた、停留所まで黙って歩いた。
バスが来ると、父親は右手でこちらの頭をわしづかみにして、
「㉗んだら、ちゃんと留守してれな。」
と揺さぶった。それが、いつもより少し手荒くて、それで頭が混乱した。んだら、さいなら、と言うつもりで、うっかり、
「えんびフライ。」
と言ってしまった。
バスの乗り口の方へ歩きかけていた父親は、ちょっと驚いたように立ち止まって、苦笑いした。
「わかってらぁに。また買ってくるすけ……。」
父親は、まだ何か言いたげだったが、男車掌が降りてきて道端に痰を吐いてから、
「はい、お早くう。」
と言った。
父親は、何も言わずに、片手でハンチングを上から押さえてバスの中へ駆け込んでいった。
「はい、発車あ。」
と、野太い声で車掌が言った。

水上みのり・絵

㉓冬だら＝冬なら。
㉔そうでもなかべおん＝そうでもないだろう。
㉕スチーム＝蒸気暖房装置。
㉖夏どこでなく要るべおん＝夏どころでなく（もっと）要るだろう。
㉗んだら＝それじゃあ。

読む

形

菊池寛

①摂津半国の主であった松山新介の侍大将中村新兵衛は、②五畿内中国に聞こえた③大豪の士であった。
その頃、畿内を分領していた筒井、松永、荒木、和田、別所など大名小名の手の者で、「槍中村」を知らぬ者は、おそらく一人もなかっただろう。それほど、新兵衛はそのしごき出す④三間柄の大身の槍の矛先で、先駆けしんがりの功名を重ねていた。そのうえ、彼の武者姿は戦場において、⑤水際立った華やかさを示していた。火のような猩々緋の服折（陣羽織）を着て、⑥唐冠纓金のかぶとをかぶった彼の姿は、敵味方の間に、輝くばかりの鮮やかさをもっていた。
「ああ猩々緋よ唐冠よ。」
と敵の雑兵は、新兵衛の槍先を避けた。味方が崩れ立ったとき、激浪の中に立つ巌のように敵勢を支えている猩々緋の姿は、どれほど味方にとって頼もしいものであったかわからなかった。また嵐のように敵陣に殺到するとき、その先頭に輝いている唐冠のかぶとは、敵にとってどれほどの脅威であるかわからなかった。
こうして槍中村の猩々緋と唐冠のかぶとは、戦場の華であり敵に対する脅威であり味方にとっては信頼の的であった。
「新兵衛殿、折り入ってお願いがある。」
⑦と元服してからまだ間もないらしい美男の士は、新兵衛の前に手を突いた。



作者　菊池寛　一八八八（明治二一）――一九四八（昭和二三）　香川県出身。小説家・劇作家。
著書　小説「恩讐の彼方に」、戯曲「父帰る」など。
出典　「菊池寛全集」第二巻

注
①摂津＝現在の大阪府北西部から兵庫県南東部に当たる地域。
②五畿内＝現在の近畿地方中央部。大和・山城・河内・和泉・摂津の五つの国があった。
③大豪＝とても強いこと。「だいごう」ともいう。
④三間柄＝長さ三間（約五・四メートル）の大ぶりな柄。
⑤猩々緋＝鮮やかな深紅色。中国の伝説上の動物である猩々に由来する。ここでは、深紅に染められた舶来の毛織物のこと。
⑥唐冠纓金＝古代中国の冠の形を取り入れ、後頭部に高く突き出た部分を設けたかぶと。金色の装飾具が左右に突き出している。
⑦元服＝男子が成人になったことを表す儀式。十二～十六歳までの間に行われることが多かった。現在は「げんぷく」と読むことが多い。

「何事じゃ、そなたと我らの間に、さような辞儀はいらぬぞ。望みというを、はよう言ってみい。」

と育むような慈顔をもって、新兵衛は相手を見た。

その若い士は、新兵衛の主君松山新介の側腹の子であった。そして、幼少の頃から、新兵衛が守り役として、我が子のようにいつくしみ育ててきたのであった。

「ほかのことでもおりない。明日は我らの初陣じゃほどに、なんぞ華々しい手柄をしてみたい。ついては御身様の猩々緋と唐冠のかぶとを貸してたもらぬか。あの服折とかぶとを着て、敵の目を驚かしてみとうござる。」

「ハハハハ。念もないことじゃ。」

新兵衛は高らかに笑った。新兵衛は、相手の子供らしい無邪気な功名心を快く受け入れることができた。

「が、申しておく、あの服折やかぶとは、申さば中村新兵衛の形じゃわ。そなたが、あの品々を身に着けるうえからは、我らほどの肝魂をもたいではかなわぬことぞ。」

と言いながら、新兵衛はまた高らかに笑った。

その明くる日、摂津平野の一角で、松山勢は、大和の筒井順慶の兵としのぎを削った。戦いが始まる前いつものように猩々緋の武者が唐冠のかぶとを朝日に輝かしながら、敵勢を尻目にかけて、大きく輪乗りをしたかと思うと、駒の頭を立て直して、一気に敵陣に乗り入った。

吹き分けられるように、敵陣の一角が乱れたところを、猩々緋の武者は槍を付けたかと思うと、早くも三、四人の端武者を、突き伏せて、また悠々と味方の陣へ引き返した。

その日に限って、黒革おどしのよろいを着て、南蛮鉄のかぶとをかぶっていた中村新兵衛は、会心の微笑を含みながら、猩々緋の武者の華々しい武者ぶりを眺めていた。そして自分の形だけすらこれほどの力をもっているということに、かなり大きい誇りを感じていた。

彼は二番槍は、自分が合わそうと思ったので、駒を乗り出すと、一文字に敵陣に殺到した。

猩々緋の武者の前には、戦わずして浮き足立った敵陣が、中村新兵衛の前には、びくともしなかった。そのうえに彼らは猩々緋の「槍中村」に突き乱された恨みを、この黒革おどしの武者のうえに復讐せんとして、たけり立っていた。

新兵衛は、いつもとは、勝手が違っていることに気がついた。いつもは虎に向かっている羊のようなおじけが、敵にあった。彼らはうろたえ血迷うところを突き伏せるのに、何の造作もなかった。今日は、彼らは対等の戦いをするときのように、勇み立っていた。どの雑兵もどの雑兵も十二分の力を新兵衛に対し発揮した。二、三人突き伏せることさえ容易ではなかった。敵の槍の矛先が、ともすれば身をかすった。新兵衛は必死の力を振るった。平素の二倍もの力をさえ振るった。が、彼はともすれば突き負けそうになった。手軽にかぶとや猩々緋を貸したことを、後悔するような感じが頭の中をかすめたときであった。敵の突き出した槍が、おどしの裏をかいて彼の脾腹を貫いていた。

⑧我ら＝「私」の丁寧な言い方（複数ではない）。
⑨側腹の子＝側室（正妻ではない女性）との間に生まれた子。
⑩おりない＝「ありません」の意。
⑪御身様＝「あなた様」の意。
⑫もたいでは＝「もたないでは」の意。
⑬輪乗り＝輪を描くように馬を乗り回すこと。
⑭黒革おどし＝黒い革ひもで鎧の板をつづり合わせたもの。
⑮南蛮鉄＝室町末期から江戸初期に輸入された鉄。刀や鎧かぶとの材料として用いられた。

菊池寛の生涯

回り道をした青春時代



菊池寛は一八八八年、香川県の高松に生まれた。本名、寛。旧制中学を卒業後、師範学校や大学を転々とし、周囲より数年遅れて第一高等学校（東京大学予科）に入学。後に親友となる芥川龍之介に出会う。しかし、卒業直前に友達の罪をかぶって退学し、その後、京都大学に進学した。

小説家・劇作家として

京都大学卒業後は、新聞記者をしながら、戯曲「父帰る」、小説「忠直卿行状記」「恩讐の彼方に」などを書いた。明快なテーマと簡潔な文章が評判をよび、一躍人気作家となった。

文学の発展のために

三十五歳で文芸誌を創刊。その後も芥川賞・直木賞を創設するなど、文学の発展に寄与した。

芥川龍之介との友情

豪快な菊池と繊細な芥川とでは、趣味や性質も正反対だったが、互いにその本質をよく理解し、尊敬し合う親友だった。

芥川は長男の名を菊池から取り、菊池は文学賞に芥川の名を冠した。



菊池（左）と芥川（中）

古典芸能の世界
——能・狂言

能・狂言

「能」と「狂言」は、室町時代に成立した舞台芸能であり、猿楽や田楽といった古くからの芸能を源流とする。

能は、音楽と舞により、幽玄美を追求する歌舞劇である。室町時代に、世阿弥によって大成された。主役の「シテ」、脇役の「ワキ」、楽器を演奏する「囃子」、斉唱する「地謡」などで作りあげられる。シテは、「面」とよばれる能面を掛けて演じることが多い。

狂言は、しぐさとせりふを中心とする喜劇である。主役を「シテ」、相手役を「アド」とよぶ。シテは、能とは異なり、基本的には面を掛けずに演じる。

舞台

能と狂言が演じられる能舞台には、大げさな飾りや舞台装置はなく、奥の鏡板とよばれる板壁に、松が一本描かれているばかりである。そこに、作り物とよばれる簡単なセットを置いただけで、舞台は、海岸や古寺、深山幽谷などとなる。



能舞台全景

読む

能「屋島（八島）」のあらすじ

讃岐の国の屋島の浦に、旅の僧が訪れ、塩焼き小屋の老人に一夜の宿を乞う。僧は、老人にこの地で行われた源平の屋島の合戦の模様を尋ねる。すると、老人は合戦の模様を事細かに語り、自らが義経の霊であることをほのめかし、姿を消す。そこに土地の者が現れ、扇の的を射た那須与一の物語を語り、僧にしばらくこの地にとどまることを勧める。

ある夜、僧の夢に義経の霊が現れ、「そのとき何とかしたりけん、判官弓を取り落とし、波に揺られて流れしに……」と、戦いのさなかに落とした弓を拾い上げた「弓流し」の物語を語る。やがて、春の夜は明け、義経の霊は消え去る。



能の演目には、「源氏物語」などの古典文学から題材を取ったものが多い。「屋島（八島）」では、151ページの「平家物語」の「弓流し」の場面が取り上げられている。

狂言「末広がり」のあらすじ

ある主人が、家来の太郎冠者を呼び出し、都に行って「末広がり（扇のこと）」を買ってくるよう命ずる。ところが、太郎冠者は「末広がり」がどのような物かを知らない。釈然としないまま都に着いた太郎冠者の前に、ある男が現れる。男は、自分が「末広がり」を売る店の店主だといつわり、太郎冠者に古傘を売り付ける。太郎冠者はその古傘を買い求め、主人の下に戻る。主人は太郎冠者のうかつさに腹を立てたものの、傘を持って踊る太郎冠者の様子を見るうちに浮かれ始め、共に踊る。



狂言の演目には、身近で親しみやすい人物が登場するものが多い。「太郎冠者」とよばれる庶民などを通して、いつの世にも見られる人間の滑稽な面を描き出している。

広がる読書



「能の本」
村上ナッツ



「中・高校生のための狂言入門」
山本東次郎
近藤ようこ

敦盛の最期

――「平家物語」から

一の谷の戦いで、源義経による奇襲に遭い、平家方は一斉に海に逃れようとする。源氏方の武将である熊谷次郎直実は、敵の立派な大将軍と対戦したいと思い、海の方へ馬を進ませる。➡141ページ「平家物語」の世界

いくさやぶれにければ、熊谷次郎直実、「平家の君達助け舟に乗らんと、汀の方へぞ落ちたまふらむ。あつぱれ、よかからう大将軍に組まばや。」とて、磯の方へ歩ませ寄せたるところに、練貫に鶴縫うたる直垂に、萌黄匂の鎧着て、鍬形打つたる甲の緒締め、こがね作りの太刀をはき、切斑の矢負ひ、滋籐の弓持つて、連銭葦毛なる馬に黄覆輪の鞍置いて乗つたる武者一騎、沖なる舟に目をかけて、海へざつとうち入れ、五六段ばかり泳がせたるを、熊谷、「あれは大将軍とこそ見参らせ候へ。まさなうも敵に後ろを見せさせたまふものかな。返させたまへ。」と扇を上げて招きければ、招かれて取つて返す。汀に打ち上がらんとするところに、押し並べてむずと組んでどうど落ち、取つて押さへて頸をかかんと甲を押しあふのけて見ければ、年十六七ばかりなるが、薄化粧して、かね黒なり。我が子の小次郎が齢ほどにて、容顔まことに美麗なりければ、いづくに刀を立つべしともおぼえず。

「そもそもいかなる人にてましまし候ぞ。名乗らせたまへ。助け参らせん。」

と申せば、

「汝はたそ。」

と問ひたまふ。

「物その者で候はねども、武蔵国の住人、熊谷次郎直実。」

と名乗り申す。

「さては、汝にあうては名乗るまじいぞ。汝がためにはよい敵ぞ。名乗らずとも頸を取つて人に問へ。見知らうずるぞ。」

とぞ宣ひける。熊谷、「あつぱれ、大将軍や。この人一人討ち奉たりとも、負くべきいくさに勝つべきやうもなし。またずとも、勝つべきいくさに負くることもよもあらじ。小次郎が薄手負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、この殿の父、討ち、取り押さえて首を切ろうと甲をあおむけて見ると、年は十六、七歳ぐらいで、薄化粧をして、お歯黒を付けていた。我が子の小次郎と同い年ぐらいで、顔は実に美しかったので、どこに刀を突き立ててよいかもわからない。

「いったいあなたはどういう人でいらっしゃいますか。お名乗りください。お助けしましょう。」

と申しあげると、

「おまえは誰だ。」

とお尋ねになる。

「物の数にも入らぬ者ですが、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。」

と名乗り申しあげる。

「それなら、おまえに対しては名乗るまい。おまえにとって私はよい敵だ。私が名乗らなくても首を取って人に尋ねよ。人々は私を見知っているだろう。」

とおっしゃった。熊谷は、「なんと立派な大将軍だ。この人一人を討ち取り申しあげたところで、負けるはずの合戦に勝つはずはない。また討ち取り申しあげずとも、勝つはずの合戦に負けることもまさかあるまい。我が子小次郎が軽傷を負っただけで、この直実はつらく思うのに、この殿の父は、我が子が討

たれぬと聞いて、いかばかりか嘆きたまはんずらん。あはれ助け奉らばや。」と思ひて、後ろをきつと見ければ、土肥、梶原五十騎ばかりで続いたり。熊谷涙をおさへて申しけるは、

「助け参らせんとは存じ候へども、御方の軍兵雲霞のごとく候。よも逃れさせたまはじ。人手にかけ参らせんより、同じくは直実が手にかけ参らせて、後の御孝養をこそ仕り候はめ。」

と申しければ、

「ただとくとく頸を取れ。」

とぞ宣ひける。熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしともおぼえず、目もくれ心も消え果てて、前後不覚におぼえけれども、さてしもあるべきことならねば、泣く泣く頸をぞかいんげる。

「あはれ、弓矢取る身ほど口惜しかりけるものはなし。武芸の家に生まれずは、何とてかかる憂き目をば見るべき。情けなうも討ち奉るものかな。」

とかきくどき、袖を顔に押し当ててさめざめとぞ泣きゐたる。やや久しうあつて、さてもあるべきならねば、鎧直垂を取つて頸を包まんとしけるに、錦の袋に入れたる笛をぞ腰に差されたる。

「あないとほし、この暁城の内にて管絃したまひつるは、この人々にておはしけり。当時御方に東国の勢何万騎かあるらめども、いくさの陣へ笛持つ人はよもあらじ。上臈はなほも優しかりけり。」とて、九郎御曹司の見参に入れたりければ、これを見る人涙を流さずといふことなし。

後に聞けば、修理大夫経盛の子息に大夫敦盛とて、生年十七にぞなられける。それよりしてこそ熊谷が発心の思は進みけれ。件の笛はおほぢ忠盛笛の上手にて、鳥羽院よりたまはられたりけるとぞ聞こえし。経盛相伝せられたりしを、敦盛器量たるによつて、持たれたりけるとかや。名をば小枝とぞ申しける。狂言綺語の理と言ひながら、つひに讃仏乗の因となるこそあはれなれ。

出典　「平家物語」　原文は、「平家物語」（新編日本古典文学全集 46）による。

たれたと聞いて、どんなに嘆かれることだろう。ああ、助けて差しあげたい。」と思って、背後をさっと見たところ、土肥・梶原の軍が五十騎ほどで続いてくる。熊谷が涙を抑えて申しあげるには、

「お助けしたいと思いますが、味方の軍兵が雲や霞のように取り巻いています。決してお逃げになることはできますまい。他の者に討たせるよりは、同じことなら、この直実が手にかけ申しあげて、死後のご供養をいたしましょう。」

と申しあげると、

「ただ早く私の首を取りなさい。」

とおっしゃった。熊谷はあまりにかわいそうで、どこに刀を当てていいかわからず、目もくらんで気も遠くなり、前後不覚に思われたけれども、そうしているわけにはいかないので、泣く泣く首をかき切った。

「ああ、弓矢を取る武士の身ほど残念なものはない。武芸の家に生まれなかったなら、どうしてこんなつらいめに遭うはずがあろうか。無情にも討ち取り申しあげてしまったことだ。」

とくどくどと言い、袖を顔に押し当てて、さめざめと泣いていた。かなり時間がたってから、そのままにしているわけにもいかないので、武者が着ていた鎧直垂を取って、首を包もうとしたところ、錦の袋に入れた笛を腰に差しておられた。

「なんといたわしい。今日の明け方、平家の城の中で音楽をかなでていたのは、この人たちでいらしたのだ。今、源氏方に、東国の軍勢が何万騎かいるけれど、合戦の陣に笛を持ち込む人は決してあるまい。高貴な人はやはり風雅なものだ。」と思い、源氏の御曹司九郎義経にお目にかけたところ、この笛を見て涙を流さぬ人はなかった。

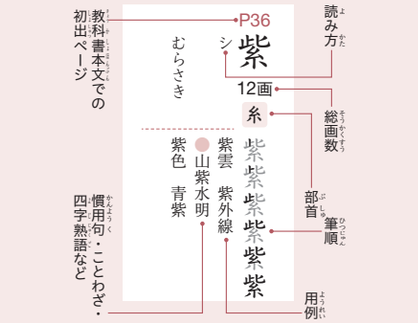
後に聞くところによると、この若武者は修理大夫平経盛の子息の大夫敦盛といって、十七歳におなりであった。このことがあってから、熊谷の出家の志はより強くなった。例の笛は、笛の名手であった祖父忠盛が鳥羽院からたまわった物と聞く。それを父経盛が受け継ぎ、笛の才能がある敦盛がお持ちになっていたということだ。その笛の名は小枝という。狂言綺語（人の心を惑わす文学や音楽など）も仏の道に入るきっかけになることがあるとはいうものの、笛が直実が仏道へ入るきっかけになったとは胸打たれることである。

漢字

二年生で学習した漢字

（総字数三九七字）

ここには、二年生で学習した漢字を提出順に示した。最初に覚えた読み方の他に、どのような音訓があるだろうか。漢字の形、読み方や用例を関連させながら覚えていこう。



- 部首・総画数・筆順は、辞書によって異なることがある。
- 読み方については、片仮名は訓読みを、平仮名は音読みを、太字は送り仮名を示す。（　）内は、中学校では学習しなくてもよい音訓を示す。
- 中学校一年生までに学習していない漢字および音訓を使った語には、［　］内で読み方を示す。
- 〈　〉内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。

読む　アイスプラネット

歓 15画 欠
カン
歓喜　歓声
歓待　交歓
●歓心を買う

唯 11画 口
ユイ（イ）
唯一
●唯一無二

稚 P18 13画 禾
チ
稚魚　幼稚
稚拙［ちせつ］

怪 8画 心
カイ
あやしい　あやしむ
怪異　怪談
怪力
雲行きが怪しい
素行を怪しむ

赴 9画 走
フ
おもむく
赴任
任地に赴く
感情の赴くまま

畳 12画 田
ジョウ
たたむ　たたみ
畳語　四畳半
服を畳む
折り畳む
畳表　石畳

郊 P16 9画 邑（阝）
コウ
近郊　郊外

勘 P19 11画 力
カン
勘案　勘定
勘違い　勘当
勘弁

脚 11画 肉
キャク（キャ）
あし
脚本　脚色　脚力
●脚光を浴びる
机の脚

逃 P20 9画 辶
トウ
にげる　のがす　のがれる
逃走　逃亡
一目散に逃げる
ちょうを逃がす
機会を逃す
難を逃れる

撮 P21 15画 手
サツ
とる
撮影
写真を撮る

羨 13画 羊
（セン）
うらやむ　うらやましい
成功を羨む
羨ましい才能

雄 12画 隹
ユウ
雄姿　雄大
雄弁　英雄
雄花
雄のライオン

寂 P22 11画 宀
ジャク（セキ）
さび　さびしい　さびれる
静寂
わびと寂
寂しい気分
町が寂れる

突 8画 穴
トツ
つく
激突　追突　突然
突入　突風
●突拍子もない
魚を突く

慌 P23 12画 心
（コウ）
あわてる　あわただしい
大慌て
慌ただしい毎日

握 12画 手
アク
にぎる
握手　握力
手を握る
主導権を握る
●手に汗を握る

股 8画 肉
コ
また
股間　股関節
大股

封 P24 9画 寸
フウ
封筒　密封
封建

読む　枕草子

紫 P36 12画 糸
シ
むらさき
紫雲　紫外線
●山紫水明
紫色　青紫

寝 P37 13画 宀
シン
ねる　ねかす
寝具　寝室　就寝
早めに寝る
●寝耳に水
子供を寝かす

趣 15画 走
シュ
趣意　趣向
趣味　情趣
野趣
趣深い

蛍 11画 虫
ケイ
蛍光
●蛍雪の功
蛍が光る
蛍火

霜 17画 雨
（ソウ）
しも
霜月　霜柱
初霜

傾 13画 人
ケイ
かたむく　かたむける
傾向　傾注　前傾
日が傾く
全力を傾ける
●耳を傾ける

読む　クマゼミ増加の原因を探る

晶 12画 日
ショウ
液晶　結晶
水晶
●血と汗の結晶

捕 P42 10画 手
ホ
とらえる　とらわれる　とる　つかまえる　つかまる
捕球　捕手
鳥を捕らえる
敵に捕らわれる
打球を捕る
虫を捕まえる
犯人が捕まる

顕 18画 頁
ケン
顕在　顕示
顕著　顕微鏡

殻 P43 11画 殳
カク
から
甲殻　地殻
貝殻　卵の殻
殻を破る

占 5画 卜
セン
うらなう　しめる
占有　占領　独占
場所を占める
●味を占める
未来を占う

漢字に親しもう 1

貼 12画 貝
チョウ
はる
貼付
ポスターを貼る

詰 P25 13画 言
（キツ）
つめる　つまる　つむ
荷物を詰める
●根を詰める
予定が詰まる
目の詰んだ布

薦 P28 16画 艹
セン
すすめる
自薦　推薦
他薦
本を薦める
お薦めの映画

誓 14画 言
セイ
ちかう
誓約　宣誓
将来を誓う

欄 20画 木
ラン
欄外　欄干
解答欄　空欄
投書欄

簿 19画 竹
ボ
原簿　出席簿
簿記　名簿

稿 15画 禾
コウ
遺稿　原稿
草稿　投稿
稿を起こす

棋 12画 木
キ
棋士　将棋

箇 14画 竹
カ
箇所　箇条書き

啓 11画 口
ケイ
啓示　啓上
啓発　拝啓

携 13画 手
ケイ
携行　携帯
提携　必携　連携
手帳を携える
農業に携わる

阻 8画 阜（阝）
ソ
険阻　阻害
阻止
（はばむ）

租 10画 禾
ソ
公租　租借
租税

唤 12画 口
カン
喚起　喚声
喚問

冠 9画 冖
カン
かんむり
栄冠　冠水
弱冠　無冠
王の冠

奉 8画 大
ホウ
ブ
（たてまつる）
信奉　奉公　奉仕
奉行

峰 10画 山
ホウ
みね
最高峰　連峰
霊峰
高くそびえる峰

紳 11画 糸
シン
紳士

浸 10画 水
シン
ひたす　ひたる
浸水　浸透
浸食
水に手を浸す
喜びに浸る

情報整理のレッスン 思考の視覚化

湿 12画 水
シツ
湿気　湿地　湿度
除湿　多湿
空気が湿る
しめる
しめす
水で喉を湿す

舗 15画 口
ホ
店舗　舗装
本舗

燥 17画 火
ソウ
乾燥
焦燥［しょうそう］
●無味乾燥

P44
枯 9画 木
コ
かれる
からす
栄枯　枯死
植木が枯れる
声を枯らす

眠 10画 目
ミン
安眠　睡眠［すいみん］
●不眠不休
早めに眠る
ねむる
ねむい
眠い目をこする

潜 15画 水
セン
潜在　潜水
潜入　潜望鏡
草むらに潜む虫
ひそむ
●影を潜める
もぐる
水中に潜る

耐 9画 而
タイ
耐久　耐熱
忍耐［にんたい］
風雪に耐える
困難に耐える
たえる

P45
緩 15画 糸
カン
ゆるい
ゆるやか
ゆるむ
ゆるめる
緩急　緩和
緩やかな坂
寒さが緩む
速度を緩める

零 13画 雨
レイ
零下　零細
零落

P46
排 11画 手
ハイ
排気　排出
排除
困難を排する

軟 11画 車
ナン
軟化　軟骨
軟弱　柔軟
やわらか
やわらかい
軟らかな内容
ご飯が軟らかい

狙 8画 犬
ソ
ねらう
狙撃
弓で的を狙う
優勝を狙う

須 12画 頁
ス
必須

P47
硬 12画 石
コウ
強硬　硬化
硬質　硬直
表情が硬い
硬い文章
かたい

禍 13画 示
カ
禍根　禍福
災禍　戦禍

是 9画 日
ゼ
国是　是正
是認　是非
●是々非々

搭 12画 手
トウ
搭乗　搭載

P58
岳 8画 山
ガク
たけ
岳父　山岳
○○岳

漢字1 熟語の構成

壌 16画 土
ジョウ
土壌

P53
慶 15画 心
ケイ
慶賀　慶事
慶祝　大慶
慶弔［けいちょう］

弔 4画 弓
チョウ
とむらう
弔辞　弔問
死者を弔う

遷 15画 辶
セン
遷都　変遷

粒 11画 米
リュウ
つぶ
粒子　粒より
小粒　粒より

俊 9画 人
シュン
俊英　俊才
俊足
俊敏［しゅんびん］

猛 11画 犬
モウ
猛暑　猛省
●勇猛果敢
［ゆうもうかかん］
猛獣［もうじゅう］

P59
肖 7画 肉
ショウ
肖像　不肖

兼 10画 八
ケン
兼業　兼任
兼務　兼用
兼ね合い
●大は小を兼ねる
かねる

没 7画 水
ボツ
没収　没頭
没入　出没
日没

浄 9画 水
ジョウ
自浄　浄化
清浄　洗浄

雌 14画 隹
シ
雌伏　雌雄［しゆう］
雌花　雄［おす］と雌
めす

免 8画 儿
メン
免許　免除
免税　放免
免疫［めんえき］
（まぬかれる）

彰 14画 彡
ショウ
表彰

妥 7画 女
ダ
妥協　妥結
妥当

奔 8画 大
ホン
奔走　奔放
奔流
●東奔西走

哀 9画 口
アイ
哀感　哀願　悲哀
●喜怒哀楽
哀れを誘う
人を哀れむ
あわれ
あわれむ

妄 6画 女
モウ
妄言　妄想
迷妄［めいもう］
●軽挙妄動
（ボウ）

疾 10画 疒
シツ
疾患［しっかん］
疾走　疾風
●疾風迅雷
［しっぷうじんらい］

迅 6画 辶
ジン
迅速　奮迅

秩 10画 禾
チツ
秩序

鯨 19画 魚
ゲイ
鯨油
捕鯨［ほげい］
●鯨飲馬食
くじら

篤 16画 竹
トク
篤学　篤志
篤実　危篤
●温厚篤実
［おんこうとくじつ］

漢字に親しもう 2

P60
憾 16画 心
カン
遺憾

慈 13画 心
ジ
慈愛　慈善
慈悲
●千天の慈雨
（いつくしむ）

裕 12画 衣
ユウ
富裕　裕福
余裕

朴 6画 木
ボク
朴訥　素朴

寛 13画 宀
カン
寛大　寛容

煩 13画 火
ハン
（ボン）
わずらう
わずらわす
煩雑
一人で思い煩う
手を煩わす

惧 11画 心
グ
〈惧〉
危惧

恋 10画 心
レン
こう
こい
こいしい
失恋　恋愛
故郷を恋う
恋心　恋人
祖母が恋しい

慕 14画 心
ボ
慕情　敬慕
思慕
祖父を慕う
したう

妨 7画 女
ボウ
さまたげる
妨害
通行を妨げる

飽 13画 食
ホウ
あきる
あかす
飽食　飽和
ゲームに飽きる
暇に飽かす

読む 短歌に親しむ

託 10画 言
タク
委託　信託
託児所
伝言を託する

P62
鑑 23画 金
カン
（かんがみる）
印鑑　鑑識
鑑賞　鑑定
図鑑

寧 14画 宀
ネイ
安寧　寧日
丁寧［ていねい］

P63
爽 11画 爻
ソウ
さわやか
爽快
爽やかな風

P64
竜 10画 竜
リュウ
恐竜
●竜頭蛇尾
竜巻
たつ

仙 5画 人
セン
歌仙　仙人

霧 19画 雨
ム
霧笛　霧氷
●五里霧中
霧が晴れる
きり

滴 14画 水
テキ
しずく
（したたる）
滴滴滴滴滴滴滴滴滴滴滴滴滴滴
一滴　水滴　点滴
雨の滴
滴が落ちる

読む
言葉の力

淡 11画 水 P69
タン
あわい
淡淡淡淡淡淡淡淡淡淡淡
淡水　冷淡
濃淡
淡い色　淡雪

華 10画 艹 P69
カ
（ケ）
はな
華華華華華華華華華華
栄華　華道　華美
場が華やぐ
華やかな服装

煮 12画 火 P70
（シャ）
にる
にえる
にやす
煮煮煮煮煮煮煮煮煮煮煮煮
大根を煮る　煮物
魚が煮える
●業［ごう］を煮やす

髄 19画 骨 P70
ズイ
髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄髄
骨髄　真髄
精髄　脳髄

言葉1
類義語・対義語・多義語

裂 12画 衣 P72
レツ
さく
さける
裂裂裂裂裂裂裂裂裂裂裂裂
決裂　破裂　分裂
●支離滅裂［しりめつれつ］
布を裂く
紙が裂ける

傘 12画 人
（サン）
かさ
傘傘傘傘傘傘傘傘傘傘傘傘
雨傘　日傘
傘を開く

鈴 13画 金 P73
レイ
リン
すず
鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴鈴
予鈴　風鈴
鈴虫　呼び鈴
鈴なりの見物人

豚 11画 豕
トン
ぶた
豚豚豚豚豚豚豚豚豚豚豚
豚舎　養豚
豚肉
●豚に真珠［しんじゅ］

購 17画 貝
コウ
購購購購購購購購購購購購購購購購購購購
購読　購入
購買

廉 13画 广
レン
廉廉廉廉廉廉廉廉廉廉廉廉廉
廉価　廉潔
廉直　廉売
●清廉潔白

遡 13画 辶
（ソ）
さかのぼる
遡遡遡遡遡遡遡遡遡遡遡遡遡
川を遡る

昧 9画 日
マイ
昧昧昧昧昧昧昧昧昧
三昧

曖 17画 日
アイ
曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖曖
曖昧［あいまい］

匿 10画 匸
トク
匿匿匿匿匿匿匿匿匿匿
隠匿　秘匿
匿名

涯 11画 水
ガイ
涯涯涯涯涯涯涯涯涯涯涯
境涯　生涯

情報×SDGs
メディアの特徴を生かして情報を集めよう

伴 7画 人 P78
ハン
バン
ともなう
伴伴伴伴伴伴伴
同伴
伴奏　伴走
危険を伴う

概 14画 木 P74
ガイ
概概概概概概概概概概概概概概
概念　概要
概略　概論
気概

抽 8画 手 P74
チュウ
抽抽抽抽抽抽抽抽
抽出　抽象
抽選

語彙を豊かに

慎 13画 心 P92
シン
つつしむ
慎慎慎慎慎慎慎慎慎慎慎慎慎
謹慎［きんしん］
慎重
私語を慎む
慎み深い

践 13画 足 P92
セン
践践践践践践践践践践践践践
実践

憶 16画 心 P92
オク
憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶憶
記憶　追憶

錠 16画 金 P92
ジョウ
錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠錠
錠剤［じょうざい］
錠前　手錠

剣 10画 刀 P84
ケン
つるぎ
剣剣剣剣剣剣剣剣剣剣
剣道　剣術
真剣　刀剣
古い剣

撃 15画 手 P84
シ
撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃撃
真撃

読む
ヒューマノイド

憩 16画 心 P92
ケイ
いこい
（いこう）
憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩憩
休憩
憩いの場

翻 18画 羽 P84
ホン
（ひるがえる）
（ひるがえす）
翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻翻
翻案　翻意
翻訳

読書
翻訳作品を読み比べよう

眉 9画 目 P94
（ビ）
ミ
まゆ
眉眉眉眉眉眉眉眉眉
眉間
眉毛
●眉をひそめる

壁 16画 土 P99
ヘキ
かべ
壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁壁
壁画　壁面　岸壁
壁紙　白壁
●壁に耳あり
障子に目あり

吐 6画 口 P99
ト
はく
吐吐吐吐吐吐
吐息　吐露
息を吐く
吐き気
●泥［どろ］を吐く

穫 18画 禾
カク
穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫穫
収穫

叱 5画 口 P107
〈叱〉
シツ
しかる
叱叱叱叱叱
叱責
いたずらを叱る

痩 12画 疒 P107
（ソウ）
やせる
痩痩痩痩痩痩痩痩痩痩痩痩
痩せた土地

言葉2
敬語

伺 7画 人 P113
（シ）
うかがう
伺伺伺伺伺伺伺
家に伺う
お名前を伺う
進退伺い

宛 8画 宀 P104
あてる
宛宛宛宛宛宛宛宛
宛名　宛先
親に宛てた手紙

殿 13画 殳 P104
デン
テン
との
どの
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿
殿下　貴殿　宮殿
御殿［ごてん］
殿様
○○殿

字のない葉書

叫 6画 口
キョウ
さけぶ
叫叫叫叫叫叫
絶叫
名前を叫ぶ

邪 8画 邑 P101
ジャ
（ヨ）
邪邪邪邪邪邪邪邪
邪悪　邪推
邪道　正邪
無邪気

軌 9画 車
キ
軌軌軌軌軌軌軌軌軌
軌道　常軌
軌跡
●軌道に乗る

催 13画 人 P99
サイ
もよおす
催催催催催催催催催催催催催
開催　共催
主催　催促
展覧会を催す
催し物

雰 12画 雨
フン
雰雰雰雰雰雰雰雰雰雰雰雰
雰囲気

湧 12画 水
ユウ
わく
湧湧湧湧湧湧湧湧湧湧湧湧
湧出　湧水
興味が湧く

呂 7画 口
ロ
呂呂呂呂呂呂呂
風呂［ふろ］
語呂

既 10画 无 P98
キ
既既既既既既既既既既
既成　既製
既存　既知
既定
既に日は暮れた

挨 10画 手
アイ
挨挨挨挨挨挨挨挨挨挨
挨拶［あいさつ］

拶 9画 手
サツ
拶拶拶拶拶拶拶拶拶
挨拶［あいさつ］

避 16画 辶
ヒ
さける
避避避避避避避避避避避避避避避避
回避　避暑
避難　不可避
車を避ける

餅 14画 食 P106
ヘイ
もち
餅餅餅餅餅餅餅餅餅餅餅餅餅餅
煎餅［せんべい］
草餅
●絵に描いた餅

炊 8画 火 P106
スイ
たく
炊炊炊炊炊炊炊炊
自炊　炊事
炊飯　雑炊
米を炊く
炊き出し

縫 16画 糸 P106
ホウ
ぬう
縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫縫
裁縫　縫製　縫合
●天衣無縫
着物を縫う
縫い目

肌 6画 肉 P106
はだ
肌肌肌肌肌肌
岩肌　地肌
肌着
●肌で感じる

滅 13画 水 P105
メツ
滅滅滅滅滅滅滅滅滅滅滅滅滅
滅亡　消滅
絶滅　点滅
ほろびる
ほろぼす
種が滅びる
身を滅ぼす

儀 15画 人 P105
ギ
儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
儀式　儀礼
行儀　地球儀
礼儀
●威儀を正す

罵 15画 罒 P105
バ
ののしる
罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵罵
罵声
罵倒
失敗を罵る

巾 3画 巾 P96
キン
巾巾巾
巾着　雑巾
頭巾

滑 13画 水 P96
カツ
コツ
すべる
なめらか
滑滑滑滑滑滑滑滑滑滑滑滑滑
円滑　滑空
滑稽
雪道で滑る
●口が滑る
動きが滑らかだ

潰 15画 水 P96
カイ
つぶす
つぶれる
潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰潰
潰瘍［かいよう］
チャンスを潰す
箱が潰れる

憧 15画 心 P95
ショウ
あこがれる
憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧憧
憧憬［しょうけい］
憧れの職業
歌手に憧れる

鎖 18画 金 P95
サ
鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖鎖
鎖国　鎖骨
閉鎖　連鎖
犬を鎖でつなぐ
鎖がさびる

替 12画 曰
タイ
かえる
かわる
替替替替替替替替替替替替
交替　代替
部品を替える
衣替え
社長が替わる

床 7画 广 P96
ショウ
床床床床床床床
温床　起床
病床　臨床
床の間
床運動　床下
とこ
ゆか

P114
賓 15画 貝
ヒン
賓賓賓賓賓賓賓賓
国賓　主賓
賓客　来賓

為 9画 火
イ
為為為為為為為為為
為政者　行為
作為　人為
無為
●有為転変

謙 17画 言
ケン
謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙謙
謙虚［けんきょ］
謙譲［けんじょう］

譲 20画 言
ジョウ
ゆずる
譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲譲
委譲　譲歩　分譲
席を譲る
道を譲る
親譲り

芳 7画 艹
ホウ
（かんばしい）
芳芳芳芳芳芳芳
芳香　芳志
芳名

御 12画 彳
ギョ
ゴ
おん
御御御御御御御御御御御御
制御　防御
馬を御する
御用
御中　御社

愚 13画 心
グ
おろか
愚愚愚愚愚愚愚愚愚愚愚愚愚
暗愚　愚見
愚行　愚問
●愚にもつかない
愚かな行い

弊 15画 廾
ヘイ
弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊弊
語弊　疲弊
弊害　弊社

拙 8画 手
セツ
つたない
拙拙拙拙拙拙拙拙
拙速　拙宅
拙著
拙い文章

粗 11画 米
ソ
あらい
粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗
粗悪　粗品
粗茶　粗野
仕事が粗い

P115
鍋 17画 金
なべ
鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋鍋
鍋料理　鍋底

盆 9画 皿
ボン
盆盆盆盆盆盆盆盆盆
旧盆　盆地
盆栽［ぼんさい］
●覆水盆に返らず

諧 16画 言
カイ
諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧諧
俳諧

遭 14画 辶
ソウ
あう
遭遭遭遭遭遭遭遭遭遭遭遭遭遭
遭難　遭遇［そうぐう］
事故に遭う

汁 5画 水
ジュウ
しる
汁汁汁汁汁
果汁　肉汁
●苦汁をなめる
汁粉
レモンの汁

哲 10画 口
テツ
哲哲哲哲哲哲哲哲哲哲
先哲　哲学
哲人　哲理
●変哲もない

鋳 15画 金
チュウ
いる
鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳鋳
鋳造　鋳鉄
鋳型
像を鋳る

鐘 20画 金
ショウ
鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘
警鐘　半鐘
晩鐘
鐘の音
除夜の鐘

執 11画 土
シツ
シュウ
とる
執執執執執執執執執執執
執筆　執務
執心　執着
執念
事務を執る

諮 16画 言
シ
はかる
諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮諮
諮問
委員会に諮る

渋 11画 水
ジュウ
しぶ
しぶる
しぶい
渋渋渋渋渋渋渋渋渋渋渋
渋滞　苦渋　難渋
渋い表情
発言を渋る

渉 11画 水
ショウ
渉渉渉渉渉渉渉渉渉渉渉
干渉　交渉
渉外

衡 16画 行
コウ
衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡衡
均衡　度量衡
平衡

享 8画 亠
キョウ
享享享享享享享享
享受　享年
享楽

弧 9画 弓
コ
弧弧弧弧弧弧弧弧弧
円弧　弧状
括弧

漢字に親しもう 3

P120
膳 16画 肉
ゼン
膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳
配膳　食膳
膳立て

P118
診 12画 言
シン
みる
診診診診診診診診診診診診
誤診　診察
診断　検診
打診　問診
病状を診る

P119
酪 13画 酉
ラク
酪酪酪酪酪酪酪酪酪酪酪酪酪
乳酪　酪農

陳 11画 阜（阝）
チン
陳陳陳陳陳陳陳陳陳陳陳
開陳　陳謝　陳述
陳情　陳列
●新陳代謝

慨 13画 心
ガイ
慨慨慨慨慨慨慨慨慨慨慨慨慨
慨然
慨嘆［がいたん］
憤慨［ふんがい］
●感慨無量

社 8画 示
シ
社社社社社社社社
福祉

倫 10画 人
リン
倫倫倫倫倫倫倫倫倫倫
倫理　人倫

同じ訓・同じ音をもつ漢字 2

P122
巨 5画 工
キョ
巨巨巨巨巨
巨額　巨体
巨大　巨費
巨万

孤 9画 子
コ
孤孤孤孤孤孤孤孤孤
孤島　孤独
孤高　孤立

膨 16画 肉
ボウ
ふくらむ
ふくれる
膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨膨
膨大
つぼみが膨らむ
●頬を膨らます
腹が膨れる

読む モアイは語る ― 地球の未来

剤 10画 刀
ザイ
剤剤剤剤剤剤剤剤剤剤
洗剤　調剤
薬剤師

剛 10画 刀
ゴウ
剛剛剛剛剛剛剛剛剛剛
剛直　金剛石
●質実剛健

剰 11画 刀
ジョウ
剰剰剰剰剰剰剰剰剰剰剰
過剰　剰余金
余剰

醸 20画 酉
ジョウ
（かもす）
醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸醸
醸成　醸造

旬 6画 日
ジュン
旬旬旬旬旬旬
旬刊　下旬
上旬　初旬
中旬
旬の野菜

藻 19画 艹
ソウ
も
藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻藻
藻類　海藻
藻くず

蜜 14画 虫
ミツ
蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜
花の蜜　蜂蜜

麺 16画 麦
メン
麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺麺
麺類

煎 13画 火
〈煎〉
セン
いる
煎煎煎煎煎煎煎煎煎煎煎煎煎
煎じ薬　煎茶
煎り豆

臼 6画 臼
キュウ
うす
臼臼臼臼臼臼
臼歯　脱臼
石臼

凸 5画 凵
トツ
凸凸凸凸凸
凸版　凸レンズ
凹凸［おうとつ］

凹 5画 凵
オウ
凹凹凹凹凹
凹面鏡
凹レンズ

佳 8画 人
カ
佳佳佳佳佳佳佳佳
佳境　佳作
佳日　佳人

塡 13画 土
〈塡〉
テン
塡塡塡塡塡塡塡塡塡塡塡塡塡
装塡　補塡

充 6画 儿
ジュウ
（あてる）
充充充充充充
充実　充足
充電　拡充
補充

募 12画 カ
ボ
つのる
募募募募募募募募募募募募
応募　急募
募金　募集
参加者を募る
思いが募る

膜 14画 肉
マク
膜膜膜膜膜膜膜膜膜膜膜膜膜膜
角膜　結膜
皮膜

抵 8画 手
テイ
抵抵抵抵抵抵抵抵
大抵　抵触
抵当
抵抗［ていこう］

溶 13画 水
ヨウ
とける
とかす
とく
溶溶溶溶溶溶溶溶溶溶溶溶溶
溶液　溶解　溶岩
バターが溶ける
水に溶かす
卵を溶く

搬 13画 手
ハン
搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬
運搬　搬出
搬送　搬入

P123
謎 16画 言
なぞ
謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎謎
謎を解く

P124
凝 16画 冫
ギョウ
こる
こらす
凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝凝
凝結　凝固　凝視
首筋が凝る
工夫を凝らす
●息を凝らす

培 11画 土
バイ
（つちかう）
培培培培培培培培培培培
培養

栽 10画 木
サイ
栽栽栽栽栽栽栽栽栽栽
栽培［さいばい］
盆栽［ぼんさい］

P125
堆 11画 土
タイ
堆堆堆堆堆堆堆堆堆堆堆
堆積　堆肥

徐 10画 彳
ジョ
徐徐徐徐徐徐徐徐徐徐
徐行　徐々

P126
侵 9画 人
シン
侵侵侵侵侵侵侵侵侵
侵害　侵食
侵入　侵略
不可侵
領土を侵す

棄 13画 木
キ
棄棄棄棄棄棄棄棄棄棄棄棄棄
棄権　投棄
破棄　放棄
●自暴自棄

薪 16画 艹
シン
たきぎ
薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪薪
薪水　薪炭
薪を集める

抗 7画 手
コウ
抗抗抗抗抗抗抗
抗議　抗戦
抗争　対抗
反抗

頻 17画 頁
ヒン
頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻頻
頻出　頻度
頻発

漢字

崩 11画 山
ホウ くずれる くずす
崩落 崩壊 積み木が崩れる 調子を崩す

P127
飢 10画 食
キ うえる
飢餓［きが］ 情報に飢える 飢えに苦しむ

餓 15画 食
ガ
餓死 飢餓［きが］

恒 9画 心
コウ
恒温動物 恒久 恒常 恒星 恒例

漆 14画 水
シツ うるし
漆器 漆黒 漆塗［ぬ］り

獄 14画 犬
ゴク
獄舎 獄中 地獄 投獄 入獄
●地獄で仏に会ったよう

思考のレッスン1
根拠の吟味

P130
吟 7画 口
ギン
吟味 苦吟 詩吟

把 7画 手
ハ
一把 把握［はあく］
●十把ひとからげ

致 10画 至
チ
一致 合致 招致 致命傷 筆致
●一致団結 思いを致す

読む
月夜の浜辺

P136
忍 7画 心
ニン しのぶ しのばせる
忍苦 忍従 忍術 残忍 痛みを忍ぶ 声を忍ばせる

読む
扇の的
――「平家物語」から

P146
扇 10画 戸
セン おうぎ
扇状地 扇子 扇動 扇風機 扇であおぐ

陣 10画 阜
ジン
陣（下） 円陣 出陣 陣地 陣頭 陣容
●背水の陣

僅 12画 人
キン わずか
僅〈僅〉差 僅少 残り僅か

如 6画 女
ジョ
（ニョ）
欠如 突如［とつじょ］

嵐 12画 山
あらし
砂嵐 春の嵐

舟 6画 舟
シュウ ふね ふな
舟航 舟艇［しゅうてい］ 小舟 ささ舟 舟歌

P147
綱 14画 糸
コウ つな
綱紀 綱領 大綱 要綱 命綱 綱引き 手綱［たづな］

P148
漂 14画 水
ヒョウ ただよう
漂着 漂流 漂泊 漂う ボートが漂う 気品が漂う

P149
浦 10画 水
うら
〇〇浦

P150
堪 12画 土
（カン）たえる
堪（下） 任に堪える 聞くに堪えない

P151
逸 11画 辶
イツ
逸材 逸脱 逸話 散逸 好機を逸する

騎 18画 馬
キ
騎士 騎手 騎馬戦 騎兵
●一騎当千

惜 11画 心
セキ おしい おしむ
愛惜 惜敗 惜別 惜しい結果 別れを惜しむ
●寸暇を惜しむ

読む
仁和寺にある法師
――「徒然草」から

P154
鎌 18画 金
かま
鎌倉時代 鎌で草を刈る
●鎌をかける

鋭 15画 金
エイ
鋭角 鋭利 精鋭
●新進気鋭 目つきが鋭い 鋭い歯

P158
暁 12画 日
（ギョウ）あかつき
暁の空 成功の暁

読む
漢詩の風景

P159
俗 9画 人
ゾク
習俗 俗事 俗説 世俗 民俗

P171
卓 8画 十
タク
食卓 卓球 卓見 卓上

芝 6画 艹
しば
芝居 芝を刈る

P172
紋 10画 糸
モン
家紋 指紋 水紋 波紋 紋章

刑 6画 刀
ケイ
求刑 刑事 刑法 刑務所

貌 14画 豸
ボウ
全貌 風貌

狭 9画 犬
（キョウ）せまい せばめる せばまる
狭い通路
●肩身が狭い 間を狭める 差が狭まる

P173
緻 16画 糸
チ
精緻 緻密

漢字に親しもう 4

P174
剝 10画 刀
〈剝〉ハク はがす はぐ はがれる はげる
剝製 剝落 紙を剝がす 木の皮を剝ぐ 色が剝がれる ペンキが剝げる

P175
郭 11画 邑
カク
（下）外郭 城郭 輪郭

嘆 13画 口
タン なげく なげかわしい
嘆願 嘆賞 感嘆 嘆き悲しむ 嘆かわしい風潮

P180
療 17画 疒
リョウ
療養 医療 治療

思考のレッスン2
具体と抽象

P181
玄 5画 玄
ゲン
玄関 玄米 玄武岩

P190
准 10画 冫
ジュン
批准

墳 15画 土
フン
古墳 墳墓

羅 19画 罒
ラ
網羅 羅列
●森羅万象

盤 15画 皿
バン
円盤 基盤 地盤 中盤 盤石

猟 11画 犬
リョウ
禁猟 密猟 狩猟 猟犬 猟師

勃 9画 力
ボツ
勃興 勃発

悠 11画 心
ユウ
悠久 悠然 悠長
●悠々自適

凡 3画 几
ボン
（ハン）
非凡 平凡 凡才 凡人
●平々凡々

締 15画 糸
テイ しまる しめる
締結 締約 身が締まる 気を締める

敷 15画 攵
（フ）しく
ふとんを敷く
●敷居が高い

P160
又 2画 又
また
又は

茂 8画 艹
モ しげる
繁茂 夏草が茂る

P161
沈 7画 水
チン しずむ しずめる
沈下 沈思 沈痛
●意気消沈 日が沈む 石を沈める

読む
君は「最後の晩餐」を知っているか

P166
剖 10画 刀
ボウ
解剖

屈 8画 尸
クツ
屈強 屈指 屈折 退屈 不屈

衝 15画 行
ショウ
衝動 折衝 要衝 衝撃 衝突［しょうとつ］

P162
暦 14画 日
レキ こよみ
旧暦 新暦 西暦 太陽暦 花暦

浪 10画 水
ロウ
浪曲 浪人 浪費 波浪 放浪

楼 13画 木
ロウ
楼閣 望楼
●砂上の楼閣

凄
10画 冫 凄凄凄凄凄凄凄凄凄凄
セイ
凄惨［せいさん］ 凄絶

痕
11画 疒 痕痕痕痕痕痕痕痕痕痕痕
コン
あと
痕跡 血痕 傷痕

廷
7画 廴 廷廷廷廷廷廷廷
テイ
宮廷 出廷 法廷

洞
9画 水 洞洞洞洞洞洞洞洞洞
ドウ
洞穴［どうけつ］ 洞察 空洞
ほら

窟
13画 穴 窟窟窟窟窟窟窟窟窟窟窟窟窟
クツ
洞窟［どうくつ］

礁
17画 石 礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁礁
ショウ
暗礁 岩礁 座礁
● 暗礁に乗り上げる

冥
10画 冖 冥冥冥冥冥冥冥冥冥冥
メイ
（ミョウ）
冥福 冥土

該
13画 言 該該該該該該該該該該該該該
ガイ
該当 該博 当該

骸
16画 骨 骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸骸
ガイ
骸骨 形骸化

窒
11画 穴 窒窒窒窒窒窒窒窒窒窒窒
チツ
窒素

岬
8画 山 岬岬岬岬岬岬岬岬
みさき
岬を巡［めぐ］る
○○岬

陵
11画 阜（阝） 陵陵陵陵陵陵陵陵陵陵陵
リョウ
（みささぎ）
丘陵 陵墓

圏
12画 口 圏圏圏圏圏圏圏圏圏圏圏圏
ケン
圏外 圏内 首都圏 大気圏 北極圏

臆
17画 肉 臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆臆
オク
臆病 強敵に臆する 臆面もなく

楷
13画 木 楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷
カイ
楷書

邸
8画 邑（阝） 邸邸邸邸邸邸邸邸
テイ
官邸 公邸 邸宅

鬼
10画 鬼 鬼鬼鬼鬼鬼鬼鬼鬼鬼鬼
キ
おに
悪鬼 鬼気 鬼才 鬼門 鬼の面 赤鬼
● 鬼に金棒

鶴
21画 鳥 鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴鶴
つる
千羽鶴
● 鶴の一声

珠
10画 玉 珠珠珠珠珠珠珠珠珠珠
シュ
珠玉 珠算 真珠 宝珠

泌
8画 水 泌泌泌泌泌泌泌泌
ヒツ
（ヒ）
分泌

拓
8画 手 拓拓拓拓拓拓拓拓
タク
開拓 干拓 魚拓 拓本

柳
9画 木 柳柳柳柳柳柳柳柳柳
リュウ
やなぎ
川柳［せんりゅう］ 柳の枝
● 柳に雪折れなし

嘱
15画 口 嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱嘱
ショク
委嘱 嘱望 嘱託［しょくたく］

呪
8画 口 呪呪呪呪呪呪呪呪
ジュ
のろう
呪文 呪縛 不運を呪う

唆
10画 口 唆唆唆唆唆唆唆唆唆唆
サ
教唆 示唆［しさ］
（そそのかす）

沼
8画 水 沼沼沼沼沼沼沼沼
（ショウ）
ぬま
沼地 泥沼［どろぬま］

汎
6画 水 汎汎汎汎汎汎
ハン
汎用

沃
7画 水 沃沃沃沃沃沃沃
ヨク
肥沃 沃野

読書 「自分らしさ」を認め合う社会へ

褒
15画 衣 褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒褒
（ホウ）
ほめる
弟を褒める 褒め言葉

誇
13画 言 誇誇誇誇誇誇誇誇誇誇誇誇誇
コ
ほこる
誇示 誇張
● 誇大妄想［もうそう］
高い技術を誇る
勝ち誇る
誇りをもって働く

滞
13画 水 滞滞滞滞滞滞滞滞滞滞滞滞滞
タイ
滞在 停滞 沈滞［ちんたい］
とどこおる
仕事が滞る
車の流れが滞る

雇
12画 隹 雇雇雇雇雇雇雇雇雇雇雇雇
コ
やとう
解雇 雇用 人を雇う 雇い主

冗
4画 冖 冗冗冗冗
ジョウ
冗談 冗長 冗費

読む 走れメロス

虐
P204
9画 虍 虐虐虐虐虐虐虐虐虐
ギャク
（しいたげる）
虐待 残虐 自虐 暴虐

敏
10画 攵 敏敏敏敏敏敏敏敏敏敏
ビン
鋭敏［えいびん］ 過敏 機敏
敏感 敏速
● 機を見るに敏

婿
12画 女 婿婿婿婿婿婿婿婿婿婿婿婿
（セイ）
むこ
花婿 婿入り

嫁
13画 女 嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁嫁
（カ）
よめ
とつぐ
花嫁 姉が嫁ぐ

宴
10画 宀 宴宴宴宴宴宴宴宴宴宴
エン
宴会 宴席 酒宴 祝宴

賢
P205
16画 貝 賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢賢
ケン
賢者 賢人 賢明 賢い犬
かしこい

吏
6画 口 吏吏吏吏吏吏
リ
官吏 警吏 税吏

乞
P207
3画 乙 乞乞乞
こう
雨乞い

亭
9画 亠 亭亭亭亭亭亭亭亭亭
テイ
亭主 料亭

睡
P208
13画 目 睡睡睡睡睡睡睡睡睡睡睡睡睡
スイ
一睡 午睡 熟睡

到
8画 刀 到到到到到到到到
トウ
殺到 周到 到達 到着 到来
● 用意周到

飾
P209
13画 食 飾飾飾飾飾飾飾飾飾飾飾飾飾
ショク
修飾 装飾 服飾 粉飾 花を飾る
かざる 飾り気 着飾る

諾
15画 言 諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾諾
ダク
快諾 許諾 受諾 承諾 諾否

郎
9画 邑（阝） 郎郎郎郎郎郎郎郎郎
ロウ
新郎

酔
P210
11画 酉 酔酔酔酔酔酔酔酔酔酔
スイ
心酔 麻酔［ます い］
● 酔生夢死
車に酔う

跳
13画 足 跳跳跳跳跳跳跳跳跳跳跳跳跳
チョウ
跳馬 跳躍
はねる かえるが跳ねる
とぶ ハードルを跳ぶ

拳
P211
10画 手 拳拳拳拳拳拳拳拳拳拳
ケン
こぶし
拳法 握［にぎ］り拳

氾
5画 水 氾氾氾氾氾
ハン
氾濫［はんらん］

濫
18画 水 濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫濫
ラン
濫発 濫用 氾濫［はんらん］

狂
7画 犬 狂狂狂狂狂狂狂
キョウ
狂喜 狂言 熱狂
● 狂喜乱舞
調子が狂う
くるう
くるおしい 狂おしい思い

賊
P212
13画 貝 賊賊賊賊賊賊賊賊賊賊賊賊賊
ゾク
賊軍 海賊 山賊

殴
8画 殳 殴殴殴殴殴殴殴殴
（オウ）
なぐる
地面を殴る 殴り書き

隙
13画 阜（阝） 隙隙隙隙隙隙隙隙隙隙隙隙隙
（ゲキ）
すき
隙がない

仰
P213
6画 人 仰仰仰仰仰仰
ギョウ
コウ
あおぐ
（おおせ）
仰々しい 仰天 信仰 空を仰ぐ

芋
6画 艹 芋芋芋芋芋芋
いも
里芋 芋がゆ
● 芋を洗うよう

萎
11画 艹 萎萎萎萎萎萎萎萎萎萎萎
イ
なえる
萎縮 気持ちが萎える

傍
12画 人 傍傍傍傍傍傍傍傍傍傍傍傍
ボウ
傍観 傍系 路傍
（かたわら）

欺
12画 欠 欺欺欺欺欺欺欺欺欺欺欺欺
ギ
あざむく
詐欺［さぎ］ 人を欺く

卑
P214
9画 十 卑卑卑卑卑卑卑卑卑
ヒ
（いやしい）
（いやしむ）
（いやしめる）
野卑 卑近

醜
17画 酉 醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜醜
シュウ
醜悪 醜態 醜聞 美醜 醜い争い
みにくい

肢
P215
8画 肉 肢肢肢肢肢肢肢肢
シ
肢体 下肢 四肢 選択肢

蹴
P216
19画 足 蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴蹴
シュウ
ける
一蹴 蹴球 蹴飛ばす

裸
13画 衣 裸裸裸裸裸裸裸裸裸裸裸裸裸
ラ
赤裸々 裸眼 裸身 裸体 木が裸になる
はだか

恨
9画 心 恨恨恨恨恨恨恨恨恨
コン
うらむ
うらめしい
遺恨 痛恨 不運を恨む 雨が恨めしい

漢字

P218
擁 16画 手
ヨウ
抱擁　擁護
擁立

P219
虚 11画 虍
キョ（コ）
虚栄　虚心　虚勢
空虚　虚偽［きょぎ］
●虚々実々

漢字に親しもう 5

P222
疫 9画 疒
エキ（ヤク）
疫病　悪疫
検疫　防疫

嗅〈臭〉 12画 口
キュウ
かぐ
嗅覚
香りを嗅ぐ

奨 13画 大
ショウ
奨学金　推奨
奨励［しょうれい］

励 7画 力
レイ
はげむ　はげます
激励　励行
勉強に励む
友達を励ます

潤 15画 水
ジュン
うるおう　うるおす　うるむ
潤色　豊潤　利潤
大地が潤う
喉を潤す
目が潤む

癒 18画 疒
ユ
いえる　いやす
快癒　治癒
平癒　癒着
傷が癒える
心が癒やされる

尿 7画 尸
ニョウ
尿意　尿素
尿道

膚 15画 肉
フ
完膚　皮膚

撤 15画 手
テツ
撤回　撤去
撤退

尚 8画 小
ショウ
尚早　高尚

敢 12画 攵
カン
果敢　敢行　勇敢
敢闘［かんとう］

謀 16画 言
ボウ
（ム）
（はかる）
陰謀　謀略　無謀
●深謀遠慮

朽 6画 木
キュウ
くちる
不朽　老朽
木が朽ちる
朽ち果てる

症 10画 疒
ショウ
軽症　後遺症
症候群　症状

肘 7画 肉
ひじ
肘掛け
肘を曲げる

P231
井 5画 丶
どんぶり
どん
井飯
牛丼

漢字3 送り仮名

堤 12画 土
テイ
つつみ
堤防　防波堤
堤を築く

菊 11画 艹
キク
菊人形　野菊

誉 13画 言
ヨ
ほまれ
栄誉　名誉
郷土の誉れ

薫 16画 艹
（クン）
かおる
風薫る五月

懲 18画 心
チョウ
こりる　こらす　こらしめる
懲罰　懲戒
一度で懲りる
悪党を懲らす
敵を懲らしめる

謹 17画 言
キン
謹賀新年　謹製
謹直
●謹厳実直
謹んで申しあげる
つつしむ

粘 11画 米
ネン
ねばる
粘液　粘着
粘土
成功するまで粘る
粘り気

怠 9画 心
タイ
怠る　おこたる　なまける
怠惰［たいだ］
怠慢
練習を怠る
仕事を怠ける

鍛 17画 金
タン
きたえる
鍛練　鍛造
体を鍛える
鉄を鍛える

鈍 12画 金
ドン
にぶい　にぶる
鈍角　鈍感
鈍重
切れ味が鈍い
決心が鈍る

憂 15画 心
ユウ
うれえる　うれい　（うい）
憂慮
憂愁［ゆうしゅう］
行く末を憂える
後の憂いがある

偏 11画 人
ヘン
偏愛　偏見
偏食
栄養が偏る
かたよる

漢字

二年生で学習した音訓

ここには、二年生で学習した新出音訓（小学校で学習した漢字の新しい読み方）を提出順に示した。小学校で学習した読み方と合わせて読めるようにしておこう。

●漢字の上の数字は、教科書本文での初出ページを示す。
●各欄で、漢字、新しく学習した読み方、用例を示す。
・読み方については、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。

16 **度** タク　支度
28 **素** ス　素直
仮 ケ　仮病
歩 ブ　歩合
早 サッ　早速
経 キョウ　経文　写経
京 ケイ　京浜
阪 ハン　阪神
示 シ　図示
仁 ニ　仁王
拾 シュウ　拾得物
ジュウ　拾万円
精 ショウ　精進　無精
42 **羽** ウ　羽化　羽毛
44 **卵** ラン　魚卵　卵黄
49 **臨** のぞむ　海に臨む家
53 **笑** えむ　ほほ笑む
59 **我** ガ　自我

麦 バク　麦芽　麦秋
弟 テイ　師弟　門弟
姉 シ　姉妹　長姉
妹 マイ　姉妹　義妹
極 ゴク　極意　極秘
厚 コウ　温厚　厚意
60 **強** ゴウ　強情　強欲
しいる　無理を強いる
女 め　女神
62 **丁** テイ　丁重
ニョ　天女
63 **優** やさしい　優しい祖父母
牧 まき　牧場
64 **我** わ　我が家
69 **秘** ひめる　謎を秘める
優 すぐれる　性能が優れる
裏 リ　脳裏　裏面
73 **率** ソツ　引率　軽率

94 **迷** メイ　迷路
95 **交** こう　小鳥が飛び交う
かわす　約束を交わす
96 **謝** あやまる　謝る
105 **性** ショウ　根性　照れ性
119 **図** はかる　解決を図る
120 **映** はえる　色が映える
著 あらわす　自伝を著す
推 おす　彼を班長に推す
生 き　生そば
裁 たつ　布地を裁つ
断 たつ　退路を断つ
灰 カイ　石灰
手 た　手向ける
147 **面** おもて　湖の面
150 **革** かわ　革表紙　黒革
155 **勝** まさる　聞きしに勝る
171 **弟** デ　弟子

172 **井** ショウ　天井
174 **究** きわめる　学問を究める
191 **暮** ボ　歳暮　暮春
装 ショウ　衣装　装束
業 わざ　仕業　早業
暴 バク　暴露
音 イン　福音　母音
乳 ち　乳飲み子
字 あざ　大字　小字
故 ゆえ　故に
程 ほど　程々　程遠い
頭 かしら　尾頭付き
病 やむ　病みあがり
205 **質** シチ　質屋　人質
206 **民** たみ　民草
209 **調** ととのう　商談が調う
ととのえる　味を調える

212 **誠** まこと　愛と誠
213 **紅** ク　真紅　深紅
216 **体** テイ　体裁　風体
219 **万** バン　万感　万歳
222 **川** セン　河川
231 **操** あやつる　人形を操る
童 わらべ　童歌
児 ニ　小児科
客 カク　旅客機
機 はた　機を織る
朗 ほがらか　朗らかに笑う
健 すこやか　健やかに育つ
来 きたる　来る五日
きたす　支障を来す
蒸 むす　蒸し暑い
むれる　車内が蒸れる
むらす　ご飯を蒸らす

常用漢字表

二〇一〇年改定
総字数二一三六字（五十音順）

漢字

常用漢字は、一般の社会生活で使用する漢字の目安として定められたもので、中学校修了までに一般的な読み方を全て学習することになっている。

中学校二年生の段階では、一・二年生で学習した漢字をしっかり読めるようにしておこう。また、小学校で学習した漢字は、正確に書けるように練習しよう。特に、六年生で習った漢字は、書き慣れるまで意識して使っていくように心がけたい。

なお、◆を付けたものは、用法の限られた漢字である。教科書では三年生の「常用漢字表について」で紹介している。

小学校五年生までに学習した漢字
小学校六年生で学習した漢字
中学校一年生で学習した漢字
中学校二年生で学習した漢字
中学校三年生で学習する漢字
数字は教科書本文での初出ページを示す。
〈 〉内は手書きの楷書の習慣による字体

◆尉イ　この教科書では新出漢字として扱っていない漢字

漢字の下の片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
●は中学校二年生で学習する音訓　○は中学校一・三年生で学習する音訓
（　）内は中学校では学習しなくてもよい音訓

◎胃イ
①扱あつかう
59 哀アイ あわれ あわれむ
③亜ア
①彙イ〈彙〉

あ

③亜ア
59 哀アイ あわれ あわれむ
98 挨アイ
①扱あつかう
80 曖アイ
愛アイ
23 握アク にぎる
悪アク（オ） わるい
146 嵐あらし
104 宛あてる
圧アツ

い

案アン
暗アン くらい
安アン やすい
以イ
衣イ ころも ○
①委イ ゆだねる
位イ くらい
①威イ
◎胃イ
③畏イ おそれる
114 為イ
◆尉イ
◎異イ こと
移イ うつる うつす
①依イ（エ）
医イ
囲イ かこむ かこう
①意イ
①違イ ちがう ちがえる
①維イ
③偉イ えらい
①椅イ
①彙イ〈彙〉
213 萎イ なえる
①域イキ
①緯イ
◎遺イ ○
③慰イ なぐさめる なぐさむ
育イク そだつ そだてる はぐくむ
一イチ イツ ひと ひとつ
◆壱イチ
151 逸イツ
◆咽イン
①陰イン かげ かげる
◆淫イン（みだら）
60 姻イン
員イン
院イン
飲イン のむ
①隠イン かくす かくれる
①韻イン
◎宇ウ
右ウ ユウ みぎ

う

茨いばら
213 芋いも
引イン ひく ひける
印イン しるし
因イン（よる）

え

永エイ ながい
泳エイ およぐ
英エイ
◎映エイ うつる うつす はえる ●
雲ウン くも
運ウン はこぶ
149 浦うら
◆畝うね
③鬱ウツ
③唄うた
雨ウ あめ あま
羽ウ ● はね はね
③詠エイ（よむ）
①影エイ かげ
154 鋭エイ するどい
衛エイ
222 疫エキ（ヤク）
易エキ イ やさしい
益エキ（ヤク）
液エキ
駅エキ
③悦エツ
①越エツ こす こえる
③謁エツ
①閲エツ
円エン まるい
◎延エン のびる のべる のばす
◎沿エン そう
①援エン
媛エン ○
③怨（エン） オン
204 宴エン
③猿エン さる
①煙エン けむる けむり けむい
園エン その ○
③艶（エン） つや
①縁エン ふち
演エン
塩エン しお
①鉛エン なまり
③遠（エン） とおい
◎汚（オ） けがす けがれる けがす けがらわしい よごす よごれる きたない
①王オウ
①凹オウ
120 央オウ
①応オウ こたえる
往オウ
①押（オウ） おす おさえる
①旺オウ
③欧オウ
212 殴（オウ） なぐる
桜（オウ） さくら
◆翁オウ
①奥（オウ） おく
①屋オク や
億オク
92 憶オク
190 臆オク
◆虞グ
①俺おれ
③乙オツ
音オン イン ● おと ね
③卸おろす おろし
③穏オン おだやか
◎恩オン
温オン あたたか あたたかい あたたまる あたためる
①下カ ゲ した もと ○ さげる さがる くだる くだす くださる おろす おりる
化カ ケ ○ ばける ばかす
火カ（ほ）
加カ くわえる くわわる
可カ
①仮カ ケ ● かり
何カ なに なん ○
③花カ はな
120 佳カ
果カ はたす はたす はてる はて
③価カ（あたい）
①暇カ ひま
58 禍カ
③過カ すぎる すごす （あやまつ）（あやまち）
①菓カ
69 華カ（ケ） はな
①貨カ
①渦カ（うず）
荷カ に ○
家カ（ケ） いえ や
①架カ かける かかる
①科カ
①苛カ
①河カ かわ
204 嫁カ（よめ） とつぐ
127 餓ガ
①雅ガ
賀ガ
芽ガ め
画ガカク
①介カイ
絵カイエ
③悔カイ くいる くやむ くやしい
①皆カイ みな
界カイ
海カイ うみ
①戒カイ いましめる
①快カイ こころよい
会カイ（エ） あう
◎灰カイ ●
回カイ（エ） まわる まわす
18 怪カイ あやしい あやしむ
改カイ あらためる あらたまる
◆拐カイ
③懐カイ（ふところ） なつ なつかしい なつ なつかしむ なつく なつける
①壊カイ こわす こわれる
96 潰カイ つぶす つぶれる
190 楷カイ
③塊カイ かたまり
階カイ
開カイ ひらく ひらける あく あける
①崖ガイ がけ
79 涯ガイ
街ガイ カイ ○ まち
119 慨ガイ
74 概ガイ
190 骸ガイ
190 該ガイ
①蓋ガイ ふた
③柿かき
③垣かき
各カク（おのおの）
角カク かど つの
◎拡カク
◎革カク かわ ●
①格カク（コウ）
①核カク
害ガイ
貝かい
115 諧カイ
③劾ガイ
外ガイ ゲ ○ そと ほか はずす はずれる
横オウ よこ
③穏オン おだやか
③稿コウ
①皇オウ
①恒コウ
①荒コウ あら あれる
①抗コウ
①攻コウ せめる
①更コウ さら ふける ふかす
①幸コウ さち さいわい
①拘コウ かかわる かかわらう
①肯コウ
①侯コウ
①厚コウ あつい
①恰コウ
①洪コウ
①皇オウ
①恒コウ
①荒コウ あら あれる
①抗コウ
①攻コウ せめる
①更コウ さら ふける ふかす
①幸コウ さち さいわい
①拘コウ かかわる かかわらう
①肯コウ
①侯コウ
①厚コウ あつい
①恰コウ
①洪コウ
①皇オウ
①恒コウ
①荒コウ あら あれる
①抗コウ
①攻コウ せめる
①更コウ さら ふける ふかす
①幸コウ さち さいわい
①拘コウ かかわる かかわらう
①肯コウ
①侯コウ
①厚コウ あつい
①恰コウ
①洪コウ

か

①下カ ゲ した もと ○ さげる さがる くだる くだす くださる おろす おりる
化カ ケ ○ ばける ばかす
火カ（ほ）
加カ くわえる くわわる
可カ
①仮カ ケ ● かり
何カ なに なん ○
③花カ はな
120 佳カ
果カ はたす はたす はてる はて
③価カ（あたい）
①暇カ ひま
58 禍カ
③過カ すぎる すごす （あやまつ）（あやまち）
①菓カ
69 華カ（ケ） はな
①貨カ
①渦カ（うず）
荷カ に ○
家カ（ケ） いえ や
①架カ かける かかる
①科カ
①苛カ
①河カ かわ
204 嫁カ（よめ） とつぐ
127 餓ガ
①雅ガ
賀ガ
芽ガ め
画ガカク
①介カイ
絵カイエ
③悔カイ くいる くやむ くやしい
①皆カイ みな
界カイ
海カイ うみ
①戒カイ いましめる
①快カイ こころよい
会カイ（エ） あう
◎灰カイ ●
回カイ（エ） まわる まわす
18 怪カイ あやしい あやしむ
改カイ あらためる あらたまる
◆拐カイ
③懐カイ（ふところ） なつ なつかしい なつ なつかしむ なつく なつける
①壊カイ こわす こわれる
96 潰カイ つぶす つぶれる
190 楷カイ
③塊カイ かたまり
階カイ
開カイ ひらく ひらける あく あける
①崖ガイ がけ
79 涯ガイ
街ガイ カイ ○ まち
119 慨ガイ
74 概ガイ
190 骸ガイ
190 該ガイ
①蓋ガイ ふた
③柿かき
③垣かき
各カク（おのおの）
角カク かど つの
◎拡カク
◎革カク かわ ●
①格カク（コウ）
①核カク
害ガイ
貝かい
115 諧カイ
③劾ガイ
外ガイ ゲ ○ そと ほか はずす はずれる
横オウ よこ
③穏オン おだやか
③稿コウ
①皇オウ
①恒コウ
①荒コウ あら あれる
①抗コウ
①攻コウ せめる
①更コウ さら ふける ふかす
①幸コウ さち さいわい
①拘コウ かかわる かかわらう
①肯コウ
①侯コウ
①厚コウ あつい
①恰コウ
①洪コウ

牛 ギュウ うし
去 キョ さる
居 キョ いる
巨 122 キョ
拠 ① キョ
拒 ① キョこばむ
楽 ガク ラク たのしい たのしむ
岳 58 ガク たけ
学 ガク まなぶ
穫 106 カク
嚇 ① カク
獲 ① カク える
確 カク たしか たしかめる
閣 ◎ カク
隔 ① カク へだてる へだたる
較 ① カク
覚 カク おぼえる さます さめる
郭 175 カク
殻 43 カク から

京 キョウ ケイ●
享 119 キョウ
供 ◎ キョウ ク そなえる ども
協 キョウ
況 ① キョウ
峡 ③ キョウ
挟 ① キョウ はさむ はさまる
狭 172 キョウ せまい せばめる せばまる
恐 ① キョウ おそれる おそろしい
恭 ① キョウ うやうや- しい
胸 ◎ キョウ むね むな-
脅 ① キョウ おびや- かす おど おどかす
強 キョウ ゴウ● つよい つよまる つよめる しいる●

教 キョウ おしえる おそわる
郷 ◎ キョウ ゴウ○
境 キョウ ケイ○ さかい
橋 キョウ はし
鏡 キョウ かがみ
矯 ◆ キョウ ため-める
競 キョウ ケイ きそう○ せる
響 ① キョウ ひびく
驚 ① キョウ おどろく おどろかす
仰 213 ギョウ コウ あお-ぐ おお-せ
暁 158 ギョウ あかつき
業 ギョウ ゴウ わざ●
凝 124 ギョウ こる こらす
曲 キョク まが まげる
局 キョク

極 キョク ゴク● きわめる○ きわまる○ きわみ○
玉 ギョク たま
巾 96 キン
均 キン
斤 ◆ キン
近 キン ちかい
金 キン コン かね かな
菌 ① キン
勤 ◎ キン ゴン つとめる つとまる
琴 ① キン こと
筋 ◎ キン すじ
僅 146 〈キン〉 わず-か
禁 キン

緊 ① キン
錦 ③ キン にしき
謹 231 キン つつし-む
吟 130 ギン
銀 ギン

区 ク
句 ク
苦 ク くる-しい くる-しむ くる-しめる にが-い にが-る
駆 ① ク か-ける か-る
具 グ
惧 60 〈グ〉 おそ-れ
愚 114 グ おろ-か

空 クウ そら あ-く あ-ける から
偶 ① グウ
隅 ① グウ すみ
遇 ③ グウ
掘 ① クツ ほ-る
屈 166 クツ
串 ③ くし
窟 190 クツ
熊 くま
繰 ① く-る
君 キミ
訓 クン
勲 ③ クン
薫 231 クン かお-る
軍 グン
郡 グン

群 グン む-れる む-れ む-らが-る
兄 ケイ キョウ● あに
刑 171 ケイ
形 ケイ ギョウ かた かたち
系 ◎ ケイ
径 ケイ
茎 ① ケイ くき
係 ケイ かか-る かかり
型 ケイ かた
契 ③ ケイ ちぎ-る
計 ケイ はか-る はから-う
恵 ① ケイ エ めぐ-む
啓 28 ケイ
掲 ① ケイ かか-げる

渓 ① ケイ
経 36 ケイ キョウ● へ-る
蛍 36 ケイ ほたる
敬 ◎ ケイ うやま-う
景 ケイ
軽 ケイ かる-い かろ-やか○
傾 38 ケイ かたむ-く かたむ-ける
携 28 ケイ たずさ-える たずさ-わる
継 ① ケイ つ-ぐ
詣 ① ケイ もう-でる
慶 58 ケイ
憬 ◆ ケイ
稽 ① ケイ
憩 92 ケイ いこ-い いこ-う
鶏 ③ ケイ にわとり
警 ◎ ケイ
芸 ゲイ

迎 ① ゲイ むかえる
鯨 59 ゲイ くじら
隙 212 〈ゲキ〉 すき
劇 ◎ ゲキ
撃 ① ゲキ う-つ
激 ◎ ゲキ はげ-しい
桁 ③ けた
欠 ケツ かける かく
穴 ◎ ケツ あな○
血 ケツ ち
決 ケツ き-める き-まる
結 ケツ むす-ぶ ゆう○ ゆわえる○
潔 ケツ 〈いさぎよ-い〉
月 ゲツ ガツ つき
傑 ① ケツ
犬 ケン いぬ

件 ケン
見 ケン みる みえる みせる
券 ◎ ケン
肩 ① ケン 〈かた〉
建 ケン 〈コン〉 たてる たつ
研 ケン とぐ○
県 ケン
倹 ③ ケン
兼 59 ケン かね
剣 73 ケン つるぎ
拳 211 ケン こぶし
軒 ③ ケン のき
健 ケン すこ-やか●
険 ケン けわ-しい
圏 190 ケン

堅 ① ケン かた-い
検 ケン
嫌 ① ケン ゲン きら-う いや
献 ③ ケン コン
絹 ◎ ケン 〈きぬ〉
遣 ① ケン つか-う つかわ-す
権 ◎ ケン 〈ゴン〉
顕 42 ケン
憲 ◎ ケン
賢 205 ケン かしこ-い
謙 114 ケン
鍵 ① ケン かぎ
繭 ③ ケン 〈まゆ〉
懸 ① ケン 〈か-ける〉 かか-る
験 ケン 〈ゲン〉

丸 ガン まる まるい まるめる
含 ① ガン ふく-む ふく-める
岸 ガン きし
岩 ガン いわ
玩 ③ ガン
眼 ガン 〈ゲン〉 まなこ○
頑 ① ガン
顔 ガン かお
願 ガン ねが-う

企 ① キ くわだ-てる
危 ◎ キ あぶ-ない あや-うい○ あや-ぶむ○
伎 ③ キ
机 ◎ キ つくえ
気 ケ キ
奇 ① キ
祈 ① キ いの-る
季 キ
紀 キ
軌 99 キ
既 98 キ すで-に
記 キ しる-す
起 キ おき-る おこ-る おこ-す
飢 127 キ う-える
鬼 190 キ おに
帰 キ かえ-る かえ-す

岐 キ○
希 キ
忌 ③ キ 〈い-む〉 い- まわしい
汽 キ
喜 キ よろこ-ぶ
幾 ① キ いく
揮 ◎ キ
期 キ 〈ゴ〉
棋 28 キ
貴 ◎ キ たっと-い○ とうと-い○ たっと-ぶ○ とうと-ぶ○
棄 125 キ
毀 ◆ キ
旗 キ はた
器 キ うつわ○
輝 ① キ かがや-く

基 キ もと○ 〈もとい〉
寄 キ よる よせる
規 キ
亀 ① キ かめ
喫 ① キツ
吉 ① キチ キツ
菊 231 キク
議 ギ
犠 ③ ギ
擬 ① ギ
戯 ① ギ 〈たわむ- れる〉
儀 105 ギ
疑 ◎ ギ うたが-う
義 ギ
欺 213 ギ あざむ-く
偽 ③ ギ いつわ-る 〈にせ〉
宜 ③ ギ
技 ギ わざ○
騎 151 キ
機 キ はた●

吸 ◎ キュウ す-う
朽 222 キュウ く-ちる
臼 120 キュウ うす
求 キュウ もと-める
究 キュウ きわ-める●
泣 キュウ○ な-く
急 キュウ いそ-ぐ
級 キュウ
紐 ③ キュウ
救 キュウ すく-う
球 キュウ たま
給 キュウ
嗅 222 キュウ 〈か-ぐ〉
窮 ③ キュウ 〈きわ-める きわ-まる〉
宮 キュウ グウ○ 〈ク〉 みや
弓 キュウ○ ゆみ
及 ① キュウ および およ-ぶ およ-ぼす
久 キュウ 〈ク〉 ひさ-しい
九 キュウ ここの ここの-つ
虐 204 ギャク 〈しいた- げる〉
逆 ギャク さか さからう
脚 18 キャク 〈キャ〉 あし
客 キャク カク●
却 ③ キャク
詰 25 キツ 〈キチ〉 つ-める つ-まる つ-む
旧 キュウ
丘 ① キュウ おか
休 キュウ やす-む やす-まる やす-める

漢 カン
勘 19 カン
患 ③ カン 〈わずら-う〉
寒 カン さむ-い
喚 28 カン
堪 150 カン 〈た-える〉
換 ① カン か-える かわ-る
敢 222 カン
棺 ① カン
款 ◆ カン
間 カン ケン あいだ ま
勧 60 カン すす-める
閑 ③ カン
寛 60 カン
幹 カン みき
感 カン

関 カン せき かかわ-る
慣 カン な-れる な-らす
管 カン くだ
歓 16 カン
監 ③ カン
緩 45 カン ゆる-い ゆる-やか ゆる-む ゆる-める
館 カン やかた
環 ① カン
簡 ◎ カン
観 カン
韓 ◆ カン
艦 ◆ カン
鑑 62 カン 〈かんが- みる〉
還 ① カン
憾 60 カン

丸 ガン まる まるい まるめる
含 ① ガン ふく-む ふく-める
岸 ガン きし
岩 ガン いわ
玩 ③ ガン
眼 ガン 〈ゲン〉 まなこ○
頑 ① ガン
顔 ガン かお
願 ガン ねが-う

企 ① キ くわだ-てる
危 ◎ キ あぶ-ない あや-うい○ あや-ぶむ○
伎 ③ キ
机 ◎ キ つくえ
気 ケ キ
奇 ① キ
祈 ① キ いの-る
季 キ
紀 キ
軌 99 キ
既 98 キ すで-に
記 キ しる-す
起 キ おき-る おこ-る おこ-す
飢 127 キ う-える
鬼 190 キ おに
帰 キ かえ-る かえ-す

岐 キ○
希 キ
忌 ③ キ 〈い-む〉 い- まわしい
汽 キ
喜 キ よろこ-ぶ
幾 ① キ いく
揮 ◎ キ
期 キ 〈ゴ〉
棋 28 キ
貴 ◎ キ たっと-い○ とうと-い○ たっと-ぶ○ とうと-ぶ○
棄 125 キ
毀 ◆ キ
旗 キ はた
器 キ うつわ○
輝 ① キ かがや-く

基 キ もと○ 〈もとい〉
寄 キ よる よせる
規 キ
亀 ① キ かめ
喫 ① キツ
吉 ① キチ キツ
菊 231 キク
議 ギ
犠 ③ ギ
擬 ① ギ
戯 ① ギ 〈たわむ- れる〉
儀 105 ギ
疑 ◎ ギ うたが-う
義 ギ
欺 213 ギ あざむ-く
偽 ③ ギ いつわ-る 〈にせ〉
宜 ③ ギ
技 ギ わざ○
騎 151 キ
機 キ はた●

吸 ◎ キュウ す-う
朽 222 キュウ く-ちる
臼 120 キュウ うす
求 キュウ もと-める
究 キュウ きわ-める●
泣 キュウ○ な-く
急 キュウ いそ-ぐ
級 キュウ
紐 ③ キュウ
救 キュウ すく-う
球 キュウ たま
給 キュウ
嗅 222 キュウ 〈か-ぐ〉
窮 ③ キュウ 〈きわ-める きわ-まる〉
宮 キュウ グウ○ 〈ク〉 みや
弓 キュウ○ ゆみ
及 ① キュウ および およ-ぶ およ-ぼす
久 キュウ 〈ク〉 ひさ-しい
九 キュウ ここの ここの-つ
虐 204 ギャク 〈しいた- げる〉
逆 ギャク さか さからう
脚 18 キャク 〈キャ〉 あし
客 キャク カク●
却 ③ キャク
詰 25 キツ 〈キチ〉 つ-める つ-まる つ-む
旧 キュウ
丘 ① キュウ おか
休 キュウ やす-む やす-まる やす-める

漢 カン
勘 19 カン
患 ③ カン 〈わずら-う〉
寒 カン さむ-い
喚 28 カン
堪 150 カン 〈た-える〉
換 ① カン か-える かわ-る
敢 222 カン
棺 ① カン
款 ◆ カン
間 カン ケン あいだ ま
勧 60 カン すす-める
閑 ③ カン
寛 60 カン
幹 カン みき
感 カン

関 カン せき かかわ-る
慣 カン な-れる な-らす
管 カン くだ
歓 16 カン
監 ③ カン
緩 45 カン ゆる-い ゆる-やか ゆる-む ゆる-める
館 カン やかた
環 ① カン
簡 ◎ カン
観 カン
韓 ◆ カン
艦 ◆ カン
鑑 62 カン 〈かんが- みる〉
還 ① カン
憾 60 カン

額 ガク ひたい
顎 ① ガク あご

牛 ギュウ うし
去 キョ さる
居 キョ いる
巨 122 キョ
拠 ① キョ
拒 ① キョこばむ
楽 ガク ラク たのしい たのしむ
岳 58 ガク たけ
学 ガク まなぶ
穫 106 カク
嚇 ① カク
獲 ① カク える
確 カク たしか たしかめる
閣 ◎ カク
隔 ① カク へだてる へだたる
較 ① カク
覚 カク おぼえる さます さめる
郭 175 カク
殻 43 カク から

京 キョウ ケイ●
享 119 キョウ
供 ◎ キョウ ク そなえる ども
協 キョウ
況 ① キョウ
峡 ③ キョウ
挟 ① キョウ はさむ はさまる
狭 172 キョウ せまい せばめる せばまる
恐 ① キョウ おそれる おそろしい
恭 ① キョウ うやうや- しい
胸 ◎ キョウ むね むな-
脅 ① キョウ おびや- かす おど おどかす
強 キョウ ゴウ● つよい つよまる つよめる しいる●

教 キョウ おしえる おそわる
郷 ◎ キョウ ゴウ○
境 キョウ ケイ○ さかい
橋 キョウ はし
鏡 キョウ かがみ
矯 ◆ キョウ ため-める
競 キョウ ケイ きそう○ せる
響 ① キョウ ひびく
驚 ① キョウ おどろく おどろかす
仰 213 ギョウ コウ あお-ぐ おお-せ
暁 158 ギョウ あかつき
業 ギョウ ゴウ わざ●
凝 124 ギョウ こる こらす
曲 キョク まが まげる
局 キョク

極 キョク ゴク● きわめる○ きわまる○ きわみ○
玉 ギョク たま
巾 96 キン
均 キン
斤 ◆ キン
近 キン ちかい
金 キン コン かね かな
菌 ① キン
勤 ◎ キン ゴン つとめる つとまる
琴 ① キン こと
筋 ◎ キン すじ
僅 146 〈キン〉 わず-か
禁 キン

緊 ① キン
錦 ③ キン にしき
謹 231 キン つつし-む
吟 130 ギン
銀 ギン

区 ク
句 ク
苦 ク くる-しい くる-しむ くる-しめる にが-い にが-る
駆 ① ク か-ける か-る
具 グ
惧 60 〈グ〉 おそ-れ
愚 114 グ おろ-か

空 クウ そら あ-く あ-ける から
偶 ① グウ
隅 ① グウ すみ
遇 ③ グウ
掘 ① クツ ほ-る
屈 166 クツ
串 ③ くし
窟 190 クツ
熊 くま
繰 ① く-る
君 キミ
訓 クン
勲 ③ クン
薫 231 クン かお-る
軍 グン
郡 グン

群 グン む-れる む-れ む-らが-る
兄 ケイ キョウ● あに
刑 171 ケイ
形 ケイ ギョウ かた かたち
系 ◎ ケイ
径 ケイ
茎 ① ケイ くき
係 ケイ かか-る かかり
型 ケイ かた
契 ③ ケイ ちぎ-る
計 ケイ はか-る はから-う
恵 ① ケイ エ めぐ-む
啓 28 ケイ
掲 ① ケイ かか-げる

渓 ① ケイ
経 36 ケイ キョウ● へ-る
蛍 36 ケイ ほたる
敬 ◎ ケイ うやま-う
景 ケイ
軽 ケイ かる-い かろ-やか○
傾 38 ケイ かたむ-く かたむ-ける
携 28 ケイ たずさ-える たずさ-わる
継 ① ケイ つ-ぐ
詣 ① ケイ もう-でる
慶 58 ケイ
憬 ◆ ケイ
稽 ① ケイ
憩 92 ケイ いこ-い いこ-う
鶏 ③ ケイ にわとり
警 ◎ ケイ
芸 ゲイ

迎 ① ゲイ むかえる
鯨 59 ゲイ くじら
隙 212 〈ゲキ〉 すき
劇 ◎ ゲキ
撃 ① ゲキ う-つ
激 ◎ ゲキ はげ-しい
桁 ③ けた
欠 ケツ かける かく
穴 ◎ ケツ あな○
血 ケツ ち
決 ケツ き-める き-まる
結 ケツ むす-ぶ ゆう○ ゆわえる○
潔 ケツ 〈いさぎよ-い〉
月 ゲツ ガツ つき
傑 ① ケツ
犬 ケン いぬ

件 ケン
見 ケン みる みえる みせる
券 ◎ ケン
肩 ① ケン 〈かた〉
建 ケン 〈コン〉 たてる たつ
研 ケン とぐ○
県 ケン
倹 ③ ケン
兼 59 ケン かね
剣 73 ケン つるぎ
拳 211 ケン こぶし
軒 ③ ケン のき
健 ケン すこ-やか●
険 ケン けわ-しい
圏 190 ケン

堅 ① ケン かた-い
検 ケン
嫌 ① ケン ゲン きら-う いや
献 ③ ケン コン
絹 ◎ ケン 〈きぬ〉
遣 ① ケン つか-う つかわ-す
権 ◎ ケン 〈ゴン〉
顕 42 ケン
憲 ◎ ケン
賢 205 ケン かしこ-い
謙 114 ケン
鍵 ① ケン かぎ
繭 ③ ケン 〈まゆ〉
懸 ① ケン 〈か-ける〉 かか-る かか-る
験 ケン 〈ゲン〉

元 ゲン ガン もと
古 コ ふる・い ふる・す
呼 ◎ コ よ・ぶ
固 コ かた・める かた・まる かた・い
股 23 コ また
虎 ③ コ とら
弧 119 コ
孤 122 コ
故 コ ゆえ●
枯 44 コ か・れる か・らす
個 コ
庫 コ（ク）
湖 コ みずうみ
雇 196 コ やと・う
誇 192 コ ほこ・る
鼓 ① コ（つづみ）
錮 ◆ コ
顧 ③ コ かえりみ・る
五 ゴ いつ・つ
互 ① ゴ たがい
午 ゴ
呉 ③ ゴ
後 ゴ コウ のち うしろ あと おく・れる○
誤 ◎ ゴ あやま・る
語 ゴ かた・る かた・らう
碁 ③ ゴ
悟 ① ゴ さと・る
娯 60 ゴ
光 コウ ひか・る ひかり
向 コウ む・く む・ける む・かう む・こう
后 ◎ コウ
好 コウ この・む す・く
江 ① コウ え
考 コウ かんが・える
行 コウ ギョウ（アン） い・く ゆ・く おこな・う
坑 ③ コウ
孝 ◎ コウ
抗 126 コウ
攻 ① コウ せ・める
更 ① コウ さら ふ・ける（ふ・かす）
効 コウ き・く
幸 コウ さいわ・い さち○ しあわ・せ
拘 ③ コウ
肯 ① コウ
侯 ◆ コウ
厚 ◆ コウ あつ・い●
恒 127 コウ
洪 ③ コウ
皇 ◎ コウ オウ
紅 ◎ コウ ク● べに くれない○
荒 ① コウ あら・い あ・れる あら・す
郊 16 コウ
香 コウ○（キョウ） か かお・り かお・る
候 コウ（そうろう）
校 コウ
耕 コウ たがや・す
航 コウ
降 ◎ コウ お・りる お・ろす ふ・る
貢 ③ コウ（ク）（みつ・ぐ）
高 コウ たか・い たか・まる たか・める
康 コウ
控 60 コウ（ひか・える）
梗 ③ コウ
黄 コウ○ き オウ こ○
喉 ① コウ のど
慌 23 コウ（あわ・てる あわ・ただしい）
港 コウ みなと
硬 47 コウ かた・い
絞 ① コウ（しぼ・る） し・める し・まる
項 ① コウ
溝 ① コウ みぞ
構 コウ かま・える かま・う
綱 147 コウ つな
鉱 コウ
合 ゴウ ガッ カッ あ・う あわ・す あわ・せる
剛 120 ゴウ
拷 ◆ ゴウ
傲 ③ ゴウ
豪 ③ ゴウ
克 ③ コク
酵 ① コウ
稿 28 コウ
興 コウ キョウ（おこ・る）（おこ・す）
衡 119 コウ
鋼 ◎ コウ はがね○
購 73 コウ
講 コウ
乞 207 こう
骨 ◎ コツ ほね
獄 127 ゴク
酷 ③ コク
穀 ◎ コク
黒 コク くろ・い
国 コク くに
刻 ◎ コク きざ・む
谷 コク たに
告 コク つ・げる
混 コン ま・じる ま・ざる ま・ぜる こ・む
婚 ① コン
痕 190 コン あと
紺 ③ コン
墾 ③ コン
魂 ① コン たましい
懇 ③ コン（ねんご・ろ）
砂 ◎ サ シャ○ すな
査 サ
沙 ③ サ
佐 サ
左 サ ひだり
差 サ さ・す
唆 191 サ（そそのか・す）
詐 ③ サ
采 ① サイ
妻 サイ つま
宰 ③ サイ
栽 123 サイ
彩 ① サイ（いろど・る）
採 サイ と・る
済 ◎ サイ す・む す・ます
斎 ① サイ
祭 サイ まつ・る まつ・り
砕 ③ サイ くだ・く くだ・ける
才 サイ
再 サイ サ ふたた・び
災 サイ わざわ・い○
挫 ① ザ
座 ◎ ザ すわ・る○
鎖 95 サ くさり

細 サイ ほそ・い こま・か こまか・い
菜 サイ な
最 サイ もっと・も
裁 ◎ サイ た・つ● さば・く
債 ③ サイ
催 99 サイ もよお・す
塞 ③ サイ ソク ふさ・ぐ ふさ・がる
歳 ① サイ セイ
載 ① サイ の・せる の・る
際 サイ（きわ）
埼 さい
在 ザイ あ・る
材 ザイ
剤 120 ザイ
財 ザイ サイ○
罪 ザイ つみ
崎 さき
作 サク つく・る
削 ① サク けず・る
昨 サク
柵 ③ サク
索 ① サク
策 ◎ サク
酢 ① サク す・す
搾 ① サク しぼ・る
錯 ① サク
咲 ① さく
冊 ◎ サツ（サク）
札 サツ ふだ
刷 サツ す・る
刹 ◆ サツ（セツ）
拶 98 サツ
殺 サツ（サイ）（セツ） ころ・す
察 サツ
撮 21 サツ と・る
擦 ① サツ す・る す・れる
雑 ザツ ゾウ
皿 さら
三 サン み みっ・つ
山 サン やま
参 サン まい・る
桟 ③ サン
蚕 ◎ サン かいこ
惨 ③ サン（ザン）（みじ・め）
産 サン う・む う・まれる（うぶ）
傘 72 サン（かさ）
散 サン ち・る ち・らす ち・らかす ち・らかる
算 サン
酸 サン（す・い）
賛 サン
残 ザン のこ・る のこ・す
斬 ① ザン き・る
暫 ③ ザン
士 シ
子 シ こ
支 シ ささ・える
止 シ と・まる と・める
氏 シ うじ○
仕 シ（ジ） つか・える
史 シ
司 シ
四 シ よ・つ よっ・つ よん
市 シ いち
矢 シ（や）
旨 ① シ（むね）
死 シ し・ぬ
糸 シ いと
至 ◎ シ いた・る
伺 113 シ うかが・う
志 シ こころざ・す こころざし
私 ◎ シ わたくし わたし
使 シ つか・う
刺 ① シ さ・す さ・さる
始 シ はじ・める はじ・まる
姉 シ あね●
枝 シ（えだ）
祉 119 シ
肢 215 シ
思 シ おも・う
施 ① シ（セ） ほどこ・す
指 シ ゆび さ・す
師 シ
恣 ③ シ
紙 シ かみ
脂 ① シ あぶら
視 ◎ シ
紫 36 シ むらさき
詞 ◎ シ
歯 シ は
嗣 ◆ シ
試 シ こころ・みる ため・す○
資 シ
飼 シ か・う
誌 ◎ シ
雌 シ め・める
摯 73 シ
賜 ③ シ（ス） たまわ・る
諮 119 シ はか・る
示 ● ジ シ しめ・す
字 ● ジ あざ
寺 ジ てら
次 ジ シ つ・ぐ つぎ
耳 ジ み○
自 ジ シ みずか・ら
似 ジ に・る○
児 ● ジ ニ
事 ジ（ズ） こと
侍 ③ ジ さむらい
治 ジ チ おさ・める おさ・まる なお・る なお・す
持 ジ も・つ
時 ジ とき
滋 ジ○
辞 ジ や・める○
慈 60 ジ（いつく・しむ）
磁 ◎ ジ
餌 ① ジ（え さ）
璽 ◆ ジ〈重〉
鹿 しか
式 シキ
識 シキ
七 シチ なな なの
軸 ① ジク
叱 106 シツ〈叱〉しか・る
失 シツ うしな・う
室 シツ むろ○
疾 59 シツ
執 119 シツ シュウ と・る
湿 43 シツ しめ・る しめ・す
漆 127 シツ うるし
嫉 ③ シツ
質 シツ チ● ジツ み の・る
芝 171 しば
写 シャ うつ・す うつ・る
社 シャ やしろ
車 シャ くるま
舎 シャ
者 シャ もの
射 ◎ シャ い・る
捨 ◎ シャ す・てる
赦 ◆ シャ
斜 ① シャ なな・め
煮 69 シャ に・る に・える に・やす
遮 ① シャ さえぎ・る
謝 シャ あやま・る●
蛇 ① ジャ ダ へび
邪 101 ジャ
尺 ◎ シャク
借 シャク か・りる
酌 ③ シャク く・む
釈 ① シャク
爵 ◆ シャク
若 ◎ ジャク○（ニャク） わか・い（も・しくは）
弱 ジャク よわ・い よわ・る よわ・まる よわ・める
寂 22 ジャク（セキ） さび さび・しい さび・れる
手 シュ て た●
主 シュ（ス） ぬし おも
守 シュ ス まも・る もり○
朱 ③ シュ
取 シュ と・る
狩 ① シュ か・る かり
首 シュ くび
殊 ③ シュ こと
珠 190 シュ
酒 シュ さけ さか
腫 ③ シュ は・れる は・らす

漢字

種 シュ たね
秋 シュウ あき
修 ③ シュウ シュ・おさめる おさまる
臭 ③ シュウ くさい におう
趣 36 シュ おもむき
寿 ① ジュ ことぶき
受 ジュ うける うかる
呪 191 ジュ のろう
授 ジュ さずける・さずかる・○
儒 ◆ ジュ
需 ③ ジュ
樹 ◎ ジュ
収 ◎ シュウ おさめる おさまる
囚 ◆ シュウ
州 シュウ す・○
舟 146 シュウ ふね ふな
秀 ① シュウ (ひいでる)
周 シュウ まわり
宗 ◎ シュウ ソウ・○
拾 シュウ・● ジュウ・● ひろう
昭 ③ ショウ
承 ◎ ショウ うけたまわる
招 ◎ ショウ まねく
尚 222 ショウ
肖 59 ショウ
抄 ◆ ショウ
匠 ③ ショウ
床 96 ショウ とこ ゆか
召 ① ショウ めす
少 ショウ すくない すこし
升 ◆ ショウ ます
祥 ③ ショウ
称 ① ショウ
証 ショウ
象 ショウ ゾウ
笑 ショウ わらう・○ えむ●
唱 ショウ となえる
商 ショウ あきなう・○
傷 ◎ ショウ きず いたむ・いためる・○
奨 222 ショウ
照 ショウ てる てらす てれる
詳 ① ショウ くわしい
彰 59 ショウ
障 ◎ ショウ (さわる)
償 ① ショウ つぐなう
賞 ショウ
衝 166 ショウ
憧 95 ショウ あこがれる
焼 ショウ・○ やく やける
硝 ◆ ショウ
焦 ③ ショウ こげる こがす こがれる (あせる)
紹 ① ショウ
章 ショウ
渉 119 ショウ
勝 ショウ かつ まさる●
掌 ③ ショウ
晶 38 ショウ
沼 191 ショウ (ぬま)
松 ショウ まつ
昇 ① ショウ のぼる
乗 ① ジョウ のる のせる
城 ジョウ しろ
浄 59 ジョウ
剰 120 ジョウ
常 ジョウ つね (とこ)
情 ジョウ (セイ) なさけ
場 ジョウ ば
畳 16 ジョウ たたむ たたみ
上 119 ジョウ (シャン) うえ うわ かみ あげる あがる のぼせる のぼる・○
条 ジョウ
状 ジョウ
冗 198 ジョウ
丈 ① ジョウ たけ
譲 114 ジョウ ゆずる
醸 120 ジョウ (かもす)
色 ショク いろ
触 ① ショク ふれる さわる
飾 209 ショク かざる
植 ショク うえる うわる
食 ショク (ジキ) (くう) (くらう) たべる
拭 ① ショク ふく ぬぐう
織 (ショク) シキ おる
職 ショク
辱 ③ ジョク はずかし・める
尻 ③ しり
心 シン こころ
申 シン・○ もうす
伸 ① シン のびる のばす のべる
芯 ① シン
臣 シン ジン
辛 ① シン から い
身 シン み
侵 126 シン おかす
信 シン
津 ③ シン つ
神 シン ジン かみ・○ かん・○ (こう)
真 28 シン ま
浸 シン ひたす ひたる
針 ◎ シン はり
深 シン ふかい ふかまる ふかめる
進 シン すすむ すすめる
紳 28 シン
振 ① シン ふる ふるう ふれる
娠 ◆ シン
唇 ① シン (くちびる)
審 ① シン
震 ① シン ふるう ふるえる
薪 125 シン たきぎ
親 シン おや したしい したしむ
人 ジン ニン ひと
刃 ③ ジン は
仁 ◎ ジン ニ・●
尽 ① ジン つくす つきる つかす
迅 59 ジン
甚 ③ ジン (はなはだ) はなはだしい
陣 146 ジン
尋 ① ジン たずねる
腎 ① ジン
須 46 ス
図 ズ はかる●
水 スイ みず
吹 ① スイ ふく
炊 106 スイ たく
垂 ◎ スイ たれる たらす
酔 210 スイ よう
遂 ① スイ とげる
推 ◎ スイ おす●
衰 ① スイ おとろえる
粋 ③ スイ いき
帥 ◆ スイ
穂 ③ スイ ほ
睡 208 スイ
随 ① ズイ
髄 70 ズイ
崇 ③ スウ
数 スウ (ス) かず かぞえる
寸 ◎ スン
瀬 ③ せ
是 58 ゼ
正 セイ ショウ ただしい ただす まさ
井 ① セイ (ショウ)● い
世 セイ よ
勢 セイ いきおい
晴 セイ はれる はらす
誠 ◎ セイ まこと●
聖 ◎ セイ
精 セイ ショウ●
製 セイ
斉 ① セイ
征 ③ セイ
性 セイ ショウ●
青 セイ (ショウ) あお あおい
姓 ③ セイ ショウ
制 セイ
声 セイ (ショウ) こえ こわ・○
西 セイ サイ にし
成 セイ (ジョウ) なる なす
生 セイ ショウ いきる いかす うまれる うむ おう・○ はえる はやす き● なま
省 セイ ショウ かえりみる・○ はぶく
牲 ③ セイ
星 セイ ショウ・○ ほし
清 セイ (ショウ) きよい きよまる きよめる
逝 ◆ セイ (ゆく) (いく)
凄 190 セイ
静 28 セイ ジョウ・○ しず しずか しずまる しずめる
整 セイ ととのえる ととのう
請 ③ セイ (シン) (こう) うける
醒 ◆ セイ
税 ゼイ
夕 ◆ セキ・○ ゆう
斥 ◆ セキ
石 セキ シャク コク・○ いし
赤 セキ (シャク) あか あかい あからむ あからめる
昔 (セキ) シャク・○ むかし
析 ① セキ
席 セキ
脊 ① セキ
隻 ◆ セキ
惜 151 セキ おしい おしむ
戚 ① セキ
跡 ① セキ あと
責 セキ せめる
積 セキ つむ つもる
績 セキ
籍 ③ セキ
切 セツ サイ・○ きる きれる
折 セツ おる おり おれる
拙 114 セツ つたない
窃 ◆ セツ
接 セツ (つぐ)
設 セツ もうける
雪 セツ ゆき
節 ③ セツ (セチ) ふし
摂 ③ セツ
舌 ◎ ゼツ・○ した
絶 ゼツ たえる たやす たつ
説 セツ (ゼイ) とく
千 セン ち
川 セン・● かわ
仙 64 セン
占 43 セン しめる うらなう
先 セン さき
宣 ◎ セン
専 ◎ セン もっぱら・○
泉 ◎ セン いずみ
浅 セン・○ あさい
洗 ◎ セン あらう
染 ◎ セン・○ そめる そまる (しみる) (しみ)
扇 146 セン おうぎ
旋 ③ セン
栓 ① セン
船 セン ふね ふな
戦 セン いくさ・○ たたかう
煎 120 セン (煎) いる
羨 21 (セン) うらやむ うらやましい
践 73 セン
詮 ③ セン
腺 ◆ セン
箋 ① セン (筅)
蒸 ◎ ジョウ むす● むれる● むらす●
縄 ジョウ・○ なわ
壌 53 ジョウ
嬢 ③ ジョウ
錠 92 ジョウ
譲 114 ジョウ ゆずる
醸 120 ジョウ (かもす)
色 ショク いろ
触 ① ショク ふれる さわる
飾 209 ショク かざる
植 ショク うえる うわる
食 ショク (ジキ) (くう) (くらう) たべる
拭 ① ショク (ふく) ぬぐう
順 ③ ジュン
循 ③ ジュン
純 ◎ ジュン
殉 ◆ ジュン
准 190 ジュン
盾 ① ジュン たて
巡 ③ ジュン めぐる
旬 120 ジュン シュン
瞬 ① シュン (またたく)
閏 ◎ ジュン うるう
潤 222 ジュン うるおう うるおす うるむ
遵 ① ジュン
処 ◎ ショ
初 ショ はじめ はじめて はつ (うい) そめる・○
所 ショ ところ
叙 ③ ジョ
序 ジョ
助 ジョ たすける たすかる すけ・○
如 146 ジョ (ニョ)
女 ジョ (ニョウ)● おんな め●
諸 ◎ ショ
緒 ③ ショ チョ お
署 ◎ ショ
暑 ショ あつい
庶 ③ ショ
書 ショ (かく)
叔 ◆ シュク
祝 シュク (シュウ) いわう
宿 シュク やど やどる やどす
淑 ◆ シュク
粛 ③ シュク
縮 ◎ シュク ちぢむ ちぢまる ちぢめる ちぢれる ちぢらす
塾 ① ジュク
熟 ◎ ジュク うれる・○
出 シュツ スイ・○ でる だす
述 ジュツ のべる
術 ジュツ
俊 58 シュン
春 シュン はる
瞬 ① シュン (またたく)
閏 ◎ ジュン うるう
潤 222 ジュン うるおう うるおす うるむ
遵 ① ジュン
処 ◎ ショ
初 ショ はじめ はじめて はつ (うい) そめる・○
所 ショ ところ
叙 ③ ジョ
序 ジョ
助 ジョ たすける たすかる すけ・○
如 146 ジョ (ニョ)
女 ジョ (ニョウ)● おんな め●
諸 ◎ ショ
緒 ③ ショ チョ お
署 ◎ ショ
暑 ショ あつい
庶 ③ ショ
書 ショ (かく)

◎銭 セン ぜに○
44 潜 セン ひそむ もぐる
線 セン
58 遷 セン
選 セン えらぶ
28 薦 セン すすめる
①繊 セン
①鮮 セン あざやか
全 ゼン まったく すべて
前 ゼン まえ
◎善 ゼン よい
然 ゼン ネン
③禅 ゼン
③漸 ゼン
120 膳 ゼン
①繕 ゼン つくろう

そ

46 狙 ソ ねらう
28 阻 ソ（はばむ）
祖 ソ
28 租 ソ
③措 ソ
28 素 ソス●
③塑 ソ
①訴 ソ うったえる
①疎 ソ（うとい）（うとむ）
組 ソ くむ くみ
114 粗 ソ あらい
③壮 ソウ
①双 ソウ ふた
①礎 ソ（いしずえ）
80 遡 ソ（さかのぼる）
③曽 ソウ
◆曹 ソウ
①掃 ソウ はく
巣 ソ（ス）
③桑 ソ（ソウ）くわ
①挿 ソウ さす
③捜 ソウ さがす
倉 ソウ くら
送 ソウ おくる
草 ソウ くさ
③荘 ソウ
相 ソウ ショウ○ あい
◎奏 ソウ（かなでる）
走 ソウ はしる
争 ソウ あらそう
◎創 ソウ つくる
◎窓 ソウ まど
63 爽 ソウ さわやか
早 ソウ サッ● はや はやい はやまる はやめる
37 霜 ソウ（シモ）
43 燥 ソウ
◎操 ソウ（みさお）あやつる●
◆踪 ソウ
③槽 ソウ
119 遭 ソウ あう
総 ソウ
◎層 ソウ
想 ソウ（ソ）
③僧 ソウ
◎装 ソウ ショウ● よそおう
③葬 ソウ（ほうむる）
107 痩 ソウ（やせる）
①喪 ソウ も
◎創 ソウ つくる
◎窓 ソウ まど
63 爽 ソウ さわやか
①騒 ソウ さわぐ
①捉 ソク とらえる
息 ソク いき
①速 ソク はや はやい はやめる はやまる すみやか○
側 ソク がわ
159 俗 ゾク
測 ソク はかる
族 ゾク
属 ゾク
212 賊 ゾク
続 ゾク つづく つづける
卒 ソツ
率 ソツ● リツ ひきいる
◎存 ゾン
村 ソン むら
孫 ソン まご
①即 ソク
束 ソク たば
足 ソク あし たりる たす
◎促 ソク うながす
則 ソク
◎蔵 ゾウ くら○
◎臓 ゾウ
①贈 ゾウ ソウ おくる
①憎 ゾウ にくむ にくい にくらしい にくしみ
増 ゾウ ます ふえる ふやす
像 ゾウ
造 ゾウ つくる
120 藻 ソウ も

た

◎尊 ソン たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ
損 ソン そこなう○ そこねる○
60 遜 ソン
他 タ ほか
多 タ おおい
③汰 タ
③打 ダ うつ
59 妥 ダ
①唾 ダ つば
③堕 ダ
③惰 ダ
③駄 ダ
太 タイ ふとい ふとる
対 タイ ツイ○
44 耐 タイ たえる
231 怠 タイ おこたる なまける
③胎 タイ
待 タイ まつ
①泰 タイ
125 堆 タイ
隊 タイ
193 滞 タイ とどこおる
態 タイ
◆戴 タイ
◎退 タイ しりぞく しりぞける
94 替 タイ かえる かわる
③逮 タイ
①袋 タイ（ふくろ）
倉 ソウ くら
送 ソウ おくる
草 ソウ くさ
③荘 ソウ
相 ソウ ショウ○ あい
◎奏 ソウ（かなでる）
走 ソウ はしる
争 ソウ あらそう
◎創 ソウ つくる
◎窓 ソウ まど
63 爽 ソウ さわやか
体 タイ テイ● からだ
代 ダイ タイ かわる かえる よしろ○
大 ダイ タイ おお おおい おおいに
台 ダイ タイ
第 ダイ
題 ダイ
③滝 タキ
③宅 タク
①択 タク
①沢 タク さわ
①卓 タク
拓 タク
託 タク
③濯 タク
209 諾 ダク
③濁 ダク にごる にごす
◆但 ただし
達 タツ
①奪 ダツ うばう
①脱 ダツ ぬぐ ぬげる
◎担 タン（かつぐ）（になう）
③旦 タン ダン
①丹 タン
①誰 タン だれ
①棚 タン たな
①端 タン はし（は） はた
◎誕 タン
③綻 タン ほころびる
231 鍛 タン きたえる
団 ダン（トン）
男 ダン ナン おとこ
◎段 ダン
①弾 ダン ひく はずむ たま
①断 ダン たつ● ことわる
①壇 ダン（タン）
談 ダン
◎暖 ダン あたたか あたたかい あたたまる あたためる

ち

地 チ

池 チ いけ
知 チ しる
◎値 チ ねあたい○
①恥 チ はじる はじ はじらう はずかしい
130 致 チ いたす
①遅 チ おくれる おくらす おそい
173 緻 チ
置 チ おく
18 稚 チ
◆痴 チ
③逐 チク
③畜 チク
竹 チク たけ
①蓄 チク たくわえる
築 チク きずく
59 秩 チツ
190 窒 チツ
茶 チャ サ○
着 チャク（ジャク） きる きせる つく つける
◆嫡 チャク
中 チュウ ジュウ なか
仲 チュウ なか○
虫 チュウ むし
沖 チュウ（おき）
◎宙 チュウ
③昼 チュウ ひる
注 チュウ そそぐ
74 抽 チュウ
◎忠 チュウ
③衷 チュウ
柱 チュウ はしら
①彫 チョウ ほる
①眺 チョウ ながめる
帳 チョウ
張 チョウ はる
長 チョウ ながい
町 チョウ まち
兆 チョウ（きざす）（きざし）
◎庁 チョウ
58 弔 チョウ とむらう
丁 チョウ テイ●
貯 チョ
◎著 チョ あらわす● いちじるしい○
①駐 チュウ
119 鋳 チュウ いる
◆酎 チュウ
③釣 チョウ（つる）
◎頂 チョウ いただく いただき
鳥 チョウ とり
朝 チョウ あさ
①貼 チョウ はる
◆勅 チョク
①直 チョク ジキ ただちに なおす なおる
231 懲 チョウ こりる こらす こらしめる
①聴 チョウ きく
①澄 チョウ（すむ）（すます）
調 チョウ しらべる ととのう● ととのえる●
◎潮 チョウ しお
151 嘲〈潮〉 チョウ あざける
①徴 チョウ
210 跳 チョウ はねる とぶ
◎腸 チョウ
①超 チョウ こえる こす
24 貼 チョウ はる
朝 チョウ あさ
鳥 チョウ とり
◎頂 チョウ いただく いただき
③釣 チョウ（つる）
①鎮 チン（しずめる）（しずまる）
◎賃 チン
118 陳 チン
◆朕 チン
①珍 チン めずらしい
161 沈 チン しずむ しずめる
〈捗〉 チョク
③捗 チョク
231 懲 チョウ こりる こらす こらしめる
直 チョク ジキ ただちに なおす なおる
◆勅 チョク
208 到 トウ
東 トウ ひがし
豆 トウ ズ まめ
投 トウ なげる
当 トウ あたる あてる
灯 トウ（ひ）
◎討 トウ うつ○
①桃 トウ もも
島 トウ しま
①唐 トウ から
①凍 トウ こおる こごえる
①倒 トウ たおれる たおす
20 逃 トウ にげる にがす のがす のがれる
◎党 トウ
①透 トウ すく すかす すける
①塁 ルイ
①椎 ツイ
追 ツイ おう

つ

通 ツウ（ツ） とおる とおす かよう
◎痛 ツウ いたい いたむ いためる
◆塚 つか
60 漬 つける つかる
③坪 つぼ
③爪 つめ つま
190 鶴 つる
①訂 テイ
③帝 テイ
◆貞 テイ
207 亭 テイ
190 邸 テイ
124 抵 テイ
底 テイ そこ
定 テイ ジョウ さだめる さだまる（さだか）
◆逓 テイ
庭 テイ にわ
①偵 テイ
停 テイ
231 堤 テイ つつみ
提 テイ さげる○
程 テイ ほど●
◆艇 テイ
①呈 テイ
190 廷 テイ
低 テイ ひく ひくい ひくめる ひくまる
弟 テイ ダイ● デ● おとうと

て

◆斗 トト
電 デン
①田 デン た
120 塡〈填〉 テン
伝 デン つた わる つたえる つたう
104 殿 デン テン との どの
①点 テン
①店 テン みせ
典 テン
①添 テン そえる そう
◎展 テン
転 テン ころがる ころげる ころがす ころぶ
64 滴 テキ しずく したたる
159 締 テイ しまる しめる
①諦 テイ あきらめる
泥 デイ（ドロ）
的 テキ まと
笛 テキ ふえ
①摘 テキ つむ
適 テキ
◎敵 テキ かたき○
③溺〈溺〉 デキ おぼれる
天 テン（あめ）あま
222 撤 テツ
①徹 テツ
鉄 テツ
119 哲 テツ
③迭 テツ

と

106 吐 トト はく
①妬 トト ねたむ
徒 トト
①途 ト
都 トト みやこ
①渡 ト わたる わたす
③塗 ト ぬる
◆賭〈賭〉 ト かける
◆奴 ド
土 ド つち
◆努 ド つとめる
度 ド（ト） タク● たび○
①怒 ド いかる おこる
刀 トウ かたな
冬 トウ ふゆ

◎悼トウ（いた・む）
①盗トウ ぬす・む
①陶トウ
①塔トウ
58搭トウ
③棟トウ（むね・なが）
①湯トウ ゆ
◆痘トウ
登トウ のぼ・る
答トウ こた・える こた・え
等トウ ひと・しい
①筒トウ つつ
統トウ（す・べる）
③稲トウ いね いな
①踏トウ ふ・む ふ・まえる
◎糖トウ

③膀ボウ
①胴ドウ
190洞ドウ ほら
同ドウ おな・じ
③騰トウ
①闘トウ たたか・う
③藤トウ ふじ
③謄トウ
頭トウ ズ（ト） あたま かしら●
③瞳ドウ ひとみ
導ドウ みちび・く
銅ドウ
働ドウ はたら・く
道ドウ（トウ） みち
童ドウ わらべ●
堂ドウ
動ドウ うご・く うご・かす
①胴ドウ
190洞ドウ ほら
同ドウ おな・じ
③騰トウ

73豚トン ぶた
◆屯トン
◎届とど・ける とど・く
22突トツ つ・く
120凸トツ
栃とち
読ドク トク よ・む
独ドク ひとり
毒ドク
59篤トク
徳トク
③督トク
①得トク え・る うる○
特トク
80匿トク
①峠とうげ

②二ニ ふた ふたつ

に

◎難ナン（かた・い） むずか・しい
46軟ナン やわ・らか やわ・らかい
南ナン（ナ） みなみ
115鍋なべ
123謎なぞ
梨なし
内ナイ ダイ うち
奈ナ
③那ナ

な

231丼どんぶり どん
①曇ドン くも・る
231鈍ドン にぶ・い にぶ・る
③貪ドン むさぼ・る
③頓トン

◎乳ニュウ ち ち●
入ニュウ い・る い・れる はい・る
①日ニチ ジツ ひ か
①虹にじ
肉ニク
◆弐ニ
①匂にお・う
◆尼（ニ） あま

ね

62寧ネイ
◎認ニン○ みと・める
136忍ニン しの・ぶ しの・ばせる
◆妊ニン
任ニン まか・せる まか・す
222尿ニョウ

①悩ノウ な・やむ な・やます
◎納ノウ ナッ○ ナン（ナ） トウ○ おさ・める おさ・まる
能ノウ
◎脳ノウ
農ノウ
①濃ノウ こい

の

熱ネツ あつい
年ネン とし
念ネン
①捻ネン
231粘ネンねば・る
燃ネン も・える も・やす も・す

◆婆バ
104罵バ ののし・る
◎派ハ
波ハなみ
130把ハ
破ハやぶ・る やぶ・れる
①覇ハ
馬バうま
③杯ハイ さかずき
◎拝ハイおが・む
◎背ハイ せ そむ・く そむ・ける○
◎俳ハイ
肺ハイ
配ハイくば・る
46排ハイ

は

①迫ハク せま・る
①泊ハク と・まる と・める
①拍ハクヒョウ
①伯ハク
白ハク（ビャク） しろ しら しろ・い
③賠バイ
買バイか・う
①媒バイ
①陪バイ
123培バイ（つちか・う）
梅バイうめ
倍バイ
売バイう・る う・れる
③廃ハイすた・れる すた・る
①輩ハイ
敗やぶ・れる

①肘ひじ
231匹ヒツ ひき
必ヒツ かなら・ず
泌ヒツ（ヒ）
筆ヒツ ふで
①姫ひめ
百ヒャク
氷ヒョウ こおり（ひ）
表ヒョウ おもて あら・わす あら・われる
◎俵ヒョウ たわら
①評ヒョウ
票ヒョウ
148漂ヒョウ ただよう
標ヒョウ
①苗（ビョウ） なえ なわ
秒ビョウ

①閉ヘイ と・じる と・ざす○ と・める し・まる
③塀ヘイ
③幣ヘイ
114弊ヘイ
③蔽ヘイ（蔽）
106餅ヘイもち
米ベイマイ こめ
106壁ヘキかべ
①璧ヘキ
①癖ヘキくせ
別ベツわか・れる
①蔑ベツさげす・む
◎片ヘン かた○
辺ヘンあた・り
返ヘンかえ・す かえ・る
①柄ヘイ（がら・え）
◎並ヘイ○ なみ ならべる ならぶ ならびに
③併ヘイあわ・せる
兵ヘイヒョウ
平ヘイビョウたい・らひら
◆丙ヘイ

へ

◎奮フンふる・う
分ブンフンブ わ・ける わ・かれる わ・かる わ・かつ
文ブンモンふみ○
聞ブン（モン） き・く き・こえる

①腐フくさ・れる くさ・らす
159敷フ しく
222膚フ
③賦フ
③計フ
◆附フ
負フ ま・ける ま・かす お・う
③扶フ
府フ
③怖フ こわ・い
阜フ
③遍ヘン
231偏ヘン かたよ・る
編ヘン あ・む
弁ベン
便ベンビンたより
勉ベン
変ヘン か・わる か・える
①猫（ビョウ） ねこ
①描ビョウえが・く か・く
病ビョウ（ヘイ） や・む● やまい

①幅フクはば
副フク
服フク
①伏フク ふ・せる ふ・す
風フウ（フ） かぜ かざ
24封フウホウ
①舞ブ まう まい
部ブ
武ブム
③侮ブ（あなど・る）
①譜フ
③賦フ
222膚フ
159敷フ しく

①普フ
①符フ
婦フ
①浮フ う・く う・かれる う・かぶ う・かべる
16赴フおもむ・く
富フ（フウ） と・む とみ

①払フツ はら・う
①沸フツわ・く わ・かす
仏ブツほとけ
物ブツモツもの
粉フンこな こ
③紛フン まぎ・れる まぎ・らす まぎ・らわす まぎ・らわしい
①噴フンふ・く
97雰フン
③憤フン（いきどお・る）
190墳フン

①伐バツ
①髪ハツかみ
①発ハツホツ○
①鉢ハチ（ハツ）
①罰バツバチ
③閥バツ
①抜バツ ぬ・く ぬ・ける ぬ・かす ぬ・かる
①反ハン（ホン） タン○ そ・る そ・らす
半ハンなか・ば
①氾ハン
犯ハン おか・す○
①帆ハンほ
①汎ハン
78伴ハン ともな・う
191判ハン

①般ハン
①販ハン
①繁ハン
①範ハン
③頒ハン
60煩ハン（ボン） わずら・う わずら・わす
124搬ハン
飯ハンめし
①斑ハン
①版ハン
板ハン（バン） いた
阪ハン●
坂さか（ハン）

◎暮ボ くれ● くら・す
120募ボつの・る
墓ボはか
60慕ボした・う
28簿ボ
方ホウかた
包ホウつつ・む
114芳ホウ（かんば・しい）
③邦ホウ
28奉ホウ ブ（たてまつ・る）
◎宝ホウたから
①抱ホウ だ・く いだ・く かか・える
①放ホウ はな・す はな・つ はな・れる ほう・る
法ホウ（ハッ） （ホッ）

◎晩バン
番バン
◆蛮バン
190盤バン
ひ
比ヒ くら・べる
皮ヒかわ
◆妃ヒ
◎否ヒ（いな）
◎批ヒ
①彼ヒ かれ かの
①披ヒ
肥ヒ こえる こえ こやす こやし
非ヒ
214卑ヒ（いや・しい） （いや・しむ） （しめる）

③膝ひざ
①微ビ
鼻ビ○ はな
備ビ そな・える そな・わる
美ビうつく・しい
94眉ビ（ミ） まゆ
①尾ビお
98避ヒさ・ける
③罷ヒ
③碑ヒ
費ヒつい・やす つい・える○
悲ヒかな・しい かな・しむ
①扉ヒ（とびら）
被ヒこうむ・る
◎秘ヒひめ・る●
①疲ヒつか・れる
飛ヒとぶ とば・す

①尼（ニ） あま

| | | |

伝統的な言語文化

あ
- アド……302
- 面……302

か
- 係りの助詞……156
- 係り結び……156
- 漢詩……158
- 起句……159
- 狂言……302
- 軍記物語……140
- 結句……159

さ
- 地謡……302
- シテ……302
- 承句……159
- 絶句……159

た
- 転句……159

な
- 能……302

は
- 囃子……302
- 平曲（平家琵琶）……140

ら
- 律詩……164

わ
- ワキ……302

文法・言葉・漢字

あ
- イ音便……247
- ウ音便……249
- 音便……247・249

か
- 書き言葉……229
- カ行変格活用……247
- 格助詞……254
- 活用……241・246
- 活用形……246
- 活用語尾……246
- 仮定形……246
- 可能動詞……248
- 上一段活用……247
- 感動詞……245
- 形式名詞……243
- 形容詞……242
- 形容動詞……242
- 謙譲語……114
- 語幹……246
- 五段活用……247
- 固有名詞……243

さ
- サ行変格活用……247
- 自動詞……242
- 下一段活用……247
- 終止形……246
- 修飾語……240
- 修飾・被修飾の関係……240
- 修飾部……240
- 終助詞……255
- 熟語……58
- 主語……240
- 主・述の関係……240
- 述語……240
- 述部……240
- 主部……240
- 助詞……251・253
- 助動詞……251
- 自立語……241・242
- 数詞……243
- 接続語……240
- 接続詞……245
- 接続助詞……255
- 接続の関係……240
- 接続部……240
- 促音便……247
- 尊敬語……114

た
- 対義語……72
- 体言……241
- 代名詞……243
- 多義語……73
- 他動詞……242
- 単語……240
- 丁重語……115
- 丁寧語……113
- 同音異義語……119
- 動詞……242
- 独立語……240
- 独立の関係……240
- 独立部……240

は
- 撥音便……247
- 話し言葉……228
- 美化語……115
- 品詞……241
- 副詞……244
- 副助詞……254
- 付属語……241・251
- 普通名詞……243
- 文……240
- 文節……240
- 文の成分……240
- 補助形容詞……243
- 補助動詞……243

ま
- 未然形……246
- 名詞……243
- 命令形……246

や
- 用言……241

ら
- 類義語……72
- 連体形……246
- 連体詞……244
- 連体修飾語……243
- 連文節……240
- 連用形……246
- 連用修飾語……243

常用漢字表 付表

漢字

明日（あす）　小学校で学習した語
田舎（いなか）　①　初出が一年生の語
笑顔（えがお）　97　初出が二年生の語
小豆（あずき）　③　初出が三年生の語
息吹（いぶき）◆　中学校では学習しなくてもよい語

数字は教科書での初出ページを示す。

明日	あす	③	大人	おとな	◆蚊帳	かや	③	芝生	しばふ
小豆	あずき	◆	乙女	おとめ	為替	かわせ		清水	しみず
◆海女・海士	あま	192	叔母・伯母	おば	河原・川原	かわら	③	三味線	しゃみせん
硫黄	いおう	③	お巡りさん	おまわりさん	昨日	きのう	③	砂利	じゃり
意気地	いくじ	◆	お神酒	おみき	今日	きょう	◆	数珠	じゅず
①田舎	いなか	◆	母屋・母家	おもや	果物	くだもの		上手	じょうず
◆息吹	いぶき		母さん	かあさん	◆玄人	くろうと	164	白髪	しらが
③海原	うなばら	◆	神楽	かぐら	今朝	けさ	◆	素人	しろうと
③乳母	うば	◆	河岸	かし	景色	けしき	◆	師走	しわす・しはす
◆浮気	うわき	③	鍛冶	かじ	①心地	ここち	◆	数寄屋・数奇屋	すきや
③浮つく	うわつく	①	風邪	かぜ	◆居士	こじ	①	相撲	すもう
97笑顔	えがお	①	固唾	かたず	今年	ことし	③	草履	ぞうり
27叔父・伯父	おじ	①	仮名	かな	③老舗	しにせ	◆	山車	だし
					③仏間	ぶつま	304	太刀	たち
					③古本	ふるほん	③	立ち退く	たちのく
					③真っ赤	まっか		七夕	たなばた
					③真っ青	まっさお	①	足袋	たび
					③真面目	まじめ	◆	稚児	ちご
					③迷子	まいご		一日	ついたち
					③部屋	へや	◆	築山	つきやま
					③下手	へた	①	梅雨	つゆ
					③吹雪	ふぶき	③	凸凹	でこぼこ
					二日	ふつか			
					◆伝馬船	てんません		手伝う	てつだう
					◆投網	とあみ		父さん	とうさん
					◆十重二十重	とえはたえ		読経	どきょう
					時計	とけい		友達	ともだち
					◆仲人	なこうど	③	名残	なごり
					③雪崩	なだれ		兄さん	にいさん
					◆猛者	もさ	①	紅葉	もみじ
					眼鏡	めがね	105	木綿	もめん
					①息子	むすこ	③	最寄り	もより
					①土産	みやげ	◆	八百長	やおちょう
					八百屋	やおや	①	大和	やまと
					③弥生	やよい	◆	浴衣	ゆかた
					③行方	ゆくえ	◆	寄席	よせ
					③若人	わこうど		二人	ふたり
					①日和	ひより	③	一人	ひとり
					二十日	はつか	③	波止場	はとば
					①二十・二十歳	はたち			
					博士	はかせ	①差し支える		さしつかえる
					◆祝詞	のりと	◆雑魚		ざこ
					◆野良	のら	◆桟敷		さじき
					③五月	さつき	③早乙女		さおとめ
					③早苗	さなえ	③五月雨		さみだれ
					①時雨	しぐれ	◆雑炊		ぞうすい
					①尻尾	しっぽ	③竹刀		しない

［索引］学習のための用語一覧

教科書で学習する主な用語を、領域ごとに五十音順にまとめた。数字は、用語について主に解説しているページを示す。必要に応じて活用し、言葉の力を身につけよう。

話すこと・聞くこと／書くこと

あ
- ICT……12・32・341
- 意見文……132
- インタビュー……116・284

か
- ガイド……54
- 議論……29
- 根拠……133

さ
- 時候の挨拶……111・288
- 絞る質問・広げる質問…284
- 推敲……112
- 双括型……134

た
- 対話……232
- 通信文……288
- 手紙……110・288
- 電子メール……110・289
- 頭括型……134
- 頭語・結語……111・288
- 討論……187

は
- 尾括型……134
- 表現の工夫……110
- 表現の効果……112・225
- 描写……225
- プレゼンテーション……32

ま
- 物語……224

読むこと

か
- 解釈……102
- 解説……279
- 語り手……277
- 言動の意味……103

さ
- 序論・本論・結論……279
- 人物像……27・221・276
- 人物相関図……27
- 図表……51
- 設定……27・276
- 全体と部分……50

た
- 短歌……62
- 段落の役割……278
- 登場人物……27・103

は
- 場面……276
- 場面の展開……276
- 比較……179・279
- 表現の効果……109・277
- 描写……277
- 評論……279
- 伏線……103・276
- 文章の構成……278

や
- 要旨……279
- 要約……279

ら
- レーダーチャート……27
- 論理……129・279
- 論理の展開……129

情報／読書

あ
- 意見……130
- インターネット……285
- 引用……286
- SNS……77
- 円グラフ……287
- 帯グラフ……287
- 折れ線グラフ……287

か
- 具体……180
- 根拠……130
- 根拠の吟味……130

さ
- 思考の視覚化……52
- 出典……286
- ソーシャルメディア…81

た
- 抽象……180
- 抽象化……180
- 著作権……286
- 読書ポスター……82

は
- ブックトーク……82
- 棒グラフ……287
- 翻訳……84

ま
- マスメディア……81
- メディア……76

ら
- 理由づけ……130

編集委員
甲斐睦朗　元国立国語研究所所長
阿辻哲次　京都大学名誉教授
飯田 良　秀明大学特任教授
池上 彰　ジャーナリスト
井上一郎　前京都女子大学教授
甲斐利恵子　軽井沢風越学園教諭
河合章男　俳句図書館 鳴弦文庫館長
佐藤洋一　愛知教育大学名誉教授
宗我部義則　お茶の水女子大学附属中学校副校長
田中牧郎　明治大学教授
冨山哲也　十文字学園女子大学教授
仁田義雄　大阪大学名誉教授
藤森裕治　文教大学教授
松野洋人　山梨学院短期大学特任教授
森山卓郎　早稲田大学教授
髙木まさき　横浜国立大学名誉教授
阿部 昇　秋田大学名誉教授
幾田伸司　鳴門教育大学大学院教授
石野正彦　前上越教育大学教授
植田恭子　前大阪市立昭和中学校教諭
上谷順三郎　鹿児島大学教授
岸田正幸　和歌山信愛大学教授
佐渡島紗織　前早稲田大学教授
高橋 伸　札幌国際大学教授
田中洋一　東京女子体育大学名誉教授
中村 浩　山口短期大学教授
萩中奈穂美　福井大学准教授
舟橋秀晃　大和大学教授
三浦登志一　山形大学学術研究院教授
渡邉光輝　お茶の水女子大学附属中学校教諭

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
市原恭代　工学院大学准教授 NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）理事
特別支援教育に関する校閲
氏間和仁　広島大学大学院教授
学習のユニバーサルデザインに関する校閲
小貫 悟　明星大学教授
人権に関する校閲
出口真紀子　上智大学教授
外国人児童生徒等教育に関する校閲
浜田麻里　京都教育大学教授
防災教育に関する校閲
木村玲欧　兵庫県立大学教授

光村図書出版株式会社　編集部

文章・校閲　鈴木宏枝／馬場あき子／東野泰子／武川忠一／横田順子
挿絵・図　秋葉あきこ／新井陽次郎／大桃洋祐／川口澄子（水登舎）／川崎由紀／白井 匠／スケラッコ／図工室／タラジロウ／津田蘭子／TOKUMA (bowlgraphics)／ながしまひろみ／日本自動販売システム機械工業会／ねもときょうこ／花松あゆみ／坂内 拓／平田利之
写真　赤間神宮／浅沼光晴／アフロ／アマナイメージズ／馬の博物館／甲斐善光寺／かんぽ生命保険／ゲッティ・イメージズ／皇居三の丸尚蔵館／國學院高等学校／国立国会図書館／国立能楽堂／Cynet Photo／シーピーシー／Shutterstock／新潮社／高橋宗正／竹田武史／中尊寺／TNM Image Archives／東京国立博物館／東京大学史料編纂所／東京富士美術館／東京富士美術館イメージアーカイブ・DNPartcom／徳音寺／日本近代文学館／能楽協会／林 義勝／PPS通信社／福田幸広／武蔵御嶽神社／読売新聞社／六波羅蜜寺／ワールドフォトサービス
動画・音声　NHK財団／福永大輔
協力　大阪府／オフィスムーブ／オリィ研究所／熊本日日新聞社／日本車いすテニス協会／吉本興業
硬筆・毛筆　滝口雅弘／宮澤正明
表紙　宮原葉月「飛躍」
巻頭写真　古性のち「卯波」（沖縄県）
アート・ディレクション／デザイン　ディグ（松本知彦／成宮 成／山崎綾子／峰村沙那／坂本弓華／永田理沙子）

国語2
38光村｜国語038-82　中学校国語科用

令和八年二月一日印刷
令和八年二月五日発行
（令和六年三月一日検定済）
定価　文部科学大臣が認可し公示した定価（右記の定価は、各教科書特約供給所及び取次供給所に表示します。）

著作者　甲斐睦朗（ほか三十六名別記）
発行者　光村図書出版株式会社　代表者　吉田直樹　東京都品川区上大崎二-十九-九
印刷者　協和オフセット印刷株式会社　代表者　稲垣健一　東京都港区浜松町一-三-一
株式会社加藤文明社　代表者　加藤文男　東京都千代田区神田三崎町二-十五-六
発行所　光村図書出版株式会社　東京都品川区上大崎二-十九-九　電話（〇三）三四九三-二一一一（代表）

この教科書に基づくワークブック・解説書、ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-8138-0425-3

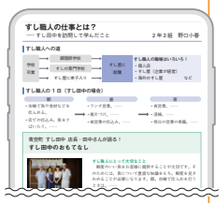
［協力・国際連合］　The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States. (https://www.un.org/sustainabledevelopment/)

ICT 活用のヒント

国語の学習の中で、ICT 機器を活用すると効果的な場面を示している。使用してよいかどうかを確かめたうえで、主体的に活用しよう。

ICT を活用すると効果的な学習場面。　二次元コードから学習の参考資料を閲覧できる。

ICT の活用場面

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
見通しをもつ	右表❶学びの地図　デジタル版「学びのカギ」一覧。これから学ぶこと、これまでに学んだことが、いつでも確認できる。		
知識・技能の習得	**1 集める・整理する** ICT を活用して、情報を集めたり整理したりしよう。 右表❸「話す・聞く」表現テーマ例集 何を話すか迷ったら参考にしよう。	**1 集める・整理する** 右表❹書くことのミニレッスン 書く前の準備運動。これまでに学んだ基礎・基本を思い出そう。 	**1 捉える** 文章の構成と内容を確かめよう。 右表❽漢字の練習／漢字一覧表 その教材で学ぶ新出漢字・新出音訓の読み方を確認しよう。 右表❼朗読音声 古典の文章の読み方を確認し、読み慣れるまで音読しよう。
自分の考えを深める	**2 組み立てる　3 伝え合う** 動画や音声を視聴し、効果的な話し方や話し合いのしかたを確かめよう。 右表❷「話す・聞く」動画・音声 	**2 組み立てる　3 表現する** ICT 機器を使うと、構成の変更や推敲、下書き段階での情報共有がしやすい。 ICT 情報を視覚化する ➡57 ページ ICT 電子メール ➡111 ページ ICT 構成を検討する ➡134 ページ  右表❹書くことのミニレッスン 推敲する ➡112 ページ（推敲の練習問題）	**2 読み深める** 示された図表や写真、動画や音声などと関連づけながら、理解を深めよう。 右表❻「読むこと」教材の資料  **3 自分の考えをもつ** 著者の考えと比べながら、自分の考えをもとう。  右表❻「読むこと」教材の資料
考えを表現する			
友達との交流・共有	**4 共有する** 録音・録画した活動を視聴し、確認しよう。 ICT 録画して振り返る ➡34・188 ページ	**4 共有する** ICT を活用して、助言や感想を交流しよう。 ICT 作品を共有し、助言する ➡227 ページ ICT コメント機能で交流する ➡235 ページ	
振り返る	右表❶学びの地図 ここで学んだことが、今後どのような学習に生かせるかを確かめ、次につなげよう。	右表❶国語の力試し 身につけた資質・能力を生かして、問題に取り組もう。タブレットやパソコンでも解答できる。	

二次元コード一覧

資料デジタル目次

教科書の該当ページに示されている二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。

❶見通しをもつ・振り返る
27他 学びの地図 ※全ての「学びのカギ」から閲覧可能。
262 国語の力試し

❷「話す・聞く」動画・音声
29 意見を聞く（問題）
35 プレゼンテーションをする
116 インタビューをする
183 話し合いの流れを整理する（問題）
188 討論をする
264 国語の力試し（問題）

❸「話す・聞く」表現テーマ例集
32 「プレゼンテーション」のテーマ例
186 「討論」のテーマ例

❹書くことのミニレッスン（ワーク）
54 主語と述語を正しく対応させる
110 敬語を正しく使う
112 推敲する
132 話し言葉を書き言葉に改める
224 文節どうしの関係を明確にする

❺「書くこと」表現テーマ例集
54 「○○ガイド」のテーマ例
132 「意見文」のテーマ例
224 「物語」のテーマ例

❻「読むこと」教材の資料
20 イヌイットの写真
101 伊坂幸太郎さんメッセージ
175 布施英利さんインタビュー

❼朗読音声
36 枕草子
136 月夜の浜辺

❼朗読音声（続き）
140 平家物語（冒頭）
146 平家物語（扇の的、弓流し）
154 徒然草
158 漢詩３編

❽新出漢字・新出音訓
25他 漢字の練習／漢字一覧表 ※全ての新出漢字・新出音訓欄から閲覧可能。漢字教材は一覧表のみ。

❾「文法への扉」ワーク／練習問題
31 文法への扉１　242 文法１
185 文法への扉２　246 文法２
223 文法への扉３　251 文法３

❿言葉／語彙教材の資料
267 言葉の宝箱（小学校）
267 語彙ブック１年

⓫資料編
275 資料編デジタル
・発想を広げる―表現テーマ例集
・インタビューをする
・インターネットの活用
・グラフの見方／引用・出典
・いろいろな通信文
・話し合いの方法
・歴史的仮名遣いの読み方
・漢文の訓読
・読書感想文の書き方
・文章の推敲・原稿用紙の使い方
・平仮名と片仮名（五十音図）
・ローマ字一覧表
・キーボード配列表